

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書17

— 成田市南城砦跡・大室石神遺跡・芝向芝遺跡・芝西霜田遺跡・芝東霜田遺跡 —

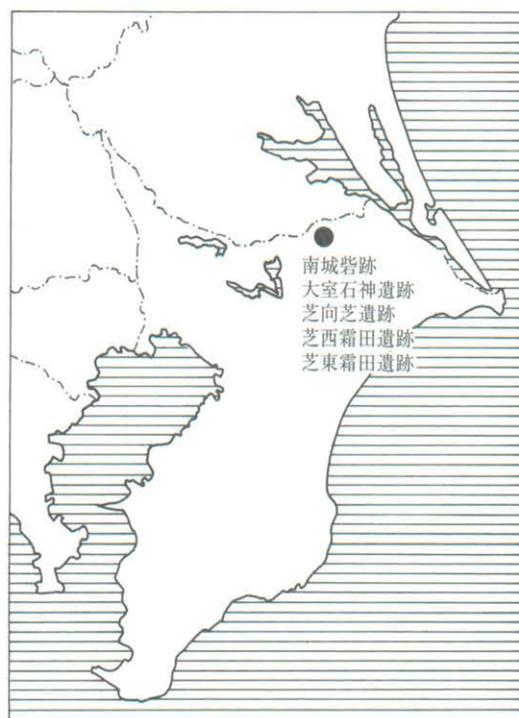
平成24年3月

国 土 交 通 省

財団法人 千葉県教育振興財団

首都圏中央連絡自動車道 埋蔵文化財調査報告書17

— 成田市^{なりた}南城砦跡^{なごりであと}・大室石神遺跡^{おおむろいしがみ}・芝向芝遺跡^{しばむかいしば}・芝西霜田遺跡^{しばにししもだ}・芝東霜田遺跡^{しばひがししもだ} —



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第683集として、国土交通省の首都圏中央連絡自動車道建設事業（千葉県下総地区ほか）に伴って実施した成田市南城砦跡ほか4遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、弥生時代から奈良・平安時代の集落跡が発掘されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られています。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力いただきました地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係機関、発掘調査から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成24年3月

財団法人 千葉県教育振興財団
理事長 赤 羽 良 明

凡 例

1. 本書は、国土交通省による首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書は、下記の遺跡を収録したものである。

南城砦跡（1）	成田市名木字稲葉下496	211-080（1）
南城砦跡（2）	成田市名木字御霊台894-1ほか	211-080（2）
大室石神遺跡	成田市芝字芝1236-1ほか	211-074
芝向芝遺跡（1）	成田市芝字向芝1288-1ほか	211-075（1）
芝向芝遺跡（2）	成田市芝字向芝1377	211-075（2）
芝西霜田遺跡	成田市芝西霜田1431-14ほか	211-076
芝東霜田遺跡	成田市芝東霜田1827-31ほか	211-071

3. 発掘調査から報告書作成に至る業務は、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
4. 発掘調査及び整理作業の担当者・実施期間は第1章に記載した。
5. 本編の執筆は、主任主事 平井真紀子が担当した。なお、第5章芝西霜田遺跡出土の中世遺物の分類については上席研究員 井上哲朗の協力を得た。
6. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、成田市教育委員会、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の御指導・御協力を得た。
7. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。

第1・5図 国土地理院発行 1/50,000 地形図「佐原」(NI-54-19-9)

「成田」(NI-54-22-10)

第2図 下総町役場発行 1/2,500 地形図「下総町全図No.9」(IX-KF 42-4 No.9)

「下総町全図No.13」(IX-KF 52-2 No.13)を編集

第3図 成田市役所発行 1/2,500 地形図「成田市地形図14」(平成13年)

「成田市地形図15」(平成12年)を編集

第4図 成田市役所発行 1/2,500 地形図「成田市地形図21」(平成17年)

「成田市地形図22」(平成12年)を編集

8. 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による平成18年撮影のものを使用した。
9. 本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。測量値については日本測地系を使用した。
10. 本書で使用した遺構番号は、調査時の番号を踏襲したが、一部整理作業時に付与したものもある。挿図に使用したスクリーントーンの用例は次のとおりである。遺物実測図の黒塗りの断面は、須恵器を表している。

焼土



赤彩



黒色処理



11. 遺物の色調については、農林水産省・(財)日本色彩研究所監修、日本色研事業株式会社発行「新版標準土色帖」1988年掲載の用語を使用した。
12. 本書で使用した遺構の略称は以下のとおりである。
SI：住居跡 SM：古墳 SD：溝 SK：土坑

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯と経過	1
第2節	遺跡の位置と周辺環境	4
第3節	調査の方法	5
第2章	南城砦跡	12
第1節	概要	12
第2節	検出した遺構と遺物	13
第3章	大室石神遺跡	46
第1節	概要	46
第2節	検出した遺構と遺物	47
第4章	芝向芝遺跡	59
第1節	概要	59
第2節	検出した遺構と遺物	60
第5章	芝西霜田遺跡	73
第1節	概要	73
第2節	検出した遺構と遺物	73
第6章	芝東霜田遺跡	95
第1節	概要	95
第2節	検出した遺構と遺物	97
第7章	まとめ	100
	報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図	圏央道（常総国）路線内の遺跡……………	2	第31図	遺構外出土弥生土器……………	36
第2図	南城砦跡周辺地形と調査区……………	6	第32図	銭貨……………	37
第3図	大室石神遺跡・芝向芝遺跡周辺地形と 調査区……………	7	大室石神遺跡		
第4図	芝西霜田遺跡・芝東霜田遺跡周辺地形と 調査区……………	8	第33図	下層・上層確認調査図……………	46
第5図	周辺の主な遺跡……………	9	第34図	石器出土状況図……………	47
南城砦跡			第35図	上層遺構配置図……………	48
第6図	下層確認グリッド配置図……………	12	第36図	SI-001・出土遺物（1）……………	49
第7図	上層確認トレンチ配置図……………	13	第37図	SI-001出土遺物（2）……………	50
第8図	南城砦跡（1）出土遺物……………	14	第38図	SI-002・出土遺物……………	51
第9図	南城砦跡（2）遺構配置図……………	15	第39図	SI-003・出土遺物……………	52
第10図	SI-001・出土遺物……………	16	第40図	SI-004・出土遺物……………	53
第11図	SI-002・出土遺物……………	17	第41図	SI-005・出土遺物……………	54
第12図	SI-003・出土遺物……………	18	第42図	SK-001……………	54
第13図	SI-004・出土遺物……………	19	第43図	SM-001・出土遺物, SX-001……………	55
第14図	SI-005・出土遺物……………	20	第44図	遺構外出土土器・石器……………	56
第15図	SI-006, SI-007・出土遺物……………	21	芝向芝遺跡		
第16図	SI-008・出土遺物……………	22	第45図	下層確認グリッド配置図……………	59
第17図	SI-009・出土遺物……………	23	第46図	上層確認トレンチ配置図……………	60
第18図	SI-010・出土遺物……………	24	第47図	遺構配置図……………	61
第19図	SI-011・出土遺物……………	25	第48図	基本土層……………	62
第20図	SI-012・出土遺物, SK-015……………	25	第49図	SI-001・出土遺物……………	62
第21図	SK-001～SK-008……………	27	第50図	SI-002・出土遺物……………	63
第22図	SK-009, SK-010, SK-013……………	28	第51図	SK-001～SK-008……………	64
第23図	SK-011, SK-014, SK-016, SK-018 ……………	29	第52図	SK-009, SK-010……………	65
第24図	第1ピット群, SB-001, SB-002……………	30	第53図	SD-001, SD-002, SD-004……………	66
第25図	SD-001……………	31	第54図	SD-003・出土遺物……………	67
第26図	土坑・ピット出土遺物……………	32	第55図	土塁……………	68
第27図	トレンチ出土遺物……………	32	第56図	遺構外出土縄文土器・石器……………	69
第28図	グリッド出土遺物……………	33	第57図	遺構外出土その他の遺物……………	70
第29図	遺構外出土石器……………	34	第58図	近世基壇跡・出土遺物……………	70
第30図	遺構外出土縄文土器……………	35	芝西霜田遺跡		
			第59図	下層・上層確認調査図……………	73
			第60図	遺構配置図……………	74
			第61図	基本土層……………	74

第62図	SI-001・出土遺物	75	第72図	中世土器(2)	87
第63図	SI-002, SK-009	76	第73図	中世土器(3)	88
第64図	SK-001, SK-003~SK-007	77	第74図	中世土器(4)	89
第65図	SK-002, SK-008, SK-011	79	第75図	遺構外出土石器・砥石	93
第66図	SK-010, SK-012, SK-013	80	第76図	錢貨	94
第67図	SX-001-1, SX-001-2	81	芝東霜田遺跡		
第68図	SD-001	82	第77図	下層確認グリッド配置図	95
第69図	SD-002, SD-004, SH-001, SH-002	83	第78図	上層確認トレンチ配置図	96
第70図	SD-003, SD-005, SD-006	84	第79図	基本土層	96
第71図	中世土器(1)	86	第80図	SK-001・出土遺物	97
			第81図	遺構外出土石器・石器	98

表 目 次

第1表 圏央道(常総国)調査遺跡一覧

第2表 周辺の遺跡一覧

南城砦跡

第3表 南城砦跡(1) 遺物観察表

第4表 南城砦跡(2) 遺物観察表

第5表 南城砦跡(2) 石器属性表

第6表 南城砦跡(2) 縄文土器観察表

第7表 南城砦跡(2) 弥生土器観察表

第8表 南城砦跡(2) 錢貨計測表

大室石神遺跡

第9表 遺物観察表

第10表 石器属性表

第11表 縄文土器観察表

芝向芝遺跡

第12表 遺物観察表

第13表 石器属性表

第14表 縄文土器観察表

芝西霜田遺跡

第15表 中・近世陶磁器類 産地・器種別組成

第16表 中世瀬戸・美濃 編年・器種別表

第17表 遺物観察表

第18表 石器属性表

第19表 錢貨計測表

第20表 その他出土遺物

芝東霜田遺跡

第21表 遺物観察表

第22表 石器属性表

第23表 縄文土器観察表

図版目次

- 図版1 遺跡周辺航空写真
南城砦跡
- 図版2 南城砦跡(1) 調査前・
トレンチ検出状況
- 図版3 SI-001, SI-002
- 図版4 SI-003, SI-005
- 図版5 SI-006, SD-001, SI-008
- 図版6 SI-009, SI-010
- 図版7 SI-011, SI-012, SK-015
- 図版8 SK-001~SK-009
- 図版9 SK-010, SK-011, SK-013, SK-014,
SK-018, 第1ピット群
- 図版10 南城砦跡(1) 出土遺物,
南城砦跡(2) 出土遺物(1)
- 図版11 南城砦跡(2) 出土遺物(2)
- 図版12 南城砦跡(2) 出土遺物(3)
- 図版13 南城砦跡(2) 出土遺物(4)
- 図版14 南城砦跡(2) 出土遺物(5)
- 図版15 南城砦跡(2) 出土遺物(6)
- 図版16 南城砦跡(2) 出土遺物(7)
- 図版17 南城砦跡(2) 出土遺物(8)
- 図版18 南城砦跡(2) 出土遺物(9)
- 大室石神遺跡
- 図版19 グリッド遺物出土状況, 下層セクション,
SM-001, SX-001
- 図版20 SM-001, SX-001
- 図版21 SI-001
- 図版22 SI-001カマド, SI-002, SI-003
- 図版23 SI-003, SI-004
- 図版24 SI-004, SI-005
- 図版25 SI-004, SI-005, SK-001
- 図版26 出土遺物(1)
- 図版27 出土遺物(2)
- 図版28 出土遺物(3)
- 図版29 出土遺物(4)
- 芝向芝遺跡
- 図版30 調査前風景, グリッドセクション
- 図版31 土塁セクション, SA-001
- 図版32 SI-001, SI-002
- 図版33 SK-001~SK-008
- 図版34 SK-009, SK-010, SD-001, SD-002,
SD-004
- 図版35 SD-003, 調査終了後,
芝向芝遺跡(2) 調査前風景
- 図版36 出土遺物(1)
- 図版37 出土遺物(2)
- 芝西霜田遺跡
- 図版38 調査前・トレンチ検出状況
- 図版39 SI-001
- 図版40 SI-002, SK-009
- 図版41 SK-001~SK-007
- 図版42 SK-008, SK-010~SK-013, SH-001,
SH-002, SX-001-1
- 図版43 SX-001-2, SD-001~SD-006,
5C-30
- 図版44 出土遺物(1)
- 図版45 出土遺物(2)
- 図版46 出土遺物(3)
- 図版47 出土遺物(4)
- 図版48 出土遺物(5)
- 図版49 出土遺物(6)
- 芝東霜田遺跡
- 図版50 トレンチ・遺構検出状況
- 図版51 出土遺物

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と経過（第1～4図、第1表）

首都圏中央連絡自動車道は、都心から半径およそ40km～60kmの位置に計画された総延長約300kmに及ぶ環状の自動車専用道路である。

この自動車専用道路で千葉県は、茨城県と神奈川県の間位置しており、北と南の2つのルートをも有する。1つは平成9年に開通した東京湾アクアラインを利用した南ルート、もう1つは神崎IC（仮称）から千葉県成田市（旧香取郡下総町・大栄町）をとおり、大栄JCT（仮称）で東関東自動車道につながる約10.7kmの北ルートである。本報告書で対象としているものはこの北ルートで、略称「圏央道（常総国）」と呼んでいる。

神奈川県からつながる南側ルートの文化財調査は平成13年度から実施しており、すでに発掘調査報告書が刊行されている遺跡もある。北側ルートにおいても、用地内に数多くの遺跡が存在することから、その取扱いについて千葉県教育委員会と国土交通省との間で慎重な協議が重ねられた。その結果、現状保存が困難な部分については、やむを得ず発掘調査による記録保存の措置を講ずることとし、国土交通省（常総国道事務所）が事業主体となり、財団法人千葉県教育振興財団が発掘調査を実施することになった。

調査組織及び担当者は以下のとおりである。

平成18年度 調査研究部長 矢戸三男 北部調査事務所長 古内 茂

（発掘）芝東霜田遺跡

調査期間：平成18年12月1日～平成19年1月31日

調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助

大室石神遺跡

調査期間：平成19年2月26日～平成19年3月29日

調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助、上席研究員 麻生正信

平成19年度 調査研究部長 矢戸三男 北部調査事務所長 豊田佳伸

（発掘）芝向芝遺跡（1）

調査期間：平成19年8月1日～平成19年11月30日

調査担当：上席研究員 島田裕之

芝西霜田遺跡

調査期間：平成19年12月3日～平成20年2月29日

調査担当：上席研究員 島田裕之

芝向芝遺跡（2）

調査期間：平成20年3月3日～平成20年3月10日

調査担当：上席研究員 島田裕之

平成20年度 調査研究部長 大原正義 北部調査事務所長 豊田佳伸

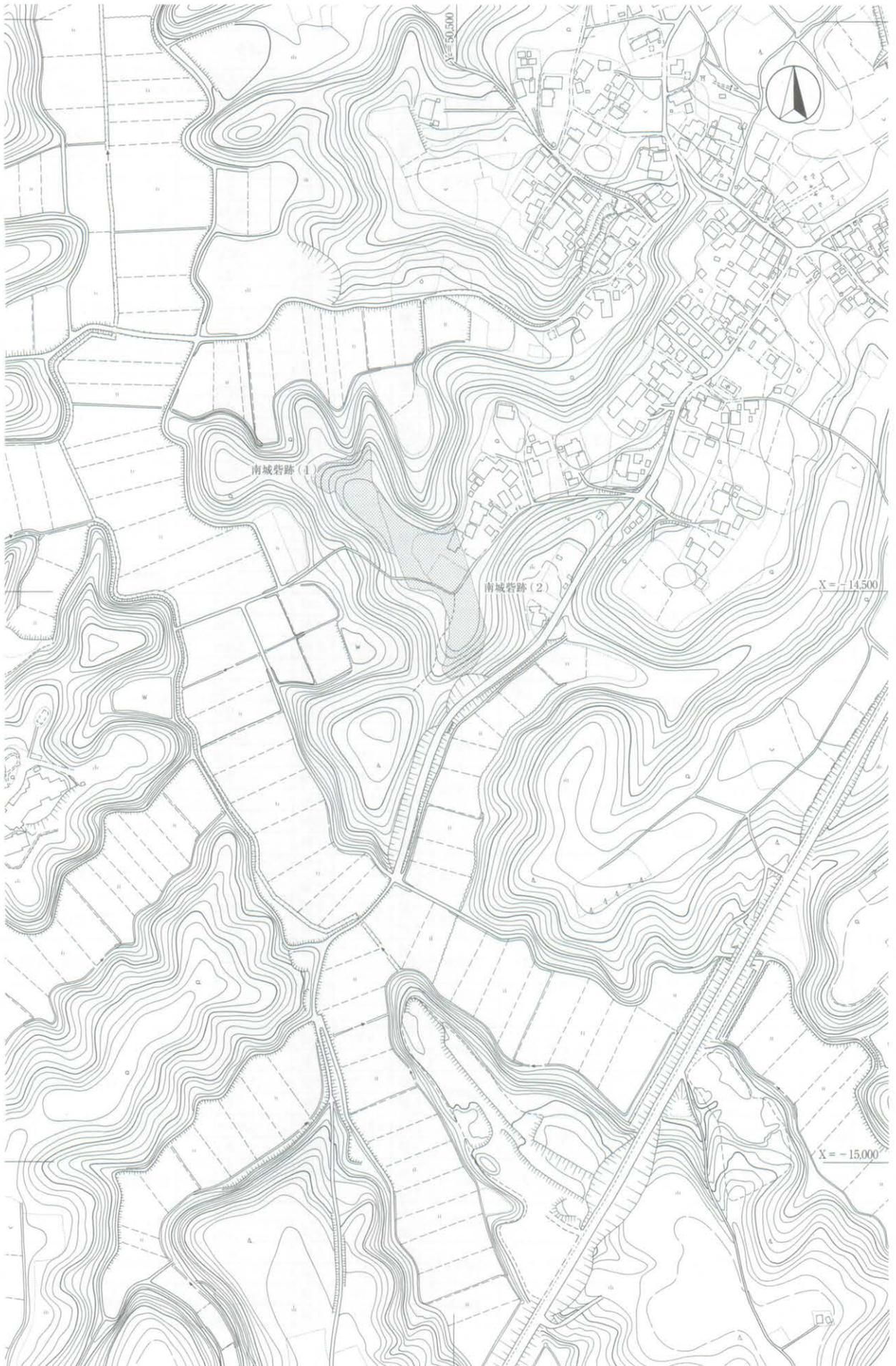
（整理）整理担当：主席研究員兼副所長 相京邦彦



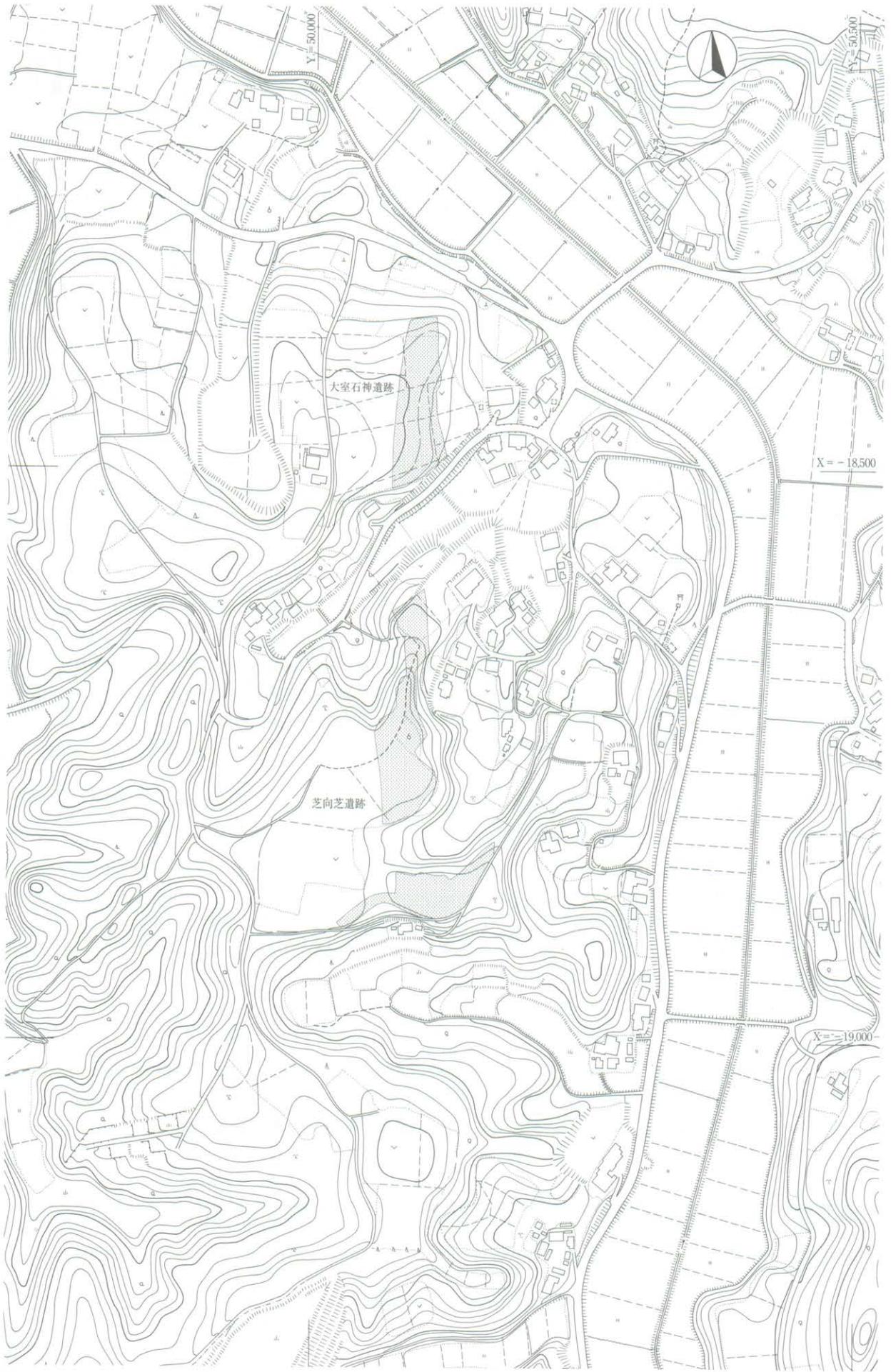
第1図 圏央道（常総国）路線内の遺跡 (1/50,000)

第1表 圏央道（常総国）調査遺跡一覧

地図 番号	事業 番号	調査 年度	遺跡名	遺跡コード	調査対象 面積	確認調査		本調査		時 代
						上層	下層	上層	下層	
1	下1・2	H17	名木馬場遺跡・ 名木馬場古墳群	341-011	7,700㎡ 古墳2基	上層	1,090㎡	上層	350㎡・古墳2基	縄文・弥生・古墳・近世
						下層	0㎡	下層	0㎡	
2	下3・4	H17	名木の場台遺跡	341-012	1,590㎡	上層	122㎡	上層	0㎡	縄文・古墳・奈良・平安
						下層	0㎡	下層	0㎡	
3		H22	南城砦跡（1）	211-080（1）	3,330㎡	上層	334㎡	上層	0㎡	縄文・奈良・平安
						下層	24㎡	下層	0㎡	
	下5	H22	南城砦跡（2）	211-080（2）	5,420㎡	上層	542㎡	上層	3,400㎡	縄文・弥生・古墳・奈良・ 平安・中世
						下層	108㎡	下層	0㎡	
4	下6・7	H22	名木天神台遺跡	211-081	1,850㎡	上層	190㎡	上層	630㎡	縄文・奈良・平安
						下層	36㎡	下層	0㎡	
5	下8		名木長峰遺跡		㎡	上層	㎡	上層	㎡	H23年度調査予定
						下層	㎡	下層	㎡	
6	下9		名木鎌部北遺跡（2）		㎡	上層	㎡	上層	㎡	H23年度調査予定
						下層	㎡	下層	㎡	
7	下10	H22	名木鎌部北遺跡（1）	211-083（1）	2,360㎡	上層	240㎡	上層	480㎡	縄文早期・平安
						下層	48㎡	下層	0㎡	
8	下11	H21	名木鎌部遺跡（2）	211-078（2）	4,140㎡	上層	410㎡	上層	3,380㎡	奈良・平安
						下層	83㎡	下層	0㎡	
	下12	H20	名木鎌部遺跡（1）	211-078（1）	1,750㎡	上層	193㎡	上層	340㎡	縄文・奈良・平安
						下層	24㎡	下層	0㎡	
9	下13	H18	倉水内野北遺跡（1）	211-068（1）	11,350㎡	上層	1,187㎡	上層	0㎡	旧石器・縄文・奈良・平安
						下層	474㎡	下層	0㎡	
	下13	H18	倉水内野北遺跡（2）	211-068（2）	2,880㎡	上層	368㎡	上層	1,070㎡	旧石器・縄文
						下層	100㎡	下層	0㎡	
	下13	H22	倉水内野北遺跡（3）	211-068（3）	4,842㎡	上層	586㎡	上層	0㎡	旧石器・縄文・古墳
						下層	220㎡	下層	0㎡	
10	下14	H18	倉水内野南遺跡（1）	211-070（1）	5,480㎡	上層	594㎡	上層	290㎡	旧石器・縄文・弥生
						下層	248㎡	下層	0㎡	
	下14	H18	倉水内野南遺跡（2）	211-070（2）	370㎡	上層	38㎡	上層	0㎡	なし
						下層	8㎡	下層	0㎡	
	下14	H19	倉水内野南遺跡（3）	211-070（3）	9,410㎡	上層	941㎡	上層	520㎡	旧石器・縄文・中世
						下層	248㎡	下層	0㎡	
11	下15	H18	青山小峰遺跡（1）	211-073（1）	2,160㎡	上層	220㎡	上層	0㎡	旧石器・縄文
						下層	116㎡	下層	0㎡	
	下15		青山小峰遺跡（2）	211-073（2）	㎡	上層	㎡	上層	㎡	H23年度調査予定
						下層	㎡	下層	㎡	
12	大1		稲荷山迫分台遺跡		㎡	上層	㎡	上層	㎡	H23年度調査予定
						下層	㎡	下層	㎡	
13	下16・ 17	H18	成井原山遺跡（1）	211-069（1）	11,380㎡	上層	1,100㎡	上層	4,600㎡	縄文・古墳～奈良・平安
						下層	450㎡	下層	0㎡	
		H19	成井原山遺跡（2）	211-069（2）	3,120㎡	上層	312㎡	上層	2,700㎡	縄文・奈良・平安・中世
						下層	64㎡	下層	0㎡	
14	下18・ 19・20		成井原山向遺跡		㎡	上層	㎡	上層	㎡	H23年度調査予定
						下層	㎡	下層	㎡	
15	下21 成1	H21	成井猪穴崎遺跡	211-079	3,360㎡	上層	420㎡	上層	275㎡	古墳・奈良・平安
						下層	28㎡	下層	0㎡	
16	成2	H18	大室石神遺跡	211-074	5,280㎡	上層	520㎡	上層	1,300㎡	旧石器・縄文・古墳・奈良・ 平安
						下層	316㎡	下層	0㎡	
17	成3	H19	芝向芝遺跡（1）	211-075（1）	9,920㎡	上層	922㎡	上層	3,800㎡	旧石器・縄文・奈良・平安・ 中世
						下層	216㎡	下層	0㎡	
	成3	H19	芝向芝遺跡（2）	211-075（2）	250㎡	上層	16㎡	上層	0㎡	近代祠跡
						下層	0㎡	下層	0㎡	
18	成4	H19	芝西霜田遺跡	211-076	6,060㎡	上層	606㎡	上層	1,850㎡	縄文・奈良・平安・中世
						下層	121㎡	下層	0㎡	
19	成5	H18	芝東霜田遺跡	211-071	8,800㎡	上層	1,180㎡	上層	0㎡	古墳時代前期
						下層	180㎡	下層	0㎡	
20	下22	H22	倉水高台遺跡	211-081	1,020㎡	上層	95㎡	上層	0㎡	縄文・古墳・近世
						下層	20㎡	下層	0㎡	



第2図 南城砦跡周辺地形と調査区 (1/5,000)



第3図 大室石神遺跡・芝向芝遺跡周辺地形と調査区 (1/5,000)



第4図 芝西霜田遺跡・芝東霜田遺跡周辺地形と調査区 (1/5,000)

芝東霜田遺跡 作業内容：記録整理～トレース

芝向芝遺跡 作業内容：記録整理～トレース

大室石神遺跡 作業内容：記録整理～トレース

平成22年度 調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄

(発掘) 南城砦跡 (1)

調査期間：平成22年4月12日～平成22年4月26日

調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助

南城砦跡 (2)

調査期間：平成22年5月10日～平成22年8月30日

調査担当：主席研究員兼副所長 池田大助

(整理) 整理担当 主席研究員兼副所長 池田大助, 主席研究員 雨宮龍太郎, 香取正彦

南城砦跡 (1) 作業内容：水洗・注記・記録整理

南城砦跡 (2) 作業内容：水洗・注記

平成23年度 調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄

(整理) 整理担当：主席研究員兼副所長 池田大助, 主任主事 平井真紀子

芝西霜田遺跡 作業内容：水洗・注記～報告書刊行

芝東霜田遺跡 作業内容：挿図・図版作成～報告書刊行

芝向芝遺跡 (1)・(2) 作業内容：挿図・図版作成～報告書刊行

大室石神遺跡 作業内容：挿図・図版作成～報告書刊行

南城砦跡 (1)・(2) 作業内容：水洗・注記の一部～報告書刊行

第2節 遺跡の位置と周辺環境 (第5図, 第2表, 図版1)

今回報告する5遺跡のうち南城砦跡は平成18年に合併する以前の旧下総町北東部に位置し、JR下総神崎駅から南西へ3.3kmほどの台地上に所在する。一方、大室石神遺跡・芝向芝遺跡・芝西霜田遺跡・芝東霜田遺跡の4遺跡は、旧下総町・旧大栄町と境を接する成田市北東部に位置し、JR久住駅から東へ4kmほどの台地上に点在する。

南城砦跡は浄向川、大室石神遺跡以下4遺跡は尾羽根川と水系を異にするが、遺跡の立地状況はほぼ共通している。本地域は江戸時代に利根川の改修が行われる以前の鬼怒川と、鬼怒川に流れ込む支流とによって樹枝状に開析された沖積低地を特色としている。沖積低地を望む標高30m前後の台地縁辺部に遺跡が営まれることが多く、南城砦跡以下5遺跡もその例に漏れない。

次に周辺の遺跡について、各時代ごとに概観する。旧石器時代の遺跡としては石器集中地点が検出された名木天神台遺跡、青山宮脇遺跡、新シ山・柳和田台遺跡、ナイフ形石器や槍先形尖頭器が採集された前原遺跡、Ⅶ層から石器が出土した椎ノ木遺跡などがあげられる。

縄文時代の遺跡としては、有舌尖頭器と爪形文土器を出土した成井原山向遺跡が草創期と最も古く、続く早期では西之城貝塚、前原遺跡、前期では植房貝塚が知られている。中期では古原貝塚、後期まで継続する名古屋十二代貝塚がある。後期になると低地へも進出し、名古屋貝塚や晩期まで続く大原野(龍正院)貝塚などがあげられる。

旧下総町において南城砦跡でも検出された弥生時代の遺跡は調査例が少ない。わずかに報告されている遺跡は新シ山・柳和田台遺跡で中期の土器棺墓が検出された以外は全て後期の遺跡である。南城砦跡周辺では大日山古墳の墳丘下から竪穴住居跡が確認されたほか、長稲葉遺跡、中里原ノ台遺跡、大和田坂ノ上遺跡からも竪穴住居跡が検出されている。一方、尾羽根川中流域では成井鶴ヶ峰遺跡、名古屋横峰遺跡などがある。

続く古墳時代には、名木地区や近接する大和田地区は一大発展期を迎え、遺跡数も急増する。大日山古墳は木炭槨の主体部を有する全長54mの前方後円墳で、旧下総町内でも古い段階のものである。木挽崎古墳群や猫作・栗山古墳群、西大須賀コモ田古墳群からは下総型埴輪が出土している。また、この地区は石枕を出土する古墳が多く、大和田玉作遺跡群のような玉作集団も存在していた。南城砦跡周辺は名木大台遺跡、名木不光寺遺跡、名木天神台遺跡など古墳時代後期から平安時代までの集落が濃密に分布している。それに対し、大室石神遺跡周辺は、尾羽根川右岸に成井寺ノ下Ⅰ遺跡や地藏原鳳凰遺跡などが点在するものの、左岸は包蔵地が若干点在する程度で調査例も非常に少ない。

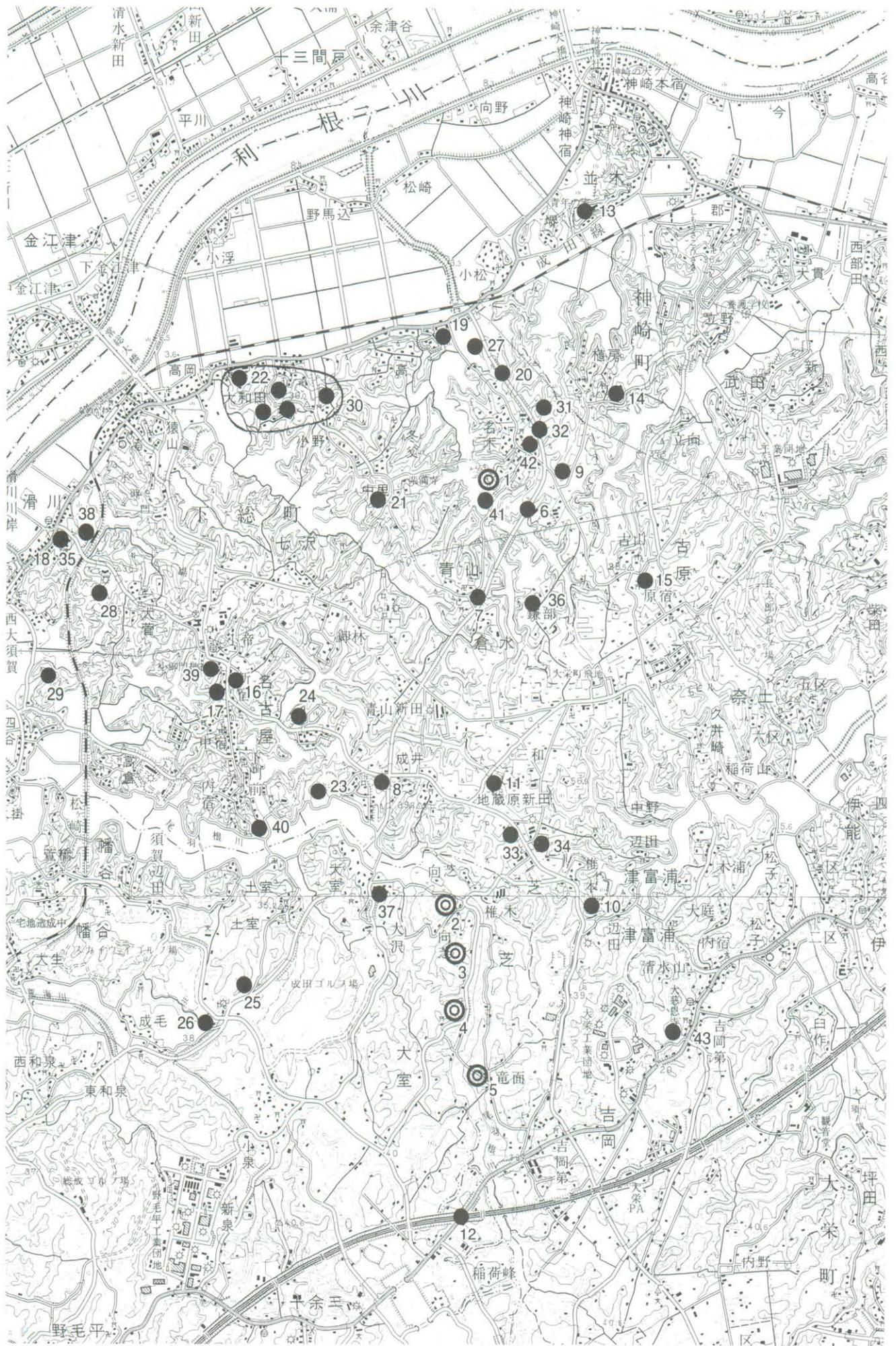
平安時代以降に開山した寺院としては大慈恩寺や龍正院が知られ、名木廃寺では8世紀中世～後半代の基壇が検出された。大室の円通寺の開山もこの頃と伝えられる。中世では菊水城、大須賀城、小帝城、助崎城、名木城などが築城される一方、常福寺なども開山している。

第3節 調査の方法

圏央道に関わる発掘調査では、遺跡の数が多く面積も広いため、それぞれの遺跡ごとに公共座標に基づいたグリッド設定を行っている。

調査に先立ち日本測地系（座標系Ⅸ）に基づく任意の座標を起点とした40m×40m（南城砦跡は20m×20m）の方眼網を設定し大グリッドとした。名称は起点から南方向に1，2…，東方向にA，B…とした。

さらに大グリッドの中を4m×4m（南城砦跡は2m×2m）に100分割し、北西隅を00，南東隅を99とし、小グリッドとした。グリッドの呼称は大グリッドと小グリッドの組み合わせで3D-36というように表記した。



第5図 周辺の主な遺跡 (1/50,000)

第2表 周辺の遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	主な時代	概要	文献No
1	南城砦跡	成田市名木	弥生～中世	住居(弥生4, 古墳3, 奈良・平安5), 土坑, 掘立2棟	本書
2	大室石神遺跡	成田市芝	旧石器, 古墳, 奈良・平安	Ⅵ層から石器出土, 方墳1基, 奈良・平安住居5軒	
3	芝向芝遺跡	成田市芝	奈良・平安, 近世	奈良・平安住居2軒, 中・近世溝, 土塁	
4	芝西霜田遺跡	成田市西霜田	奈良・平安, 中世	奈良・平安住居2軒, 中世地下式坑, 道路跡	
5	芝東霜田遺跡	成田市東霜田	古墳	古墳時代前期の遺物を伴った土坑1基	
6	名木天神台遺跡	成田市名木	旧石器, 奈良, 中・近世	石器集中地点2ヶ所, 奈良住居48軒, 掘立12棟	29
7	青山宮脇遺跡	成田市青山	旧石器	石器集中地点2ヶ所 ナイフ型石器	23
8	新山・柳和田台遺跡	成田市成井	旧石器～弥生, 平安	石器集中地点3ヶ所, 弥生中期の土器棺3個, 平安住居3軒, 掘立12棟	23
9	前原遺跡	成田市名木	旧石器, 縄文(早期)	ナイフ形石器, 槍先形尖頭器, 彫刻刀, 搔器, 貝殻条痕文系土器	18
10	椎ノ木遺跡	成田市芝	旧石器～	Ⅶ層から石器出土, 住居(縄文9, 弥生6, 平安7)	11
11	成井原山向遺跡	成田市成井	縄文(草創期)	有舌尖頭器, 木葉形尖頭器, 隆起線文土器	18
12	稲荷峰遺跡	成田市十余三	縄文(早・中期) 中世	住居(縄文15, 歴史時代以降1)	8
13	西之城貝塚	神崎町並木	縄文(早期)	井草Ⅰ～稲荷台式土器	7
14	植房貝塚	神崎町植坊	縄文(前期)		7
15	古原貝塚	神崎町古原	縄文(後期)	加曾利B～安行1	7
16	名古屋十二代貝塚	成田市名古屋	縄文(中～晩期)	加曾利E, 安行3	18
17	名古屋貝塚	成田市名古屋	縄文(中～晩期)	加曾利E, 堀之内～安行3	18
18	大原野(龍正院)貝塚	成田市滑川	縄文(晩期)	貝製品, 骨角加工品	18
19	大日山古墳群	成田市高	弥生, 古墳	弥生住居, 前方後円墳1基, 円墳2基, 木炭塚	1
20	長稲葉遺跡	成田市名木	縄文, 弥生, 古墳	住居(弥生2, 古墳16), 方墳1基, 古墳1基	21
21	中里原ノ台遺跡	成田市中里	縄文～奈良・平安	住居(弥生5, 古墳10, 奈良・平安11)	14
22	大和田坂ノ上遺跡	成田市大和田	縄文, 弥生, 古墳	住居(弥生1, 古墳2), 前方後円墳, 埴輪, 石製模造品	12
23	成井鶴ヶ峰遺跡	成田市成井	弥生, 古墳	住居(弥生6, 古墳前期1), 小竪穴, 土坑	13
24	名古屋横峰遺跡	成田市名古屋	旧石器～古墳, 中世	住居(弥生1, ほか5)	4
25	長山遺跡	成田市土室	旧石器～弥生	Ⅶ層から石器1点, 縄文土器(早・前期), 弥生住居1軒	15
26	右田遺跡	成田市成毛	縄文・弥生	縄文土器(前浦～大洞), 弥生土器(須和田)	2
27	木挽崎古墳群	成田市名木	古墳	前方後円墳1基, 円墳4基	18
28	猫作・栗山古墳群	成田市滑川	弥生, 古墳	前方後円墳3基, 帆立貝式7基, 円墳28基, 方墳18基	31
29	西大須賀コモ田古墳群	成田市西大須賀	弥生, 古墳, 平安	帆立貝式2基, 円墳17基, 石棺4, 石室5, 埴輪, 住居(弥生4, 古墳15, 平安4)	31
30	大和田玉作遺跡群	成田市大和田, 小野	古墳	玉作工房跡	31
31	名木大台遺跡	成田市名木	古墳(後期)～平安	住居総数121	5, 16, 22, 26
32	名木不光寺遺跡	成田市名木	縄文, 古墳, 奈良・ 平安	住居(古墳19, 平安4), 古墳2基/前方後円墳1基, 円墳1基, 方墳1基, 住居(古墳51, 奈良・平安5) 掘立8棟	20, 30
33	成井寺ノ下Ⅰ遺跡	成田市成井	縄文, 古墳, 奈良・ 平安	住居(古墳17, 奈良・平安6), 掘立6	10
34	地藏原鳳凰遺跡	成田市地藏原新田	縄文, 古墳, 奈良・ 平安, 中世	住居(古墳1, 奈良・平安9)	17
35	龍正院	成田市滑川	承和5(838)年		27
36	名木廃寺	成田市名木	8世紀中葉	基壇跡	6
37	円通寺	成田市大室	神護景雲年間		10
38	菊水城	成田市滑川	戦国後期	郭, 腰曲輪, 空堀, 土塁, 櫓台, 虎口	18
39	小帝城	成田市名古屋	戦国後期	郭, 腰曲輪, 空堀, 土塁, 虎口	18, 25
40	助崎城	成田市名古屋	戦国後期	郭, 腰曲輪, 空堀, 土塁, 櫓台, 虎口	18, 28
41	名木城	成田市名木	戦国前～中期	郭, 腰曲輪, 土塁, 櫓台, 虎口	18, 25
42	常福寺	成田市名木	延応元(1239)年		
43	大慈恩寺	成田市吉岡	天平宝字5(761)年	延慶3年銘梵鐘の名文により13世紀末創建か	28

参考文献

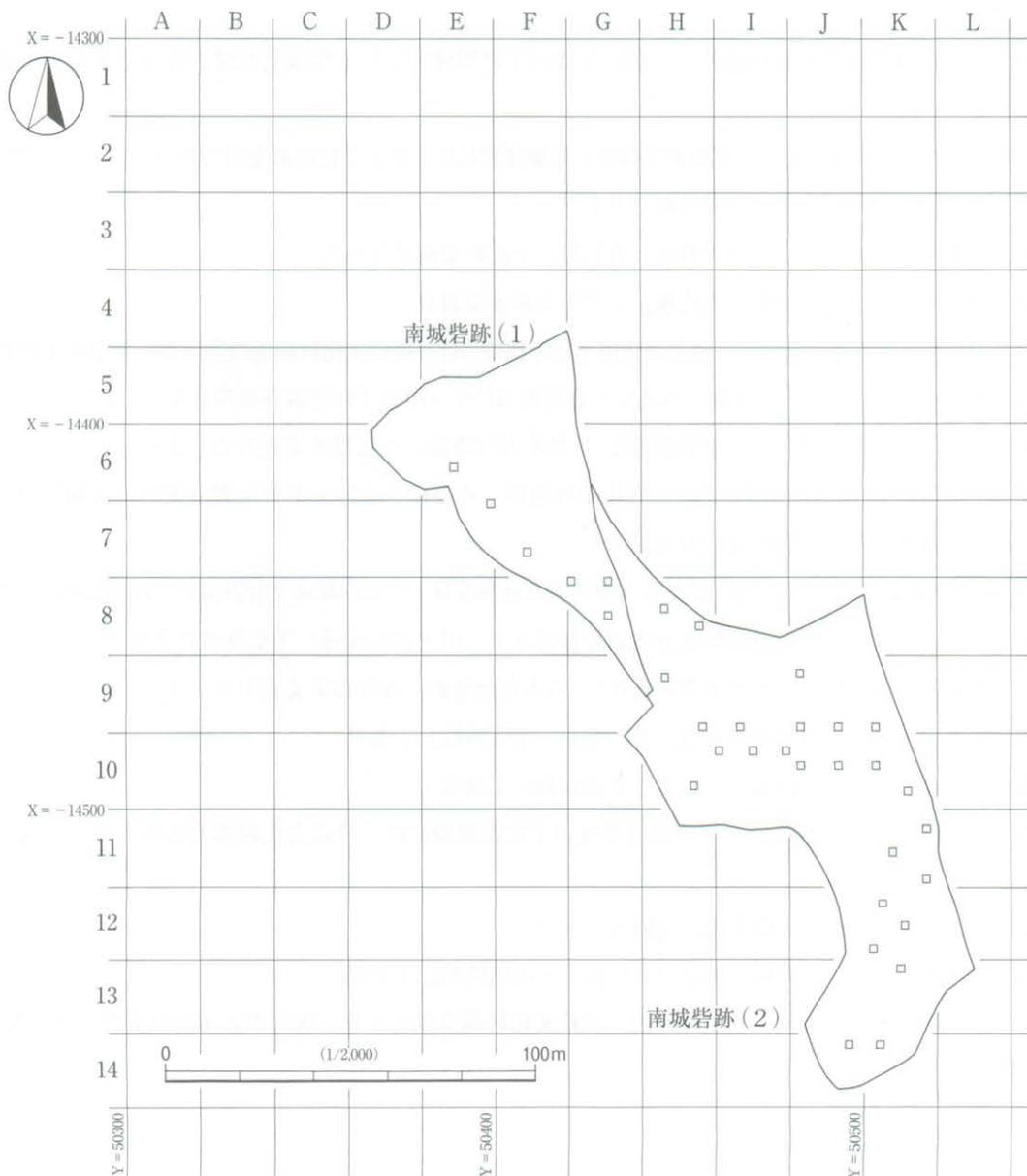
1. 1971『千葉県香取郡下総町 大日山古墳』千葉県教育委員会
2. 1974『成田市文化財分布調査報告書－埋蔵文化財編－』成田市教育委員会
3. 1980『成田市史 通史 原始古代編』成田市史編纂委員会
4. 1982『千葉県下総町名古屋横峰遺跡』名古屋横峰遺跡調査会
5. 1982『千葉県下総町名木大台遺跡 名木小学校移転新築に伴う埋蔵文化財調査』下総町教育委員会
6. 1983『下総町名木廃寺跡確認調査報告』千葉県教育委員会
7. 1984『石器時代における利根川下流域の研究－貝塚を中心として－』西村正衛
8. 1985『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－成田地区－』千葉県文化財センター
9. 1986『成田市史 中世・近世編』成田市史編纂委員会
10. 1986『千葉県下総町成井寺ノ下Ⅰ遺跡 発掘調査報告書』山武考古学研究所
11. 1987『椎ノ木遺跡 成田市産業廃棄物処理場予定地内埋蔵文化財調査報告書』印旛郡市文化財センター
12. 1988『大和田坂ノ上遺跡』下総町教育委員会
13. 1988『千葉県下総町成井鶴ヶ峰遺跡 発掘調査報告書』山武考古学研究所
14. 1989『中里原ノ台遺跡 町道名古屋中里線改良事業に伴う弥生・古墳・奈良時代集落址の調査』下総町教育委員会
15. 1989『成田市林北遺跡・長山遺跡－一般県道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』千葉県文化財センター
16. 1989『下総町名木大台遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ』千葉県文化財センター
17. 1990『地蔵原鳳凰遺跡』香取郡市文化財センター
18. 1990『下総町史 原始・古代・中世編 資料集』下総町史編纂委員会
19. 1993『下総町史 通史 原始・古代編』下総町史編纂委員会
20. 1993『下総町名木不光寺遺跡－一般県道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』千葉県文化財センター
21. 1994『下総町長稲葉遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』千葉県文化財センター
22. 1994『香取郡市文化財センター事業報告Ⅲ』「名木大台遺跡」香取郡市文化財センター
23. 1995『下総町新シ山・柳和田台遺跡 青山中峰遺跡 青山宮脇遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』千葉県文化財センター
24. 1995『千葉県成田市大室十三塚 成田市大室・芝線道路改良予定地内埋蔵文化財調査』印旛郡市文化財センター
25. 1995『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅰ－旧下総国地域』千葉県教育委員会
26. 1997『香取郡市文化財センター事業報告Ⅳ』「名木大台遺跡」香取郡市文化財センター
27. 1998『千葉県の歴史 資料編 考古（3）奈良・平安時代』千葉県
28. 1998『千葉県の歴史 資料編 中世1 考古資料』千葉県
29. 1999『下総町名木天神台遺跡－主要地方道成田下総線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅷ』千葉県文化財センター
30. 2000『名木不光寺遺跡』香取郡市文化財センター
31. 2003『千葉県の歴史 資料編 考古（2）弥生・古墳時代』千葉県
32. 2009『首都圏中央連絡自動車道（常総国）埋蔵文化財調査報告書9－成田市名木馬場遺跡・名木の場台遺跡』千葉県教育振興財団

第2章 南城砦跡

第1節 概要 (第2・6・7図)

利根川支流浄向川右岸の標高35mの台地上に立地し、北東500mの位置には延応元年(1239年)開山と伝わる常福寺がある。本遺跡の所在する名木地区は、『下総町名木廃寺跡確認調査報告』によると「名木は古くは「南城」とも記されたようであり、香取文書にはしばしば「南城、上坊」と併書されて登場する」とある。また、本調査区の南西、一段下がった台地には名木城が所在していた。名木城は城域南北200m、東西150m、単郭で上下二段の腰郭が巡る戦国前期から中期の城跡である(『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書』)。台地北側に展開する集落が根古屋と想定されるが、今回の調査では該当する時期の遺構・遺物は検出されなかった。

南城砦跡は2次にわたって調査され、北側調査区を南城砦跡(1)、南側調査区を南城砦跡(2)としている。



第6図 下層確認グリッド配置図

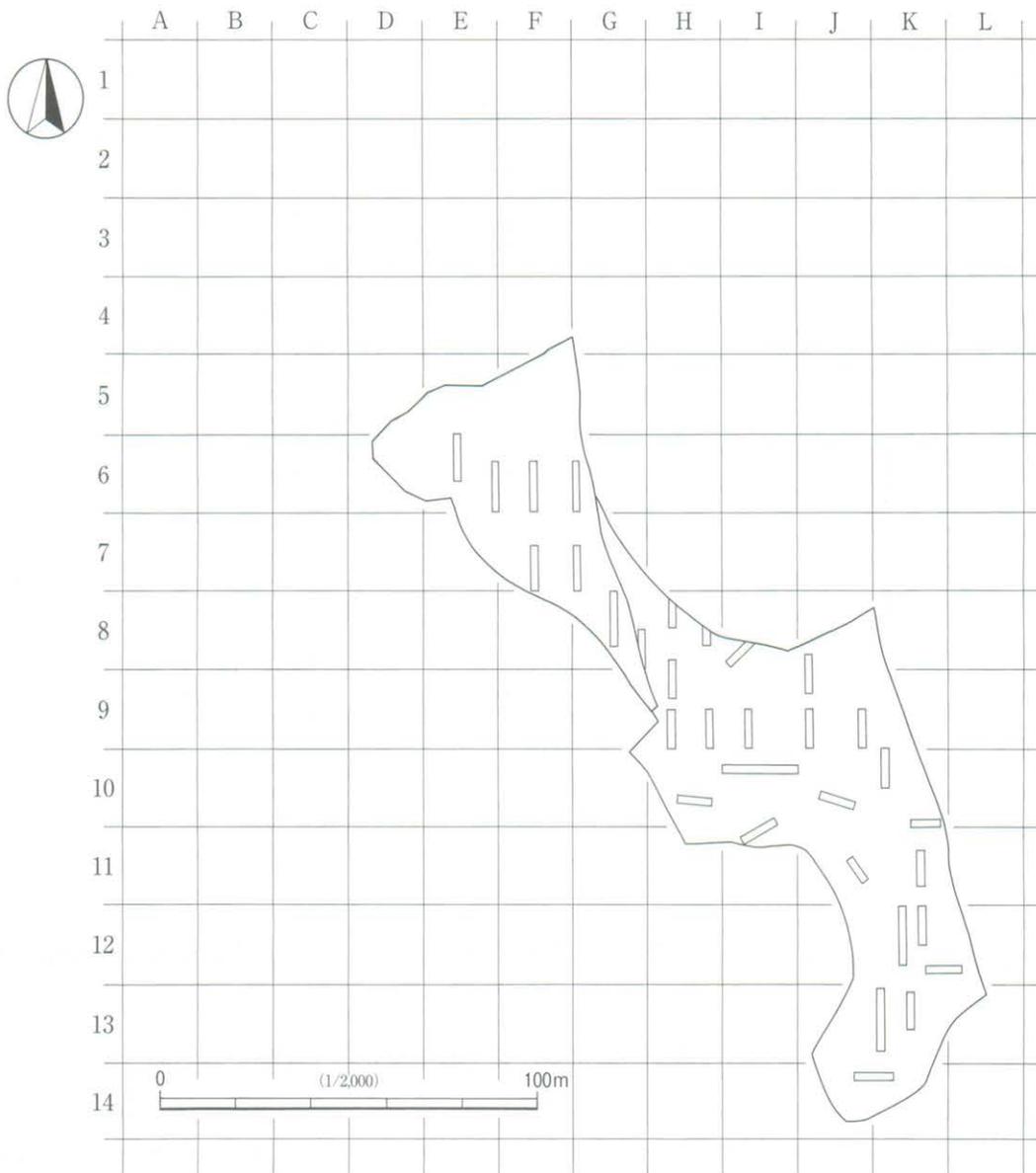
第2節 検出した遺構と遺物

南城砦跡（1）（第8図，第3表，図版2・10）

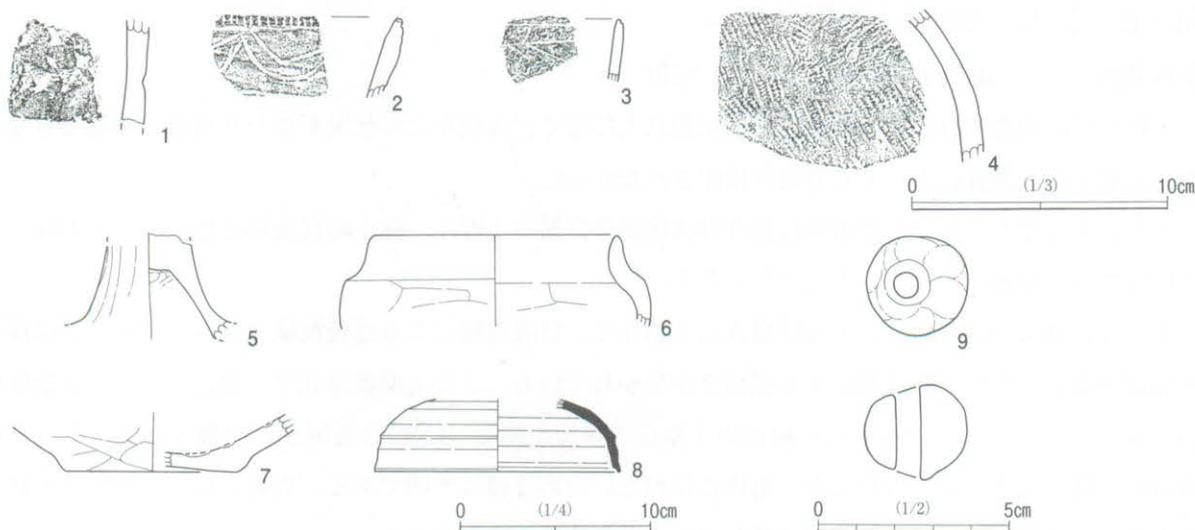
上層の確認調査では，開墾時の開削が予想以上に深く，抜根などの状況も加わり遺構は確認できなかった。下層の確認調査においても遺物は検出されなかった。

トレンチなどから検出した遺物は縄文時代前期浮島期の土器片，弥生時代後期と思われる土器片，古墳時代後期の土師器・須恵器・土玉などである。

1～3は縄文土器である。1は浮島式の土器片で，貝殻腹縁による連続波状文がみられる。2は後期末～晩期初頭の土器片で，沈線による弧線文が描かれている。3は前期興津式で，沈線区画内に貝殻腹縁文が充填されている。4は弥生時代後期の土器片で附加条縄文（LRに2条附加）が施される。5～9は古墳時代後期の遺物と考えられるが，遺構に伴わないため詳細は不明である。周辺には名木不光寺遺跡や名木天神台遺跡など同時代の集落が展開しており，関連性がうかがえる。



第7図 上層確認トレンチ配置図



第8図 南城砦跡(1)出土遺物

第3表 南城砦跡(1)遺物観察表

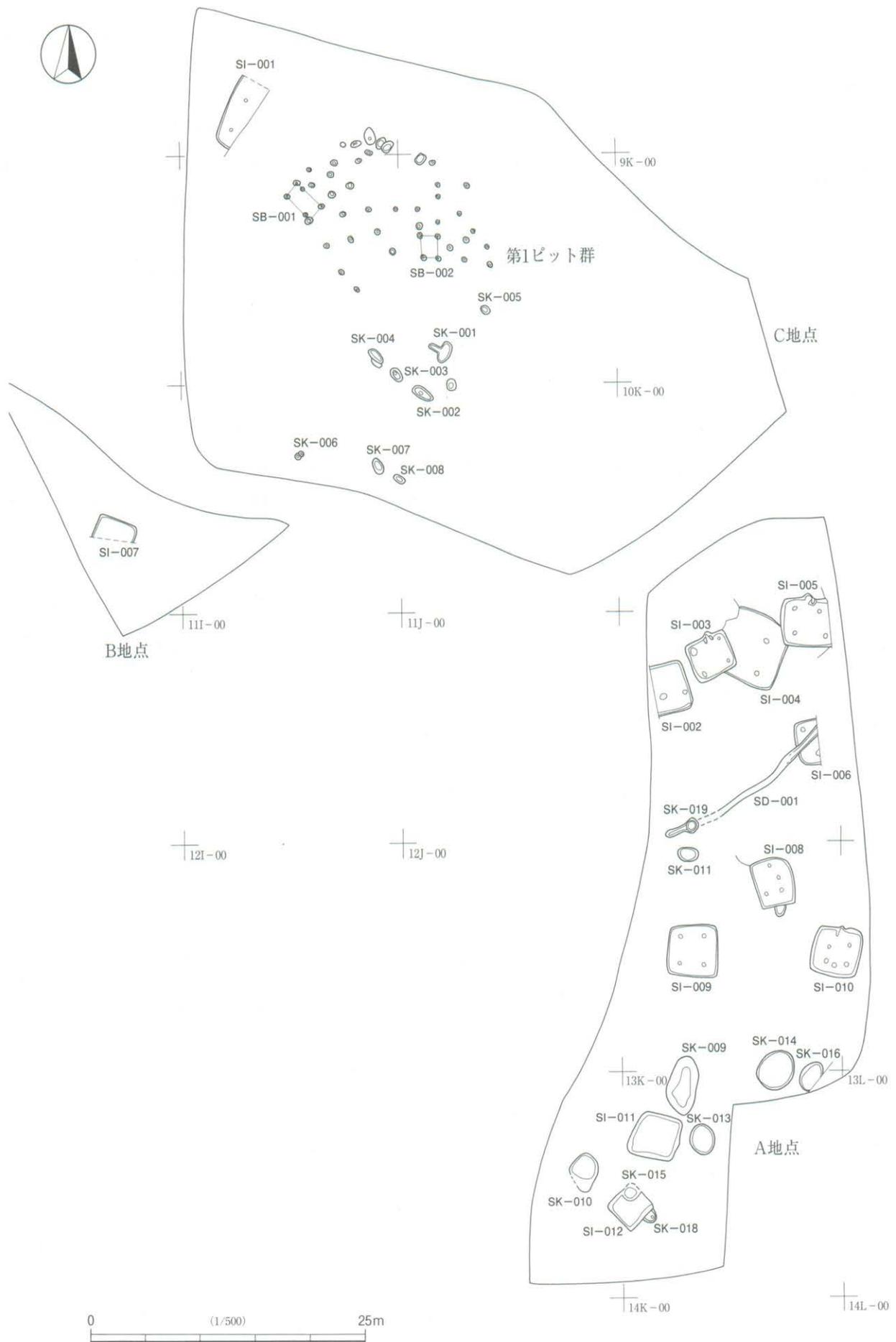
() は推定値, < > は現存値を表す

挿図No.	遺構No.	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調 (色処理)・焼成	技法	備考
8	1	7T	縄文土器 深鉢	口径 底径 器高	— — —	破片 砂粒	内面 7.5YR6/4にぶい橙 外面 7.5YR6/4にぶい橙 焼成 良好	内面 ナデ 外面 貝殻腹縁波状文 底外面	前期浮島式
8	2	表採	縄文土器 甕	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 砂粒, 雲母 (少)	内面 7.5YR6/6橙 外面 7.5YR6/6橙 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 口唇部刻み 弧状沈線文 底外面	後期末~晩期初頭
8	3	1T	縄文土器 甕	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 白色粒子	内面 7.5YR5/4にぶい褐 外面 7.5YR5/4にぶい褐 焼成 良好	内面 ナデ 外面 沈線区画 貝殻腹縁文充填 底外面	前期興津式
8	4	表採	弥生土器 甕	口径 底径 器高	— — —	胴部片 白色粒子 (多)	内面 5YR6/6橙 外面 5YR6/6橙 焼成 良好	内面 摩滅 外面 附加条RL+L・L 底外面	
8	5	6T	土師器 高杯	口径 底径 器高	— — <5.4>	脚部片 砂粒, 雲母	内面 5YR6/6橙 外面 5YR6/6橙 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底外面	
8	6	6T	土師器 鉢	口径 底径 器高	(12.8) — <4.7>	口縁部片 砂粒, 雲母, 赤色スコリア	内面 5YR6/6橙 外面 5YR6/6橙 焼成 良好	内面 ヨコナデ, ヘラナデ 外面 ヨコナデ, ヘラケズリ 底外面	
8	7	表採	土師器 甕	口径 底径 器高	— (9.0) <3.0>	底部片 白色粒子 (多)	内面 5YR6/4にぶい橙 外面 5YR5/3にぶい赤褐 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 ヘラケズリ 底外面	
8	8	7T	須恵器 蓋	口径 底径 器高	(13.0) — <3.7>	破片 白色粒子, 赤色スコリア	内面 7.5YR5/1灰 外面 7.5YR6/1灰 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ 回転ヘラケズリ 底外面	
8	9	2T	土製品 土玉	長さ 幅 孔径	2.65 2.4 0.65	100% 赤色スコリア	内面 — 外面 10YR3/1黒褐 焼成 良好	内面 — 外面 ナデ 底外面	

南城砦跡(2) (第9図)

南側の調査区は、東西に走る既存の道路により3地点に分断されている。調査区南側をA地点、西側をB地点、北側をC地点とする。

確認調査を行ったところ、A地点では南北方向に延びる痩せ尾根状の平坦面から斜面にかけて、古墳時代後期と想定される住居跡及び土坑が検出された。西側斜面に接する既存の道路にはさまれたB地点では、北西部分の平坦部より古墳時代の住居跡が検出された。C地点の中央部からは古墳時代後期の住居跡・土坑が検出されているが、西側はローム層まで削平されている。また北側は谷頭が入り込んでおり、近年の埋め立てが一部行われている。



第9図 南城砦跡(2)遺構配置図

これらの結果をもとに、道路部分・ローム削平部分・埋め立て部分を除いた台地平坦部3,400㎡の本調査を実施した。

SI-001 (第10図, 第4表, 図版3・10)

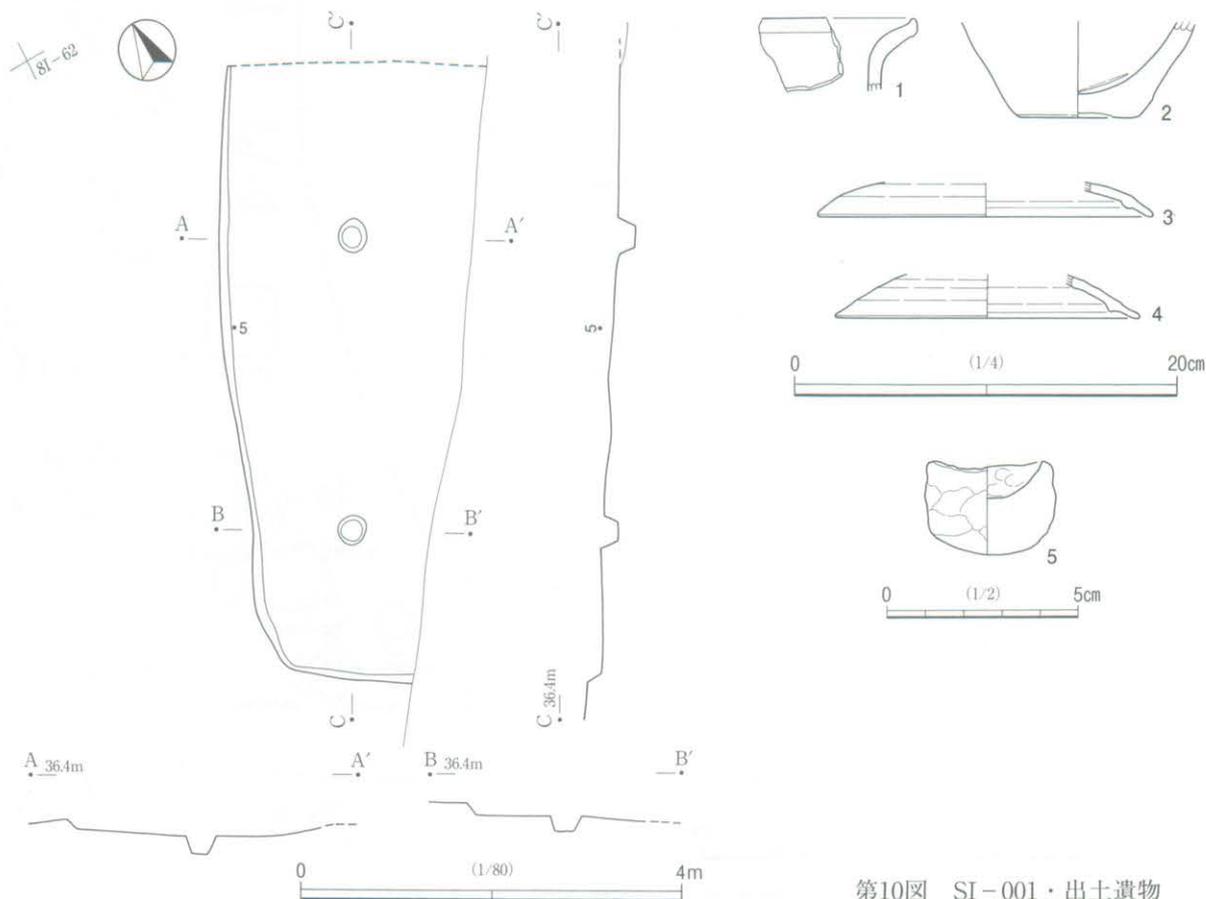
C地点の北西端, 8I-72グリッド周辺に位置する。北東壁と南東壁は攪乱により検出できなかった。平面形は方形で、主軸はN-29°-E, 規模は不明である。掘り込みは確認面から9.0~15.2cmである。斜面部にあるため確認面及び床面は北へ向かって20cmほど傾斜している。ピットは2基検出され、いずれも深さ18cm前後である。

遺物は住居跡覆土中から土師器蓋, 甕, 手捏ね土器などが出土している。1は常総型の甕の口縁部, 2は在地の厚手の甕で, 5の手捏ね土器と胎土が似ている。3・4はかえりをもつ蓋でやや灰色がかかった浅黄色を呈する。土師器としたが還元のあまい須恵器の可能性もある。

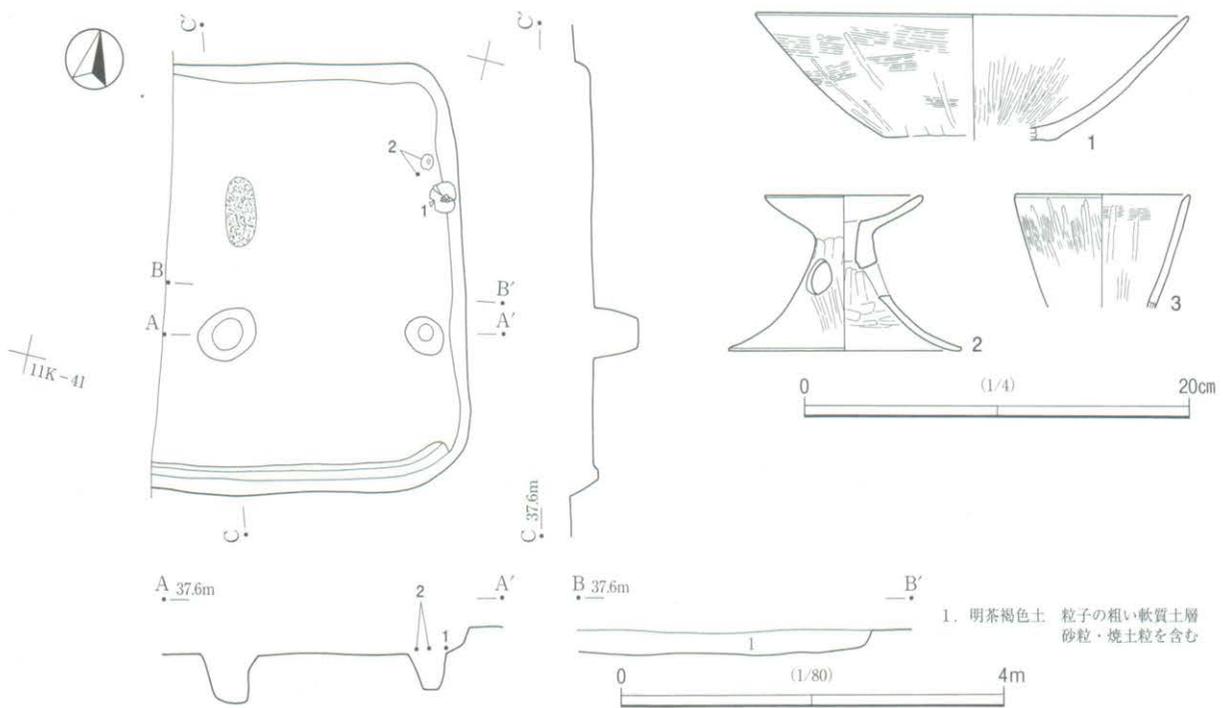
SI-002 (第11図, 第4表, 図版3・10)

A地点の北西端, 11K-32グリッド周辺に位置する。西壁は道路により確認できなかった。平面形は方形で、主軸はN-14°-W, 規模は幅4.30mである。掘り込みは確認面から14.0~31.4cmである。炉は主軸上のやや北寄りに1基検出された。長軸66cm, 短軸30cmの南北に長い楕円形で、掘り込みは浅い。ピットは2基で、深さはP1が49.5cm, P2が37.7cmである。

遺物は東壁北寄りから集中して出土した。1は大型の高杯で杯部底に稜をもち、ハケ調整の後ミガキが施される。2は器台で浅い皿状の受部にやや長脚の脚部がつく。全体にミガキが施される。3の坩は壺形タイプでハケ調整の後ミガキが施される。胎土・色調とも共通しており、これらの遺物から本住居跡の時期は古墳時代初頭と思われる。



第10図 SI-001・出土遺物



第11図 SI-002・出土遺物

SI-003 (第12図, 第4表, 図版4・10)

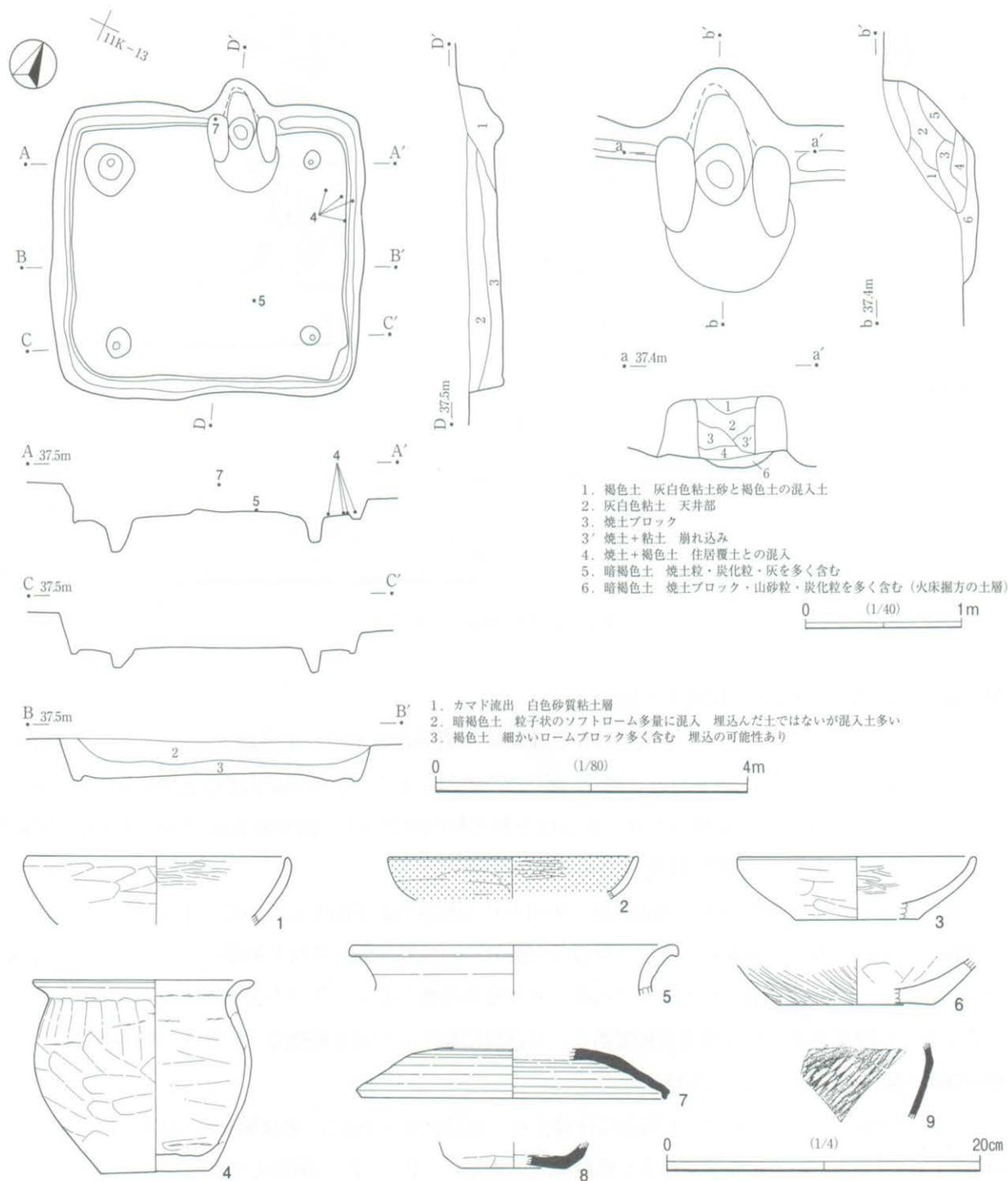
A地点の北側, 11K-13グリッド周辺に位置する。平面形は方形で, 主軸はN-25°-W, 規模は主軸長3.64m, 幅4.00mである。掘り込みは確認面から37.3~51.1cmで, カマドは北壁中央やや東寄りに付設される。ピットは主柱穴が4基検出され, 深さはそれぞれP1が29.4cm, P2が31.3cm, P3が21.4cm, P4が40.8cmである。周溝は全周し, 深さは1.9~6.7cmである。

遺物は覆土中から土師器の杯, 須恵器蓋, 床面から土師器の甕が出土している。1~3は非ロクロの土師器杯で, 2は内外面とも赤彩, 4は土師器小型甕で, 口縁部が強く外反し外面に面をもつ。5は土師器甕の口縁部で, 端部は下方につまみ出される。6は常総型甕の底部, 7はかえりの退化した須恵器蓋, 8は胎土から常陸産と思われる須恵器杯である。9は肩に稜をもつ須恵器甕で, タタキが施される。

SI-004 (第13図, 第4表, 図版11)

A地点の北側, 11K-15グリッド周辺に位置する。西隅をSI-003に, 北東隅をSI-005に, 北隅をSK-015によって切られる。平面形は方形と思われ, 主軸はN-19°-E, 規模は主軸長6.02m, 幅5.98mである。掘り込みは確認面から3.2~23.7cmで北壁でやや浅くなる。炉は中央と北寄りの2ヶ所から検出され, いずれも径約50cm前後で掘り込みは浅い。ピットは2基で, 深さはP1が21.6cm, P2が19.1cmである。周溝は巡らない。

遺物は床面から弥生時代後期の土器片が出土している。1~8が甕の口縁部, 9~15が甕の胴部, 16が壺の底部, 17~19が甕の底部, 20がハケ目の施された土師器甕の口縁部である。1・2は折返し状の口縁にLR, 3は折返し状口縁下部に貼付文, 4は口唇部と頸部に押捺痕がみられる。口縁部は無文で頸部に附加条(RLに2条附加)を施す。7は口唇部と頸部に押捺痕があり, 縄文はみられない。8は口縁部に輪積痕を一段残し, 押捺痕が巡る。8は胴部上位に輪積痕と押捺痕がみられる。南関東系か。17の底部外面に布目様の敷物圧痕がみられる。

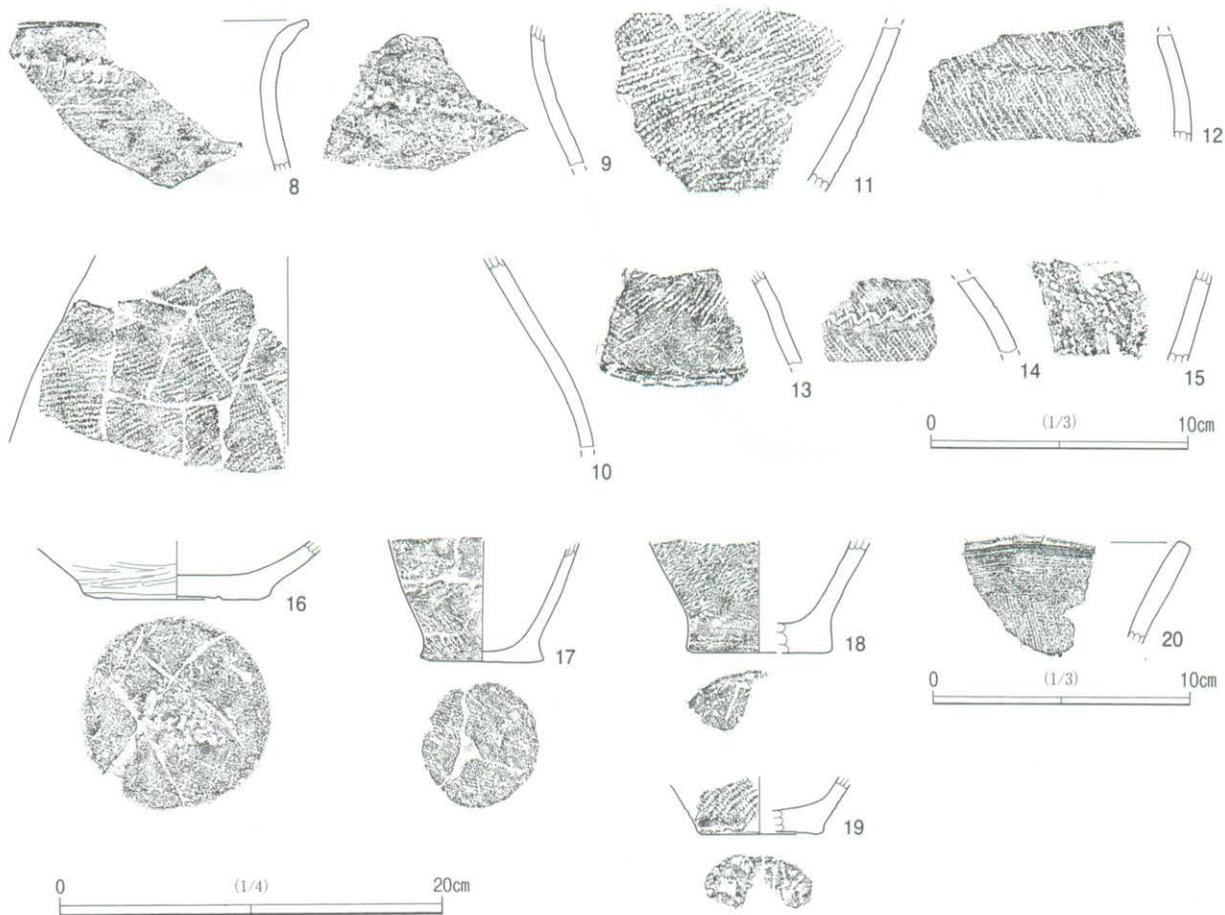
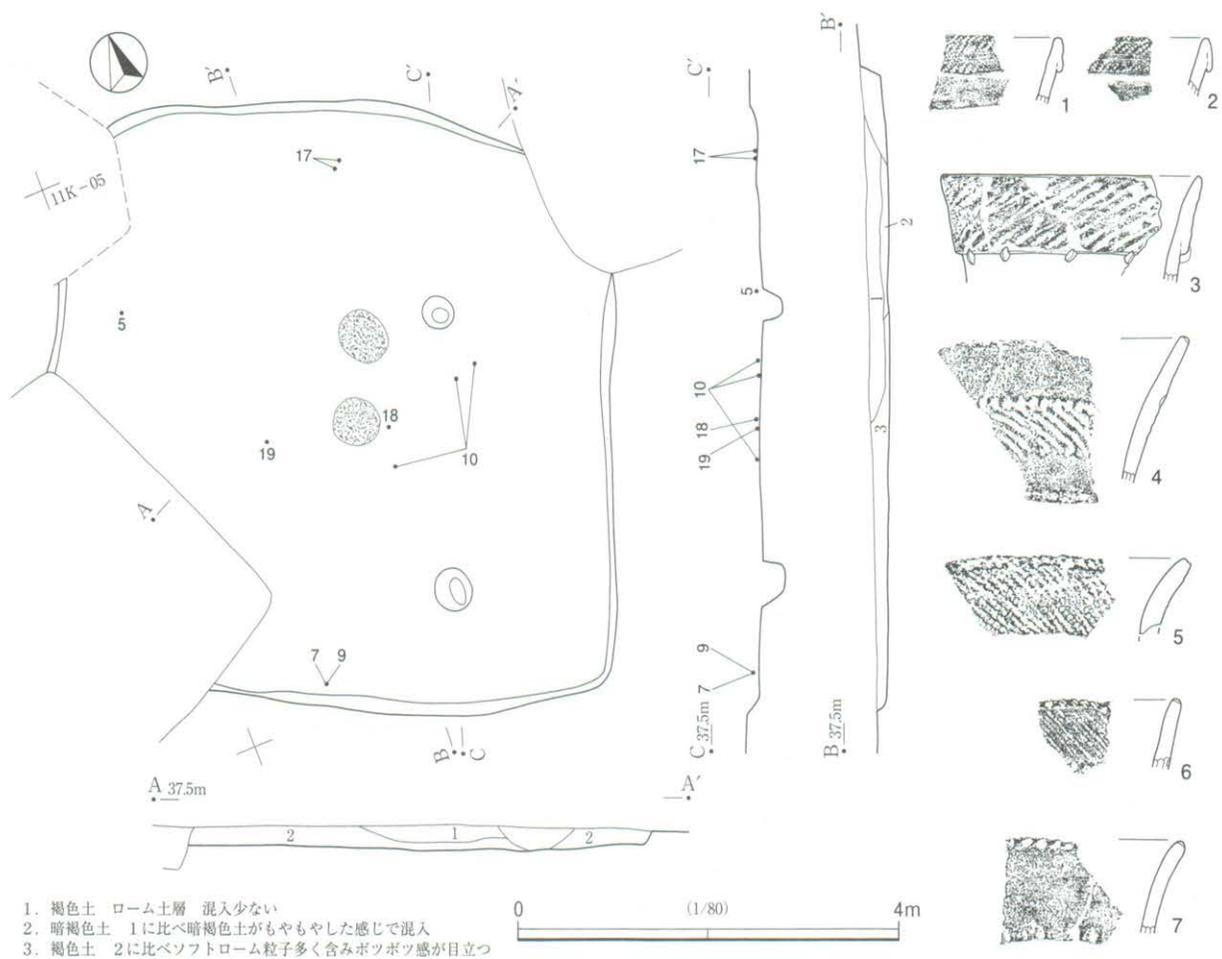


第12図 SI-003・出土遺物

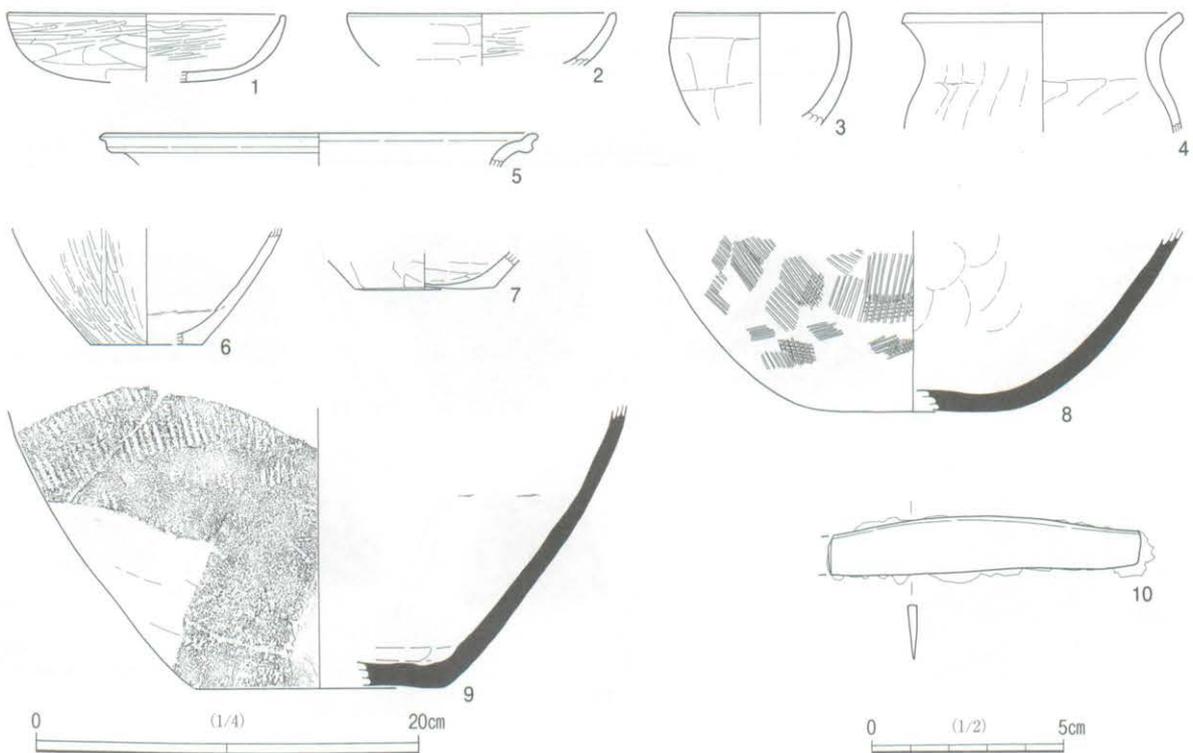
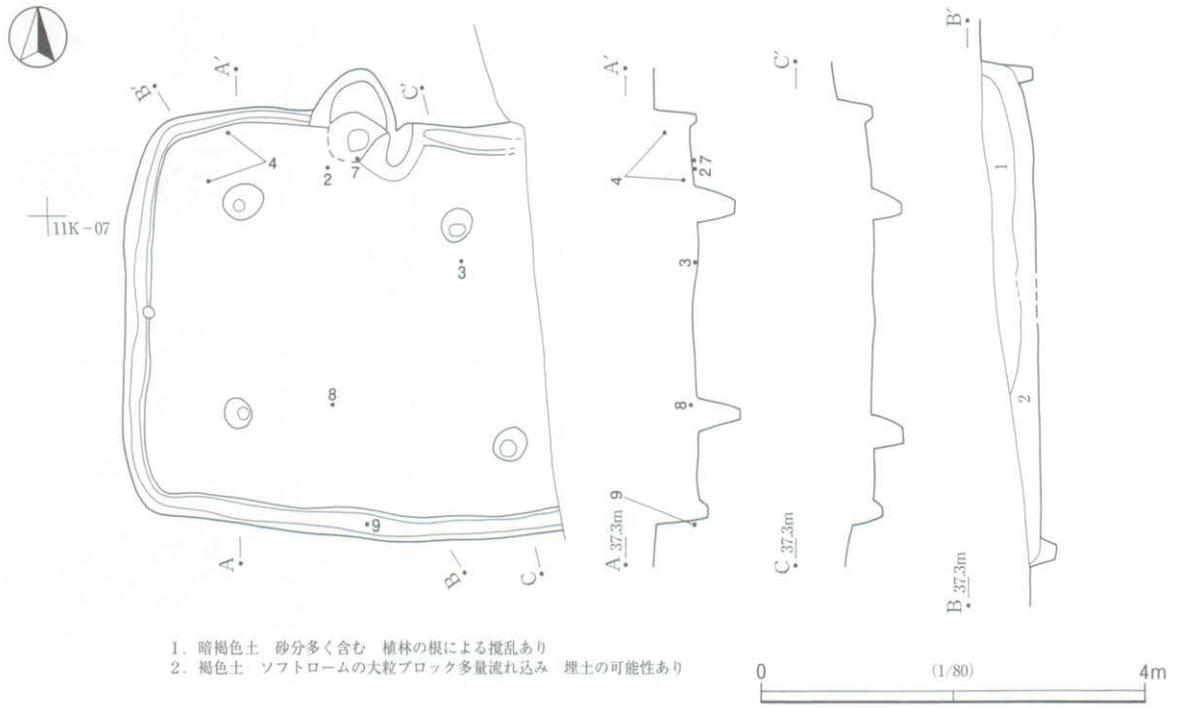
SI-005 (第14図, 第4表, 図版4・11・15)

A地点の北東, 11K-18グリッド周辺に位置する。東壁は調査区外のため検出できなかった。平面形は方形, 主軸はN-1°-E, 規模は主軸長4.25m, 幅は不明。掘り込みは確認面から14.0~47.0cmである。カマドは北壁中央に付設される。ピットは主柱穴が4基で深さはP1が32.9cm, P2が33.3cm, P3が45.2cm, P4が48.0cmである。周溝は全周すると思われる, 深さは4.7~9.3cmである。

遺物は南壁周溝から須恵器甕が, カマドの周辺から土師器杯・甕などが出土している。1・2は非ロケ口の土師器杯で黒色処理などは施されていない。3は口縁部が内湾する土師器鉢, 4は口縁部外面に面を



第13図 SI-004・出土遺物

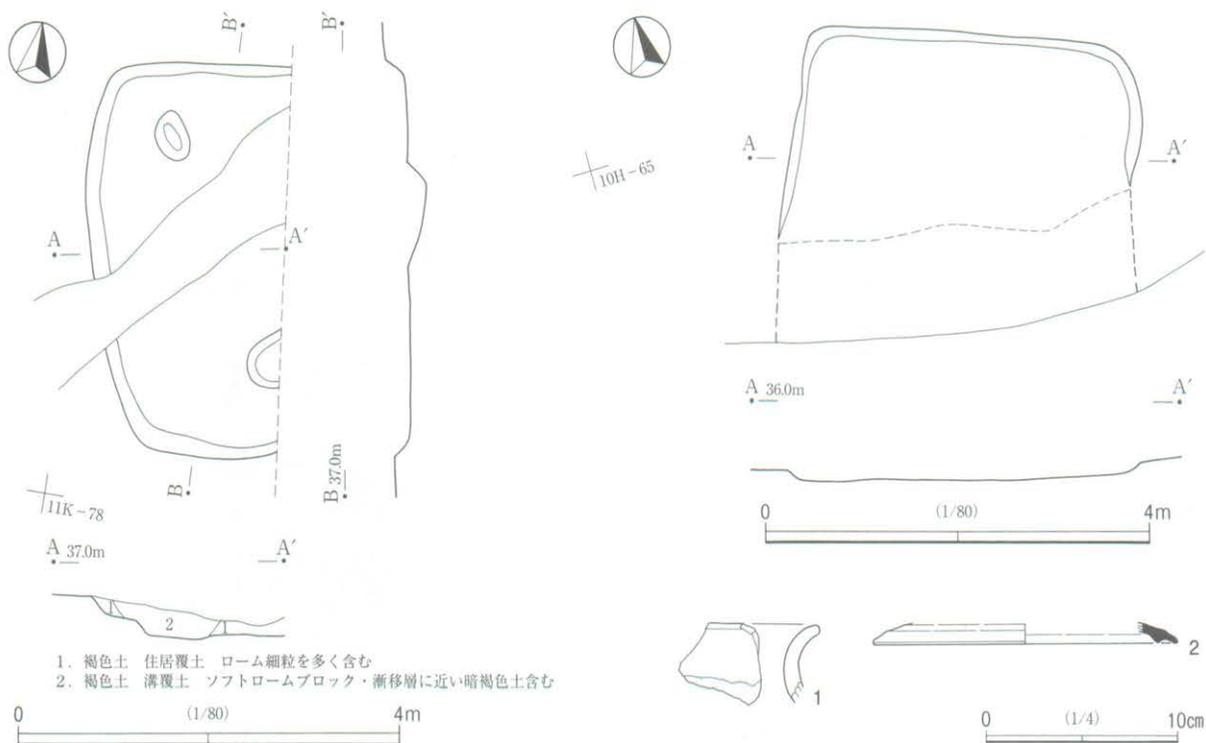


第14図 SI-005・出土遺物

もつ土師器甕，5・6は常総型の土師器甕，7は土師器甕の底部である。8・9はタタキ目をもつ須恵器甕であるが，胎土は脆く焼成もあまい。10は覆土中から出土した鉄製品で刀子と思われる。これらの遺物から本住居跡の時期は8世紀前半と考えられる。

SI-006 (第15図, 図版5)

A地点SI-005の南，11K-58グリッド周辺に位置する。東側半分は調査区外へと続く。北東から南西へSD-001によって切られる。確認面は北から南に向かって傾斜しており，比高差が15cmほどある。平面



第15図 SI-006, SI-007・出土遺物

形は方形と思われ、主軸はN-8°-W、主軸長3.90m、幅は不明。掘り込みは確認面から11.4~18.2cmである。北西隅から検出されたピットは深さ4.8~14.5cmである。本住居跡からは遺物は出土せず、時期は不明である。

SI-007 (第15図, 第4表, 図版12)

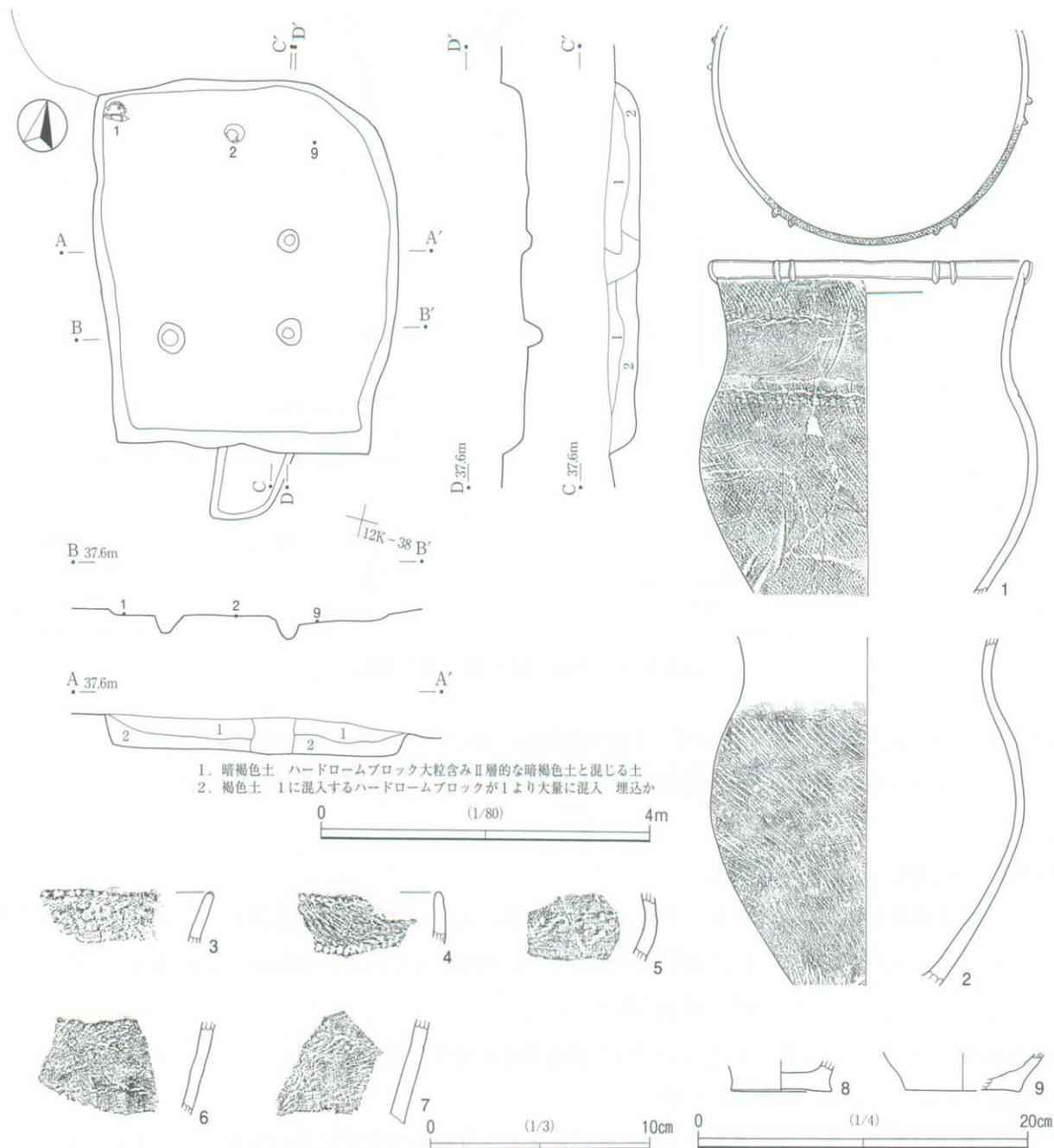
B地点中央南寄り、10H-66グリッド周辺に位置する。南半分は斜面により消失している。平面形は方形と思われ、主軸はN-16°-E、規模は主軸長不明、幅3.67mである。掘り込みは確認面から9.5~16.4cmである。カマド、ピット、周溝は検出されなかった。

遺物は覆土中から土師器甕、かえりのついた須恵器蓋が出土している。

SI-008 (第16図, 第4表, 図版5・12)

A地点のほぼ中央、12K-16グリッド周辺に位置する。平面形は南北に長い方形で、北東隅のみ丸みを帯びる。主軸はN-10°-W、規模は主軸長4.30m、幅3.68mである。掘り込みは確認面から1.4~33.8cm、炉は検出されなかった。ピットは3基で深さはP1が8.8cm、P2が19.1cm、P3が20.8cmである。周溝は巡らない。南壁中央に深さ13cmほどの掘り込みがあるが、住居跡との関係は不明である。

遺物は床面北側と北西隅から弥生時代後期の甕が出土している。1は折返し状口縁に頸部無文帯をもつ甕で、口縁部には2個一組の貼付文が6単位貼り付けられる。無文帯と縄文帯(附加条RL+L・L)の境界はS字状結節文で区画される。2も頸部無文帯をもつ甕であるが、縄文帯(附加条RL+L・L)の上部は原体の末端のみで結節などはみられない。1・2とも外面にススが付着している。3・4は甕の口縁部で、4は口縁部下端に押捺痕がみられる。5は中位がやや膨らみRLが縦に転がされている。6は附加条と思われ、下端に原体の結束部分がみられる。以下は幅の細いヘラ状の工具によるナデで、工具のあたりが観察できる。7も結束部分がみられ、縄文帯の一部がヘラナデによって消されている。底部付近か。8・9は甕の底部でナデで仕上げられている。8は中央がやや窪み、浅い輪高台状になっている。

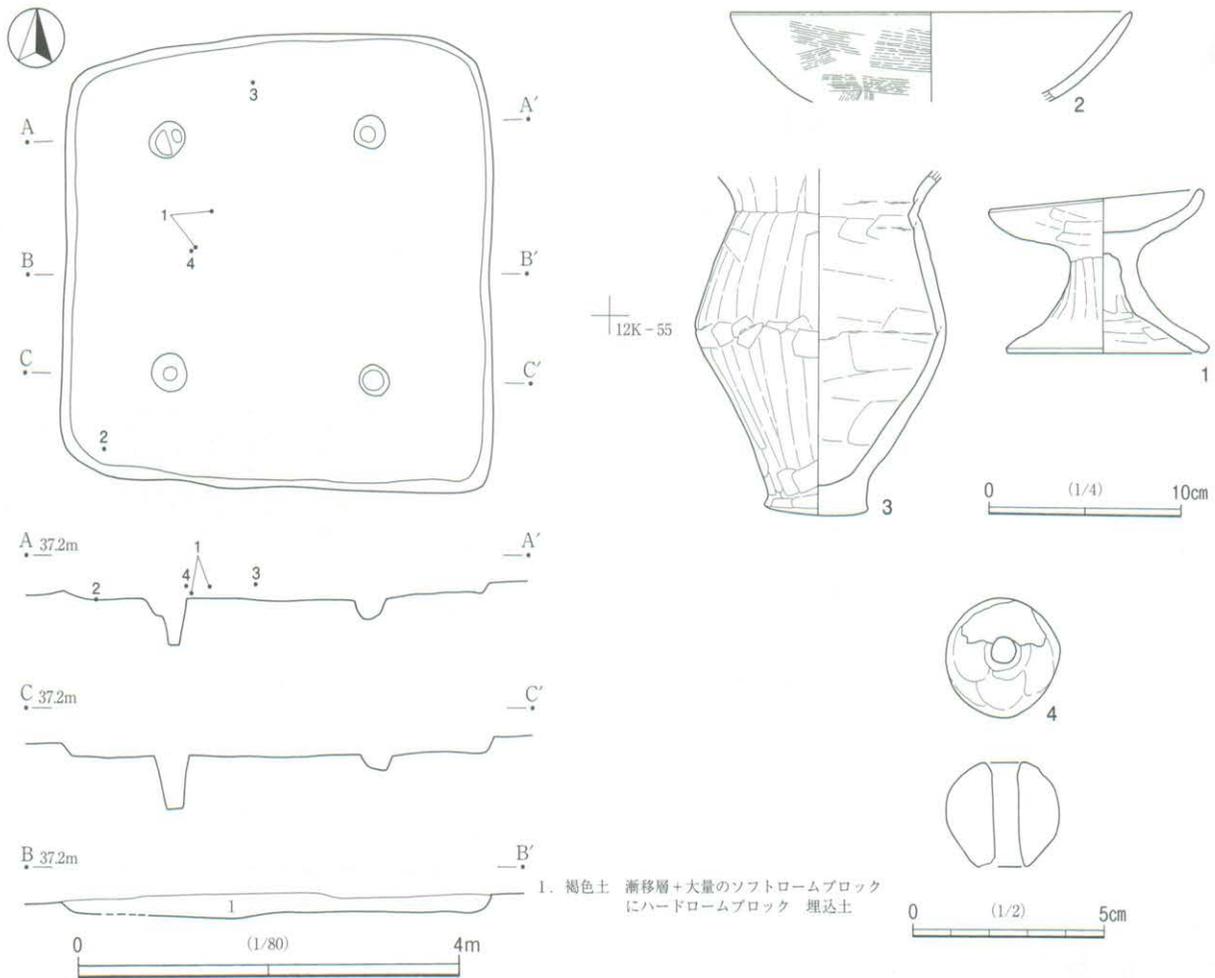


第16図 SI-008・出土遺物

SI-009 (第17図, 第4表, 図版6・12)

A地点の中央西寄り, 12K-43グリッド周辺に位置する。平面形は方形で, 主軸はN-2°-E, 規模は主軸長4.53m, 幅4.47mである。掘り込みは確認面から5.3~23.2cmである。炉は検出されなかった。ピットは主柱穴が4基検出され, 深さはP1が18.3cm, P2が14.5cm, P3が54.1cm, P4が47.8cmである。覆土は単一土層で, 埋め込みの可能性がある。

遺物は床面から1の器台, 覆土中から2の高杯と3の甕, 4の土玉が出土した。2は高杯の杯部と思われる, 摩滅しているものの外面にハケ目が残る。雲母を多く含む特徴的な胎土である。1は浅い皿状の受部をもった器台, 3は胴部中位に稜をもち, 底部がやや突出する甕である。これらの遺物から本住居跡の時期は古墳時代初頭と思われる。



第17図 SI-009・出土遺物

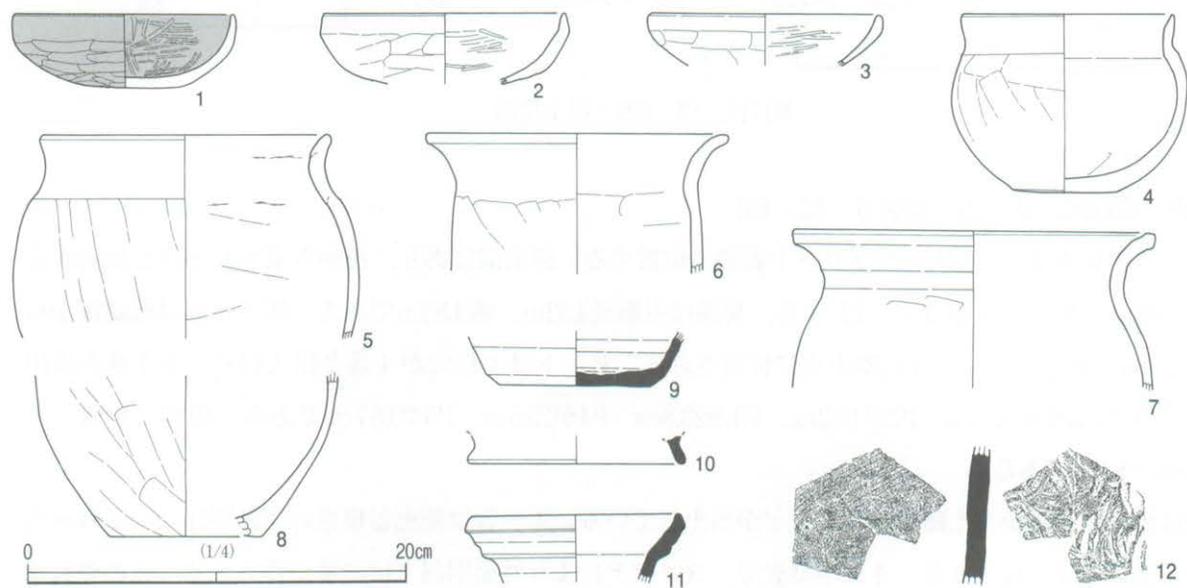
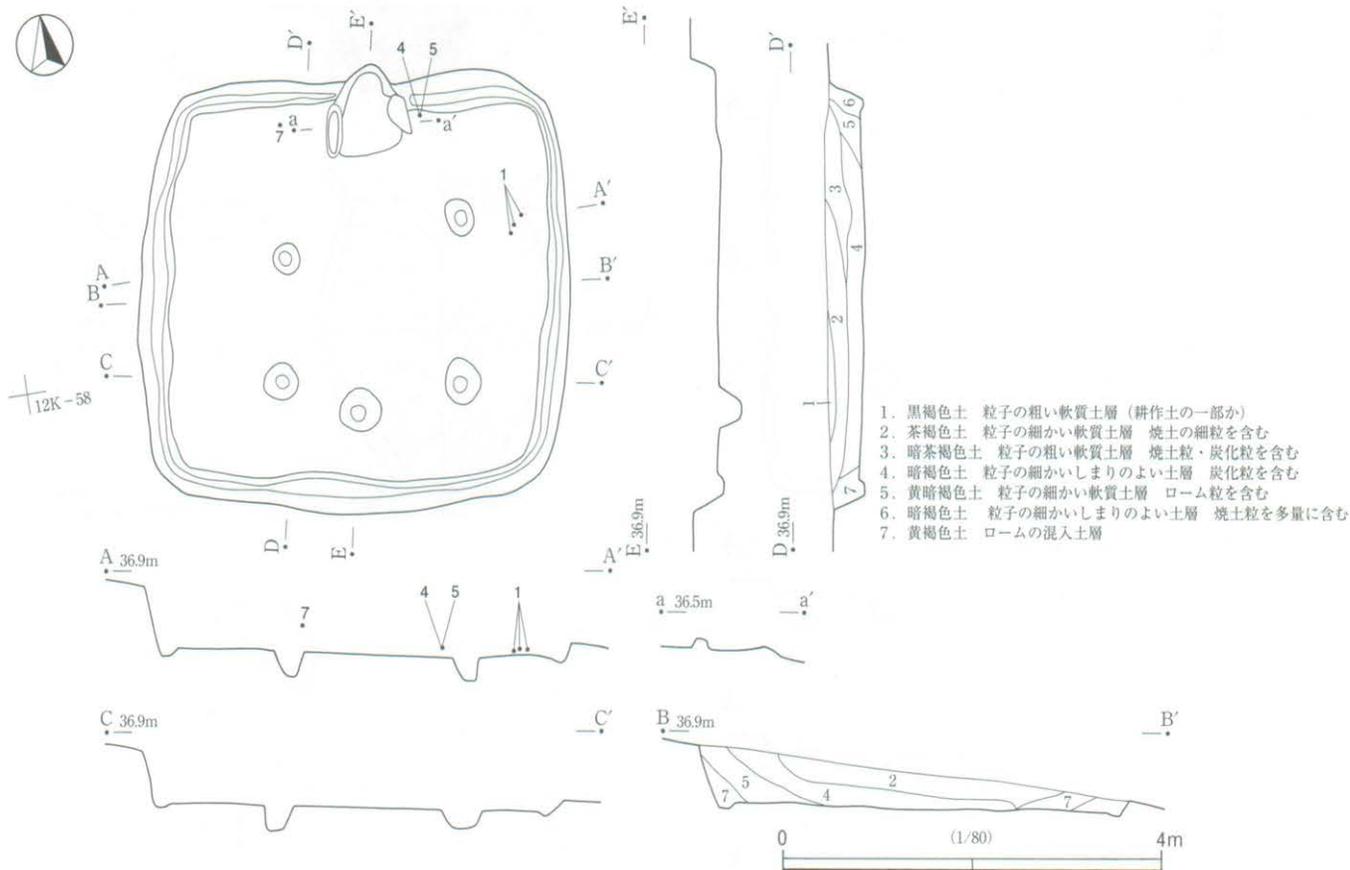
SI-010 (第18図, 第4表, 図版6・12・13)

A地点の中央東寄り, 12K-49グリッド周辺に位置する。斜面部にあり, 西から東へ40cmほど傾斜する。平面形は隅丸方形で, 主軸はN-12°-E, 規模は主軸長4.32m, 幅4.53mである。掘り込みは確認面から11.9~62.9cmである。カマドは北壁中央に付設される。ピットは主柱穴が4基と出入口ピット1基が検出された。深さはP1が22.5cm, P2が16.2cm, P3が23.8cm, P4が25.5cm, P5が18.7cmである。周溝は全周し, 深さは1.6~8.1cmである。

遺物はカマド周辺から土師器杯・甕などが出土している。1~3は須恵器模倣の土師器杯で, 1のみ内外面とも黒色処理が施される。4は小型甕で, ヨコナデにより外面胴部上位に稜が作られる。5の甕もヨコナデにより胴部上位に稜が形成されるが, 混入物が多く大粒の赤色スコリアを含むなど, ほかの土師器と若干胎土が異なる。6は口縁部に最大径をもつ胴部の張らない甕, 7は口唇部に面をもつ甕, 8は甕の胴部下半である。9は常陸産と思われる須恵器杯で, 胎土に長石・雲母を含んでいる。10は高台付杯の高台部分, 11は壺の口縁部, 12は外面に平行タタキ, 内面に同心円状の当て具痕をもつ甕の破片である。これらの遺物から本住居跡の時期は8世紀初頭頃と考えられる。

SI-011 (第19図, 第4表, 図版7・13)

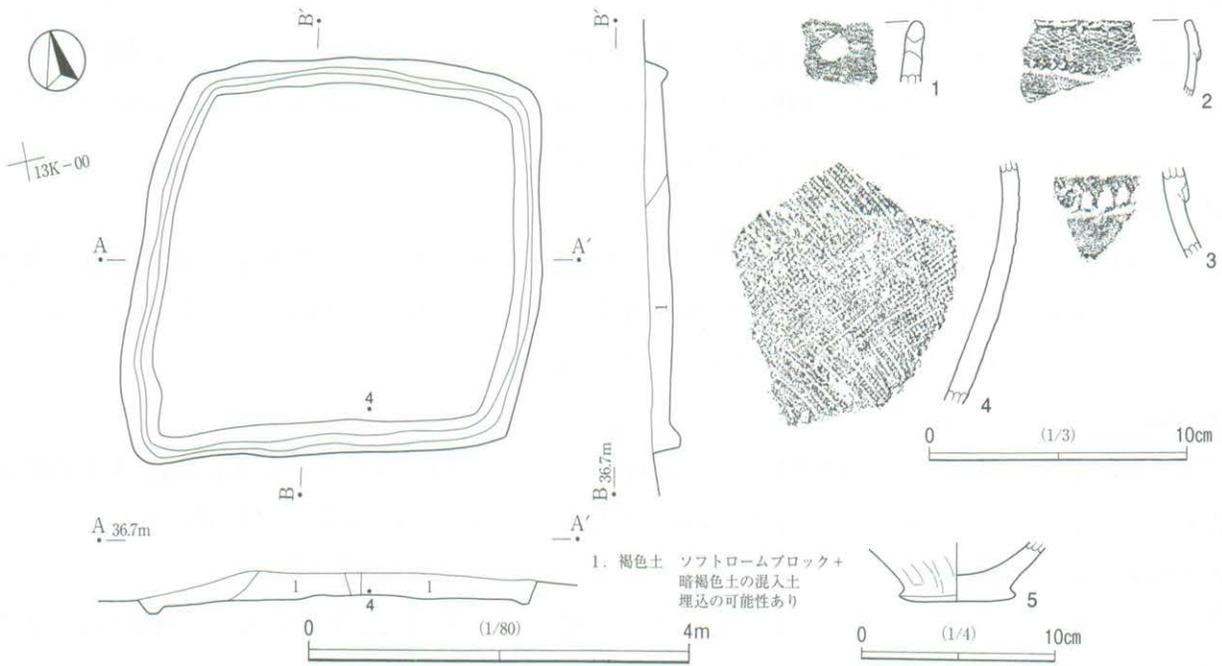
A地点の南側, 13K-21グリッド周辺に位置する。平面形は方形で, 主軸はN-10°-E, 規模は主軸長3.98m, 幅4.20mである。掘り込みは確認面から14.2~11.6cmである。炉, ピットともに検出されなかつ



第18図 SI-010・出土遺物

た。周溝は深さ2.6~11.6cmで全周する。

遺物は弥生土器が出土している。1は無文の甕で焼成後の穿孔が1個みられる。2は折返し状の口縁に網目状燃糸文を施す鉢で、口縁部下端には原体を押捺している。3は甕の胴部片で輪積痕と押捺痕をもつ。押捺は縄文原体か平織の布を工具に巻いたもので施されたと考えられる。胎土は白色粒子を多量に含んでいる。4は羽状縄文が施された甕の胴部片で、3と同じく胎土に白色粒子を多量に含んでいる。5は甕の底部で、外面及び底部はヘラナデによって仕上げられる。

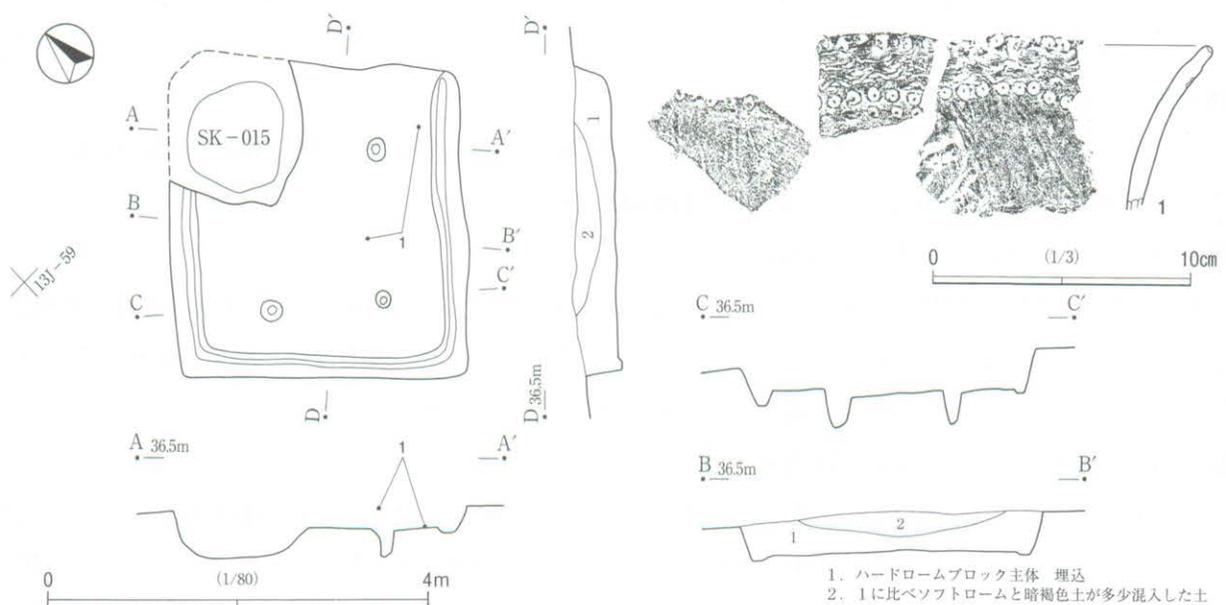


第19図 SI-011・出土遺物

SI-012 (第20図, 第4表, 図版7・13)

A地点の南, 13K-50グリッド周辺に位置する。本調査区が一番南に所在し, 南北に延びる台地の先端にあたる。北隅をSK-015に切られる。平面形は方形で, 主軸はN-49°-W, 規模は主軸長3.07m, 幅3.16mである。掘り込みは確認面から27.7~43.7cmである。炉は検出されず, ピットは3基で深さはP1が23.1cm, P2が29.0cm, P3が39.0cmである。周溝は北東壁を除いて全周し, 深さは4.6~13.0cmである。

遺物は床面から弥生土器が出土した。1は頸部に無文帯をもつ甕で, 段差のない口縁部に結節回転文が施される。口唇部と口縁部下位に円形刺突文が配される。



第20図 SI-012・出土遺物, SK-015

SK-001 (第21図, 図版8)

C地点の中央やや南寄り, 9J-81・82グリッドに位置する。平面形はT字形を呈する。長軸1.84m, 短軸0.90mの南北に長い楕円形で土坑西側に長さ1.06m, 幅0.43mの掘り込みがつく。深さは1.6~6.0cmである。床面はほぼ平らで, 西側に突出する部分との段差はない。

SK-002 (第21・26図, 第4表, 図版8)

SK-001の南, 9I-88・89グリッドに位置する。平面形は長楕円形で, 長軸2.00m, 短軸0.97m, 深さ7.1~14.5cmである。床面中央やや北西寄りに径40cm前後, 床面からの深さ12.4cmのピットが検出された。遺物は須恵器高台付杯1点が出土しているが, 時期は確定できない。

SK-003 (第21図, 図版8)

SK-001の南西, 9I-99・9J-90グリッドに位置する。平面形は長楕円形で, 長軸1.22m, 短軸0.88m, 深さ6.2~12.4cmである。床面北寄りに長軸0.35m, 短軸0.26m, 深さ9.2cmのピットが検出された。

SK-004 (第21図, 図版8)

SK-001の西, 10J-00・01グリッドに位置する。平面形は長楕円形で, 長軸1.64m, 短軸0.70m, 深さ15.8~21.5cmである。南側に楕円形の浅い窪みがみられる。

SK-002からSK-004の長軸方向は北西・南東方向で, 1mほどの等間隔で並んでいる。出土遺物が小破片のみのため時期や関連性は不明である。

SK-005 (第21図, 図版8)

SK-001の北東, 9J-63・64グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸0.90m, 短軸0.75m, 深さ16.3~19.5cmである。床面北側から深さ18.0~20.4cmのピットが検出された。

SK-006 (第21図, 図版8)

C地点の南端, 10I-25・35グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸0.80m, 短軸0.55mである。2基のピットが連結しているような形状で, 深さは右が44.2cm, 左が41.3cmと右側のピットがわずかに深い。

SK-007 (第21図, 図版8)

C地点の南端10I-38・39グリッドに位置する。平面形は長楕円形で, 長軸1.30m, 短軸0.90m, 深さ11.6~23.1cmで東側がやや深い。

SK-008 (第21図, 図版8)

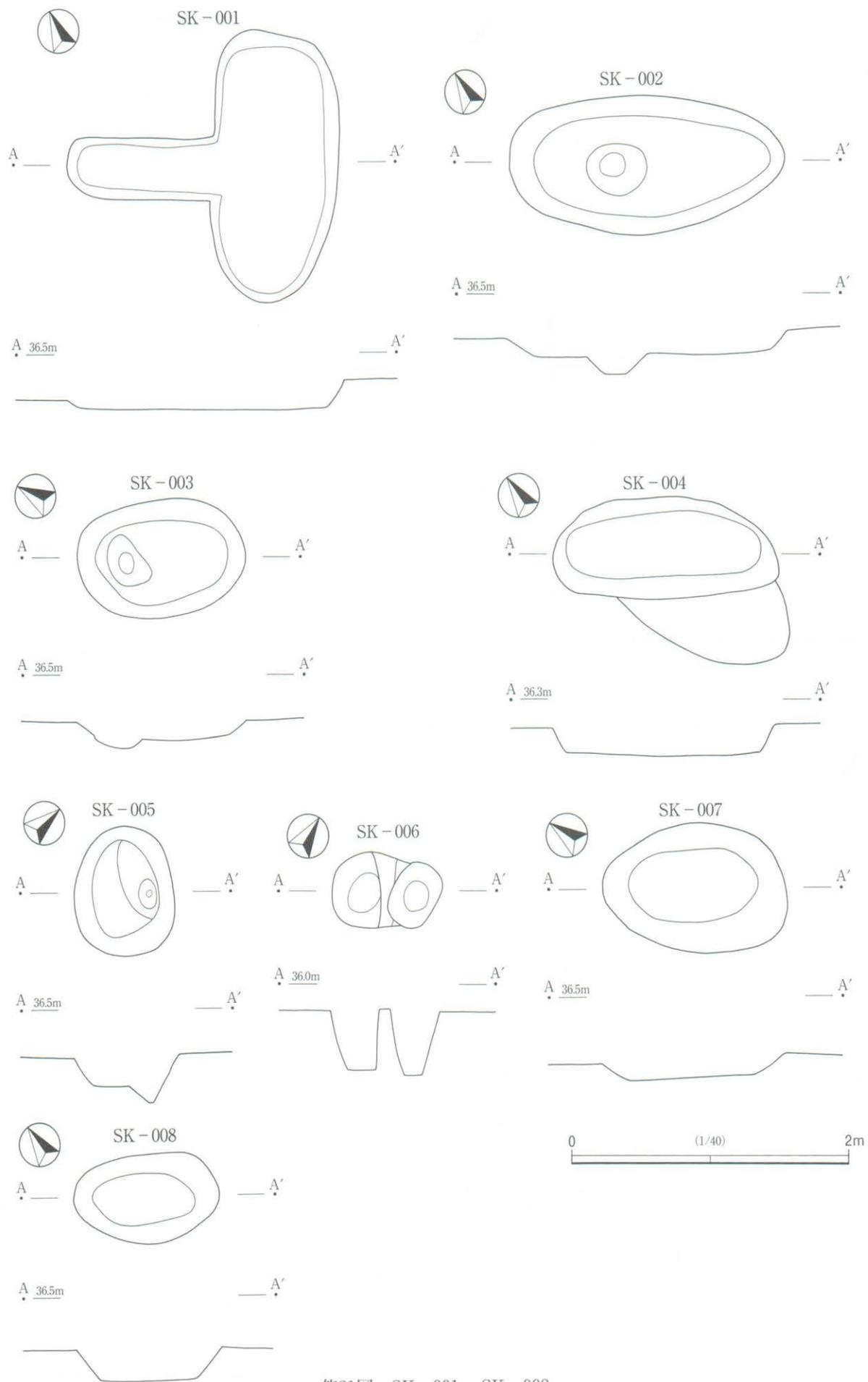
C地点の南端, 10J-40グリッド周辺に位置する。平面形は長楕円形で, 長軸1.05m, 短軸0.60m, 深さ27.5~30.7cmである。底面は平らで, 壁面は比較的緩やかに立ち上がる。

SK-009 (第22・26図, 第4表, 図版8・13)

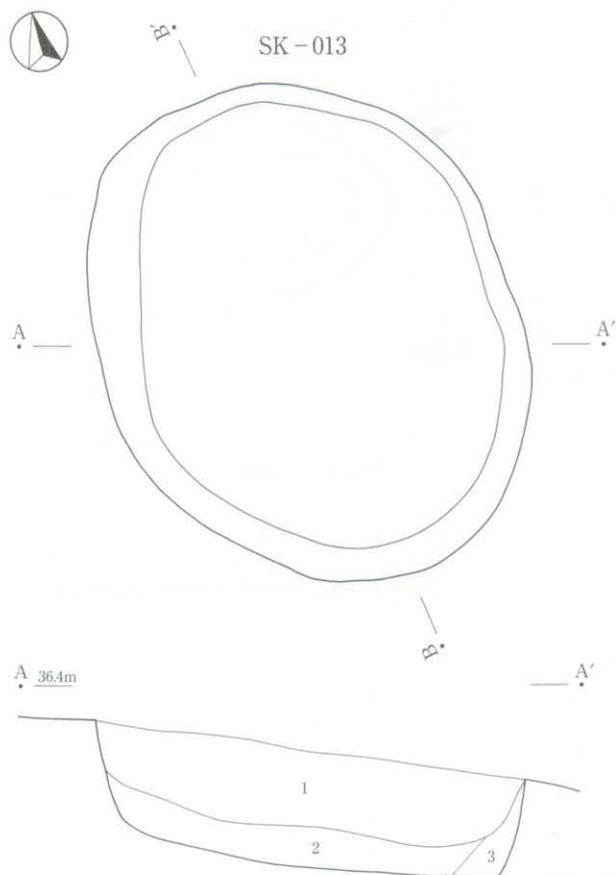
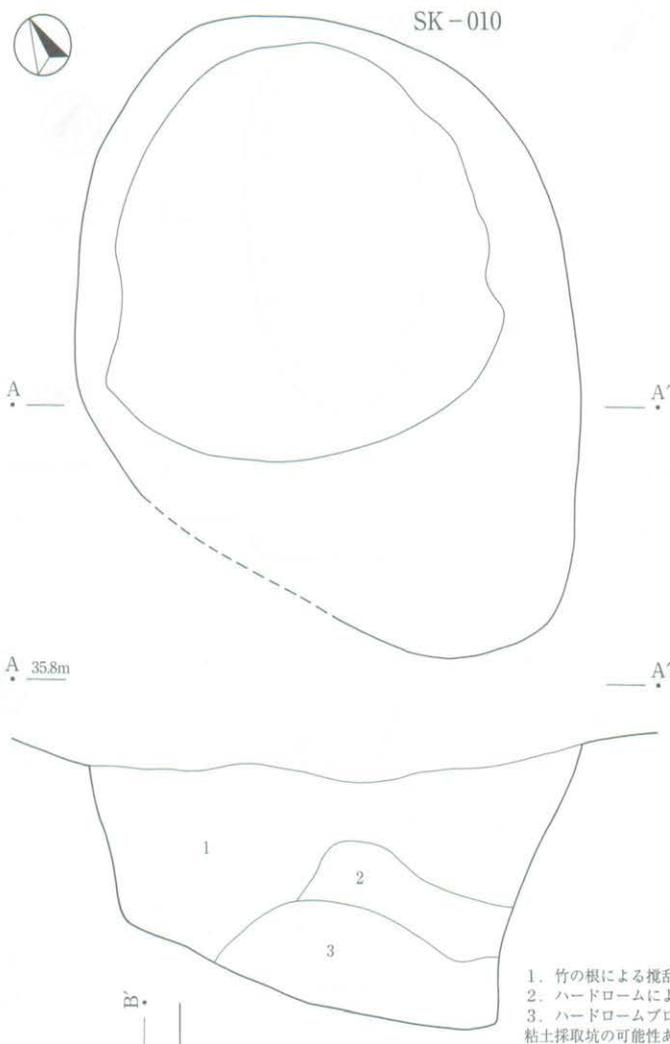
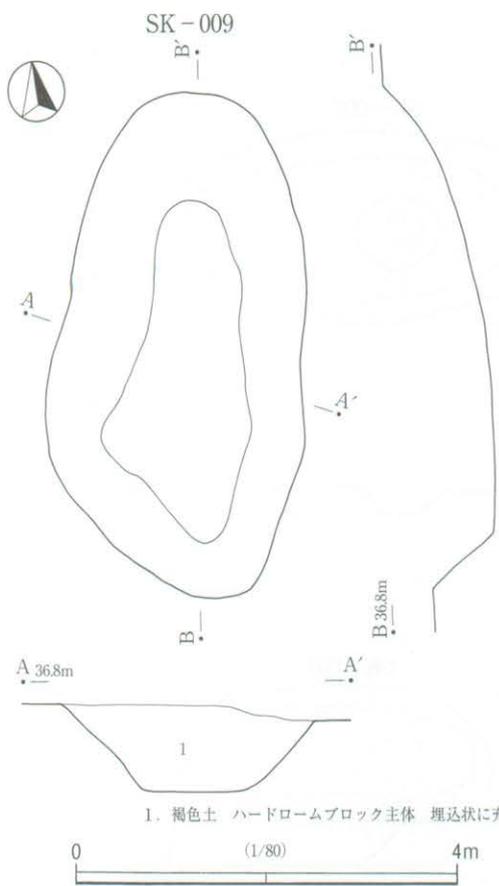
A地点の南, 12K-92グリッド周辺に位置する。平面形は南北に長い楕円形で, 長軸5.07m, 短軸2.70mである。深さは50.7~83.5cmで南に向かって緩やかに傾斜している。覆土は単一層で, 埋め込みの可能性がある。遺物は縄文時代前期浮島式の土器片1点のみで, 時期は確定できない。

SK-010 (第22・26図, 第4表, 図版9・14)

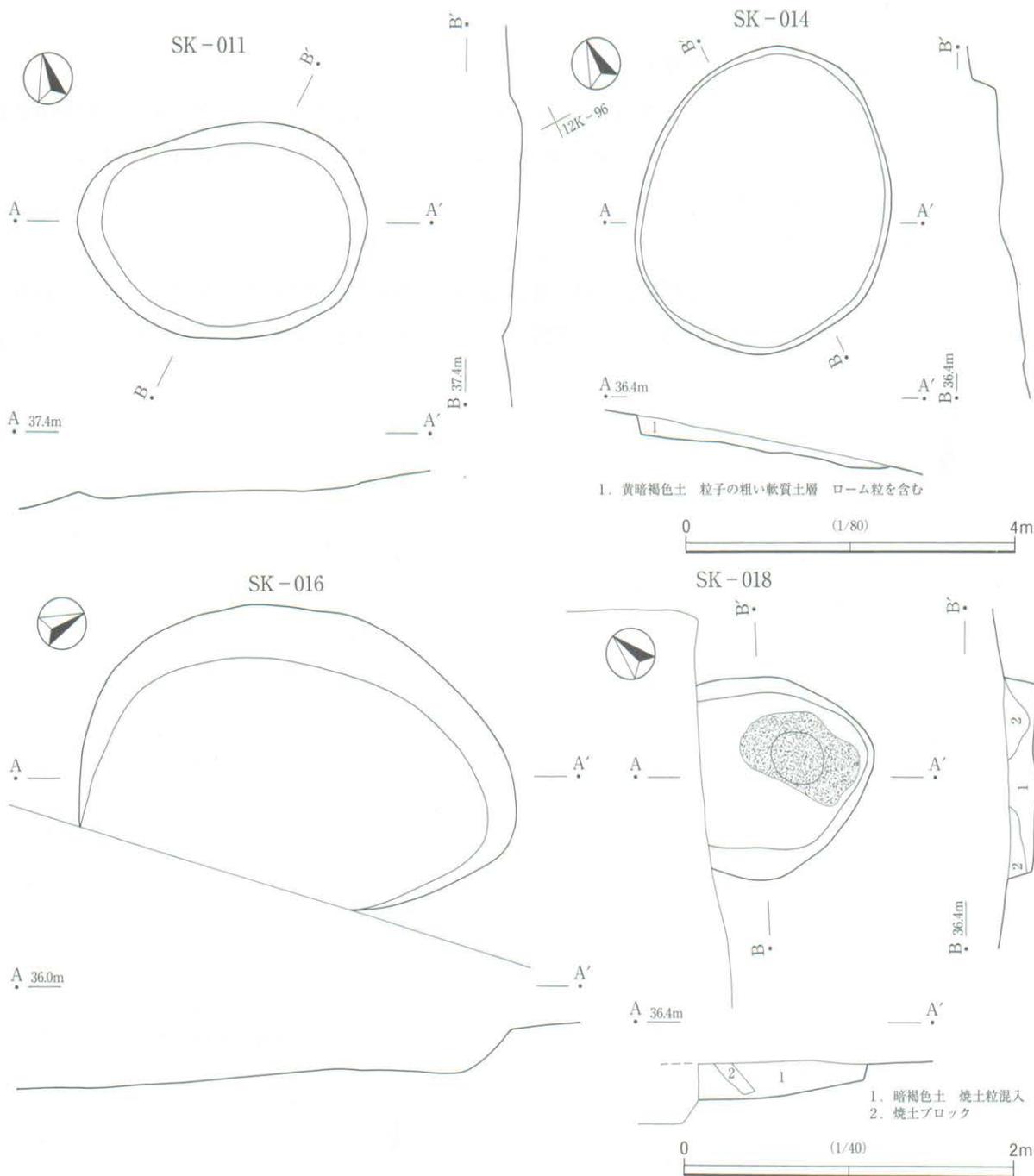
A地点の南, 13J-48グリッド周辺に位置する。平面形は上端が南に突出する不整楕円形で, 一部竹根による攪乱を受けている。長軸3.25m, 短軸2.65m, 深さ86.5~138.8cmである。床面は東に向かって傾斜しており, 南側は立ち上がり緩やかである。粘土採取坑の可能性はある。遺物は土師器杯が出土している(第26図SK-010 1~3)。非ロクロで平底の杯が2点, 丸底の杯が1点で, 8世紀中頃と思われる。



第21图 SK-001~SK-008



第22図 SK-009, SK-010, SK-013



第23図 SK-011, SK-014, SK-016, SK-018

SK-011 (第23・26・32図, 第4表, 図版9・13)

A地点の中央西側, 12K-02・03グリッドに位置する。平面形は東西にやや長い楕円形で, 長軸1.78m, 短軸1.24m, 深さ1.8~8.6cmと浅い。床面は北側に向かって緩やかに傾斜している。遺物は縄文時代前期の土器片と土師器片, 寛永通寶が5点出土しているが, いずれも覆土中からの出土で時期の特定はできない。

SK-012

欠番

SK-013 (第22図, 図版9)

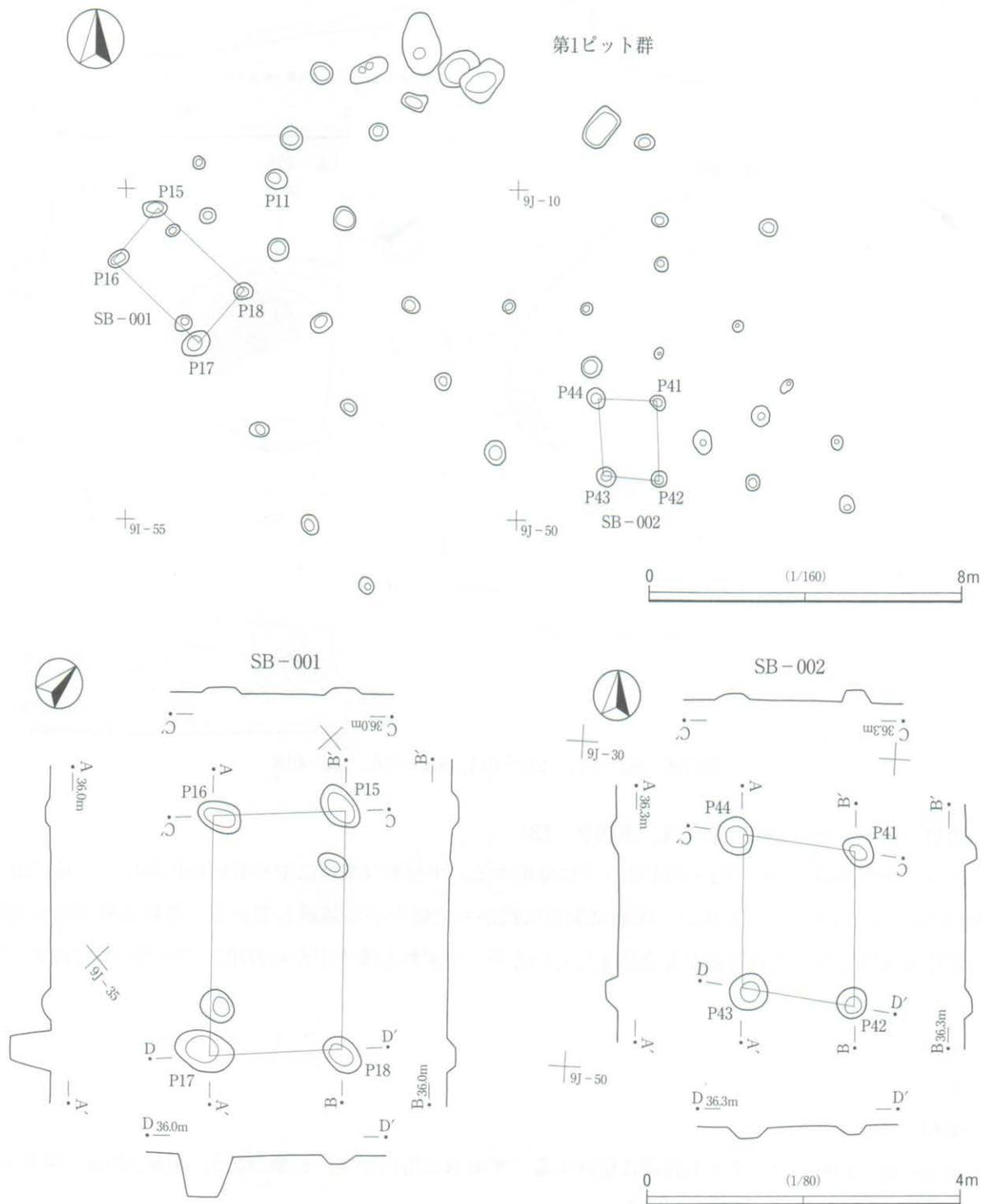
A地点の南, 13K-23グリッド周辺に位置する。平面形は楕円形で, 長軸2.62m, 短軸2.20m, 深さ39.9~69.6cmで, 南に向かって傾斜している。

SK-014 (第23・26図, 第4表, 図版9・13)

A地点の南, 12K-96グリッド周辺の斜面部に位置する。平面形は楕円形で, 長軸3.56m, 短軸3.00m, 深さ2.20~29.8cm。床面は東に向かって緩やかに傾斜しており, 東壁の立ち上がりははっきりしない。遺物は縄文時代前期興津式が1点出土している。

SK-015 (第20図, 図版7)

A地点の南, 13K-50グリッドに位置し, SI-012の北隅を切る。北壁は攪乱を受けている。平面形は不整形で, 長軸1.50m, 短軸1.42m, 深さ46.0~72.7cmである。SI-012より新しい時期と思われるが, 出土遺物がないため時期は不明である。



第24図 第1ピット群, SB-001, SB-002

SK-016 (第23図)

A地点の南, 12K-98・13K-08グリッドに位置する。南東側は調査区外へと続く。平面形は南北に長い楕円形で, 長軸2.70m, 深さ2.6~24.7cmである。

SK-017

欠番

SK-018 (第23・26図, 第4表, 図版9・14)

A地点の南端, 13K-61グリッドに位置する。北側はSI-012によって切られる。平面形は楕円形で, 長軸は不明, 短軸1.16m, 深さは10.0~26.0cmである。床面南東端に長軸0.76m, 短軸0.44mの火床部が検出された。覆土上層から土玉が1点出土しているが, 縄文時代早期の炉穴の可能性はある。

SB-001 (第24図, 図版9)

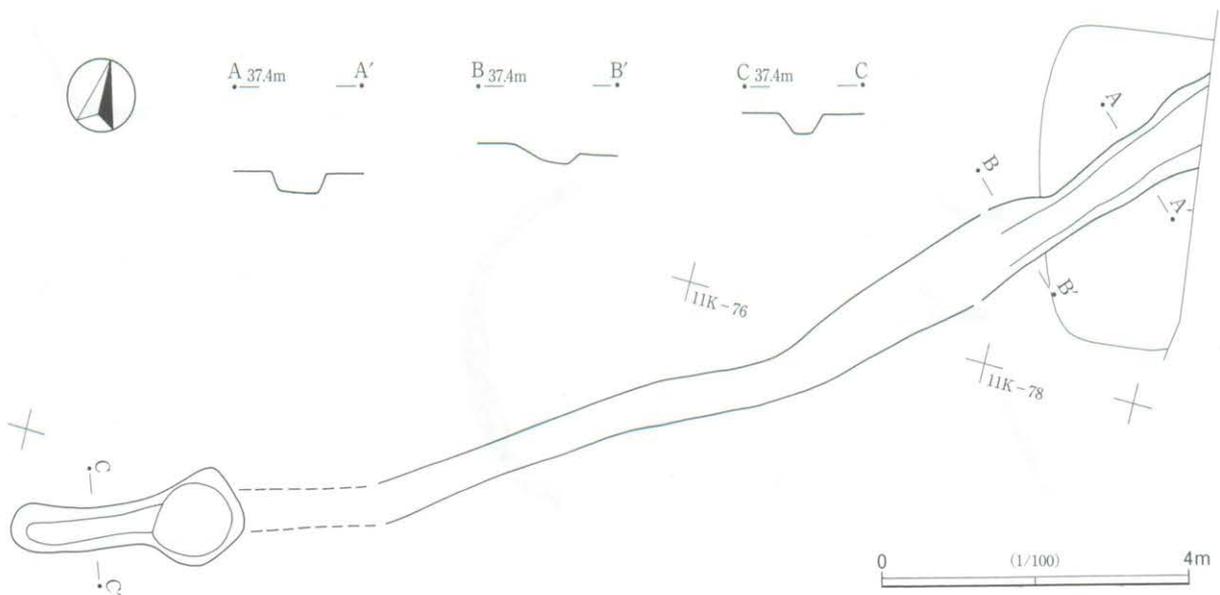
C地点北側にピット群が集中し, そのなかから2棟の掘立柱建物跡を想定した。SB-001はピット群の西側, 9I-05グリッド周辺に位置する。桁行方向はN-48°-W, 1間四方で桁行2.93m, 梁行1.69m, 柱掘り方は長径60cm前後の東西に長い楕円形で, 深さはP15が5.7cm, P16が4.6cm, P17が52.9cm, P18が10.5cmである。柱痕跡, 柱のあたりは検出されていない。遺物が出土していないため時期を特定することはできない。

SB-002 (第24図, 図版9)

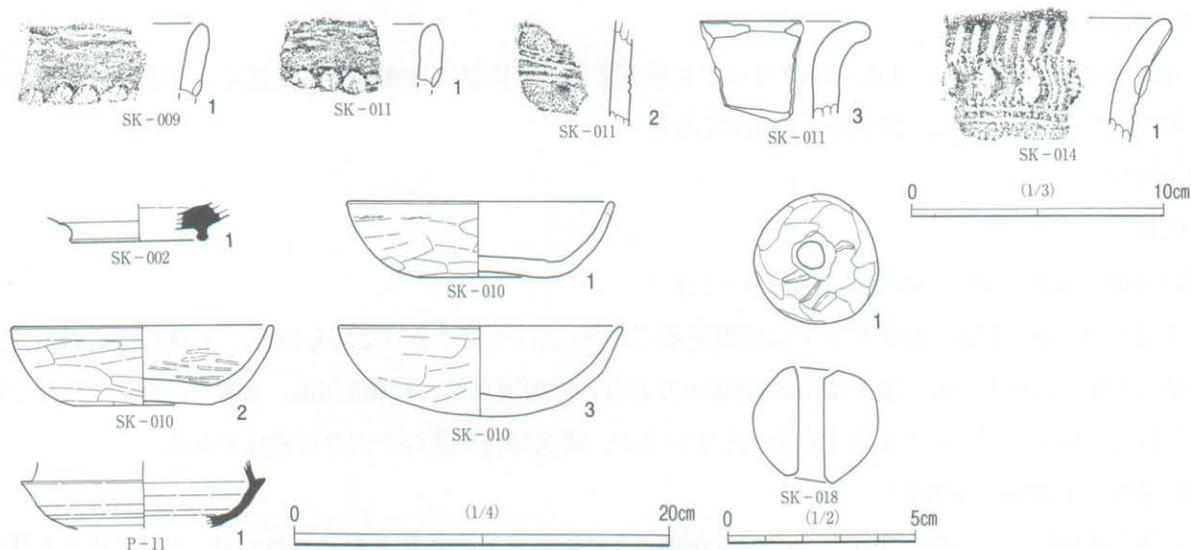
ピット群の南東, 9J-41グリッド周辺に位置する。桁行方向はN-2°-W, 1間四方で桁行1.88m, 梁行1.45m, 柱掘り方は長径40cm前後の楕円形で, 深さはP41が13.6cm, P42が7.45cm, P43が14.55cm, P44が7.45cmである。柱痕跡, 柱のあたりは検出されていない。遺物が出土していないため時期を特定することはできない。

SD-001 (第25図, 図版5)

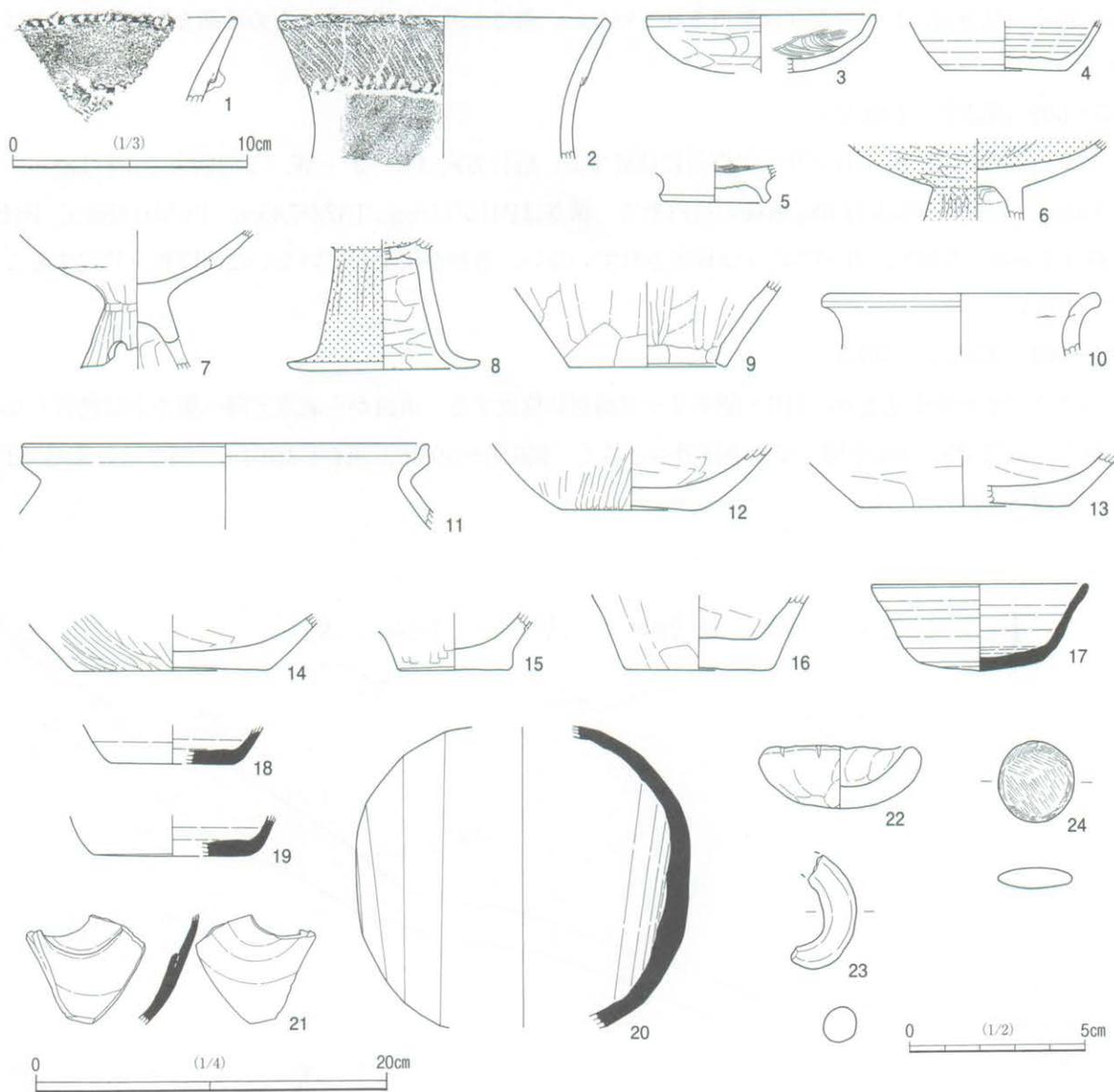
A地点の中央やや北寄り, 11K-58グリッド周辺に位置する。南西から北東方向へ緩やかに蛇行しながら延び, 東端でSI-006を切って調査区外へと続く。幅0.50~0.95m, 現存長15.04m, 深さは北東端で21.1cm, 南西端で22.8cmである。



第25図 SD-001



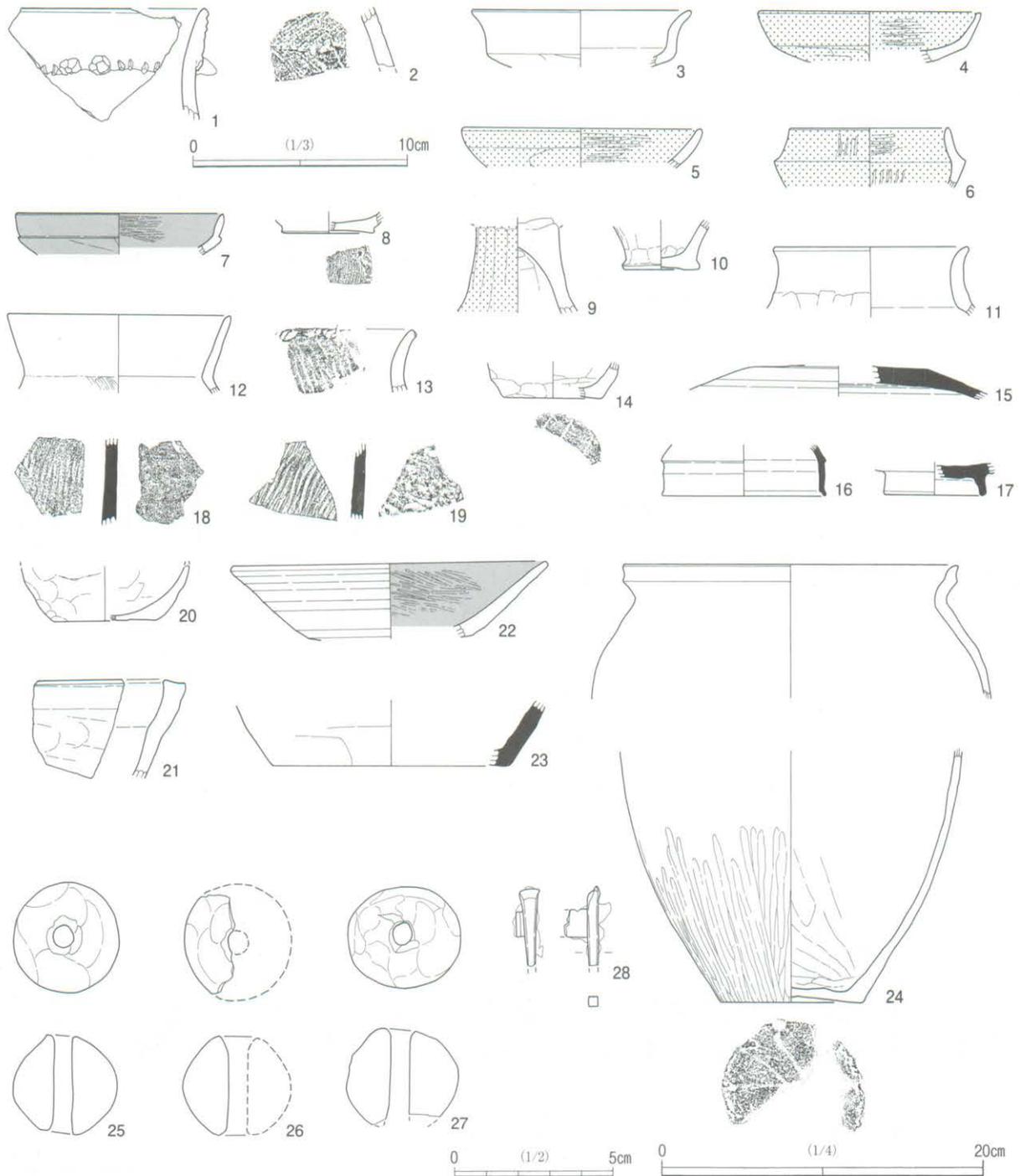
第26図 土坑・ピット出土遺物



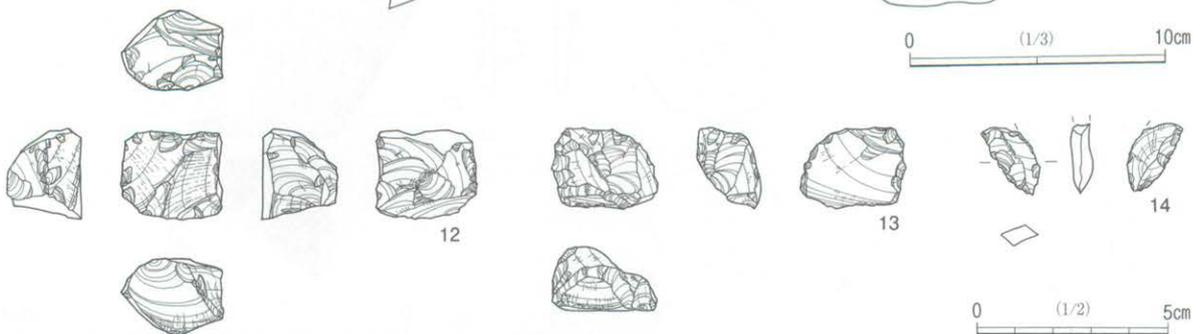
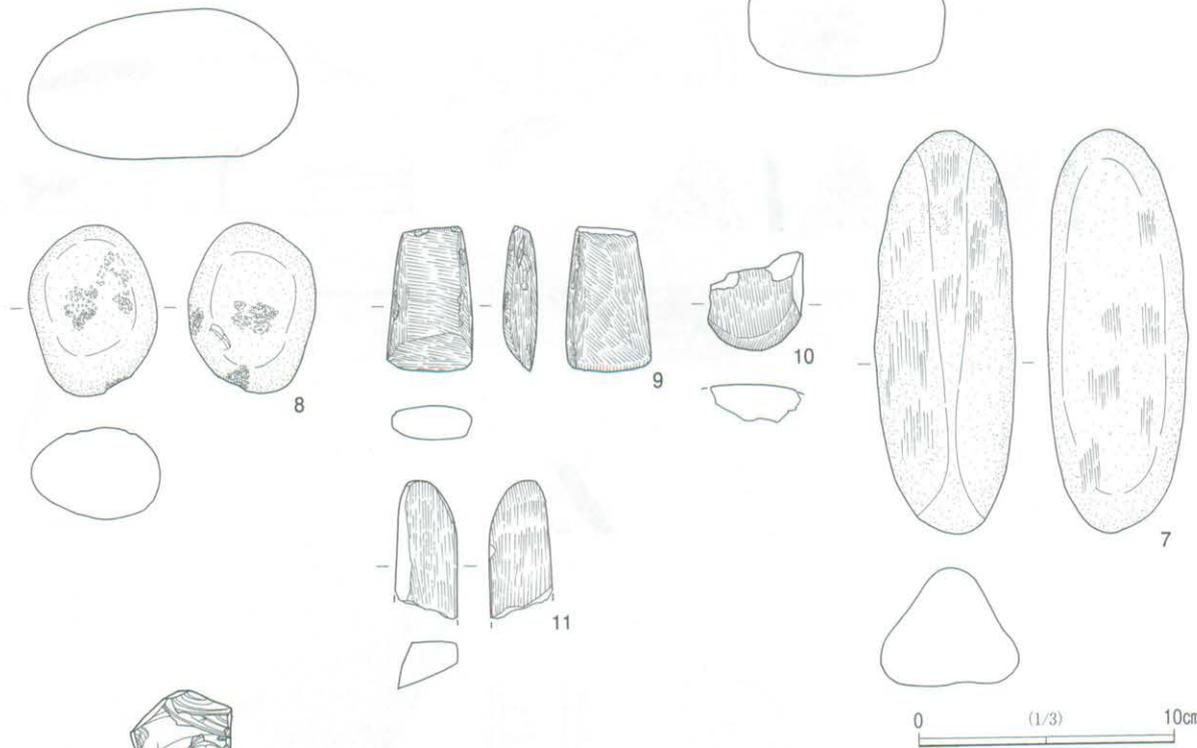
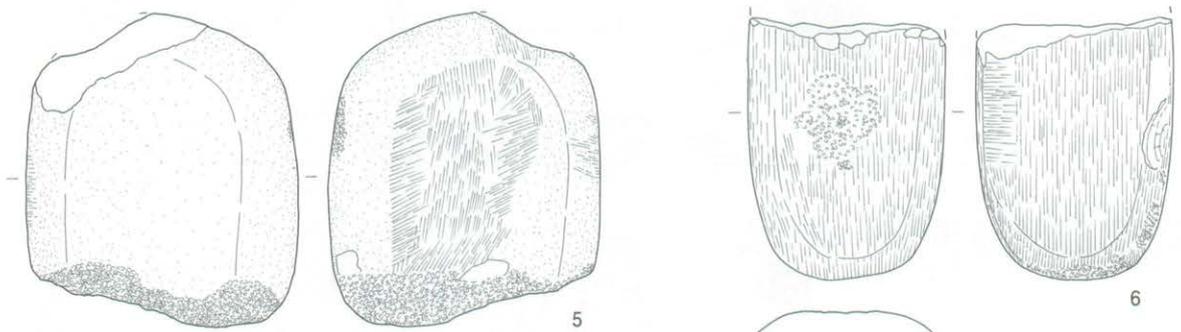
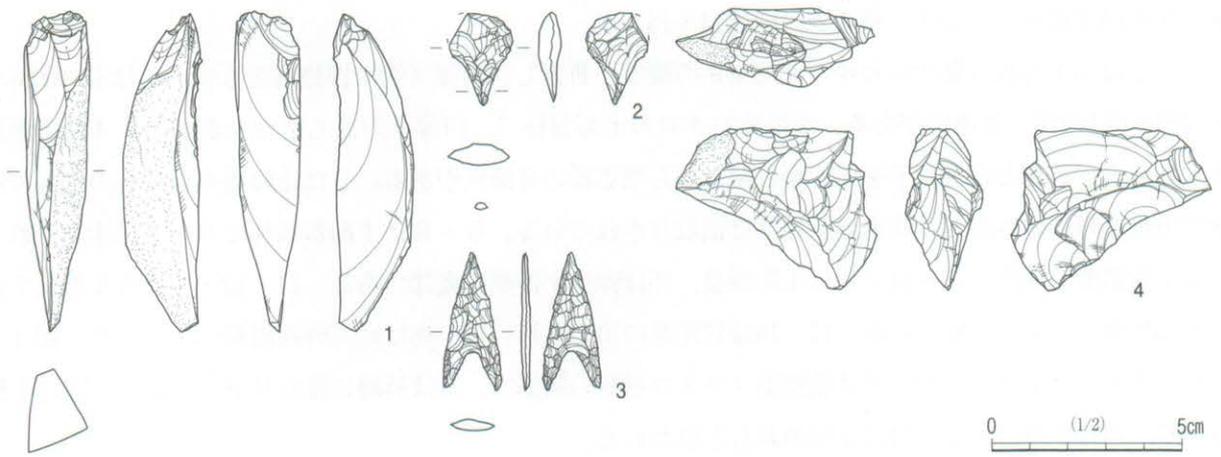
第27図 トレンチ出土遺物

トレンチ出土遺物（第27図，第4表，図版14・15）

1・2は弥生時代後期のいわゆる北関東系の甕で，折返し状口縁下端に押捺痕をもつ。1はSI-008に，2はSI-011に伴う可能性がある。3は非ロクロの土師器杯で，口縁部の立ち上がりが弱い。4は土師器杯としたが，雲母と白色粒子を多く含む胎土から須恵器の可能性はある。5は土師器高台付杯の底部で内面に黒色処理が施される。高台の裾端部は面取りされている。6～8は土師器高杯で6・8は赤彩される。9は土師器甕の底部，10～14は土師器甕，15は弥生土器甕の底部である。11・12・14は常総型甕で14の底部外面はミガキが施される。17～19は常陸産の須恵器杯。17・18は底部外面回転ヘラケズリ，19は手もちヘラケズリである。20・21は須恵器フラスコ形瓶の胴部で，21は外面に釉が付着している。22は手捏ね土器，23は土製の勾玉，24は土製の基石と思われる。



第28図 グリッド出土遺物



第29図 遺構外出土石器

グリッド出土遺物（第28図，第4表，図版15）

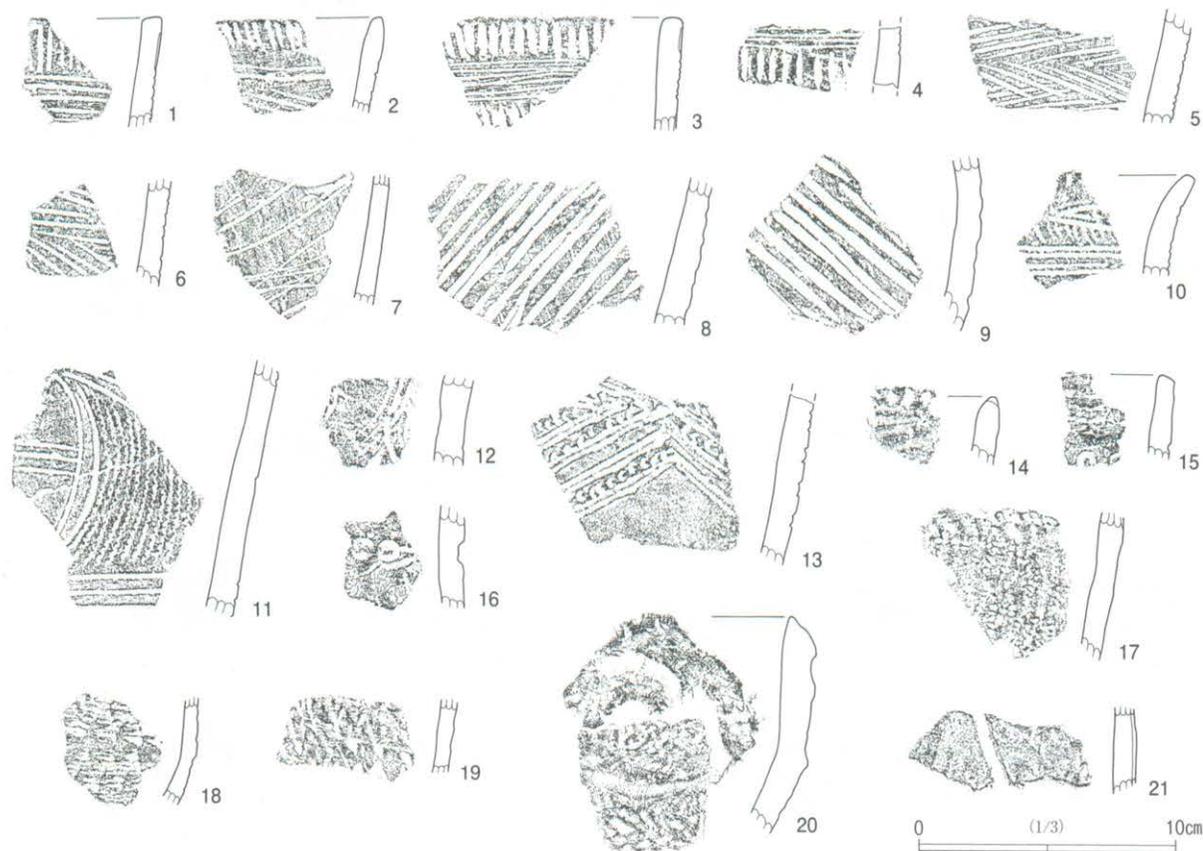
1・2はいわゆる北関東系の弥生土器甕，3～8は土師器杯である。4～6は内外面赤彩，7は内外面黒色処理される。8はロクロ成形で，底部外面に回転糸切り痕がみられる。9は外面赤彩の土師器高杯の脚部である。10～13は土師器の甕で，12は胴部外面にハケ目，13は口唇部に刻みと頸部にハケ目がみられるが，内面と外面でハケの工具が異なっている。14は手捏ね土器で，底部外面に木葉痕がみられる。15～19は須恵器である。15は蓋の天井部，16は蓋の口縁部，17は高台付杯の底部。18・19はタタキ目をもつ甕で内面に当て具痕はみられない。20は手捏ね土器で底部外面はナデ，21は内耳鍋である。22は内面黒色処理された土師器高台付杯，23は胎土に雲母を含む須恵器甕，24は土師器の常総型甕である。25～27は土玉でいずれもナデによって平滑に整えられている。28は錆で腐食しているが釘と思われる。

遺構外出土石器（第29図，第5表，図版16）

1は部分的に自然面を残す珪質頁岩製の剥片である。2は安山岩製の石錐，3はチャート製の石鏃，4は珪質頁岩製の剥片である。5は安山岩製の敲石で下端に敲打痕がみられる。片面に平坦面をもち，磨石としても使用されたと思われる。6は安山岩製の扁平な楕円礫で，先端部と一面のほぼ中央に敲打痕がみられる。7は安山岩製の磨石，8は砂岩製の凹石で周縁部表裏面の所々に敲打痕がみられる。9は砂岩製の小型磨製石斧，10は砂岩製磨製石斧の刃部の一部，11は砂岩製の砥石である。表採ながら黒曜石が14点得られ，そのうち3点を図化した。

遺構外出土縄文土器（第30図，第6表，図版17）

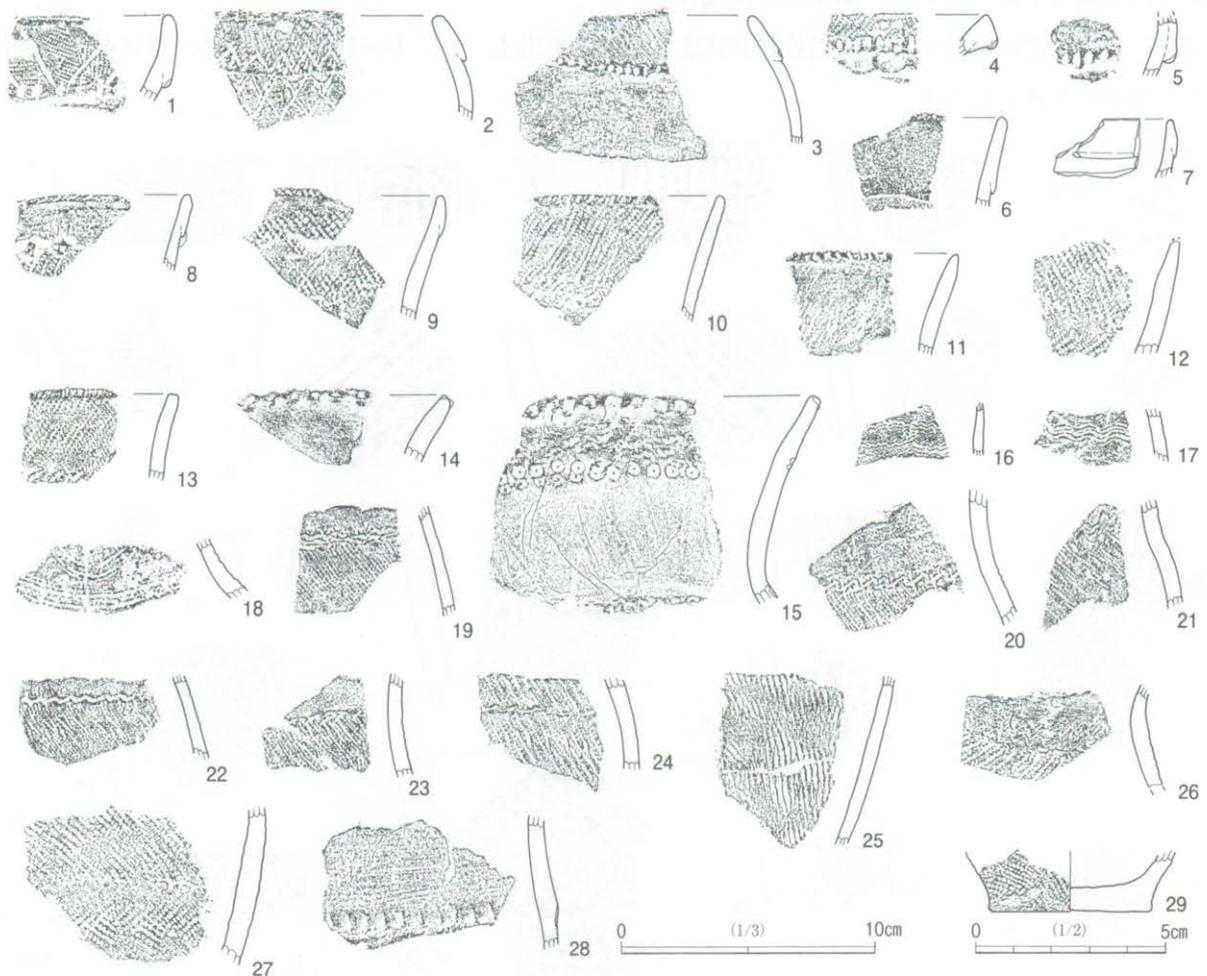
縄文時代早期沈線文系から中期加曽利E式までの土器が出土した。1～14は早期，15～19は前期，20は中期に属すると考えられる。



第30図 遺構外出土縄文土器

1～13は沈線文系土器群である。1・2は半截竹管による沈線文，3は縦位の太沈線と横位の細沈線が交互に施され，その下段に貝殻腹縁によるとと思われる刺突文がみられる。4は3と同一個体か。5～7は細沈線で，5・6は矢羽状を呈する。8・9は太沈線，10・11は貝殻腹縁文が充填される。12は櫛歯状工具による弧線文，13は半截竹管による沈線間に刺突文が施される。14は早期の条痕文系土器群で，口唇部に刻みが施される。15・16は前期の黒浜式か。14～16は胎土に繊維を含む。17～19は貝殻腹縁波状文が施されており，前期浮島式～興津式と思われる。20は加曾利EⅢ式で隆帯と沈線による渦巻文がみられる。遺構外出土弥生土器（第31図，第7表，図版18）

いずれも弥生時代後期の土器で，1～3は鉢，4・5は壺，6～29は甕の破片である。1と5のみ赤彩される。1は折返し状口縁下端に原体による押捺痕をもつ。口縁部はLR施文後沈線による山形文が描かれる。2も折返し状口縁で，口縁部にRL施文後口縁部と体部に鋸歯状の沈線文を描いている。3は折返し状口縁下端に工具による押捺を施す。内面及び体部外面は粗いミガキ。口縁部は無節Rもしくは附加条Lか。軸繩ははっきりしない。4は折返し部分が二段になっており，下段は指頭による圧痕，上段は工具による圧痕がみられる。口縁部にはLRが施される。5は折返し状口縁下部に原体による押捺痕，内外面にミガキ及び赤彩が施される。6・7は折返し状口縁で無文のものである。8は折返し状口縁下端に貼付文をもつ。口唇部と頸部に縄文が施される。0段と無節の縄を撚り合わせたものか。9はほとんど段差の

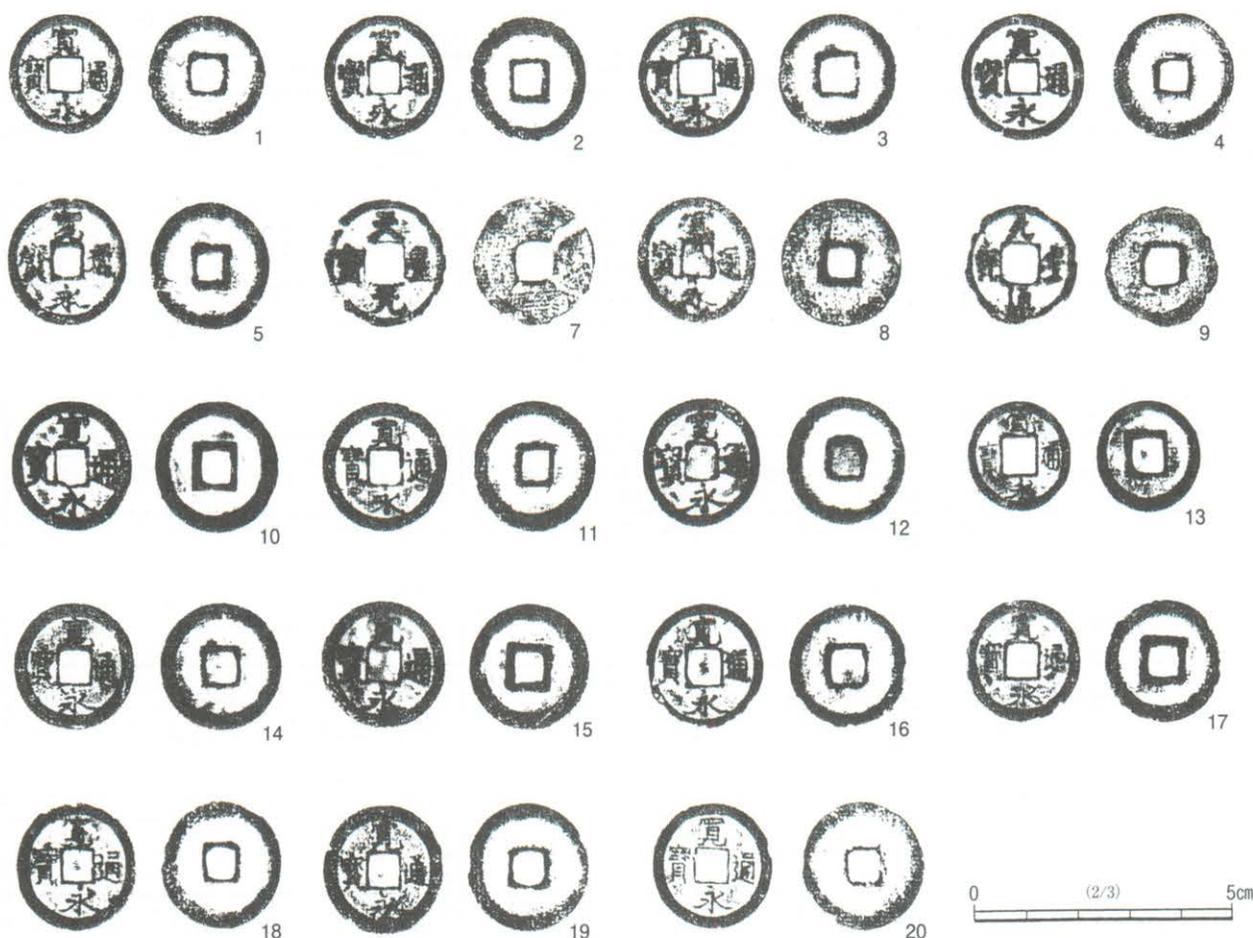


第31図 遺構外出土弥生土器

ない折返し状口縁で、外面と口唇部に附加条RLが施される。10～13は外面に縄文が施される甕の口縁部。14は口唇部に交互押捺が施される甕、12はSI-012出土の甕と類似の甕である。16～18は櫛描文をもつもの。19～23は頸部無文帯と縄文帯の境に結節文をもつ甕、24は撚糸文で工具に巻き付けた原体末端の回転圧痕と思われる。25は附加条Rでススの付着がみられる。26は頸部無文帯と縄文帯の境に櫛描波状文のみられるものである。27は羽状縄文、28は胴部上位に輪積痕と押捺痕をもつ甕で、南関東系か。29は底部で底部外面はナデである。

銅銭（第32図、第8表）

すべてA地点からの出土で、調査区中央西寄りSK-011付近に集中している。いずれも「寛永通寶」で背は無文である。1～5はSK-011からの出土であるが、浅い窪み状の遺構であるため遺構に伴うものかどうか不明である。



第32図 銭貨

第4表 南城岩跡(2) 遺物観察表

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考
							内面	外面	内面	外面	
10	1	SI-001	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 (3.6)	破片	雲母	内面 10YR6/4 にぶい黄橙 外面 10YR6/4 にぶい黄橙 焼成 良好	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ 底外面		
10	2	SI-001	土師器	甕	口径 — 底径 6.4 器高 (4.8)	胴部下半 ~底部 60%	白色粒子(多)	内面 5YR5/6明赤褐 外面 5YR5/6明赤褐 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 器面剝落 底外面		
10	3	SI-001	土師器	蓋	口径 (17.6) 底径 — 器高 (1.7)	破片	赤色スコリア	内面 2.5Y7/4浅黄 外面 2.5Y7/4浅黄 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ 底外面		
10	4	SI-001	土師器	蓋	口径 (16.0) 底径 — 器高 (2.2)	破片	赤色スコリア	内面 2.5Y7/4浅黄 外面 2.5Y7/4浅黄 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ 底外面		
10	5	SI-001	土師器	手捏ね	口径 3.0 底径 丸底 器高 2.3	85%	白色粒子(多)	内面 5YR4/6赤褐 外面 5YR4/6赤褐 焼成 良好	内面 ナデ 指頭痕 外面 ナデ 指頭痕 底外面		
11	1	SI-002	土師器	高杯	口径 22.6 底径 — 器高 (6.3)	杯部95%	砂粒(多)	内面 10YR7/6明黄褐 外面 5YR7/8橙 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ハケのちミガキ 底外面		
11	2	SI-002	土師器	器台	口径 8.3 底径 12.2 器高 7.7	85%	白色粒子, 赤 色スコリア	内面 10YR7/4 にぶい黄橙 外面 5YR7/8橙 焼成 良好	内面 杯部ナデ, 脚部ヘラナデ 外面 杯部ナデ, 脚部ヘラナデのちミガキ 底外面		透孔3ヶ
11	3	SI-002	土師器	埴	口径 (9.0) 底径 — 器高 (5.6)	口縁~ 頸部25%	砂粒, 赤色ス コリア	内面 7.5YR6/6橙 外面 7.5YR6/6橙 焼成 良好	内面 ハケのちミガキ 外面 ハケのちミガキ 底外面		
12	1	SI-003	土師器	杯	口径 (16.8) 底径 — 器高 (4.2)	破片	赤色スコリア	内面 5YR6/6橙 外面 5YR6/6橙 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ヨコナデ, ヘラケズリ 底外面		
12	2	SI-003	土師器	杯	口径 (16.0) 底径 — 器高 (2.6)	破片	精緻	内面 2.5YR5/6明赤褐 外面 2.5YR5/6明赤褐 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ヨコナデ, ヘラケズリ 底外面		内外面赤彩
12	3	SI-003	土師器	杯	口径 (15.2) 底径 (8.0) 器高 3.9	破片	砂粒	内面 10YR5/1褐灰 外面 10YR6/4にぶい黄橙 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ヨコナデ, ヘラケズリのちナデ 底外面 ナデ		
12	4	SI-003	土師器	甕	口径 14.0 底径 7.0 器高 11.7	75%	砂粒, 赤色ス コリア	内面 5YR5/4にぶい赤褐 外面 5YR5/4にぶい赤褐 焼成 良好	内面 ヨコナデ, ヘラナデ 外面 ヨコナデ, ヘラケズリのちナデ 底外面 ヘラケズリ		口縁内面黒変
12	5	SI-003	土師器	甕	口径 (20.8) 底径 — 器高 (3.1)	破片	白色粒子	内面 7.5YR5/4にぶい褐 外面 7.5YR5/4にぶい褐 焼成 良好	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ 底外面		
12	6	SI-003	土師器	甕	口径 — 底径 (10.0) 器高 (2.8)	底部25%	長石(大・多), 雲母(少)	内面 10YR6/3にぶい黄橙 外面 10YR6/4にぶい黄橙 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ミガキ 底外面 ナデ		常総型甕
12	7	SI-003	須恵器	蓋	口径 (19.6) 底径 — 器高 (3.0)	口縁~ 天井部 30%	白色粒子	内面 7.5YR6/1灰 外面 7.5YR6/1灰 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ, 回転ヘラケズリ 底外面		
12	8	SI-003	須恵器	杯	口径 — 底径 (7.0) 器高 (1.6)	体部~ 底部20%	雲母	内面 5Y7/3 浅黄 外面 5Y7/3 浅黄 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ, 手持ちヘラケズリ 底外面 手持ちヘラケズリ		
12	9	SI-003	須恵器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	破片	精緻	内面 5Y7/2灰白 外面 5Y7/1灰白 焼成 良好	内面 ナデ, 当て具痕 外面 平行タキ 底外面		
13	1	SI-004	弥生 土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部片	砂粒	内面 7.5YR6/6橙 外面 7.5YR5/4にぶい褐 焼成 良好	内面 ナデ 外面 LR 底外面		
13	2	SI-004	弥生 土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部片	精緻	内面 10YR6/4にぶい黄橙 外面 10YR6/4にぶい黄橙 焼成 良好	内面 ナデ 外面 LR 底外面		
13	3	SI-004	弥生 土器	甕	口径 (10.0) 底径 — 器高 (4.0)	口縁30%	小礫(多)	内面 7.5YR4/6褐 外面 7.5YR4/6褐 焼成 良好	内面 摩滅のため不明 外面 附加条LR+R・R 瘤状貼付文 底外面		
13	4	SI-004	弥生 土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部片	砂粒	内面 10YR4/3にぶい黄褐 外面 10YR2/2黒褐 焼成 良好	内面 ナデ 外面 口唇部・頸部に工具押捺, 附加 底外面 条RL+L・L		
13	5	SI-004	弥生 土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部片	白色粒子	内面 5YR5/8明赤褐 外面 7.5YR5/6明褐 焼成 良好	内面 ナデ 外面 附加条RL+L・L 底外面		
13	6	SI-004	弥生 土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部片	精緻	内面 7.5YR6/6橙 外面 7.5YR4/3褐 焼成 良好	内面 ナデ 外面 摺糸文(無節L), 口唇部原体 底外面 押捺, 頸部内形刺突文		
13	7	SI-004	弥生 土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部片	精緻	内面 7.5YR3/2黒褐 外面 7.5YR3/2黒褐 焼成 良好	内面 ナデ, 頸部ハケか 外面 ナデ, 口唇部・頸部に工具押捺 底外面		

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)		遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考	
				口径	底径器高			内面	外面	内面	外面		
13	8	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	口縁部片	精緻	内面 外面 焼成	10YR7/4にぶい黄橙 10YR7/4にぶい黄橙 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ、工具押捺	
13	9	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	胴部破片	砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/3褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ、工具押捺	
13	10	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	(7.1)	胴部60%	精緻	内面 外面 焼成	10YR7/3にぶい黄橙 10YR6/4にぶい黄橙 良好	内面 外面 底外面	ナデ LR (附加条か)	
13	11	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	胴部破片	精緻	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ナデ 附加条LR+R	
13	12	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	胴部破片	精緻	内面 外面 焼成	10YR4/2灰黄褐 10YR4/2灰黄褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ 附加条RL+L・L、S字状結節か	
13	13	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	胴部破片	砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/2灰褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ 附加条LR+L・Lか	
13	14	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	胴部破片	精緻	内面 外面 焼成	10YR4/2灰黄褐 10YR4/2灰黄褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ 附加条RL+L・L、S字状結節	
13	15	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	胴部破片	赤色スコリア	内面 外面 焼成	10YR7/4にぶい黄橙 10YR5/2灰黄褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ LRか	
13	16	SI-004	弥生土器	壺	口径 — 底径 — 器高 —	9.8 (2.9)	底部 100%	小礫	内面 外面 焼成	10YR5/2灰黄褐 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ミガキ 敷物圧痕	
13	17	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	6.5 (6.0)	胴部下半 ~底部 50%	精緻	内面 外面 焼成	5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ 附加条(羽状) 敷物圧痕(布目か)	
13	18	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	(7.6) (5.6)	胴部下半 ~底部 20%	赤色スコリア	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ナデ 附加条LR+L・Lか 敷物圧痕	附加条原体下端 末端 縄L
13	19	SI-004	弥生土器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	(6.6) (3.0)	胴部下半 ~底部 30%	精緻	内面 外面 焼成	7.5YR5/6明褐 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ LR 木葉痕	
13	20	SI-004	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	口縁部片	白色粒子	内面 外面 焼成	7.5YR4/3褐 7.5YR3/3暗褐 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ、ハケ ヨコナデ、ハケ	
14	1	SI-005	土師器	杯	口径 (14.4) 丸底 (3.5) 器高 —	20%	雲母(少)	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ミガキ ヘラケズリのち口縁部ミガキ		
14	2	SI-005	土師器	杯	口径 (14.0) 底径 — 器高 —	(2.6)	破片	白色粒子	内面 外面 焼成	5YR6/6橙 5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ミガキ ヨコナデ、ヘラケズリ	
14	3	SI-005	土師器	鉢	口径 (9.0) 底径 — 器高 —	(5.6)	破片	白色粒子	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ ヨコナデ、ヘラケズリ	
14	4	SI-005	土師器	甕	口径 (14.4) — 底径 — 器高 —	(6.0)	口縁~ 胴部上半 30%	砂粒(多)	内面 外面 焼成	5YR4/8赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ、ヘラナデ ヨコナデ、ヘラケズリ	
14	5	SI-005	土師器	甕	口径 (23.0) — 底径 — 器高 —	(1.6)	口縁部片	長石(多)、 雲母	内面 外面 焼成	10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/4にぶい黄橙 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヨコナデ	
14	6	SI-005	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	(6.0) (5.9)	胴部下位 ~底部 25%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	2.5YR4/8赤褐 5YR5/4にぶい赤褐 良好	内面 外面 底外面	器面剝落 輪積痕あり ミガキ ナデ	常総型甕
14	7	SI-005	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	(7.8) (1.8)	底部片	白色粒子(多)、 赤色スコリア (少)	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	
14	8	SI-005	須恵器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	丸底 (9.1)	胴部下位 ~底部 25%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	10YR5/2灰黄褐 10YR5/4にぶい黄褐 やや不良	内面 外面 底外面	ナデ 当て具痕あり 平行タタキ	
14	9	SI-005	須恵器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	(13.0) (14.0)	胴部下位 ~底部 30%	精緻	内面 外面 焼成	2.5Y7/4浅黄 2.5Y7/4浅黄 やや不良	内面 外面 底外面	器面剝落 平行タタキ、ヘラケズリ 摩滅のため不明	
14	10	SI-005	鉄製品	刀子か	長さ (8.2) 幅 1.4 重量 11.89g	—	—	—	—	—	—	—	
15	1	SI-007	土師器	甕	口径 — 底径 — 器高 —	—	口縁部片	砂粒	内面 外面 焼成	5YR6/6橙 5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヨコナデ	

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技 法	備 考	
15	2	SI-007	須恵器	蓋	口径 底径 器高 — — (15.8) — (1.1)	口縁部片	砂粒	内面 外面 焼成 10Y4/1灰 2.5Y4/2暗灰黄 良好	内 面 外 面 底外面 ロクロナデ ロクロナデ	
16	1	SI-008	弥生 土器	甕	口径 底径 器高 19.8 — (19.1)	口縁～ 胴部下半 70%	精緻	内面 外面 焼成 7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ 附加条RL+L・L、S字状結節	口縁部2個一組の貼付文 6単位 外面口縁部～胴 部中位にかけてスス附着
16	2	SI-008	弥生 土器	甕	口径 底径 器高 — — (20.0)	頸部～ 胴部下半 70%	小礫、赤色ス コリア	内面 外面 焼成 5YR6/6橙 5YR6/6橙 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ 附加条RL+L・L	内面胴部下位・外面胴 部上位スス附着
16	3	SI-008	弥生 土器	甕	口径 底径 器高 — — —	口縁部片	白色粒子	内面 外面 焼成 7.5YR3/4暗褐 7.5YR3/2黒褐 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ 附加条LR+R・Rか、剝離のた め不明瞭	
16	4	SI-008	弥生 土器	鉢	口径 底径 器高 — — —	口縁部片	白色粒子(多)	内面 外面 焼成 5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ 附加条R+2Lか	
16	5	SI-008	弥生 土器	甕	口径 底径 器高 — — —	破片	精緻	内面 外面 焼成 7.5YR6/4にぶい橙 10YR6/4にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ 帯縄文 (RL縦)	縄文晩期か?
16	6	SI-008	弥生 土器	甕	口径 底径 器高 — — —	破片	精緻	内面 外面 焼成 10YR4/3にぶい黄褐 10YR4/3にぶい黄褐 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ 附加条か	
16	7	SI-008	弥生 土器	甕	口径 底径 器高 — — —	破片	精緻	内面 外面 焼成 10YR4/1褐灰 10YR4/1褐灰 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ 附加条L+2Rか	
16	8	SI-008	弥生 土器	甕	口径 底径 器高 — (6.0) (1.8)	底部55%	精緻	内面 外面 焼成 7.5YR6/6橙 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ ナデ	
16	9	SI-008	弥生 土器	甕	口径 底径 器高 — (7.0) (2.2)	底部25%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成 7.5YR6/6橙 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内 面 外 面 底外面 器面剥落 ナデ	
17	1	SI-009	土師器	器台	口径 底径 器高 (11.1) (10.6) 7.8	40%	白色粒子(多)、 赤色スコリア	内面 外面 焼成 10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/4にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ、ヘラナデ ヘラナデ	
17	2	SI-009	土師器	高杯	口径 底径 器高 (21.0) — (4.5)	杯部口縁 ～体部 15%	雲母(多)、 小礫	内面 外面 焼成 7.5YR6/6橙 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内 面 外 面 底外面 器面剥落 ハケ 器面剥落	
17	3	SI-009	土師器	甕	口径 底径 器高 — 5.5 (17.3)	頸部～ 底部80%	精緻	内面 外面 焼成 10YR6/4にぶい黄橙 5YR6/6橙 良好	内 面 外 面 底外面 ヘラナデ ヘラケズリ ナデ	
17	4	SI-009	土製品	土玉	長さ 幅 孔径 2.6 3.0 0.6	90%	精緻	内面 外面 焼成 — 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面 ナデ	孔の周囲上下両面とも 欠損あり
18	1	SI-010	土師器	杯	口径 底径 器高 11.6 丸底 3.7	85%	精緻	内面 外面 焼成 7.5YR6/4にぶい橙 10YR6/4にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面 粗いミガキ ヨコナデ、ヘラケズリ	内外面黒色処理(漆か) だがほとんど残ってい ない
18	2	SI-010	土師器	杯	口径 底径 器高 (12.6) 丸底 (3.5)	破片	砂粒	内面 外面 焼成 5YR5/4にぶい赤褐 5YR4/2灰褐 良好	内 面 外 面 底外面 粗いミガキ ヨコナデ、ヘラケズリ	
18	3	SI-010	土師器	杯	口径 底径 器高 (12.0) — (2.6)	口縁～ 体部25%	微砂粒	内面 外面 焼成 5YR5/6明赤褐 5YR3/3暗赤褐 良好	内 面 外 面 底外面 ミガキ ヨコナデ、ヘラケズリ	
18	4	SI-010	土師器	小型甕	口径 底径 器高 10.6 5.6 9.0	70%	精緻	内面 外面 焼成 7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR3/1黒褐 良好	内 面 外 面 底外面 ヨコナデ、ヘラナデ ヨコナデ、ヘラケズリ 摩滅	被熱
18	5	SI-010	土師器	甕	口径 底径 器高 (15.0) — (10.1)	口縁～ 胴部15%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成 10YR6/4にぶい黄橙 10YR5/2灰黄褐 やや不良	内 面 外 面 底外面 ヨコナデ、ヘラナデ ヨコナデ、ヘラケズリ	
18	6	SI-010	土師器	甕	口径 底径 器高 (16.0) — (7.0)	口縁～ 胴部20%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成 10YR3/1黒褐 5YR6/8橙 5YR5/4にぶい 赤褐 良好	内 面 外 面 底外面 ヨコナデ、ヘラナデ ヨコナデ、ヘラケズリ	
18	7	SI-010	土師器	甕	口径 底径 器高 (19.0) — (7.8)	口縁～ 胴部20%	砂粒	内面 外面 焼成 7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/4褐 良好	内 面 外 面 底外面 ヨコナデ、ヘラナデ ヨコナデ、ヘラナデ	
18	8	SI-010	土師器	甕	口径 底径 器高 — (8.0) (8.0)	胴部下位 ～底部 20%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成 10YR5/4にぶい黄褐 7.5YR4/3褐 良好	内 面 外 面 底外面 器面剥落 ヘラケズリ ヘラケズリ	
18	9	SI-010	須恵器	杯	口径 底径 器高 — (8.0) (2.7)	体部～ 底部40%	長石(多)、 雲母(少)	内面 外面 焼成 7.5YR4/4褐 5YR4/4にぶい赤褐 良好	内 面 外 面 底外面 ロクロナデ ロクロナデ 一定方向の手持ちヘラケズリ	
18	10	SI-010	須恵器	高台付 杯	口径 底径 器高 — (11.4) (1.4)	高台30%	砂粒	内面 外面 焼成 5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面 ロクロナデ ロクロナデ	

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技 法	備 考				
18	11	SI-010	須恵器	壺	口径 底径 器高	(11.0) — (3.3)	口縁部片 精緻	内面 外面 焼成	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ		
18	12	SI-010	須恵器	甕	口径 底径 器高	— — —	破片 白色粒子	内面 外面 焼成	5YR2/2黒褐 5YR4/4にぶい赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	同心円状の当て具痕 平行タタキ		
19	1	SI-011	弥生 土器	甕	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 白色粒子(多)	内面 外面 焼成	10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/4にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面	ナデ ナデ	焼成後穿孔1ヶ	
19	2	SI-011	弥生 土器	鉢	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 精緻	内面 外面 焼成	10YR6/4にぶい黄橙 10YR6/6明黄褐 良好	内 面 外 面 底外面	ナデ 網目状撫糸文, 原体押捺		
19	3	SI-011	弥生 土器	甕	口径 底径 器高	— — —	破片 小礫(多)	内面 外面 焼成	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR2/1黒 良好	内 面 外 面 底外面	ナデ RL, 工具押捺		
19	4	SI-011	弥生 土器	甕	口径 底径 器高	— — —	胴部片 小礫(多)	内面 外面 焼成	2.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙 良好	内 面 外 面	摩滅 羽状縄文(附加条RL+L・L, LR+R・R, RL+L・L)		
19	5	SI-011	弥生 土器	甕	口径 底径 器高	— 6.0 (3.0)	底部60%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	5YR2/1黒褐 5YR6/6橙 良好	内 面 外 面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ ナデ	
20	1	SI-012	弥生 土器	甕	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 精緻	内面 外面 焼成	10YR6/4にぶい黄橙 5YR6/8橙 良好	内 面 外 面	ナデ 口唇部・頸部に円形刺突文, Z 字状結節か		
26	1	SK-002	須恵器	高台付 杯	口径 底径 器高	— (7.4) (1.85)	底部片 精緻	内面 外面 焼成	10Y7/1灰白 10Y7/1灰白 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロナデ 回転ヘラケズリ 高台貼付のちナデ		
26	1	SK-009	縄文 土器	深鉢	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 白色粒子(多)	内面 外面 焼成	10YR5/3にぶい黄褐 10YR5/3にぶい黄褐 良好	内 面 外 面 底外面	ミガキ 輪積痕上に押捺痕	前期浮島式	
26	1	SK-010	土師器	杯	口径 底径 器高	14.2 丸底 3.8	60%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙 良好	内 面 外 面 底外面	ナデ ヨコナデ, ヘラケズリのちナデ	
26	2	SK-010	土師器	杯	口径 底径 器高	(13.8) (7.4) 4.0	45%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	ヘラナデのち粗いミガキ ヨコナデ, ヘラケズリのちナデ, ヨコナデ, ヘラケズリのちナデ	
26	3	SK-010	土師器	杯	口径 底径 器高	(15.2) 丸底 4.5	30%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	ヘラナデ ヨコナデ, ヘラケズリのちナデ	
26	1	SK-011	縄文 土器	深鉢	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 白色粒子(多)	内面 外面 焼成	10YR5/4にぶい黄褐 10YR5/4にぶい黄褐 良好	内 面 外 面 底外面	ナデ 輪積痕上に押捺痕	前期浮島式	
26	2	SK-011	縄文 土器	深鉢	口径 底径 器高	— — —	胴部片 白色粒子(多)	内面 外面 焼成	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙 良好	内 面 外 面 底外面	ナデ 沈線文	前期	
26	3	SK-011	土師器	甕	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 白色粒子(多), 雲母	内面 外面 焼成	5YR4/4にぶい赤褐 5YR4/6赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	ヨコナデ, ヘラナデ ヨコナデ, ヘラナデ		
26	1	SK-014	縄文 土器	深鉢	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 微砂粒	内面 外面 焼成	10YR6/6明黄褐 10YR6/6明黄褐 良好	内 面 外 面	ナデ 条線文, 貝殻腹線文, 貝殻圧痕	前期興津式	
26	1	SK-018	土製品	土玉	長さ 幅 孔径	2.9 3.3 0.6~0.7	100%	微砂粒, 赤色 スコリア	内面 外面 焼成	— 7.5YR6/6橙 良好	内 面 外 面 底外面	ナデ, 小口周辺に爪痕	
26	1	P-11	須恵器	杯	口径 底径 器高	— — (3.3)	破片 白色粒子	内面 外面 焼成	7.5Y5/1灰 7.5Y5/1灰 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ, 回転ヘラケズリ		
27	1	9T	弥生 土器	甕	口径 底径 器高	— — —	口縁部片 白色粒子(多)	内面 外面 焼成	2.5Y3/2黒褐 2.5Y3/2黒褐 良好	内 面 外 面	摩滅 口唇部・口縁下端に工具押捺 口縁下端に貼付文		
27	2	13T	弥生 土器	甕	口径 底径 器高	(18.6) — (7.6)	口縁~ 頸部25%	白色粒子(多), 雲母	内面 外面 焼成	2.5Y5/2暗灰黄 2.5Y5/2暗灰黄 良好	内 面 外 面	ナデ 附加条RL+Lか 口縁下端に工 具押捺	
27	3	13T	土師器	杯	口径 底径 器高	(13.2) 丸底 (3.1)	20%	白色粒子(多), 雲母	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内 面 外 面 底外面	ミガキ ヨコナデ, ヘラケズリのちナデ	口唇部摩滅
27	4	2T	土師器	杯	口径 底径 器高	— (7.0) (2.7)	体部~ 底部30%	雲母(多), 白色粒子	内面 外面 焼成	10YR4/2灰黄褐 10YR4/2灰黄褐 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ 手持ちヘラケズリ	
27	5	2T	土師器	高台付 杯	口径 底径 器高	— (6.0) (2.0)	底部25%	砂粒, 雲母	内面 外面 焼成	10YR3/1黒褐 10YR6/4にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面	ミガキ ロクロナデ 高台貼付のちナデ	内面黒色処理

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)		遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考
				口径	底径			内面	外面	内面	外面	
27	6	3T	土師器	高杯	口径 — 底径 — 器高 (4.3)	杯部～ 脚部50%	赤色スコリア (大)	内面 外面 焼成	7.5YR7/6橙 7.5YR7/6橙 良好	内面 外面 底外面	杯部ミガキ 脚部ナデ ヘラナデのちミガキ	杯部内面・外面赤彩
27	7	13T	土師器	高杯	口径 — 底径 — 器高 (7.5)	杯部～ 脚部50%	雲母, 砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR6/4にぶい橙 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	杯部ミガキか(摩滅) 脚部ナデ ヘラナデ	透孔3ヶ
27	8	13T	土師器	高杯	口径 — 底径 (11.0) 器高 (7.0)	脚部50%	微砂粒	内面 外面 焼成	5YR6/6橙 2.5YR5/4にぶい赤褐 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ	外面赤彩
27	9	13T	土師器	瓶	口径 — 底径 (9.0) 器高 (4.6)	胴部下位 ～底部 30%	砂粒, 赤色ス コリア	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデのちミガキ ヘラケズリ	
27	10	2T	土師器	甕	口径 (15.2) 底径 — 器高 (3.4)	口縁20%	砂粒(多)	内面 外面 焼成	7.5YR5/6明褐 7.5YR5/6明褐 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヨコナデ	
27	11	15T	土師器	甕	口径 (22.8) 底径 — 器高 (4.6)	口縁部片	雲母(多), 白色粒子	内面 外面 焼成	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ, ヘラナデ ヨコナデ, ナデ	
27	12	2T	土師器	甕	口径 — 底径 (8.0) 器高 (3.5)	底部25%	長石(多), 雲母(少)	内面 外面 焼成	10YR6/4にぶい黄橙 7.5YR4/3褐 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ミガキ ナデ	常総型甕
27	13	2T	土師器	甕	口径 — 底径 (12.0) 器高 (2.8)	底部40%	砂粒, 雲母, 赤色スコリア	内面 外面 焼成	5YR6/6橙 5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	
27	14	24T	土師器	甕	口径 — 底径 (11.0) 器高 (3.0)	底部25%	雲母(多), 白色粒子(多)	内面 外面 焼成	10YR6/4にぶい黄橙 10YR2/1黒 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ミガキ ミガキ	
27	15	9T	弥生 土器	甕	口径 — 底径 (6.4) 器高 (3.1)	底部 100%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	7.5YR7/4にぶい橙 2.5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ ナデ	
27	16	14T	土師器	甕	口径 — 底径 (8.4) 器高 (4.0)	10%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	5YR4/6赤褐 5YR4/2灰褐 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラケズリ ナデ	
27	17	3T	須恵器	杯	口径 (12.4) 底径 7.2 器高 4.7	20%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	2.5Y5/3黄褐 2.5Y5/3黄褐 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ, 回転ヘラケズリ 回転ヘラケズリ	
27	18	3T	須恵器	杯	口径 — 底径 (7.0) 器高 (2.1)	体部下位 ～底部 20%	雲母(多), 長石	内面 外面 焼成	2.5Y6/3にぶい黄 2.5Y6/3にぶい黄 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ 回転ヘラケズリ	
27	19	15T	須恵器	杯	口径 — 底径 (9.0) 器高 (2.2)	体部～ 底部40%	雲母(多), 長石(多)	内面 外面 焼成	2.5Y6/3にぶい黄 2.5Y6/3にぶい黄 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ 手持ちヘラケズリ	
27	20	14T	須恵器	瓶	口径 — 底径 器高 (16.5)	25%	精緻	内面 外面 焼成	2.5Y6/2灰黄 2.5Y5/2暗灰黄 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	フラスコ瓶の胴部か
27	21	13T	須恵器	瓶	口径 — 底径 器高 —	破片	精緻	内面 外面 焼成	7.5YR5/1灰 10Y4/1灰 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	フラスコ瓶の胴部か
27	22	2T	土師器	手捏ね	口径 4.6 底径 丸底 器高 1.7	90%	砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ナデ 指頭痕 ナデ 指頭痕	
27	23	2T	土製品	勾玉か	長さ (3.1) 幅 (1.9) 厚さ 1.0	90%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	— 2.5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ	
27	24	19T	土製品	碁石か	直径 2.2 厚さ 0.6 重量 3.42g	100%	微細雲母	内面 外面 焼成	— 10YR5/3にぶい黄褐 良好	内面 外面 底外面	丁寧なナデ	
28	1	11K-93	弥生 土器	甕	口径 — 底径 器高 —	口縁部片	白色粒子(多), 雲母(多)	内面 外面 焼成	5YR5/6明赤褐 5YR4/3にぶい赤褐 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ LR, 工具押捺, 瘤状貼付文	外面スス付着
28	2	11K-93	弥生 土器	甕	口径 — 底径 器高 —	胴部片	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR3/1黒褐 良好	内面 外面 底外面	摩滅 羽状の捺糸文か	外面スス付着
28	3	10H-67	土師器	杯	口径 (13.8) 底径 — 器高 (3.4)	破片	微砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR4/2灰褐 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ ヨコナデ, ヘラケズリ	
28	4	8I-62	土師器	杯	口径 (3.8) 底径 — 器高 (3.0)	破片	雲母	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 2.5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ミガキ ヨコナデ, ヘラケズリ	内外面赤彩
28	5	11K-42	土師器	杯	口径 (15.0) 底径 — 器高 (2.3)	破片	微砂粒	内面 外面 焼成	5YR4/2灰褐 5YR3/6暗赤褐 良好	内面 外面 底外面	ミガキ ヨコナデ, ヘラケズリのちナデ	内外面赤彩

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)		遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考	
				口径	底径器高			内面	外面	内面	外面		
28	6	11K-42	土師器	杯	口径 — (9.8)	— (3.5)	破片	砂粒, 赤色スコリア	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5YR5/6明褐 良好	内面 外面 底外面	ミガキ 口縁部ミガキ, 体部ヘラケズリ	内外面赤彩
28	7	11K-02	土師器	杯	口径 (13.0)	— (2.5)	破片	精緻	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/2灰褐 良好	内面 外面 底外面	ミガキ 口縁部ミガキ, 体部ヘラケズリ	内外面黒色処理
28	8	13K-70	土師器	杯	口径 — (5.5)	— (1.3)	底部片	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	5YR5/6明赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ 回転系切り	
28	9	12K-35	土師器	高杯	口径 — —	— (5.6)	脚部50%	赤色スコリア	内面 外面 焼成	10YR6/4にぶい黄橙 2.5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	脚部ヘラナデ ヘラナデ	外面赤彩
28	10	11K-03	土師器	甕	口径 — 4.6	— (3.0)	底部50%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	5YR4/2灰褐 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ ナデ	被熱
28	11	8I-62	土師器	甕	口径 (12.0)	— (4.2)	破片	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 5YR5/6明赤褐 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ, ナデ ヨコナデ, ヘラケズリ	
28	12	13K-65	土師器	甕	口径 (14.0)	— (4.7)	破片	白色粒子(多), 雲母	内面 外面 焼成	10YR5/4にぶい黄褐 10YR5/4にぶい黄褐 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ, ヘラナデ ヨコナデ, ハケ	外面スス付着
28	13	13K-70	土師器	甕	口径 — —	— —	破片	白色粒子	内面 外面 焼成	10YR5/4にぶい黄褐 10YR5/4にぶい黄褐 良好	内面 外面	ハケ 口唇部刻み 櫛歯状工具による 縦方向の条線	
28	14	11K-34	土師器	手捏ね	口径 — (6.0)	— (2.2)	体部~ 底部30%	砂粒	内面 外面 焼成	5YR4/1褐灰 5YR4/6赤褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ 木葉痕	
28	15	11K-04	須恵器	蓋か	口径 — —	— (1.85)	10%	雲母(少)	内面 外面 焼成	2.5Y7/2灰黄 2.5Y7/2灰黄 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ, 回転ヘラケズリ	
28	16	8J-70	須恵器	蓋	口径 (10.3)	— (3.0)	破片	精緻	内面 外面 焼成	10Y5/1灰 10Y4/1灰 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ	
28	17	11K-93	須恵器	高台付 杯	口径 — (6.0)	— (1.9)	底部25%	砂粒(多)	内面 外面 焼成	5Y7/2灰白 5Y7/2灰白 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ(摩滅) ロクロナデ 高台貼付のちナデ	
28	18	10H-67	須恵器	甕	口径 — —	— —	破片	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	5Y4/1灰 5Y4/1灰 やや不良	内面 外面 底外面	ナデ 平行タタキ	
28	19	10H-67	須恵器	甕	口径 — —	— —	破片	砂粒, 赤色スコリア	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5Y7/2灰白 やや不良	内面 外面 底外面	器面剥落 平行タタキ	
28	20	12K-91	土師器	手捏ね	口径 — (6.6)	— (3.3)	体部~ 底部40%	砂粒	内面 外面 焼成	5YR4/6赤褐 5YR4/6赤褐 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ナデ 指頭痕 ナデ	
28	21	10K-76	瓦質 土器	内耳 土器	口径 — —	— —	破片	雲母(多), 赤色スコリア	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR3/3暗褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ	
28	22	遺跡 一括	土師器	高台 付杯	口径 (19.7)	— (4.6)	20%	微砂粒, 赤色 スコリア	内面 外面 焼成	7.5YR17黒 7.5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ミガキ ロクロナデ, 回転ヘラケズリ	内面黒色処理
28	23	遺跡 一括	須恵器	甕	口径 — (15.0)	— (3.9)	底部片	雲母(多)	内面 外面 焼成	5Y7/2灰白 2.5Y7/3浅黄 やや不良	内面 外面 底外面	器面剥落 ヘラケズリ 摩滅	
28	24	遺跡 一括	土師器	甕	口径 (20.8)	— (23.1)	口縁部 30% 胴部~ 底部50%	長石(多)	内面 外面 焼成	5YR6/6橙 5YR6/6橙 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ, ヘラナデ ヨコナデ, ナデ, ミガキ 木葉痕	常総型甕
28	25	9I-95	土製品	土玉	長さ — 幅 — 孔径 —	— — — —	90%	微砂粒	内面 外面 焼成	— 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ	
28	26	10I-03	土製品	土玉	長さ (3.1)	— (3.4)	30%	雲母, 赤色スコリア(大)	内面 外面 焼成	— 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ	
28	27	8J-70	土製品	土玉	長さ (3.0)	— 3.1~3.5	90%	微砂粒	内面 外面 焼成	— 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内面 外面 底外面	ナデ	
28	28	11K-74	鉄製品	釘か	長さ (2.4)	— 0.4	—	—	—	—	—	—	

*弥生土器の原体の表記方法については「千葉県文化財センター調査報告464集 船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2」を参考にした

第5表 南城砦跡(2) 石器属性表

()は現存値

挿図番号	グリット・遺構	遺物番号	器種	石材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
29	1	SK-013	1	剥片	珪質頁岩	8.0	1.55	2.1	24.71
29	2	SI-011	3	石錐	安山岩	2.3	(1.65)	0.6	1.81
29	3	3T	2	石鏃	チャート	3.5	1.55	0.25	1.03
29	4	5T	3	剥片	珪質頁岩	4.0	5.3	2.0	25.77
29	5	SI-009	5	敲石	安山岩	(11.7)	10.6	5.6	1134.21
29	6	5T	2	磨石	安山岩	(9.7)	7.75	4.2	544.43
29	7	2T	1	磨石	安山岩	15.1	5.6	4.5	488.91
29	8	5T	2	凹石	砂岩	6.5	5.0	3.5	122.63
29	9	9T	2	磨製石斧	砂岩	5.45	3.35	1.3	41.28
29	10	24T	2	磨製石斧	砂岩	(3.8)	(3.7)	(1.4)	22.12
29	11	8J-70	1	砥石	砂岩	(5.1)	2.5	1.8	23.53
29	12	表採		石核	黒曜石	2.3	2.2	2.0	17.52
29	13	表採		スクレイパー	黒曜石	2.15	2.8	1.7	11.14
29	14	表採		石鏃	黒曜石	(1.8)	(1.5)	0.55	1.38

第6表 南城砦跡(2) 縄文土器観察表

挿図番号	遺構番号	器種	色調	胎土	文様	時期	型式	備考
30	1	13T	深鉢	にぶい褐色	砂粒	縦位・横位の条線文	早期	沈線文系
30	2	SI-009	深鉢	橙色	砂粒	半截竹管による条線文・沈線文	早期	沈線文系
30	3	SI-010	深鉢	橙色	白色粒子(多), 砂粒	条線文, 櫛歯状工具による横位の条線文, 貝殻腹縁文	早期	沈線文系
30	4	SI-009	深鉢	明赤褐色	白色粒子(多), 砂粒	櫛歯状工具による横位の条線文, 爪形文(貝殻腹縁文か)	早期	沈線文系
30	5	13K-03	深鉢	橙色	砂粒	矢羽状沈線文	早期	沈線文系
30	6	13K-03	深鉢	橙色	砂粒	矢羽状沈線文	早期	沈線文系
30	7	12L-80	深鉢	にぶい褐色	砂粒(多)	沈線文	早期	沈線文系
30	8	12K-28	深鉢	橙色	白色粒子(多), 砂粒	沈線文	早期	沈線文系
30	9	12K-38	深鉢	橙色	白色粒子, 赤色スコリア	沈線文	早期	沈線文系
30	10	14T	深鉢	橙色	砂粒	半截竹管による沈線文 貝殻腹縁圧痕	早期	沈線文系
30	11	13K-65	深鉢	にぶい褐色	白色粒子(大), 雲母(少)	沈線区画 貝殻腹縁文充填	早期	沈線文系
30	12	11K-03	深鉢	にぶい黄褐色	砂粒(多)	櫛歯状工具による沈線文	早期	沈線文系
30	13	14T	深鉢	明赤褐色	白色粒子(多)	半截竹管による沈線文 刺突文	早期	沈線文系
30	14	SI-008	深鉢	にぶい赤褐色	繊維	口唇部刻み 沈線文	早期	条痕文系
30	15	SI-008	深鉢	橙色	繊維	コンパス文 円形刺突文	前期	黒浜か
30	16	SI-008	深鉢	橙色	繊維	円形刺突文 撚糸文	前期	黒浜か
30	17	SI-009	深鉢	橙色	白色粒子(多), 雲母(少)	貝殻腹縁波状文	前期	浮島~興津
30	18	SI-010	深鉢	橙色	赤色スコリア	貝殻腹縁文	前期	浮島~興津
30	19	SI-010	深鉢	橙色	白色粒子	貝殻腹縁波状文	前期	浮島~興津
30	20	SI-004	深鉢	にぶい褐色	白色粒子(多)	沈線と隆帯による渦巻文 地文LR	中期	加曾利EⅡ~Ⅲ 波状口縁
30	21	SI-010	深鉢	橙色	白色粒子(多)	沈線		

第7表 南城砦跡(2) 弥生土器観察表

挿図番号	遺構番号	器種	色調		胎土	文様	備考
			外面	内面			
31 1	11K-03	鉢	にぶい橙色		微砂粒	沈線による山形文 LR充填 折返し状口縁下部に原体押捺	内面・体部外面赤彩
31 2	11K-05	鉢	橙色		白色粒子	鋸歯状の沈線文 地文RL(附加条か)	
31 3	SK-015	鉢	明赤褐色	黄褐色	白色粒子(多)	附加条Lか 口縁下部に工具押捺	
31 4	SI-010	壺	褐色	にぶい褐色	精緻	LR 折返し口縁中に工具押捺, 下位に指頭痕	
31 5	SI-005	壺	橙色		砂粒	折返し状口縁下部に工具押捺	内外面赤彩
31 6	SI-010	甕	にぶい黄褐色		白色粒子, 雲母(少)	口唇部縄文(原体不明)内外面ナデ	
31 7	SI-003	甕	褐灰色		砂粒	折返し状口縁 内外面ナデ	
31 8	13K-65	甕	褐灰色		白色粒子	折返し状口縁下部に貼付文, 口唇部・頸部に縄文	附加条LR+Rか
31 9	13T	甕	にぶい褐色		白色粒子(多)	口唇部~頸部附加条RL+2Lか	
31 10	SK-015	甕	褐色	黒褐色	砂粒	口唇部・口縁部附加条LR+R・R	
31 11	11K-02	甕	にぶい褐色	褐色	精緻	口唇部刻み 摩滅のため不明瞭	
31 12	SI-009	甕	明褐色	にぶい褐色	白色粒子, 赤色スコリア	RL・LR	
31 13	SI-002	甕	褐色		白色微粒子	附加条LR+2Rか 口縁下部に原体押捺	
31 14	SI-005	甕	にぶい褐色		微砂粒	口唇部交互押捺	
31 15	13K-50	甕	褐色	明赤褐色	白色粒子	RのS字状結節か 口唇部・口縁下部・頸部に円形刺突文	
31 16	SI-009	甕	灰黄褐色		精緻	櫛描波状文	
31 17	9I-78	甕	黒褐色	褐色	白色粒子(多)	櫛描波状文	
31 18	13T	甕	にぶい黄褐色		雲母(多), 白色粒子(多)	櫛描波状文	
31 19	SI-002	甕	にぶい褐色	褐色	微砂粒	RのS字状結節か RL	
31 20	SI-010	甕	にぶい褐色	にぶい褐色	白色粒子	RのS字状結節か 附加条RL+L・L	
31 21	SI-005	甕	にぶい褐色	にぶい褐色	微砂粒	RのS字状結節か 附加条RL+L・L	
31 22	12K-75	甕	明褐色	極暗褐色	微砂粒	LのS字状結節か 附加条RL+L・L	
31 23	SI-002	甕	にぶい黄褐色	灰黄褐色	微砂粒	附加条RL+L・L 原体の末端か	
31 24	SI-003	甕	にぶい褐色	灰褐色	精緻	捻糸文もしくは附加条	棒状工具に巻き付けた原体の末端か
31 25	SI-003	甕	にぶい褐色	にぶい褐色	微砂粒	附加条R	外面スス付着
31 26	SI-002	甕	褐色		白色粒子(多)	櫛描波状文 附加条LR+R・R	
31 27	SI-009	甕	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白色粒子(多)	RL・LR・RL	
31 28	11K-03	甕	にぶい褐色	にぶい褐色	精緻	指頭押捺	
31 29	SI-001	甕	黒褐色	褐色	白色粒子(多)	附加条RL+L・L	底径8.6cm 現存高3.0cm

第8表 南城砦跡(2) 銭貨計測表

()は現存値

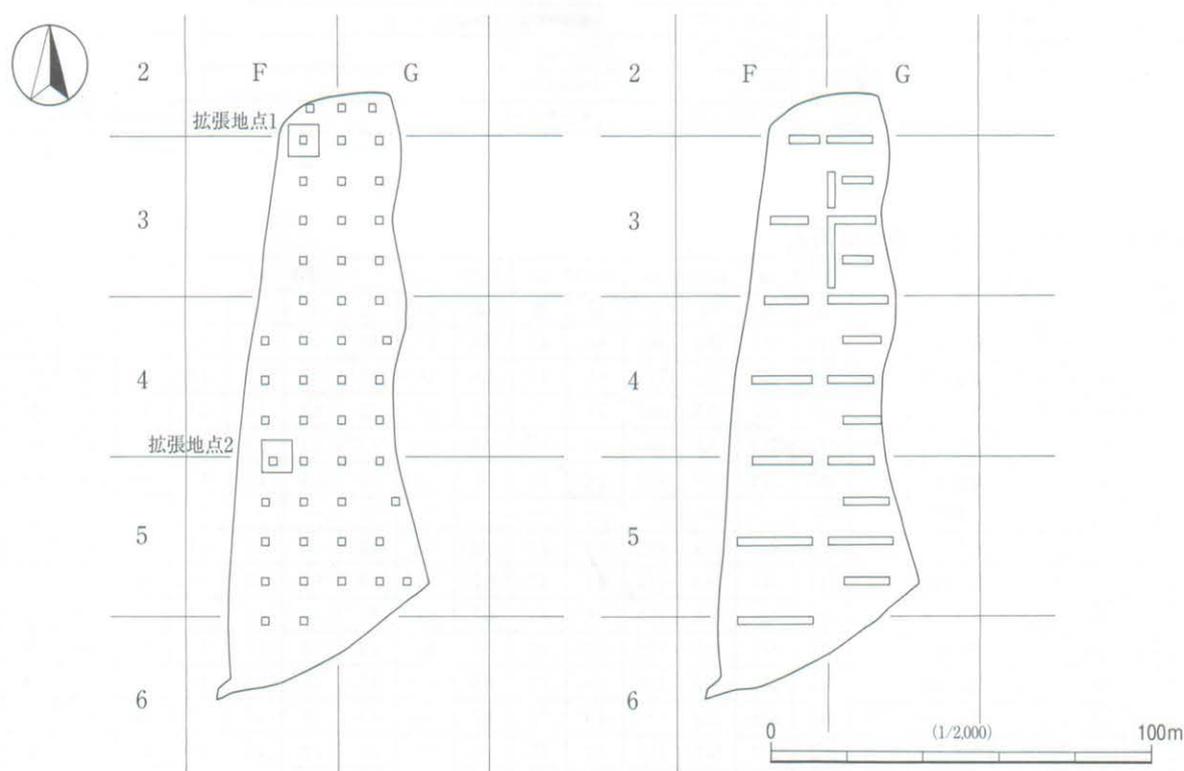
挿図番号	遺構	遺物番号	銭名	重さ(g)	縁外径(mm)		縁内径(mm)		郭外径(mm)		郭内径(mm)		縁厚(mm)				内面厚(mm)			
					縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	上	右	下	左	右上	右下	左下	左上
					32 1	SK-011	1	寛永通寶	2.98	22.6	22.8	18.4	18.5	6.6	6.1	5.0	5.1	1.3	1.3	1.3
32 2	SK-011	1	寛永通寶	3.22	24.0	23.9	19.3	19.3	6.6	6.3	5.8	5.6	1.3	1.3	1.3	1.3	0.7	0.7	0.7	0.8
32 3	SK-011	1	寛永通寶	2.60	23.5	23.5	19.5	19.5	7.4	7.5	6.5	6.6	1.2	1.2	1.2	1.1	0.7	0.7	0.7	0.7
32 4	SK-011	1	寛永通寶	3.27	24.2	24.2	19.6	19.6	6.9	6.2	5.4	5.3	1.3	1.3	1.3	1.4	0.9	0.7	0.7	0.9
32 5	SK-011	1	寛永通寶	3.13	24.3	24.3	19.4	19.4	6.8	6.8	5.1	5.2	1.3	1.3	1.3	1.3	0.9	0.8	0.9	1.0
32 6	29T	1	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
32 7	10K-76	1	天□元寶	2.16	24.5	24.5	19.8	19.7	8.1	8.3	7.0	7.0	1.1	1.0	1.0	1.1	0.8	0.6	0.6	0.7
32 8	11K-65	1	寛永通寶	2.71	24.1	24.1	19.3	19.3	6.7	6.7	5.7	5.4	1.3	1.3	1.3	1.3	0.8	0.8	0.8	0.8
32 9	11K-92	1	寛永通寶	1.91	23.0	(22.4)	18.6	18.6	7.6	7.5	6.8	6.7	1.1	1.1	1.1	1.1	0.7	0.8	0.8	0.8
32 10	12K-14	1	寛永通寶	3.61	24.6	24.7	19.7	19.6	7.4	7.4	6.0	5.7	1.2	1.3	1.3	1.2	0.6	0.6	0.6	0.6
32 11	12K-14	1	寛永通寶	4.37	24.7	24.6	19.0	19.0	7.0	7.0	5.5	5.6	1.5	1.6	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0
32 12	12K-14	1	寛永通寶	3.25	24.0	23.9	19.3	19.4	7.0	7.0	5.7	5.6	1.3	1.3	1.3	1.3	0.8	0.8	0.8	0.9
32 13	12K-14	1	寛永通寶	2.00	20.8	20.7	16.7	16.6	7.7	7.7	6.3	6.2	1.1	1.0	1.0	1.0	0.6	0.7	0.7	0.7
32 14	12K-14	1	寛永通寶	2.68	24.4	24.3	18.5	18.5	7.1	7.0	6.2	6.0	1.1	1.1	1.1	1.1	0.7	0.7	0.7	0.7
32 15	12K-14	1	寛永通寶	3.56	24.3	24.4	19.8	19.3	6.8	6.8	5.7	5.8	1.2	1.2	1.3	1.3	0.8	0.8	0.9	0.8
32 16	12K-75	2	寛永通寶	2.23	23.6	(23.1)	19.2	19.3	7.6	7.6	6.6	6.6	1.1	1.1	1.1	1.1	0.6	0.7	0.7	0.7
32 17	12K-75	2	寛永通寶	2.27	23.0	22.9	18.0	17.9	7.2	7.2	6.0	6.0	1.2	1.2	1.2	1.2	0.7	0.7	0.7	0.7
32 18	12K-75	2	寛永通寶	2.68	24.3	24.2	19.2	19.2	6.7	6.7	5.8	5.5	1.2	1.2	1.2	1.2	0.7	0.7	0.8	0.7
32 19	12K-75	2	寛永通寶	1.88	24.3	24.2	18.4	18.4	7.2	7.0	6.2	6.1	1.0	0.9	0.9	1.0	0.6	0.6	0.7	0.7
32 20	12K-75	2	寛永通寶	3.13	24.4	24.3	18.7	18.6	7.2	7.1	6.1	5.9	1.4	1.4	1.4	1.5	0.9	0.8	0.8	0.9

第3章 大室石神遺跡

第1節 概要 (第3・33・35図, 図版19)

利根川に注ぐ根本名川の支流尾羽根川を北に望む、標高約32mの台地上に所在する。尾羽根川はこの地点で北から西へと流れを大きく変える。対岸には多くの遺跡が点在し、北北東1.3kmほどのところに成井原山向遺跡、東1.5kmほどのところに椎ノ木遺跡などがある。尾根をはさんで西へ700m行った所には神護景雲年間に開山したと伝わる円通寺がある。また本調査区の北側には近世の大室十三塚があり、平成7年に印旛郡市文化財センターによって調査されている。報告書によると、7号塚の盛土中からナイフ形石器が2点、縄文時代早期茅山下層式を中心とした時期の遺構・遺物、置きカマド2点を伴う平安時代の住居跡1軒が検出された。(『千葉県成田市大室十三塚 成田市大室・芝線道路改良予定地内埋蔵文化財調査』)

確認調査の結果、調査区の北側と中央東側で遺構が比較的まとまっていることが分かったため、これらの周辺について本調査を行った。調査区北側は尾羽根川を望む台地先端部にあたり、方墳と考えられる周溝1基と竪穴住居跡3軒、土坑1基が検出された。調査区中央東側からは竪穴住居跡2軒が検出されている。



第33図 下層・上層確認調査図

第2節 検出した遺構と遺物

旧石器時代

旧石器時代の確認調査は対象面積5,280㎡のうち316㎡について実施した。調査対象地域内に2m×2mの確認グリッドを49ヶ所設定した。確認調査によってローム層から旧石器時代の遺物が出土した2地点について周囲を確認した結果、石器出土分布に大きな広がりはなく、確認グリッドの拡張の範囲内で調査を終了した。

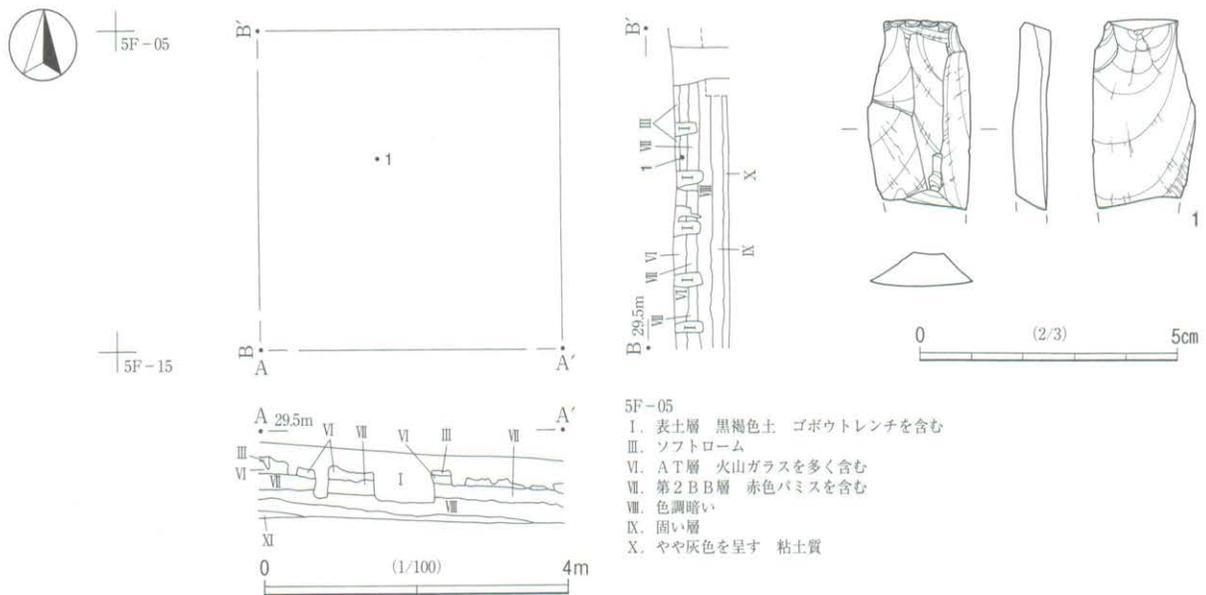
拡張地点1

調査区北端の3F-07グリッド周辺に位置する。V層中から焼礫が出土したため周囲を拡張したが、ほかに旧石器時代ととらえられる出土遺物はなかった。

拡張地点2 (第34図, 図版29)

調査区南西の5F-05グリッド周辺に位置する。VI層より剥片が出土したため周囲を拡張したが、ほかに旧石器時代ととらえられる出土遺物はなく単独の出土である。

出土した石器は珪質頁岩製の縦長剥片である。やや白みを帯びた灰色で先端部を欠損している。現存長3.5cm, 幅2.0cm, 厚さ0.75cm, 重さ5.94gである。

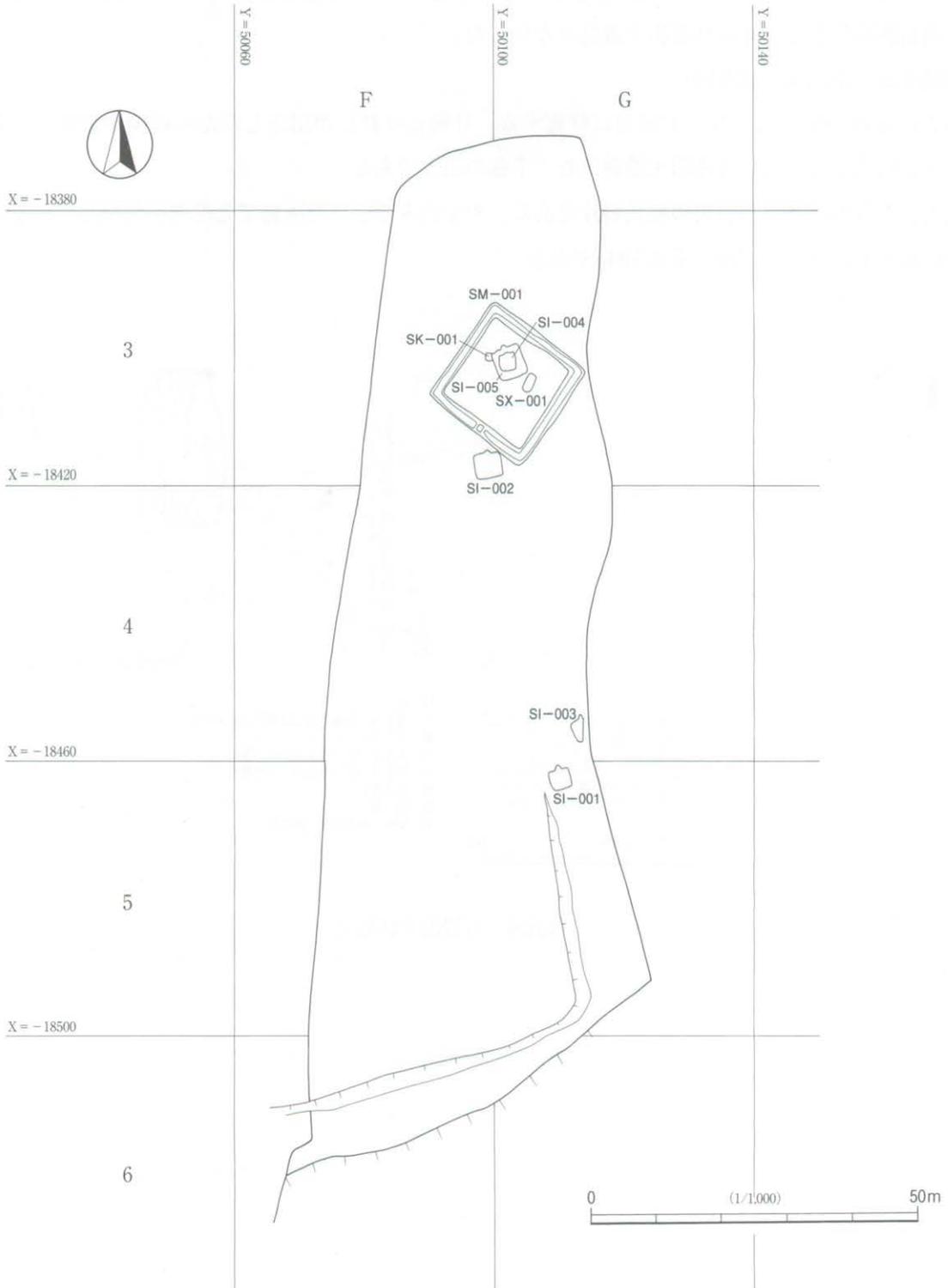


第34図 石器出土状況図

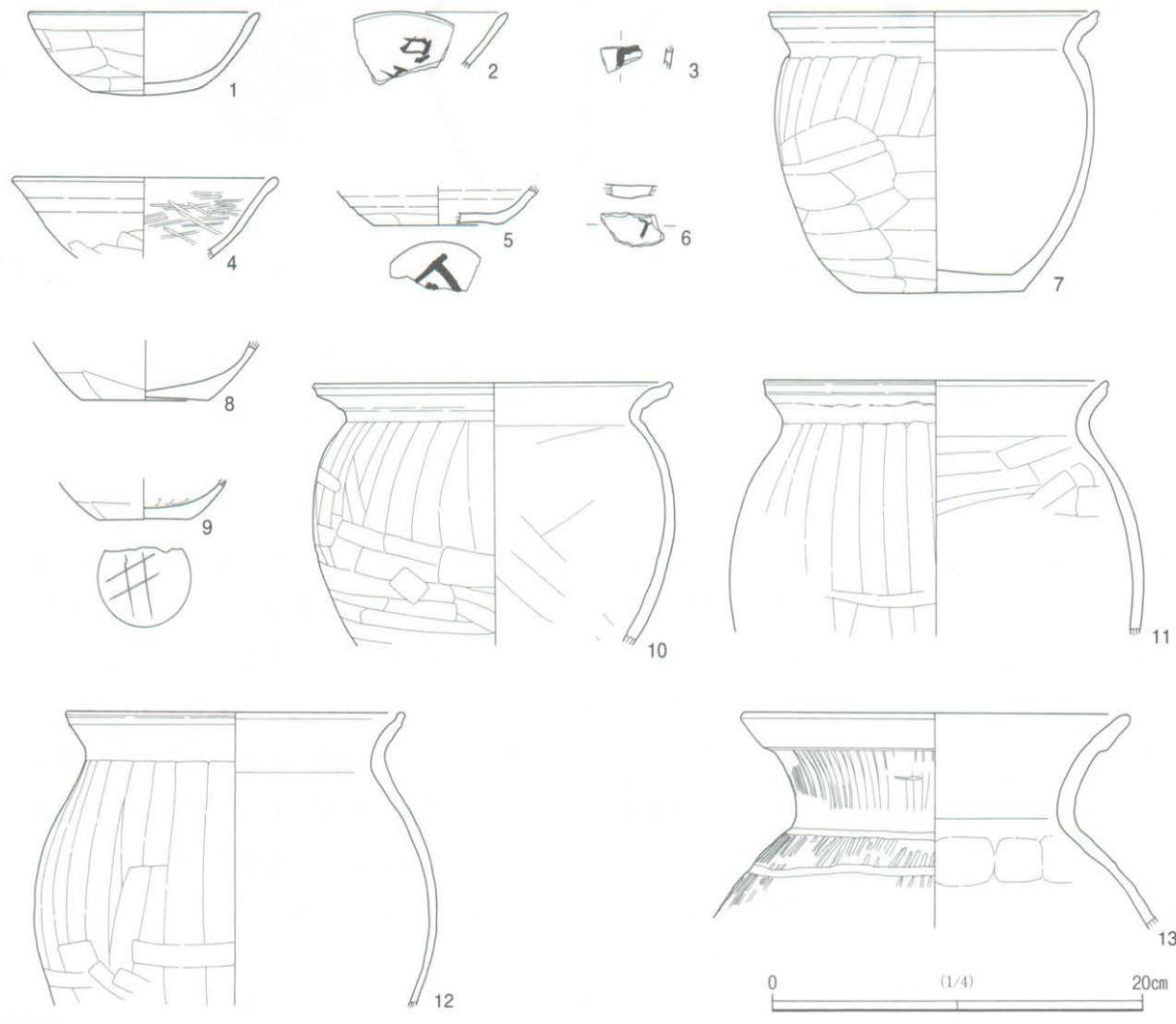
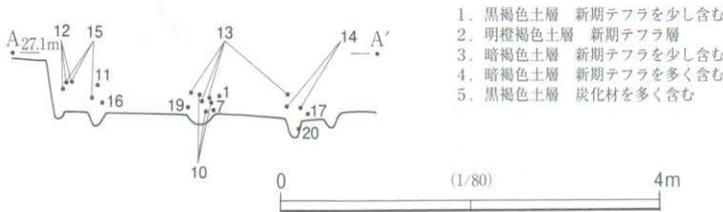
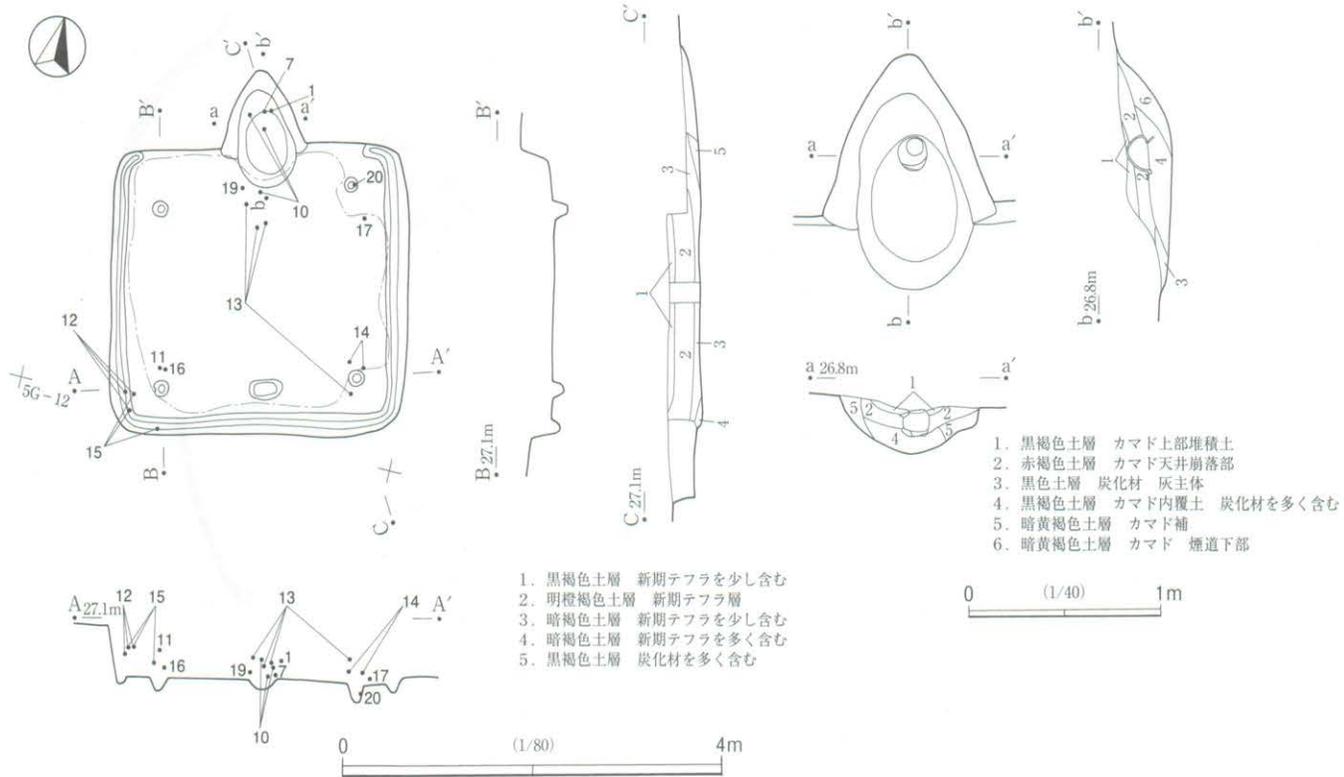
古墳時代以降

SI-001 (第36・37図, 第9表, 図版21・22・26・27)

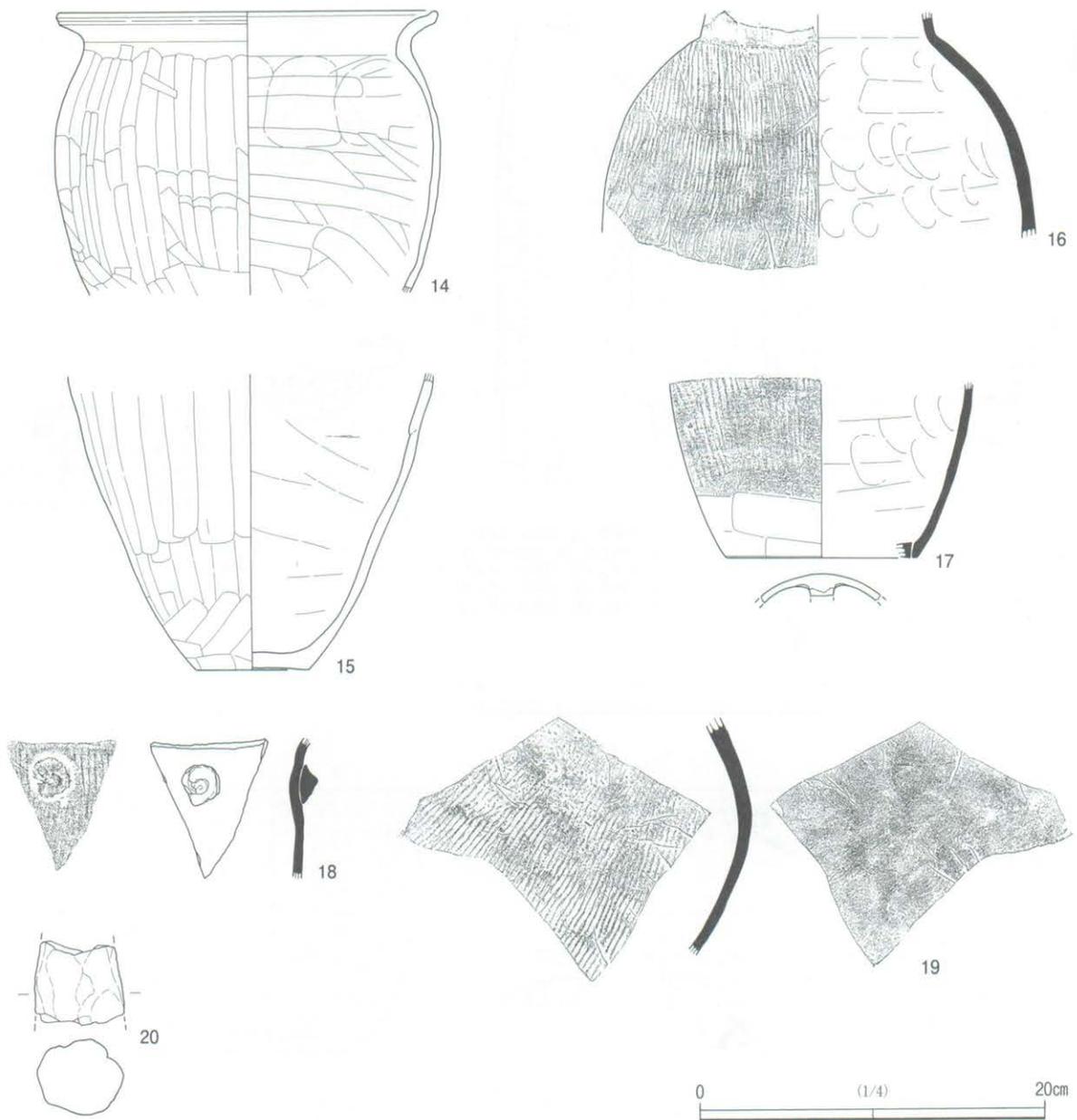
調査区の中央東側, 5G-02グリッド周辺に位置する。西から東へ緩やかに傾斜する斜面部にあたる。平面形は方形で, 主軸はN-13°-W, 規模は主軸長2.90m, 幅3.14mである。掘り込みは確認面から7.5~53.5cmである。カマドは北壁中央に付設される。ピットは主柱穴4基と出入口ピットが検出された。深さはP1が15.0cm, P2が18.1cm, P3が12.7cm, P4が15.9cm, P5が18.7cmである。周溝は北壁で途切れ, 深さ6.2~10.0cmである。床面は四隅を除いて踏み固められている。



第35図 上層遺構配置図

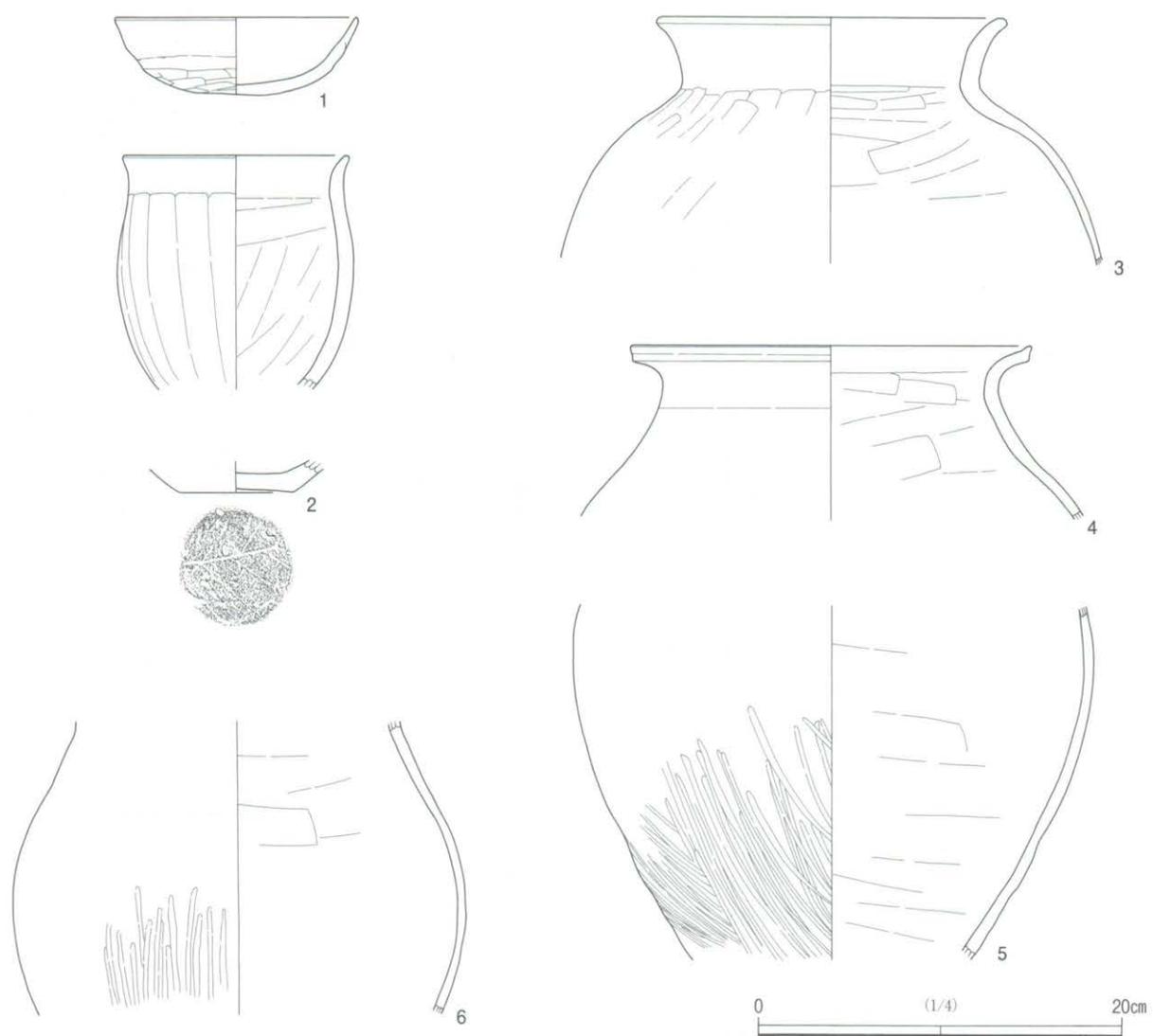
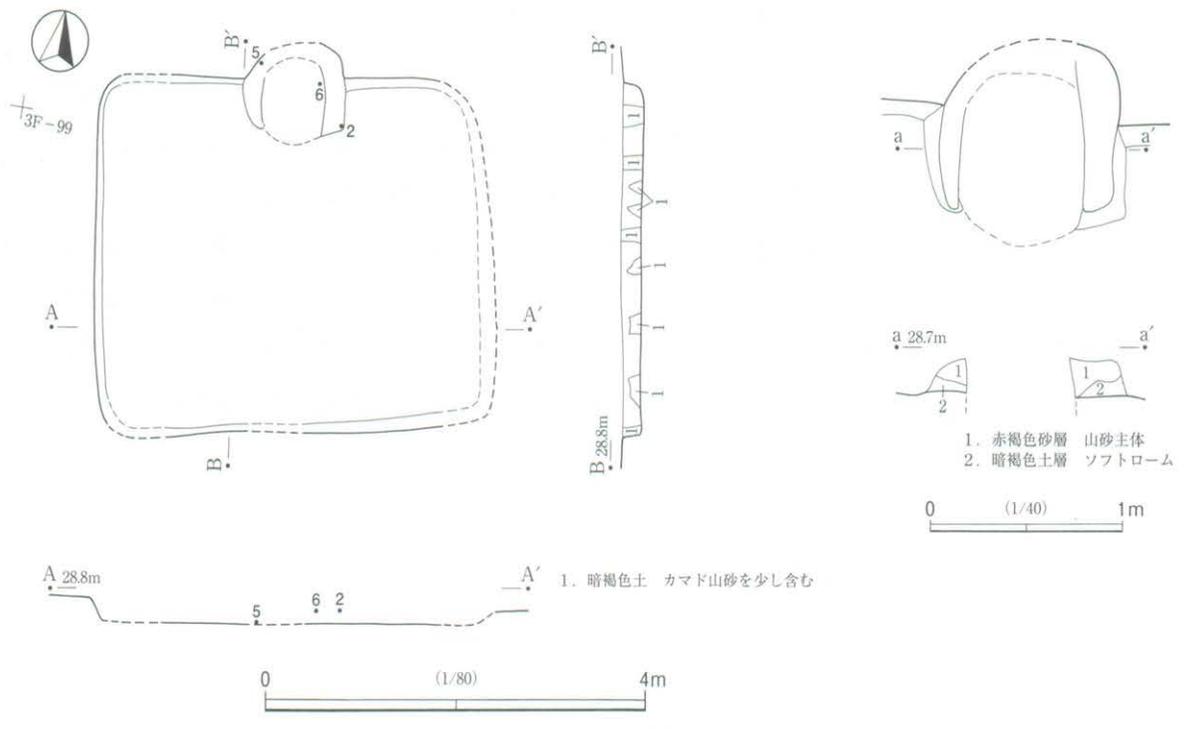


第36図 SI-001・出土遺物(1)



第37図 SI-001出土遺物（2）

遺物はカマド内から小型甕が倒立した状態で検出されたほか、墨書土器、土師器杯・甕、須恵器甕・甕、支脚などが出土している。1～6は土師器の杯で、1は体部外面にヘラケズリが施される。2・3は体部外面、5・6は底部外面に墨書がみられるが、いずれも破片のため文字の判読はできない。4は内面にミガキが施される。7～15は土師器の甕である。7・10～12の口唇部はつまみ上げるように作られ、胎土・成形ともほぼ類似している。8・9は甕の底部で、9の底部外面には「井」の線刻がみられる。13は外面にタタキが施され一見須恵器のようであるが、還元焼成されていないため土師器とした。14はほかの土師器と比べ器壁が薄く、口唇部のつまみ上げもやや弱い。16～19はタタキ目をもつ須恵器で16・19が甕、17・18は甕である。16は青灰色に近く焼成も良好である。19は灰色で外面に自然釉がみられる。17は五孔の甕であるが、灰褐色で焼成があまく胎土も脆い。18は外面に把手がつく。20は支脚の一部で、先端部・基部ともに欠損している。これらの遺物から本住居跡の時期は9世紀前半頃と考えられる。

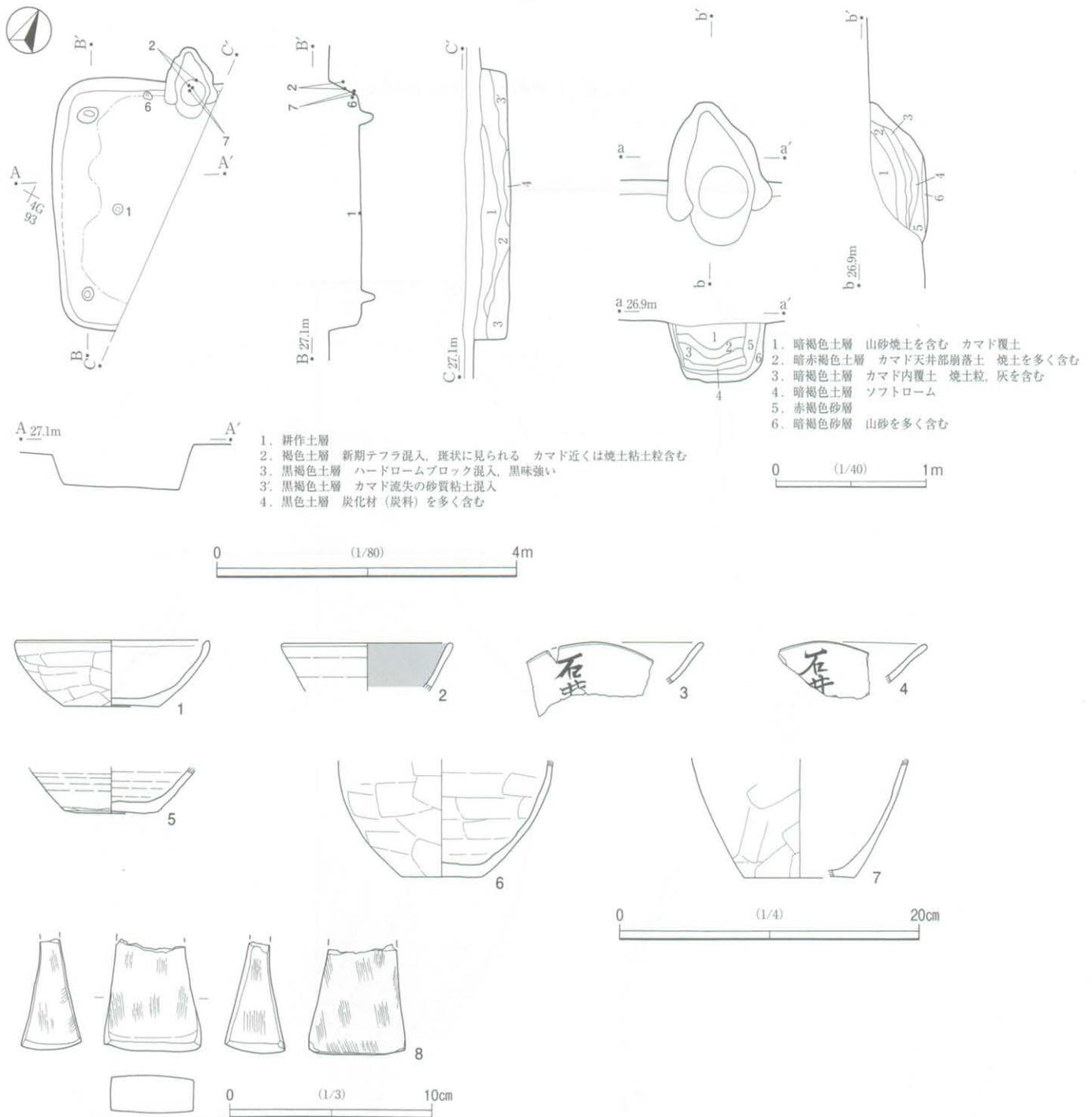


第38図 SI-002・出土遺物

SI-002 (第38図, 第9表, 図版22・27)

調査区北側SM-001の南, 3F-99グリッド周辺に位置する。トレンチャーによる攪乱が著しい。平面形は方形で, 主軸はN-9°-W, 規模は主軸長3.65m, 幅4.24mである。掘り込みは確認面から10.5~25.5cmである。カマドは北壁中央に付設される。ピット, 周溝とも検出されなかった。

遺物はカマド周辺から土師器甕, 覆土中から土師器杯などが出土している。1は丸底の土師器杯で体部上位に輪積痕を残している。2はわずかに膨らんだ胴部から緩やかに外反する口縁部にいたる甕で, 同一個体と思われる底部には木葉痕がみられる。3は球形の胴部に肥厚して外反する口縁部がつく甕, 4~6は常総型の甕である。これらの遺物から本住居跡の時期は7世紀中葉~後半と考えられる。



第39図 SI-003・出土遺物

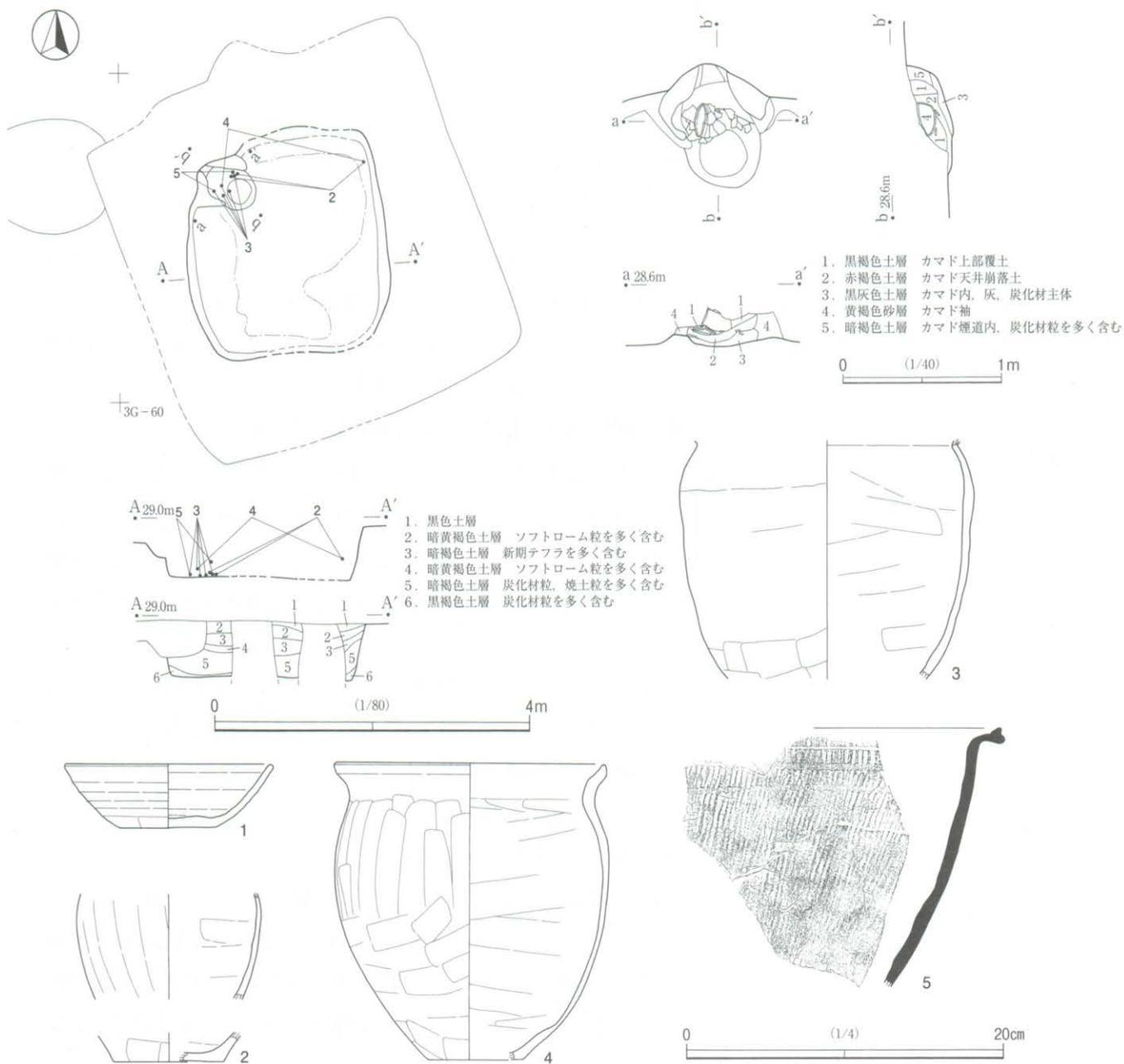
SI-003 (第39図, 第9表, 図版22・23・27・28)

調査区の中央東側, 4G-83グリッド周辺に位置する。東側は調査区外のため検出できなかった。平面形は方形で, 主軸はN-26°-W, 規模は主軸長3.20m, 幅は不明である。掘り込みは確認面から34.7~41.7cmである。カマドは北壁中央に付設される。ピットは主柱穴が2基で, 深さはP1が18.2cm, P2が19.6cmである。周溝は巡らない。床面西側中央付近から炭化材と焼土が検出された。

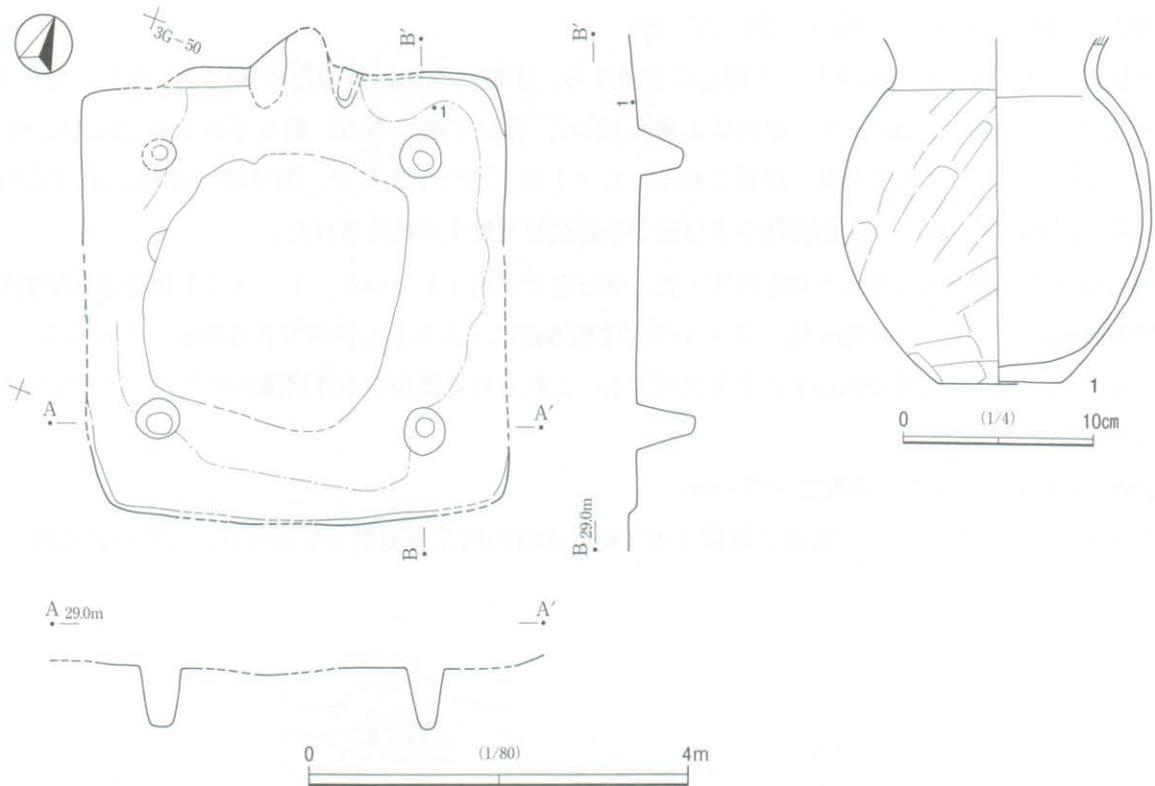
遺物はカマド周辺や床面から土師器の杯・甕, 砥石などが出土している。1~5は土師器の杯である。1は体部外面にヘラケズリを施す杯, 3・4は口縁部外面に「石井」と判読できる墨書がみられる。6・7は土師器甕, 8は砂岩製の砥石で上半を欠損する。これらの遺物から本住居跡の時期は9世紀前半頃と考えられる。

SI-004 (第40図, 第9表, 図版23~25・28)

調査区北側, 3G-50グリッド周辺に位置する。SM-001の墳丘を削平して造られたと思われるSI-005



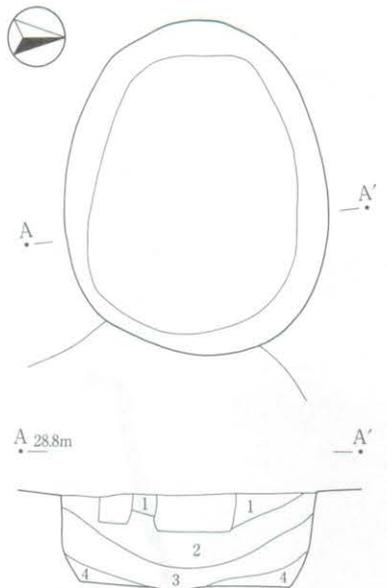
第40図 SI-004・出土遺物



第41図 SI-005・出土遺物

に重なっている。平面形は方形で、主軸はN-5°-W、規模は主軸長2.72m、幅2.53mである。掘り込みは確認面から22.5~33.9cmである。カマドは北西隅に付設され、ピット、周溝は検出されなかった。

遺物はカマドから集中して出土している。1はロクロ成形の土師器杯、2~4は土師器甕、5は須恵器のタタキ甕である。これらの遺物から本住居跡の時期は9世紀中頃と考えられる。



1. 黒褐色土層 新期テフラを含む
2. 暗褐色土層 ハードロームブロック1~2cm大を少し含む
3. 暗褐色土層 ハードロームブロック2~3cm大をやや多く含む。しまりなし
4. 暗褐色土層 ハードローム粒、ハードロームブロック2~3cm大を多く含む

0 (1/40) 1m

第42図 SK-001

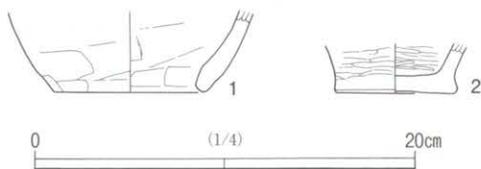
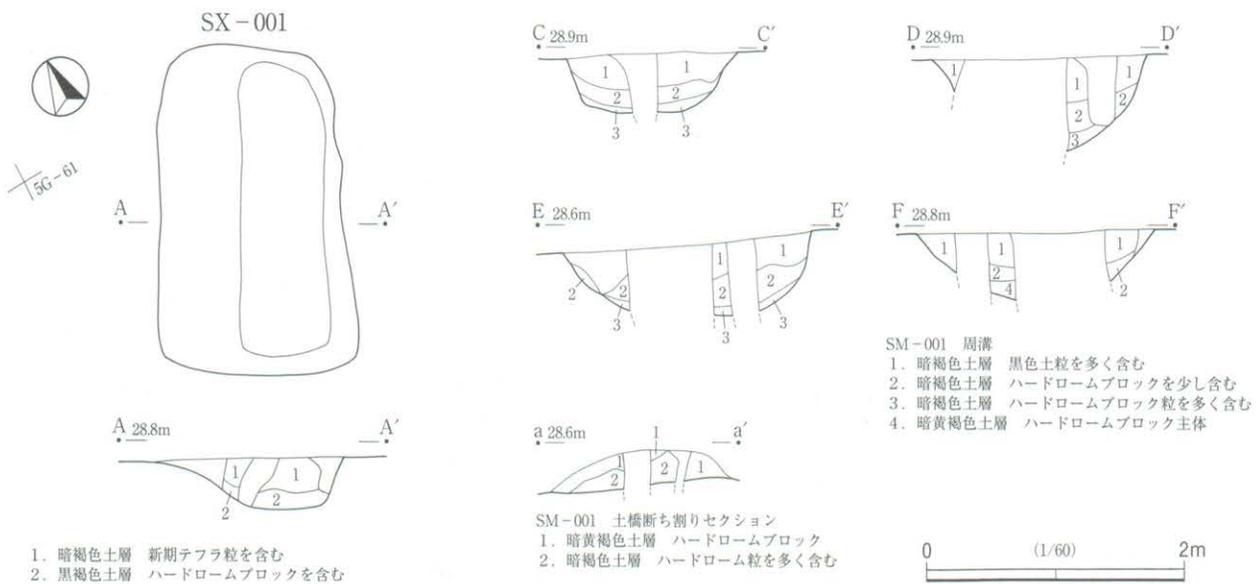
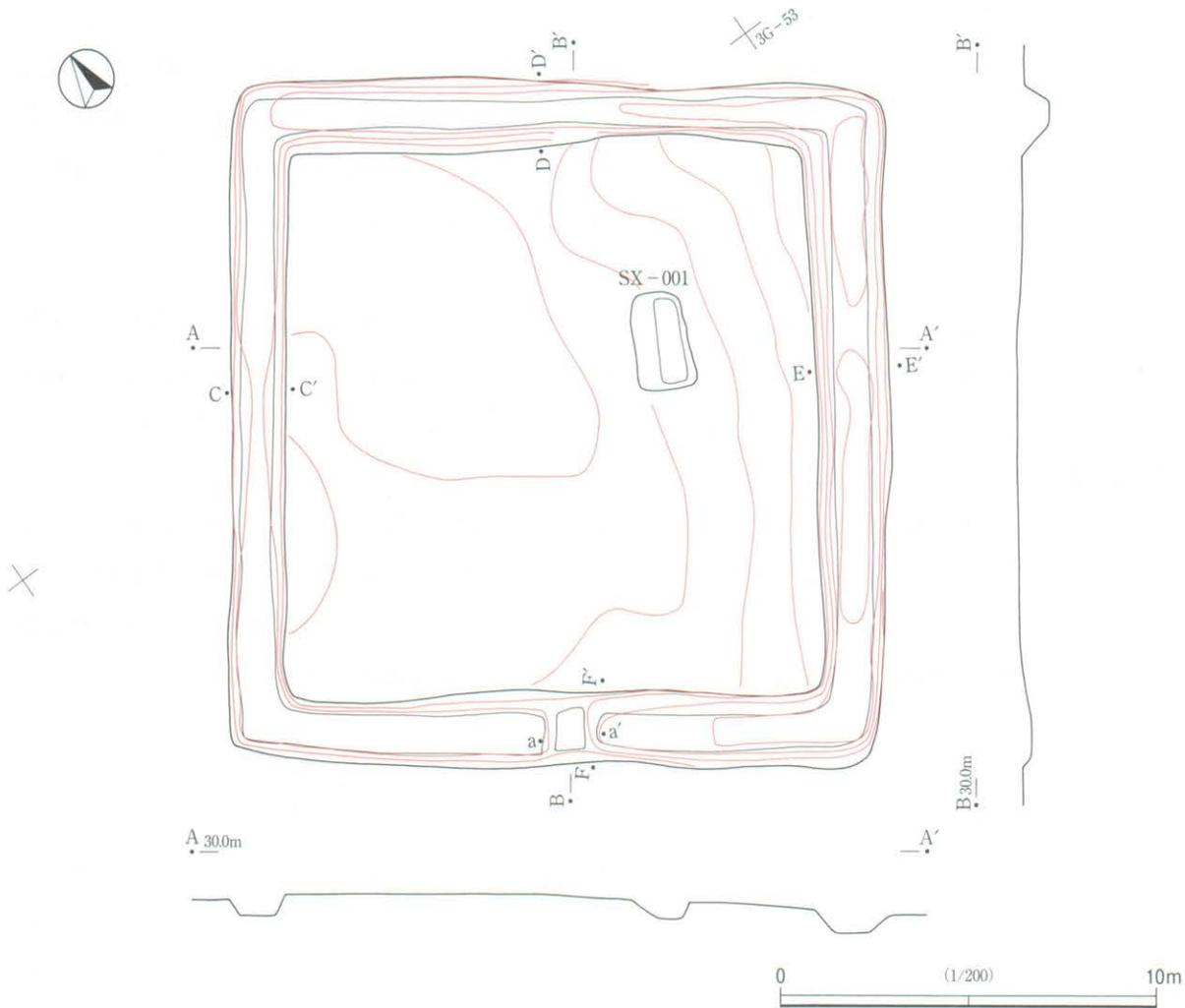
SI-005 (第41図, 第9表, 図版24・25・28)

調査区北側, 3G-50グリッド周辺に位置する。SM-001の墳丘を削平して造られたと思われる。床面中央をSI-004に切られる。トレンチャーによって攪乱を受けている。平面形は方形で、主軸はN-22°-W、規模は主軸長4.45m、幅4.40mである。掘り込みは確認面から2.8~10.8cmである。カマドは北壁中央に付設される。ピットは支柱穴が4基検出された。深さはP1が47.0cm, P2が57.7cm, P3が61.5cm, P4が38.6cmである。周溝は検出されなかった。

床面から土師器甕が出土している。球形の胴部と肩に弱い稜をもつ。7世紀後半頃か。

SK-001 (第42図, 図版25)

調査区北側, 3F-59グリッドに位置する。SM-001の墳丘上にあり, SI-005の北西隅と切り合う。平面形は楕円形で長軸1.69m、短軸1.39m、深さは38.7~48.3cmである。壁面は比較的緩やかに立ち上がる。出土遺物は小破片のみで、時期は確定できない。



第43図 SM-001・出土遺物, SX-001

SM-001 (第43図, 第9表, 図版19・20・28)

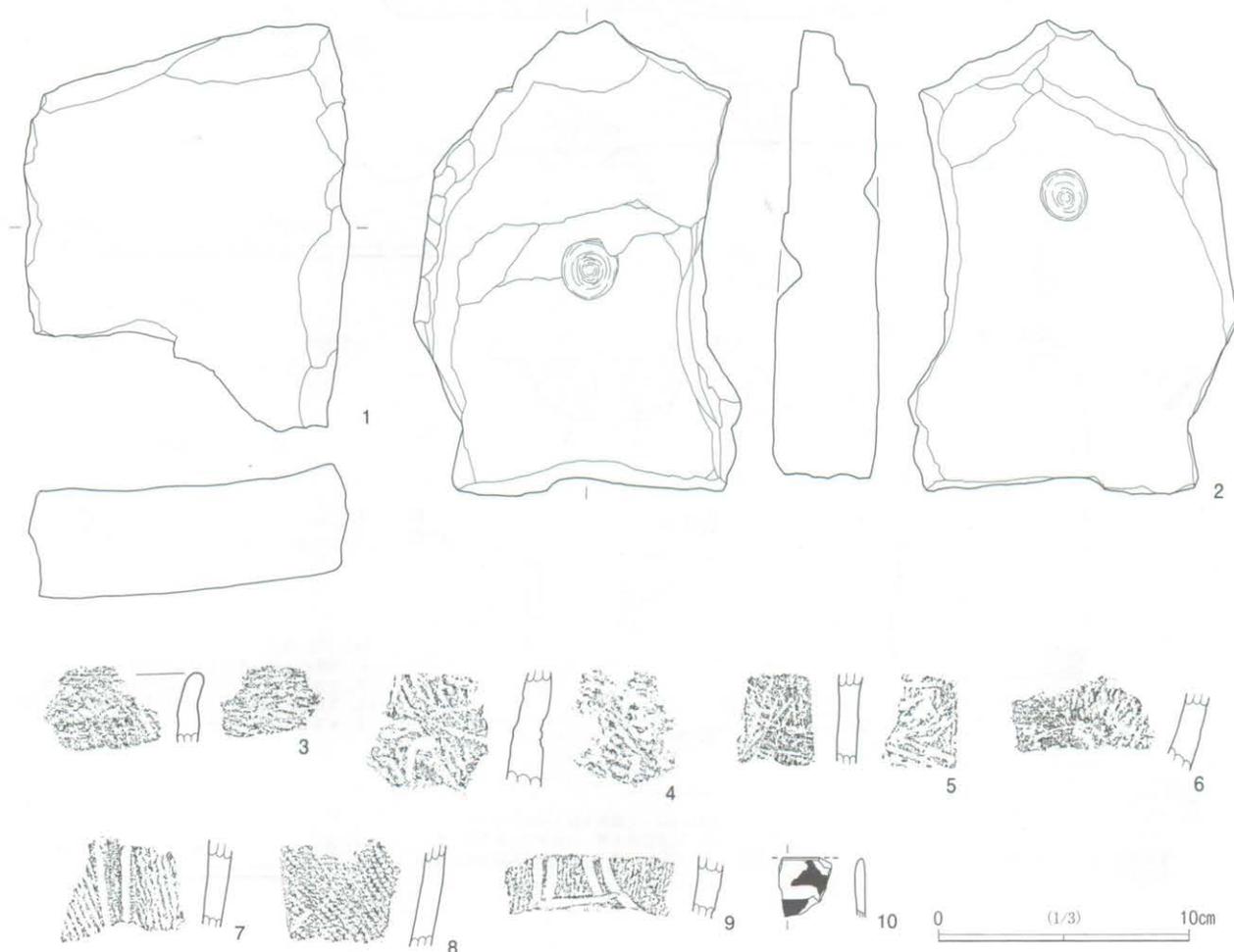
調査区北側, 3F-59グリッド周辺に位置する。平面形は方形で, 主軸はN-36°-E, 規模は主軸長17.6m, 幅17.7m, 周溝は幅平均1.5m, 深さ50cmである。南西溝中央に幅80cmの土橋を有する。墳丘の高さは30cmほどで盛土はほとんど失われている。主体部と思われる掘り込みSX-001が墳丘中央東寄りから検出されている。出土遺物は少なく, 土師器の甑と甕の底部のみで時期は確定できない。

SX-001 (第43図, 図版19・20)

SM-001の主体部と考えられる。墳丘の中央東寄りから検出された。平面形は南北に長い方形で, 主軸方向はN-28°-W, 規模は掘り込み上面で主軸長2.50m, 幅1.33m, 床面で主軸長2.13m, 幅0.65mを測る。深さは31.6~58.3cmである。床面は平坦だが攪乱が著しい。出土遺物は特になく, 時期の確定はできない。

遺構外出土遺物 (第44図, 第9~11表, 図版29)

1は砂岩製の台石と思われる製品で, 裏面に自然面を残す。表面は凹凸があり, わずかに湾曲している。所々割れているが, 上面と右側面下方を平らに加工している。2は粘板岩製の凹石で, 両面とも径2cmほどの窪みがみられる。3~9は縄文土器である。3~5は早期条痕文系, 6~9は中期加曾利E式期と思われる。10は土師器杯で外面に墨書がみられるが, 破片のため文字の判読はできない。



第44図 遺構外出土土器・石器

第9表 大室石神遺跡 遺物観察表

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技 法	備 考
36	1	SI-001	土師器 杯	口径 12.6 底径 5.8 器高 5.2	95%	精緻砂質	内面 明赤褐 (5YR5/6) 外面 明赤褐 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ヨコナデ ヘラケズリ 底面 手持ちヘラケズリ	内外面摩滅 2次焼成
36	2	SI-001	土師器 杯	口径 (13.4) 底径 — 器高 (2.8)	口縁~体部 12%	精緻	内面 橙 (7.5YR6/6) 外面 橙 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ 底面	墨書 体部外面
36	3	SI-001	土師器 杯	口径 — 底径 — 器高 (0.5)	体部片	精緻	内面 内面 ぶい橙 (7.5YR7/4) 外面 ぶい橙 (7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ナデ 底面	内面黒色処理 墨書 体部外面
36	4	SI-001	土師器 杯	口径 (14.2) 底径 — 器高 (4.1)	口縁~体部 40%	精緻	内面 橙 (7.5YR6/6) 外面 橙 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ミガキ 外面 ロクロナデ ヘラケズリ 底面	
36	5	SI-001	土師器 杯	口径 — 底径 (7.0) 器高 (2.0)	体部~底部 20%	精緻	内面 橙 (7.5YR6/6) 外面 橙 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ ヘラケズリ 底面 回転糸切り	墨書 底部外面
36	6	SI-001	土師器 杯	口径 — 底径 — 器高 (0.7)	底部の小破片	精緻	内面 内面 ぶい褐 (7.5YR5/4) 外面 橙 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 糸切り 底面	墨書 底部外面
36	7	SI-001	土師器 甕	口径 17.7 底径 9.2 器高 14.5	95%	精緻	内面 橙 (5YR7/6) 外面 橙 (5YR7/6) 焼成 良好	内面 ナデ ミガキ 外面 ヘラケズリ ナデ 底面	内外面剥離
36	8	SI-001	土師器 甕	口径 — 底径 7.0 器高 (3.1)	底部100%	精緻砂質	内面 内面 ぶい赤褐 (5YR5/4) 外面 ぶい赤褐 (5YR5/4) 焼成 良好	内面 器面剥落 外面 ヘラケズリ 底面 ヘラケズリ	外面: スス
36	9	SI-001	土師器 甕	口径 — 底径 5.2 器高 (2.1)	底部70%	精緻	内面 内面 ぶい橙 (7.5YR6/4) 外面 橙 (5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ ミガキ 外面 ヘラケズリ 底面 ヘラケズリ	底部外面:線刻「井」
36	10	SI-001	土師器 甕	口径 (19.4) 底径 — 器高 (13.55)	口縁~ 胴部上半 30%	精緻砂質	内面 橙 (5YR6/6) 外面 橙 (7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ヘラケズリ 底面	
36	11	SI-001	土師器 甕	口径 (18.4) 底径 — 器高 (13.0)	口縁~ 胴部上半 10%	砂粒	内面 明赤褐 (5YR5/6) 外面 明赤褐 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 タテヘラケズリ 底面	
36	12	SI-001	土師器 甕	口径 (18.2) 底径 — 器高 (15.65)	口縁~ 胴部30%	精緻	内面 明赤褐 (5YR5/6) 外面 明赤褐 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 タテヘラケズリ 底面	
36	13	SI-001	土師器 甕	口径 27.0 底径 — 器高 (11.3)	口縁~胴上半 50% 胴部下位10%	砂粒	内面 内面 ぶい赤褐 (5YR4/4) 外面 ぶい赤褐 (5YR4/4) 焼成 良好	内面 あて具痕 外面 タタキ 底面	
37	14	SI-001	土師器 甕	口径 (21.9) 底径 — 器高 (15.7)	口縁~ 胴部上位 10%	精緻砂質	内面 明赤褐 (5YR5/6) 外面 明赤褐 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 タテヘラケズリ 底面	
37	15	SI-001	土師器 甕	口径 — 底径 (6.6) 器高 (16.3)	胴部~底部 30%	精緻砂質	内面 明赤褐 (5YR5/6) 外面 赤褐 (5YR4/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 輪積痕 外面 ヘラケズリ 底面 ヘラケズリ	内面: スス 底部周辺スス付着 内面剥離
37	16	SI-001	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 (12.3)	頸部~胴部 25%	精緻	内面 灰 (10Y5/1) 外面 灰 (10Y5/1) 焼成 良好	内面 ヨコナデ アテ具後ヘラナデ 外面 ヨコナデ 平行タタキ 底面	
37	17	SI-001	須恵器 甕	口径 — 底径 (11.2) 器高 (9.5)	胴部~底部 25%	精緻	内面 灰オリーブ (7.5Y6/2) 外面 灰オリーブ (7.5Y6/2) 焼成	内面 アテ具後ヘラナデ 外面 平行タタキ ヘラケズリ 底面 ヨコヘラケズリ	五孔の甕か
37	18	SI-001	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 (7.8)	破片	精緻	内面 灰 (10Y6/1) 外面 灰 (10Y6/1) 焼成 良好	内面 アテ具痕 外面 平行タタキ 底面	17と同一個体か 把手1個あり
37	19	SI-001	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 (13.0)	胴部片	精緻	内面 灰オリーブ (7.5Y5/2) 外面 オリーブ灰 (10Y6/2) 焼成 良好	内面 同心円状のアテ具後丁寧なナデ 外面 平行タタキ 底面	外面: 自然軸
37	20	SI-001	支脚	長さ 4.7 幅 5.2 厚さ 4.2	中央部	砂粒を含む	内面 — 外面 橙 (7.5YR6/6) 焼成 やや不良	内面 外面 底面	上下を欠損
38	1	SI-002	土師器 杯	口径 13.4 底径 丸底 器高 4.0	50%	精緻	内面 明赤褐 (5YR5/6) 外面 明赤褐 (5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヨコナデ ヘラケズリ 外面 ヨコナデ 輪積痕残る ヘラケズリ 底面	内外面: スス付着
38	2	SI-002	土師器 甕	口径 (12.4) 底径 6.2 器高 (13.0)	40% 底部 100%	精緻	内面 明赤褐 (5YR5/6) 外面 赤褐 (2.5YR4/6) 焼成	内面 ヨコナデ 斜位ヘラナデ 外面 ヨコナデ 縦位ヘラケズリ 底面	2次焼成 摩滅大
38	3	SI-002	土師器 甕	口径 19.2 底径 — 器高 (12.9)	口縁~ 胴部上半40%	精緻	内面 明褐 (7.5YR5/6) 外面 明褐 (7.5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヨコナデ ヘラナデ 外面 ヨコナデ ヘラケズリ後ナデ 底面	
38	4	SI-002	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 — 器高 (9.2)	口縁~ 胴部上半12%	精緻砂粒を含む雲母	内面 灰黄褐 (10YR4/2) 外面 ぶい黄橙 (10YR6/4) 焼成 良好	内面 ヨコナデ ヘラナデ 外面 ヨコナデ ナデ 底面	常総甕 4・5同一個体か
38	5	SI-002	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 (18.9)	胴部30% 底部欠損	精緻砂質 雲母片含む	内面 灰黄褐 (10YR4/2) 外面 ぶい黄褐 (10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデ ミガキ 底面	常総甕 4・5同一個体か

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考		
38	6	SI-002	土師器	甕	口径 底径 器高	— — (15.9)	胴部25%	精緻 砂質 雲母片 含む	内面 外面 焼成	明赤褐 (5YR5/6) 明赤褐 (5YR5/6) 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ナデ ミガキ	常総甕
39	1	SI-003	土師器	杯	口径 底径 器高	12.9 6.4 4.3	100%	精緻	内面 外面 焼成	明赤褐 (5YR5/6) 明赤褐 (5YR5/6) 良好	内面 外面 底外面	ナデ ヨコナデ ヘラケズリ ヘラ整形	外面：スス付着
39	2	SI-003	土師器	杯	口径 底径 器高	11.4 — (3.1)	口縁～体部 30%	精緻	内面 外面 焼成	黒 (5YR1.7/1) 明赤褐 (5YR5/6) 良好	内面 外面 底外面	ミガキ ロクロナデ	内面黒色処理
39	3	SI-003	土師器	杯	口径 底径 器高	(12.8) — (3.6)	口縁～体部 20%	精緻	内面 外面 焼成	にぶい橙 (7.5YR7/4) にぶい橙 (7.5YR7/4) 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ	墨書「石井」体部
39	4	SI-003	土師器	杯	口径 底径 器高	(13.0) — (3.6)	口縁～体部 15%	精緻	内面 外面 焼成	にぶい橙 (7.5YR7/4) にぶい橙 (7.5YR7/4) 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ	墨書「石井」体部
39	5	SI-003	土師器	杯	口径 底径 器高	— (6.1) (3.0)	体部～底部 40%	精緻	内面 外面 焼成	橙 (5YR6/6) 橙 (5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ 手持ちヘラケズリ 回転糸切り	
39	6	SI-003	土師器	甕	口径 底径 器高	— 5.6 (7.5)	胴部～底部 80%	精緻	内面 外面 焼成	灰黄褐 (10YR4/2) 橙 (7.5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面	粗いヘラナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	内面：付着物 外面：スス付着 2次焼成
39	7	SI-003	土師器	甕	口径 底径 器高	— (7.4) (7.6)	胴部～底部 30%	精緻 砂粒	内面 外面 焼成	橙 (7.5YR6/6) 橙 (7.5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	外面：スス付着 2次焼成
39	8	SI-003	石製品	砥石	長さ 厚さ 幅	5.6 3.0 4.8							砂岩 重量86.29g
40	1	SI-004	土師器	杯	口径 底径 器高	(13.2) 6.0 4.9	25% 底部80%	精緻	内面 外面 焼成	にぶい橙 (7.5YR6/4) にぶい橙 (7.5YR6/4) 良好	内面 外面 底外面	ロクロナデ ロクロナデ 手持ちヘラケズリ 回転糸切り後手持ちヘラケズリ	
40	2	SI-004	土師器	甕	口径 底径 器高	— (7.0) (8.0)	胴部～底部 20%	精緻	内面 外面 焼成	にぶい橙 (7.5YR7/4) にぶい橙 (7.5YR7/3) 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラケズリ ナデ	
40	3	SI-004	土師器	甕	口径 底径 器高	— — (14.6)	胴部40%	精緻	内面 外面 焼成	明赤褐 (5YR5/6) 明赤褐 (5YR5/6) 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ナデ ヘラケズリ	2次焼成
40	4	SI-004	土師器	甕	口径 底径 器高	17.2 6.1 18.5	80%	精緻	内面 外面 焼成	にぶい赤褐 (2.5YR4/4) にぶい赤褐 (2.5YR4/4) 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヘラナデ ヨコナデ ヘラケズリ	外面：スス
40	5	SI-004	須恵器	甕	口径 底径 器高	— — (15.9)	破片	精緻	内面 外面 焼成	明褐 (7.5YR5/6) 明褐 (7.5YR5/6) 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ アテ具後ヘラナデ ヨコナデ 平行タタキ	
41	1	SI-005	土師器	甕	口径 底径 器高	— 6.6 (17.4)	頸部～底部 50%	精緻	内面 外面 焼成	明褐 (7.5YR5/6) にぶい赤褐 (2.5YR4/4) 良好	内面 外面 底外面	器面剥落 ヨコナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	内面：炭化物付着
43	1	SM-001	土師器	瓶	口径 底径 器高	— (8.0) (4.4)	底部～40%	砂質	内面 外面 焼成	にぶい黄橙 (10YR6/4) にぶい黄橙 (10YR6/4) 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラケズリ	
43	2	SM-001	土師器	壺	口径 底径 器高	— 6.0 (2.7)	底部～60%	精緻	内面 外面 焼成	にぶい黄橙 (10YR6/3) 明黄褐 (10YR6/6) 良好	内面 外面 底外面	ミガキ ミガキ ミガキ	弥生土器か 内外面：ヨコミガキ
44	10	遺構外	土師器	杯	口径 底径 器高	— — (2.4)	口縁の破片	精緻	内面 外面 焼成	炭黄褐 (10YR6/2) 炭黄褐 (10YR6/2) 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ	墨書 体部外面

第10表 大室石神遺跡 石器属性表

挿図番号	グリット・遺構	遺物番号	器種	石材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備 考
44	1	3G-53	1	台石	砂岩	15.7	13.0	5.2	1350
44	2	5G-01	1	凹石	粘板岩	18.0	13.2	4.2	1650

第11表 大室石神遺跡 縄文土器観察表

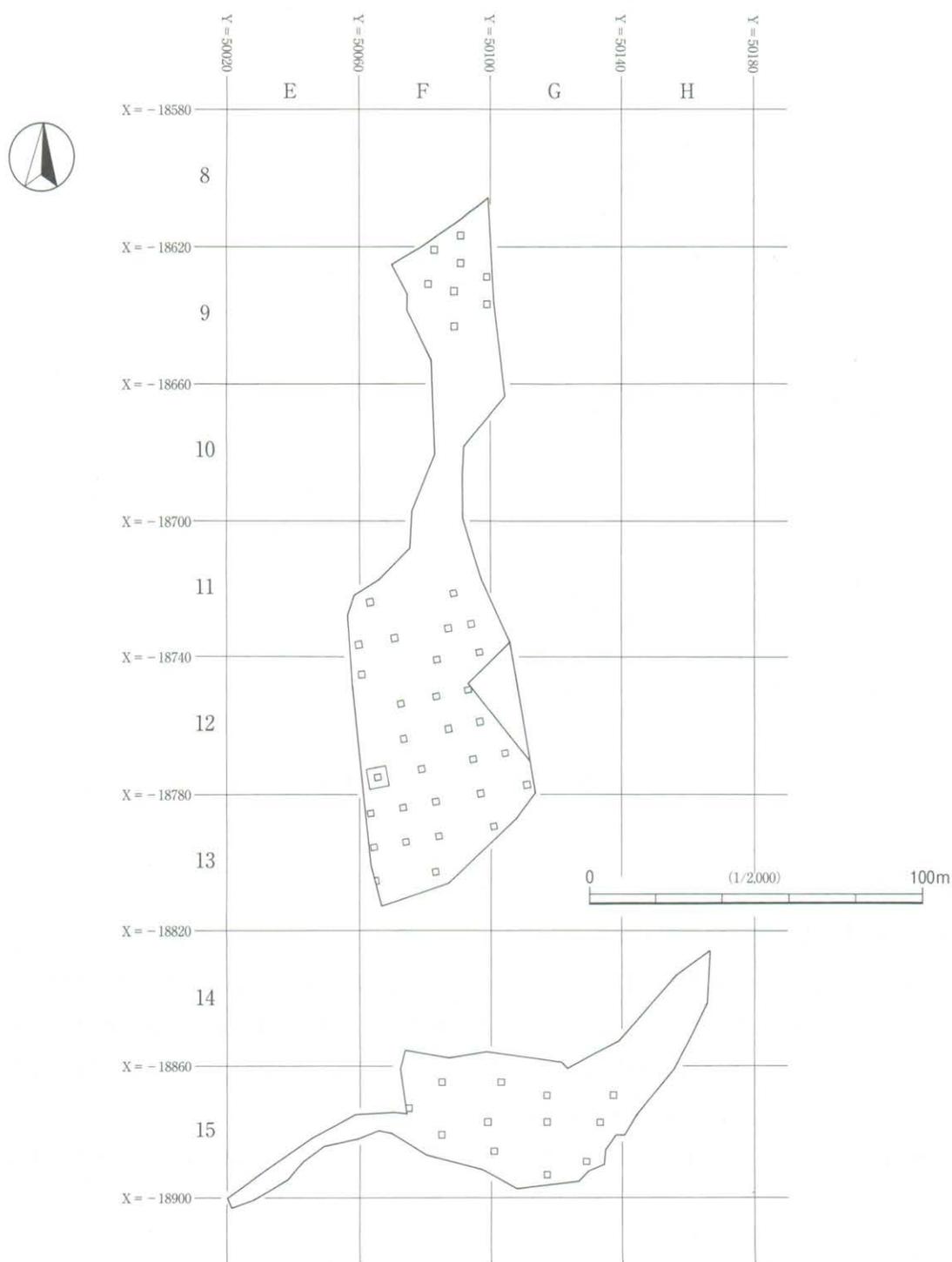
挿図番号	遺構番号	器種	色 調		胎 土	文 様	時 期	型 式	備 考	
			外面	内面						
44	3	SM-1	深鉢	暗灰褐色		繊維	条痕文	早期	条痕文系	口縁部
44	4	SI-2	深鉢	褐色		繊維	条痕文	早期	条痕文系	
44	5	SI-4	深鉢	黒褐色	黒色	繊維	条痕文	早期	条痕文系	
44	6	18トレンチ	深鉢	暗灰褐色	黒色	細砂多	撚糸 R	中期	加曽利 E	
44	7	3F-71	深鉢	明褐色	黒褐色	微細砂多	撚糸 R 沈線文	中期	加曽利 E	
44	8	4F-05	深鉢	褐色	黒色	微細砂多	複節LRL	中期		
44	9	4F-95	深鉢	明褐色	黒色	微細砂多	撚糸 L 沈線文	中期	加曽利 E	

第4章 芝向芝遺跡

第1節 概要 (第3・45~48図, 図版30・31)

尾羽根川を東に望む標高39m前後の台地縁辺部に所在し、大室石神遺跡とは小支谷をはさんで南北に向かい合う。調査地点は南北2地点に分かれる。芝向芝遺跡(2)は北側調査区の南東に位置する。

今回の調査では奈良・平安時代の住居跡2軒と中・近世の井戸跡・溝が検出された。また南側の小台地南端部では溝を伴う土塁とともに台地整形の痕跡や堀跡と思われる遺構も検出された。周辺地形との関連から中・近世の城跡に関係する遺構と考えられる。



第45図 下層確認グリッド配置図



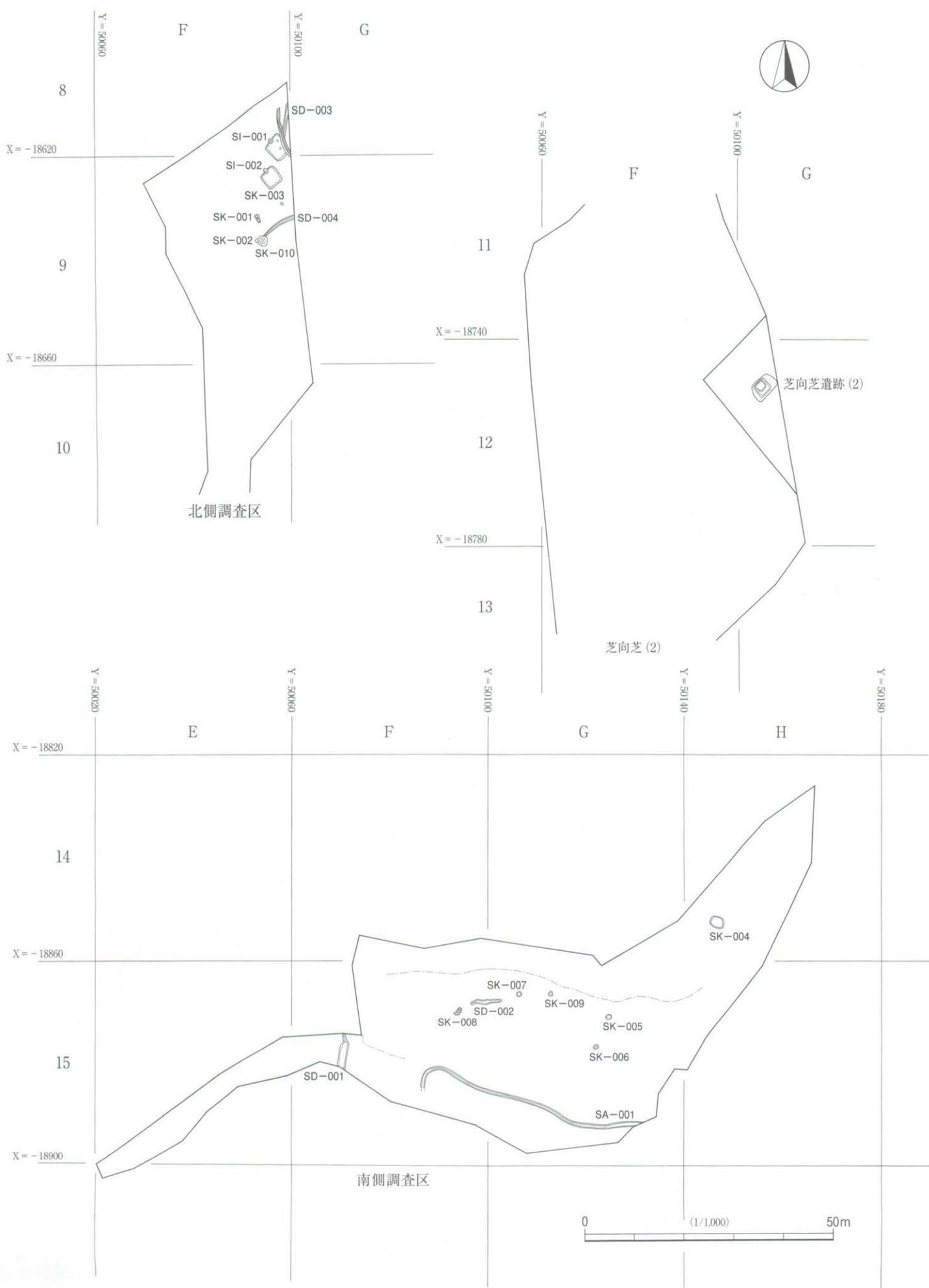
第46図 上層確認トレンチ配置図

第2節 検出した遺構と遺物

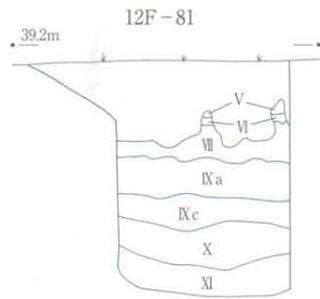
SI-001 (第49図, 第12表, 図版32・36)

北側調査区の北東, 8F-99グリッド周辺に位置する。東隅はSD-003に切られる。主軸はN-44°-Wで, 規模は主軸長4.20m, 幅3.88mである。掘り込みは確認面から0~23.5cmである。カマドは北壁中央に付設される。ピットは柱穴が2基検出された。深さはP1が27.5cm, P2が41.7cmである。周溝は深さ4.3~14.5cmで全周すると思われる。床面中央がよく踏み固められている。

遺物は床面から土師器高台付杯の底部が, 覆土中から墨書土器と土師器甕が出土している。1は土師器

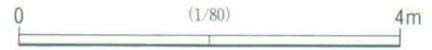
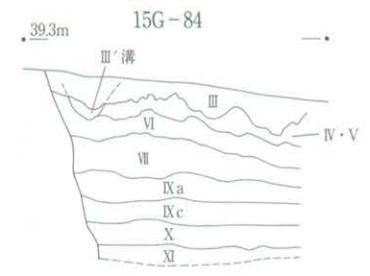
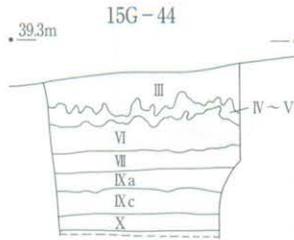
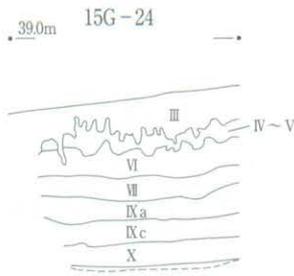


第47図 遺構配置図

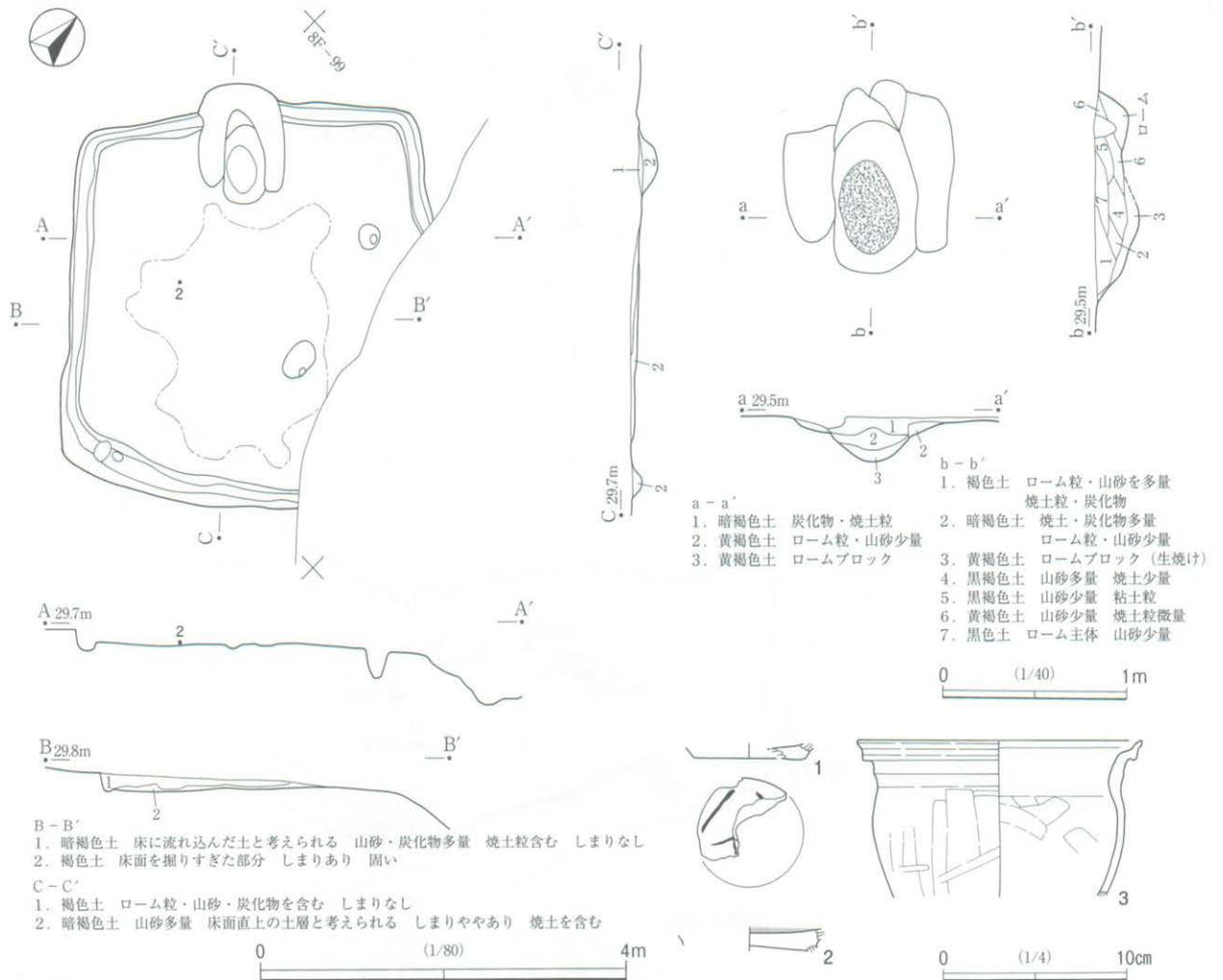


12F-81
 IV, V. 分層不可
 VI. 黄褐色 AT層
 VII. 褐色
 IXa. 褐色
 IXc. 褐色
 X. 褐色 赤みを帯びる
 XI. 灰褐色

15G-24・44・84
 III. 暗褐色 ローム粒・黒色土混入 炭化物含む
 III'. 暗褐色 SD-001に伴う溝の底部にあたり、ソフトローム層が入り込んでいる
 IV, V. 分層不可 黒色スコリア多
 VI. 明褐色 ロームブロック
 VII. 褐色 ロームブロック
 IXa. 灰褐色 粘土粒混入
 IXc. 灰褐色 暗い 粘土粒混入
 X. 灰褐色 赤みを帯びる
 XI. 灰褐色 柔らかい



第48図 基本土層

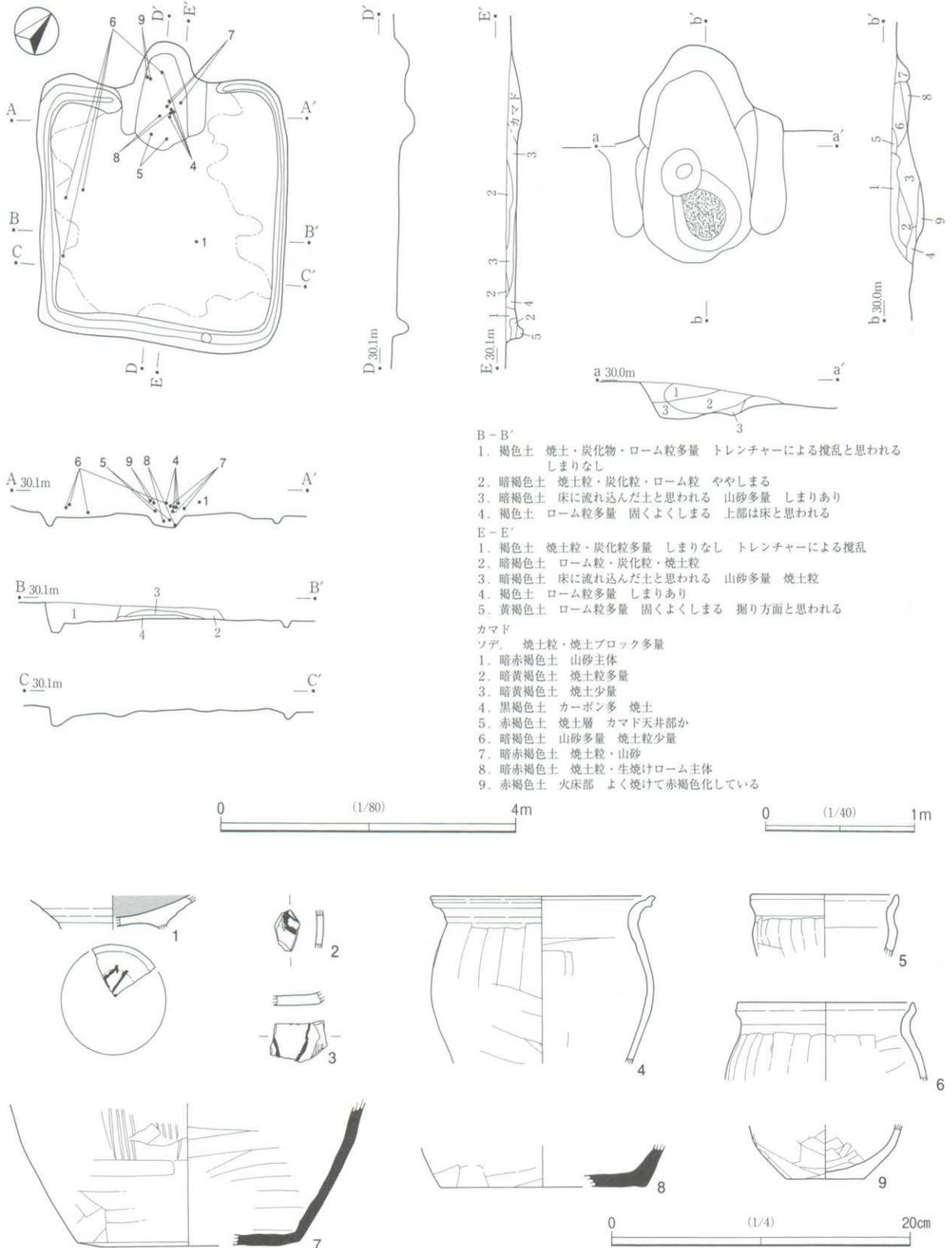


第49図 SI-001・出土遺物

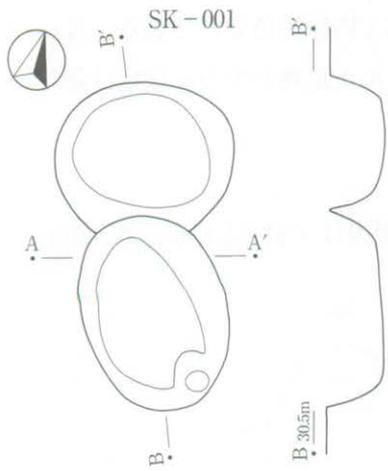
杯で、底部外面に墨書がみられるが判読はできない。2は高台付杯の底部で内面黒色処理される。3は口縁部に最大径をもつ土師器甕で、口唇部はつまみ上げるように作られる。出土遺物が少なく確定は難しいが、本住居跡の時期は9世紀中頃と思われる。

SI-002 (第50図, 第12表, 図版32・36)

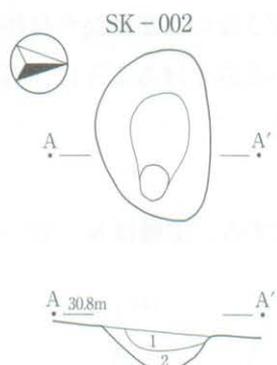
SI-001の南, 9F-08グリッド周辺に位置する。主軸はN-32°-W, 規模は主軸長3.45m, 幅3.30mで



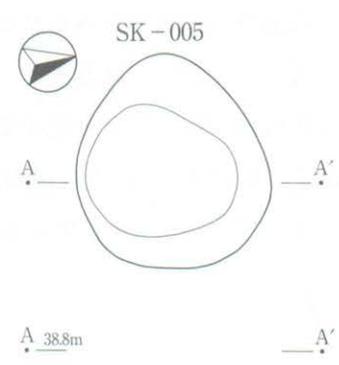
第50図 SI-002・出土遺物



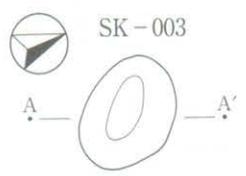
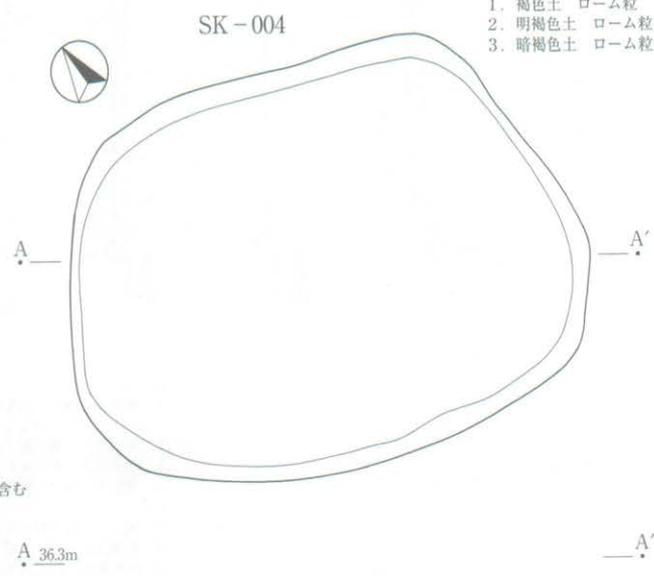
1. 暗褐色土 ローム粒少量
2. 褐色土 ローム粒
3. 黄褐色土 ロームブロック多



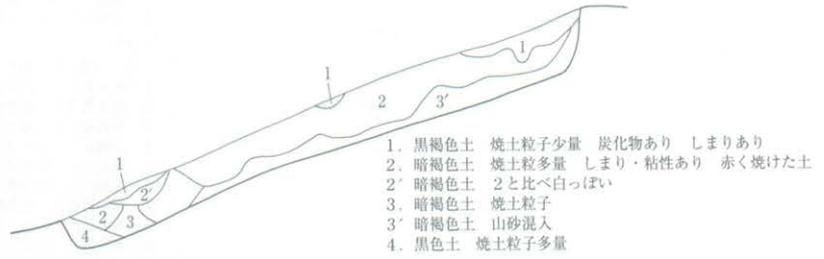
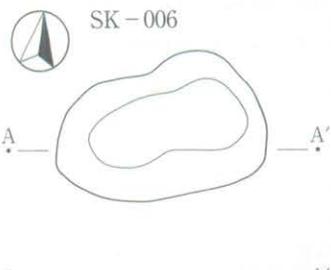
1. 暗褐色土 炭化粒・ローム粒少量
2. 褐色土 ローム粒多



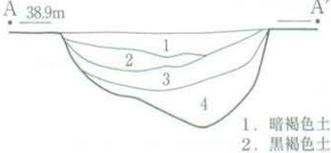
1. 褐色土 ローム粒
2. 明褐色土 ローム粒多量 固さはない
3. 暗褐色土 ローム粒少量 よくしまる



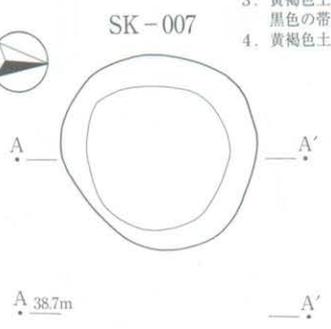
1. 暗褐色土 ローム粒を斑紋状に含む
2. 褐色土 ローム粒多量



1. 黒褐色土 焼土粒子少量 炭化物あり しまりあり
2. 暗褐色土 焼土粒多量 しまり・粘性あり 赤く焼けた土
3. 暗褐色土 2と比べ白っぽい
4. 暗褐色土 焼土粒子



1. 暗褐色土 ローム粒少量 しまりなし
2. 黒褐色土 炭化物・炭多量 しまりなし
3. 黄褐色土 中央～下部炭化物を多量に含み、黒色の帯のように見える
4. 黄褐色土 ローム層



1. 褐色土 ローム粒多量
2. 暗褐色土 黒色土を含む ぼそぼそしている
3. 黄褐色土 ロームブロック 固い



第51図 SK-001～SK-008

ある。掘り込みは確認面から3.1~33.6cmである。カマドは北壁中央に付設される。ピットは検出されなかった。周溝は全周し、深さ2.8~20.7cmである。床面は四隅を除いてよく踏み固められている。

遺物はカマド周辺から集中して出土している。1は土師器高台付杯で底部外面に墨書がみられる。2・3は土師器の杯で2は体部外面、3は底部外面に墨書がみられるが、いずれも小片で判読は難しい。4~6は土師器甕の口縁部、9は土師器甕底部、7・8は須恵器甕底部である。これらの遺物から本住居跡の時期は9世紀中頃と思われる。

SK-001 (第51図, 図版33)

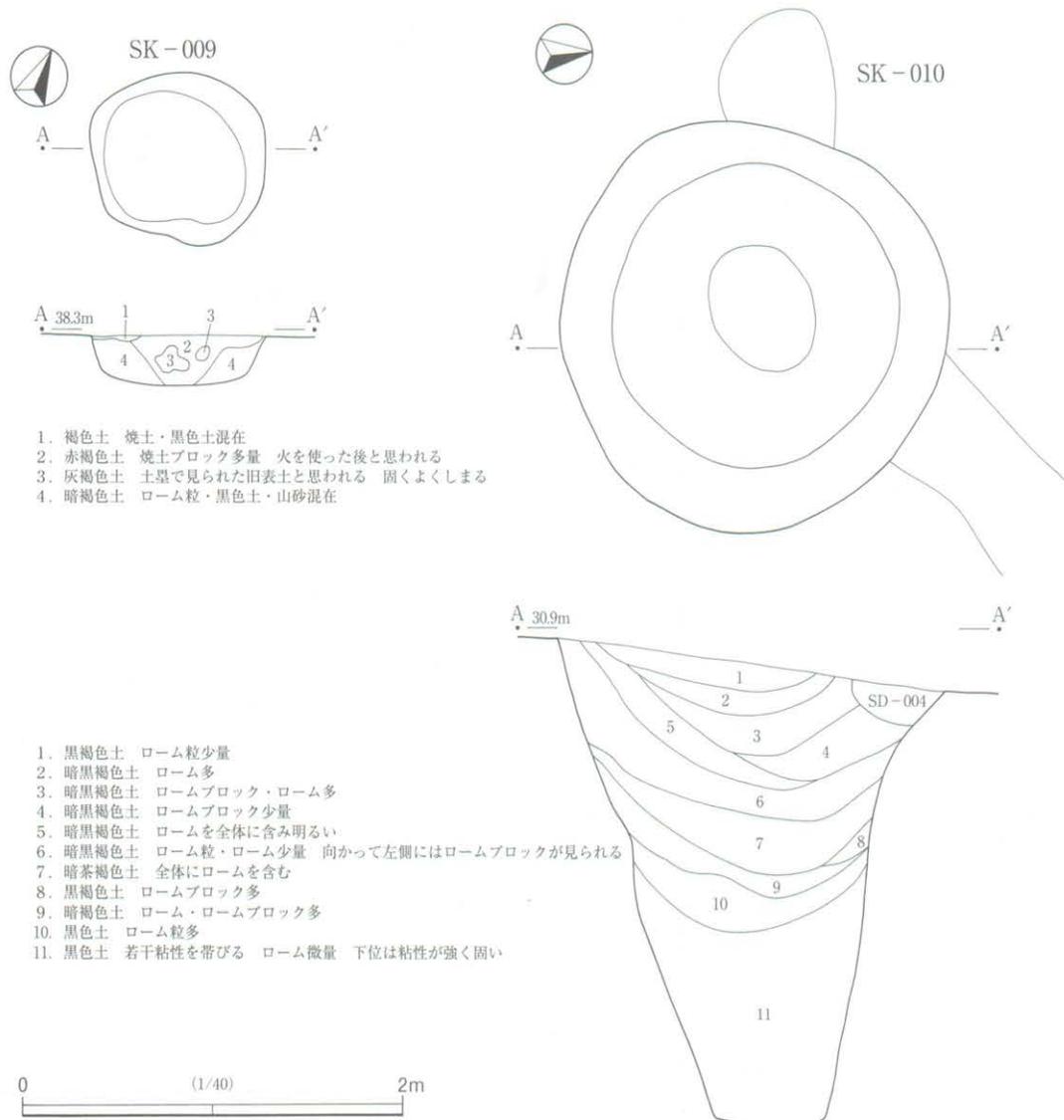
北側調査区の北, 9F-28・38グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸0.98m, 短軸0.83m, 深さ12.4~22.5cmである。北側にほぼ同じ深さの楕円形の掘り込みを伴うが、関連性は不明である。

SK-002 (第51図, 図版33)

北側調査区の北, 9F-28・38グリッドに位置する。東側はSK-010と重なり合う。平面形は楕円形で、長軸0.83m, 短軸0.60m, 深さ18.8~32.1cmである。床面東側に径10cm前後、段差9cm弱の窪みがみられる。

SK-003 (第51図, 図版33)

北側調査区の北東, 9F-29グリッドに位置する。平面形は長楕円形で、長軸0.60m, 短軸0.47m, 深さ



第52図 SK-009, SK-010

23.3~28.0cmである。

SK-004 (第51図, 図版33)

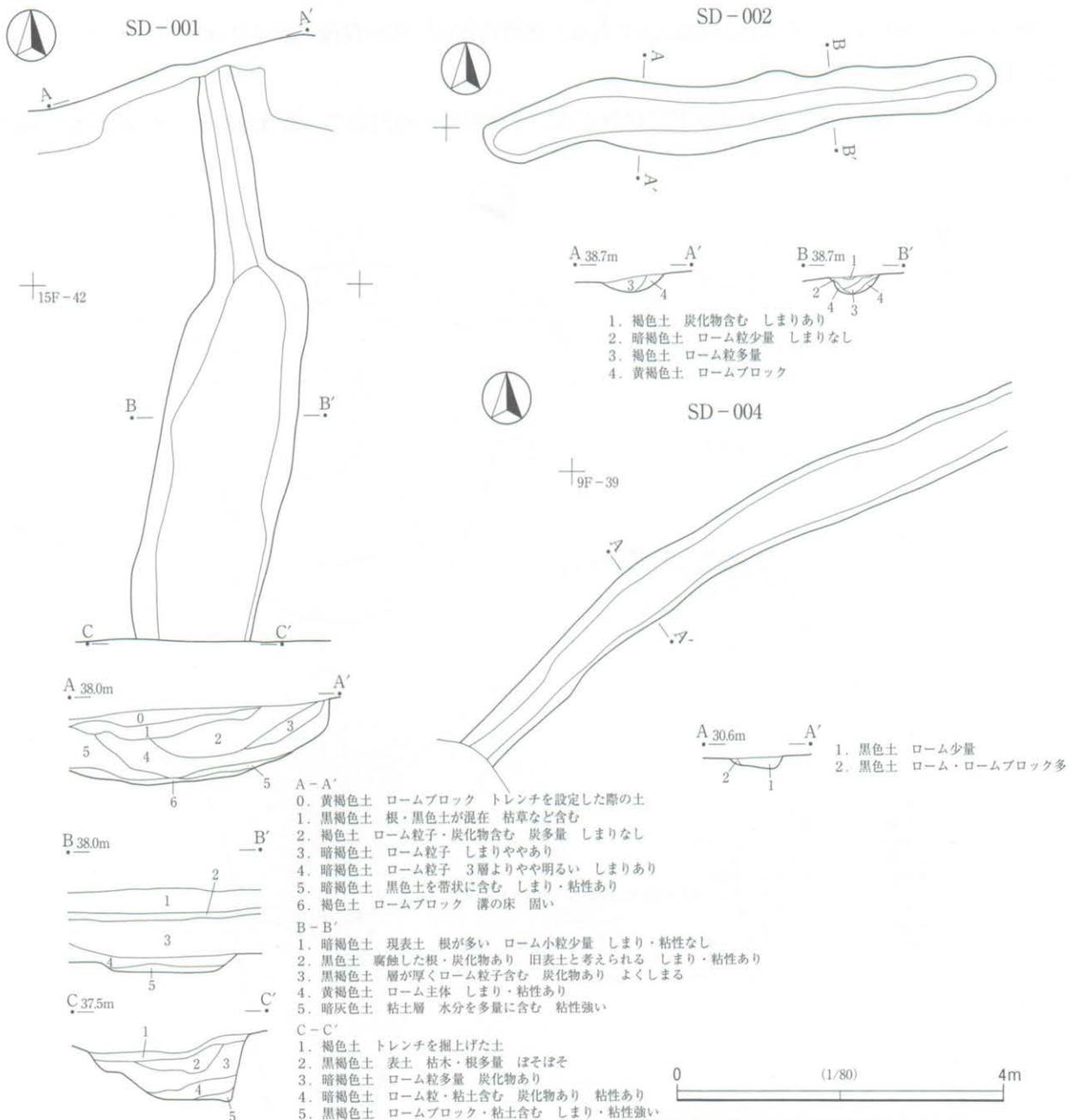
南側調査区の東, 14H-71・81グリッドに位置する。斜面部に造られており, 東から西へ1mほど傾斜している。平面形は不整四角形で, 長軸2.73m, 短軸2.05m, 深さ7.1~34.0cmである。

SK-005 (第51図, 図版33)

南側調査区中央やや東寄り, 15G-26グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸1.07m, 短軸1.00m, 深さ17.1~31.8cmである。

SK-006 (第51図, 図版33)

南側調査区SK-005の南, 15G-34グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸1.10m, 短軸0.70m, 深さ29.0~45.5cmである。



第53図 SD-001, SD-002, SD-004

SK-007 (第51図, 図版33)

南側調査区の北, 15G-10グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸1.00m, 短軸0.95m, 深さ22.8~32.8cmである。

SK-008 (第51図, 図版33)

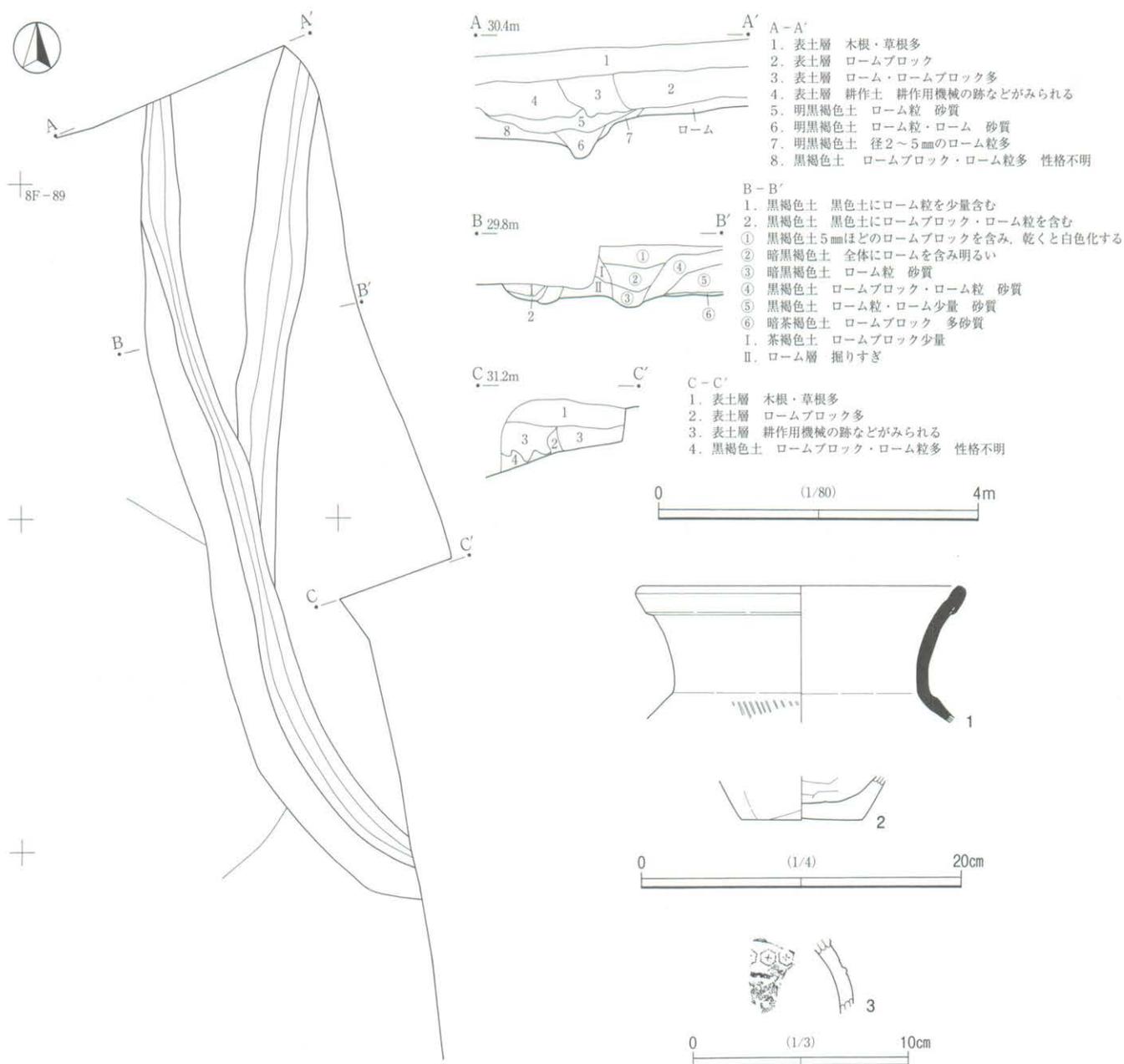
南側調査区の中央付近, 15F-28グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸1.56m, 短軸0.90m, 深さ23.6~30.3cmである。3基重なり合っているが, 深さはほぼ同じで段差はみられない。

SK-009 (第52図, 図版34)

南側調査区の北, 15G-13グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸0.90m, 短軸0.82m, 深さ21.5~23.7cmである。

SK-010 (第52図, 図版34)

北側調査区SD-004の西端, 9F-38・48グリッドに位置する。平面形は円形で, 長軸2.10m, 短軸2.07



第54図 SD-003・出土遺物

m, 深さ225.3~249.1cmである。底面は長軸0.67m, 短軸0.53mである。井戸跡の可能性はある。

覆土中から土器の小片が出土しているが, 図化できる遺物はなかった。

SD-001 (第53図, 図版34)

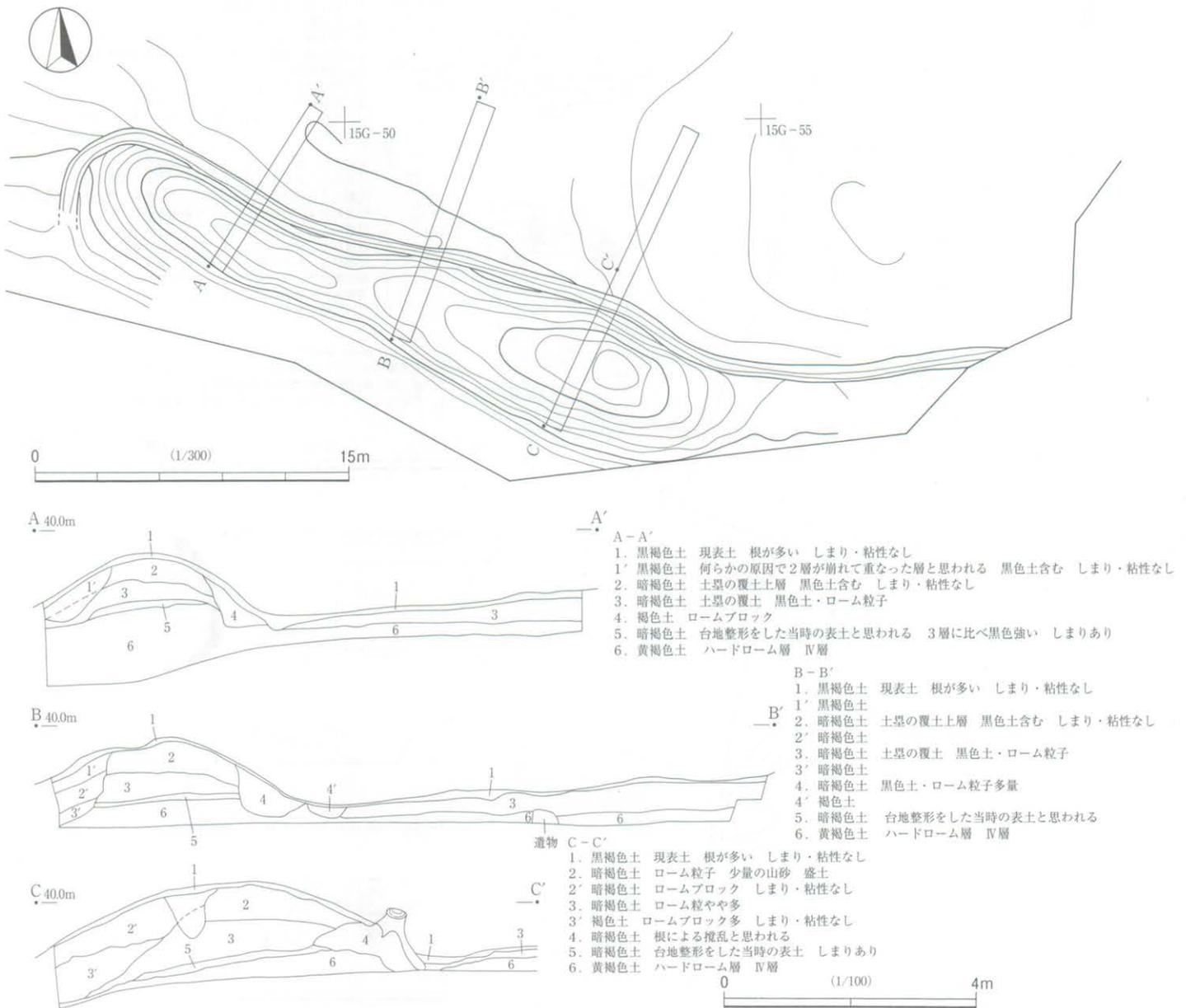
南側調査区の西, 15F-42グリッド周辺に位置する。南北方向へ直線的に伸び, 南北両端とも調査区外へと続いている。長さは検出面で6.6m, 北側で幅がせまく0.45m, 南側は1.65mと広い。深さは北端で3.7cm, 中央で17.0~29.9cm, 南端で16.3~23.2cmである。

SD-002 (第53図, 図版34)

南側調査区の中央北寄り, 15F-19グリッド周辺に位置する。東西方向へ直線的に伸びる。長さ6.3m, 幅0.6~0.8m, 深さは東端で10.8~16.6cm, 中央で12.7~18.8cm, 西端で12.7~17.1cmである。

SD-003 (第54図, 第12表, 図版35・36)

北側調査区の北東端, 8F-89グリッド周辺に位置する。南北方向へ伸び, 南側で緩やかに東へ向きを変え, 調査区外へと続く。北側は途中で二方向に分岐する。長さは検出面で10.45m, 幅0.55~0.95m, 深



第55図 土塁

さは北で1.3~24.3cm, 中央で21.0~46.8cm, 西端で10.7~19.4cmである。須恵器甕, 土師器甕, 肩に亀甲文と菊花文をもつ火鉢または香炉の中世陶器片が出土しているが, 遺構の時期は確定できない。

SD-004 (第53図, 図版34)

北側調査区の北, 9F-39グリッド周辺に位置する。南西から北東方向へ直線的に伸び, 北東端は調査区外へと続く。南西端はSK-010と重なり合う。長さは検出面で7.9m, 幅0.48~0.8m, 深さは北東で0.4~2.6cm, 南西で6.5~13.3cmである。

土塁 (第55図, 図版31)

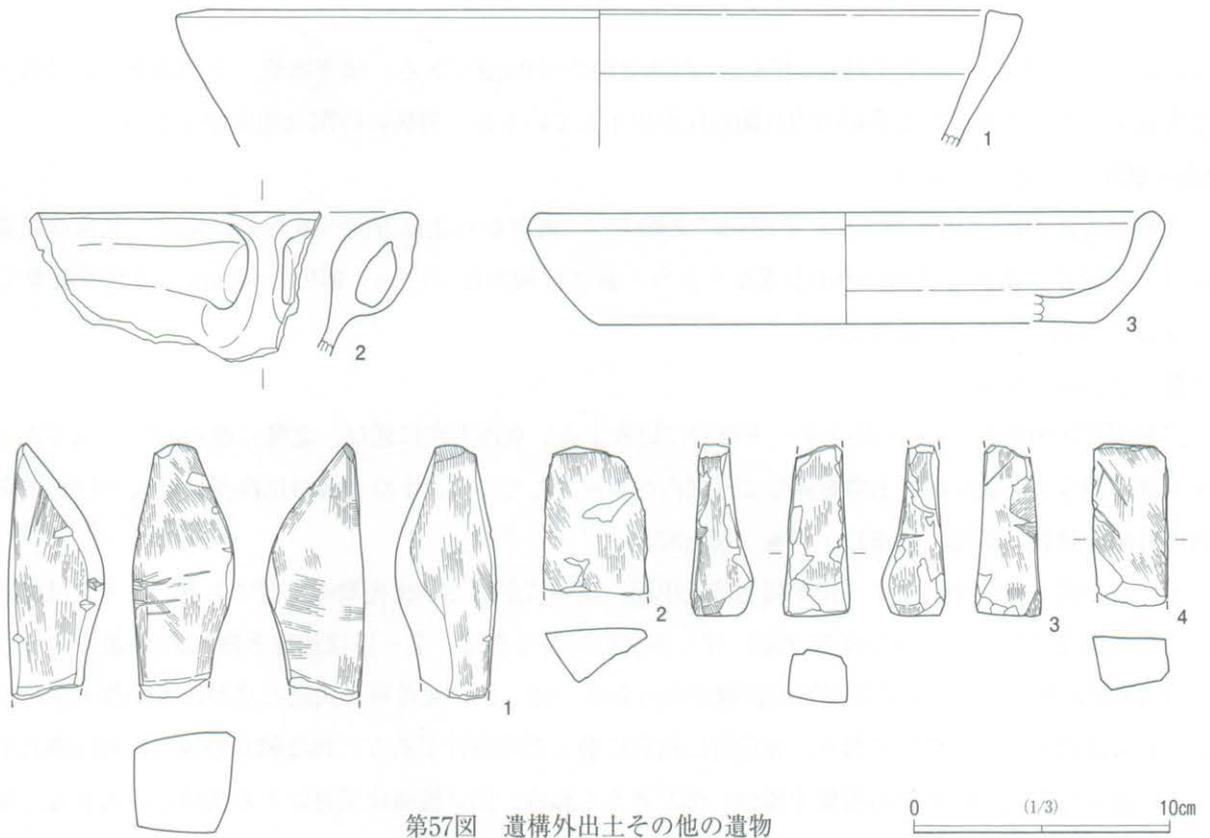
南側調査区の南端, 15G-50グリッド周辺に位置する。東西方向に伸び, 北側に幅約0.8m, 深さ20cm前後の溝が伴う。溝は西端で土塁を囲むように南へカーブしている。土塁と溝の比高差は最大で1.9mである。

遺構外出土遺物 (第56図, 第13・14表, 図版37)

1~6が縄文時代早期, 7~13が縄文時代中期, 14~17が縄文時代後期の土器である。1・2は田戸下層式の沈線文土器, 3~6は沈線文系に伴う無文の土器である。7~11は沈線と縄文RLが組み合わされた加曽利E式期の土器片で7は交互短沈線がみられる。12・13は加曽利E式期と思われる深鉢の底部である。12は底部外面が摩耗しており, 使用時に故意に磨った可能性がある。14は縄文のみのため時期は不明だが, 加曽利E式期か後期の粗製土器の一部と考えられる。15は櫛歯状工具による条線がみられる。堀之内式か。16は波状口縁の突起部, 17は口縁部付近で櫛歯状工具による刺突文が施され, 堀之内式と考えられる。



第56図 遺構外出土縄文土器・石器

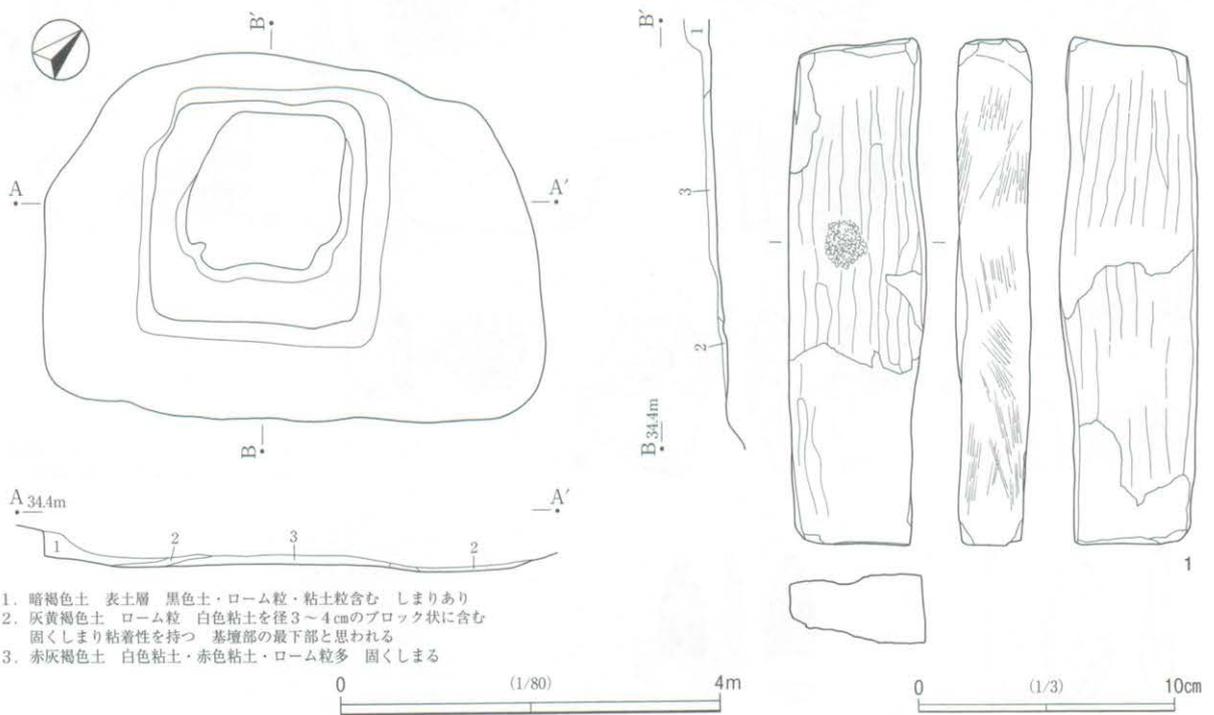


第57図 遺構外出土その他の遺物

18は安山岩製のポイントと思われる。基部付近に自然面が残る。19はチャート製の石鎌である。両面からの細かい剥離で整形されている。

中・近世遺物（第57図，第12表，図版36・37）

土器1・2は瓦質の内耳鍋，3は鍋である。いずれも土塁近くのトレンチから出土している。砥石1～4は砂岩製で，4のみ北側調査区の北端，ほかは南側調査区からの出土である。それぞれ途中で欠損しているが，ほぼ全面に使用痕がみられる。



1. 暗褐色土 表土層 黒色土・ローム粒・粘土粒含む しまりあり
2. 灰黄褐色土 ローム粒 白色粘土を径3～4cmのブロック状に含む 固くしまり粘着性を持つ 基壇部の最下部と思われる
3. 赤灰褐色土 白色粘土・赤色粘土・ローム粒多 固くしまる

第58図 近世基壇跡・出土遺物

芝向芝遺跡（2）（第58図，図版35・37）

中世以前の遺構は検出されず，近現代の祠の基壇跡のみが検出されたため，確認調査で終了した。また，ローム層が残存していなかったため，下層の確認調査は実施しなかった。

基壇跡は13G-21グリッド周辺に位置し，主軸はN-71.5°-W，上下二段の構成で，主軸長は下段で2.55m，上段で1.7m，幅は下段で2.6m，上段で1.8mである。下段と上段の段差は5cm前後で，北西壁には段差がない。本調査区からは砥石が1点出土している。

第12表 芝向芝遺跡 遺物観察表

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
49	1	SI-001	土師器 杯	口径 底径 器高 — (6.0) (0.8)	底部	砂粒，赤色スコリア	内面 外面 焼成 にぶい黄橙 (10YR7/3) にぶい橙 (7.5YR6/4) 良好	内面 外面 底外面 ロクロナデ 手持ちヘラケズリ 手持ちヘラケズリ	底部外面墨書 文字不明
49	2	SI-001	土師器 高台付杯	口径 底径 器高 — — (1.2)	体部	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 灰黄褐 (10YR4/2) 灰黄褐 (10YR4/2) 良好	内面 外面 底外面 ミガキ ナデ 摩滅のため不明	内面黒色処理
49	3	SI-001	土師器 甕	口径 底径 器高 (15.4) — (8.4)	20%	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 にぶい褐 (7.5YR5/3) にぶい赤褐 (5YR5/4) 良好	内面 外面 底外面 ヨコナデ ヘラナデ ヨコナデ タテヘラケズリ	
50	1	SI-002	土師器 杯	口径 底径 器高 — — (2.25)	底部20%	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 黒 (7.5YR2/1) にぶい橙 (7.5YR7/4) 良好	内面 外面 底外面 ミガキ ロクロナデ 手持ちヘラケズリ ナデ	内面黒色処理 底部外面墨書
50	2	SI-002	土師器 杯	口径 底径 器高 — — —	体部の 一部	砂粒	内面 外面 焼成 にぶい黄橙 (10YR7/3) にぶい黄橙 (10YR7/3) 良好	内面 外面 底外面 ロクロナデ ロクロナデ	体部外面墨書
50	3	SI-002	土師器 杯	口径 底径 器高 — — —	底部片	白色粒子，赤色 スコリア	内面 外面 焼成 にぶい褐 (7.5YR5/3) にぶい橙 (7.5YR7/4) 良好	内面 外面 底外面 ロクロナデ 手持ちヘラケズリ 手持ちヘラケズリ	底部外面墨書
50	4	SI-002	土師器 小型甕	口径 底径 器高 (15.0) — (10.8)	胴以上 20%	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 にぶい橙 (7.5YR6/4) にぶい橙 (7.5YR6/4) 良好	内面 外面 底外面 ヨコナデ ヘラナデ ヨコナデ ヘラケズリ	
50	5	SI-002	土師器 小型甕	口径 底径 器高 6.2 — (3.95)	口縁部 40%	精緻	内面 外面 焼成 橙 (5YR6/6) 橙 (5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面 ヨコナデ ヨコナデ ヘラケズリ	被熱
50	6	SI-002	土師器 小型甕	口径 底径 器高 11.7 — (5.05)	胴以上 20%	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 にぶい赤褐 (5YR5/4) にぶい橙 (5YR6/4) 良好	内面 外面 底外面 ヨコナデ ヘラナデ ヨコナデ ヘラケズリ	
50	7	SI-002	須恵器 甕	口径 底径 器高 — (15.0) (9.55)	底部20%	白色粒子(多)， 砂粒	内面 外面 焼成 橙 (5YR6/6) 橙 (5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面 ナデ 平行タタキ ヘラケズリ 無調整 外周部のみヘラケズリ	
50	8	SI-002	須恵器 甕	口径 底径 器高 — (13.9) (2.8)	底部20%	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 にぶい黄橙 (10YR7/3) 明褐 (7.5YR5/6) 良好	内面 外面 底外面 ナデ ヘラケズリ 無調整	
50	9	SI-002	土師器 小型甕	口径 底径 器高 — 5.2 (3.6)	胴以下 30%	砂粒，赤色スコ リア	内面 外面 焼成 にぶい黄橙 (10YR6/3) 橙 (7.5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面 ナデ ヘラケズリ	内外面スス附着
54	1	SD-003	須恵器 甕	口径 底径 器高 (20.0) — (8.2)	口縁～ 頸部10%	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 明赤褐 (5YR5/6) 明赤褐 (5YR5/6)	内面 外面 底外面 ヨコナデ ヨコナデ 平行タタキ	被熱
54	2	SD-003	土師器 甕	口径 底径 器高 — 7.6 (2.6)	底部10%	白色粒子(多)， 砂粒	内面 外面 焼成 にぶい橙 (7.5YR6/4) 橙 (7.5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面 ナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	
54	3	SD-003	中近世 瓦質 火鉢又は 香炉	口径 底径 器高 — — —	破片	白色粒子	内面 外面 焼成 (地)にぶい橙 (7.5YR6/4) 黒褐 (7.5YR3/1) 良好	内面 外面 底外面 ナデ 亀甲文 菊花文 (スタンプ)	
57	1	トレンチ 40.41	中近世 瓦質 内耳鍋	口径 底径 器高 (33.0) — (5.1)	口縁～ 胴部20%	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 にぶい橙 (7.5YR7/4) 黒褐 (7.5YR3/2) 良好	内面 外面 底外面 ヨコナデ ナデ ナデ	外面スス附着
57	2	トレンチ 41	中近世 瓦質 内耳鍋	口径 底径 器高 — — —	破片	白色粒子(多)， 赤色スコリア	内面 外面 焼成 橙 (7.5YR6/6) 黒褐 (7.5YR3/1) 良好	内面 外面 底外面 ナデ ナデ	外面スス附着
57	3	トレンチ 49	中近世 瓦質 鍋	口径 底径 器高 (24.2) (19.6) 4.1	15%	砂粒	内面 外面 焼成 橙 (7.5YR6/6) 橙 (7.5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面 ヨコナデ ナデに近いヘラケズリ 光沢あり ナデに近いヘラケズリ 光沢あり	

第13表 芝向芝遺跡 石器属性表

() は現存値

挿図番号	グリット・遺構	遺物番号	器種	石材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考	
56	18	15F-38	1	ポイントか	安山岩	4.4	1.9	0.85	6.65	
56	19	15F-68	1	石鏃	チャート	2.8	1.3	0.4	1.47	
57	1	15F-14	1	砥石	砂岩	(9.5)	4.0	3.8	161.99	
57	2	15F-67	2	砥石	砂岩	(5.5)	4.15	2.0	45.75	
57	3	トレンチ42	1	砥石	砂岩	(6.4)	2.6	2.5	47.30	
57	4	トレンチ28	1	砥石	砂岩	(6.0)	3.0	2.0	52.62	
58	1	トレンチ	1	砥石	砂岩	18.8	5.4	2.9	509.05	

第14表 芝向芝遺跡 縄文土器観察表

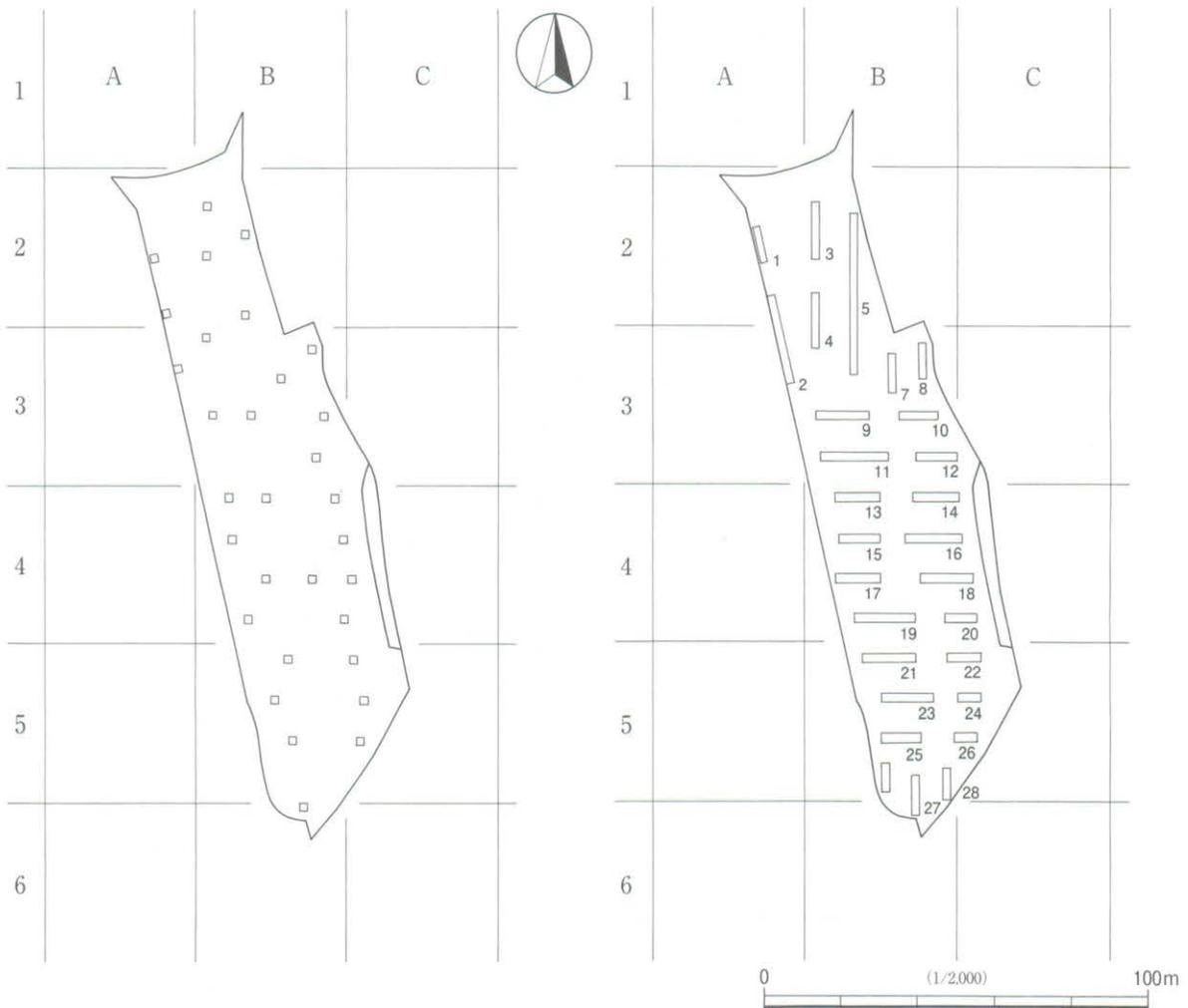
挿図番号	遺構番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考	
			外面	内面						
56	1	15F-58	深鉢	明褐色		細砂	沈線文	早期	田戸下層	口縁部
56	2	トレンチ16	深鉢	明褐色		細砂	沈線文	早期	田戸下層	口縁部
56	3	C区	深鉢	明橙褐色		細砂	無文	早期	沈線文系	口縁部
56	4	15F-58	深鉢	明褐色		白色礫多	無文	早期	沈線文系	
56	5	15F-58	深鉢	明褐色		白色砂多	無文	早期	沈線文系	
56	6	11F-82	深鉢	褐色		繊維 微細砂	無文	早期	沈線文系か	
56	7	トレンチ13	深鉢	暗褐色		細砂多	交互短沈線 RL	中期	加曾利E	口縁部
56	8	トレンチ13	深鉢	暗褐色		細砂多	RL 沈線	中期	加曾利E	
56	9	トレンチ13	深鉢	褐色		細砂多	RL 沈線	中期	加曾利E	
56	10	トレンチ13	深鉢	褐色		微細砂	RL 沈線	中期	加曾利E	
56	11	トレンチ13	深鉢	褐色	暗褐色	微細砂	RL 沈線	中期	加曾利E	
56	12	SI-2	深鉢	暗赤褐色		細砂	無文	中期か		底部外面摩耗痕あり 使用時のものか 底径7.15cm
56	13	トレンチ13	深鉢	褐色	暗褐色	細砂	無文	中期	加曾利E	底部
56	14	トレンチ13	深鉢	明灰褐色		微細砂	LR	中・後期		後期の粗製か
56	15	トレンチ13	深鉢	灰褐色		微細砂多	櫛歯状工具による条線	後期	堀之内?	
56	16	SI-1	深鉢	暗褐色		微細砂	櫛歯状工具による刺突	後期	堀之内	波状口縁突起部
56	17	SI-1	深鉢	明褐色	黒色	微細砂多	円形竹管 櫛歯状工具 刺突	後期	堀之内	

第5章 芝西霜田遺跡

第1節 概要（第4・59～61図，図版38）

尾羽根川を東に望む標高約30mの台地先端部に所在する。台地は北側に谷津が入り込み、南は既存の道路によって区切られている。昭和49年発行の『成田市文化財分布調査報告』によると、周辺は土師器（国分期）の散布地となっている。また、小支谷をはさんだ南西の台地上には、縄文時代早期（稲荷台式）の包蔵地である大室上曾々井遺跡が所在する。

上層について確認調査を実施した結果、調査区の北側から奈良・平安時代の竪穴住居跡、中央部から竪穴住居跡と中世の土坑を検出した。また南側から中世の溝・道路状遺構、土坑を検出した。これらの遺構周辺を拡張して本調査を行った。



第59図 下層・上層確認調査図

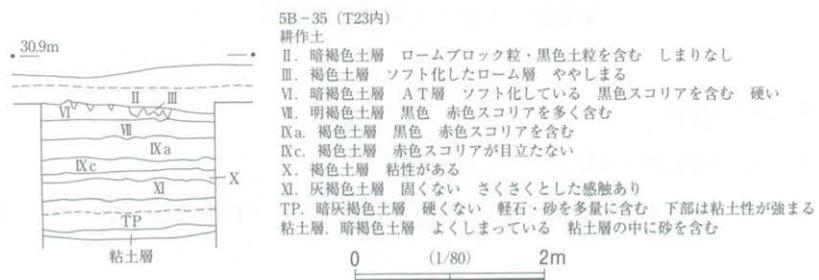
第2節 検出した遺構と遺物

SI-001（第62図，第15表，図版39・44）

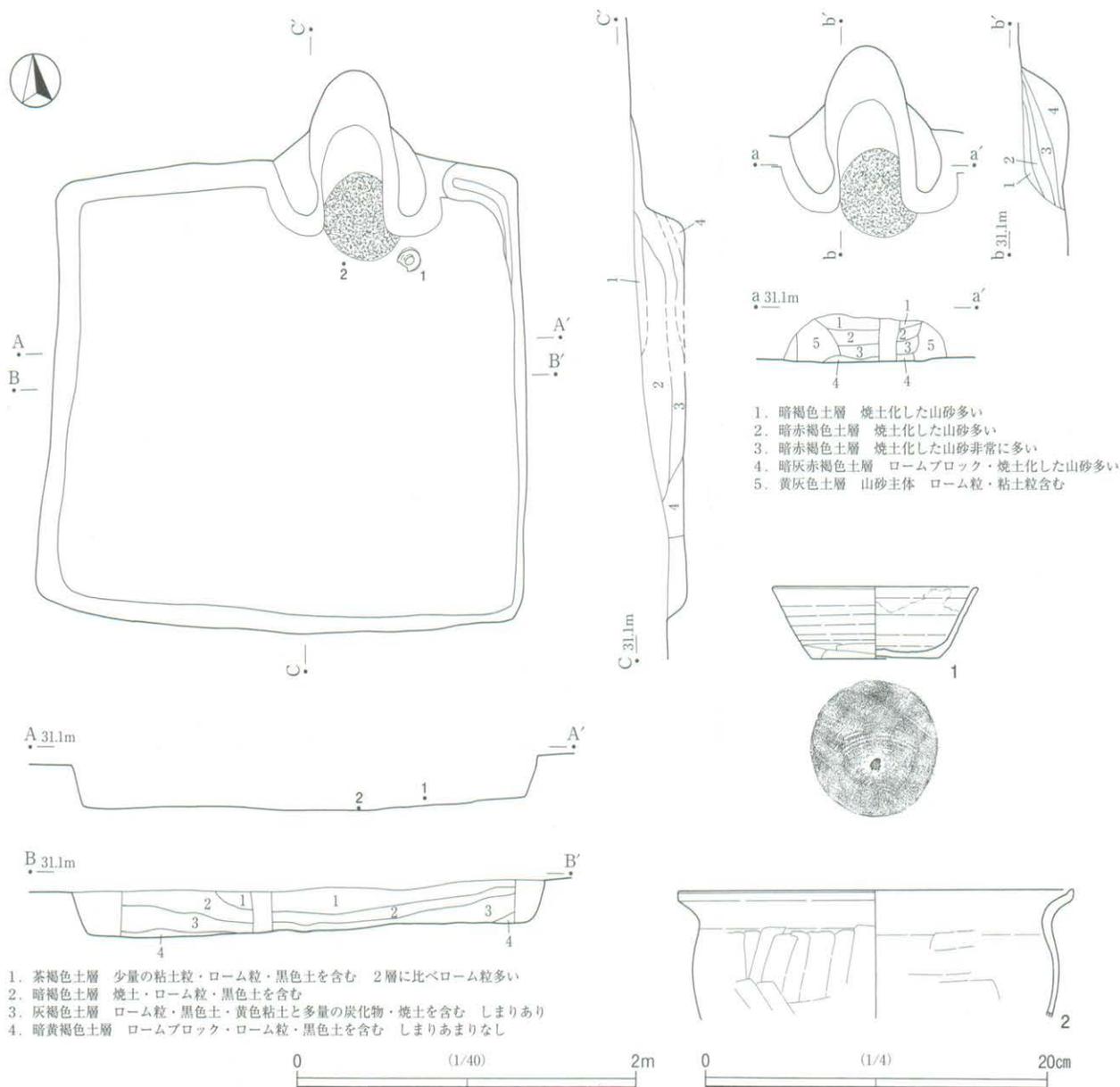
調査区北側，2B-83グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，主軸はN-7°-E，規模は主軸長2.66



第60図 遺構配置図



第61図 基本土層



第62図 SI-001・出土遺物

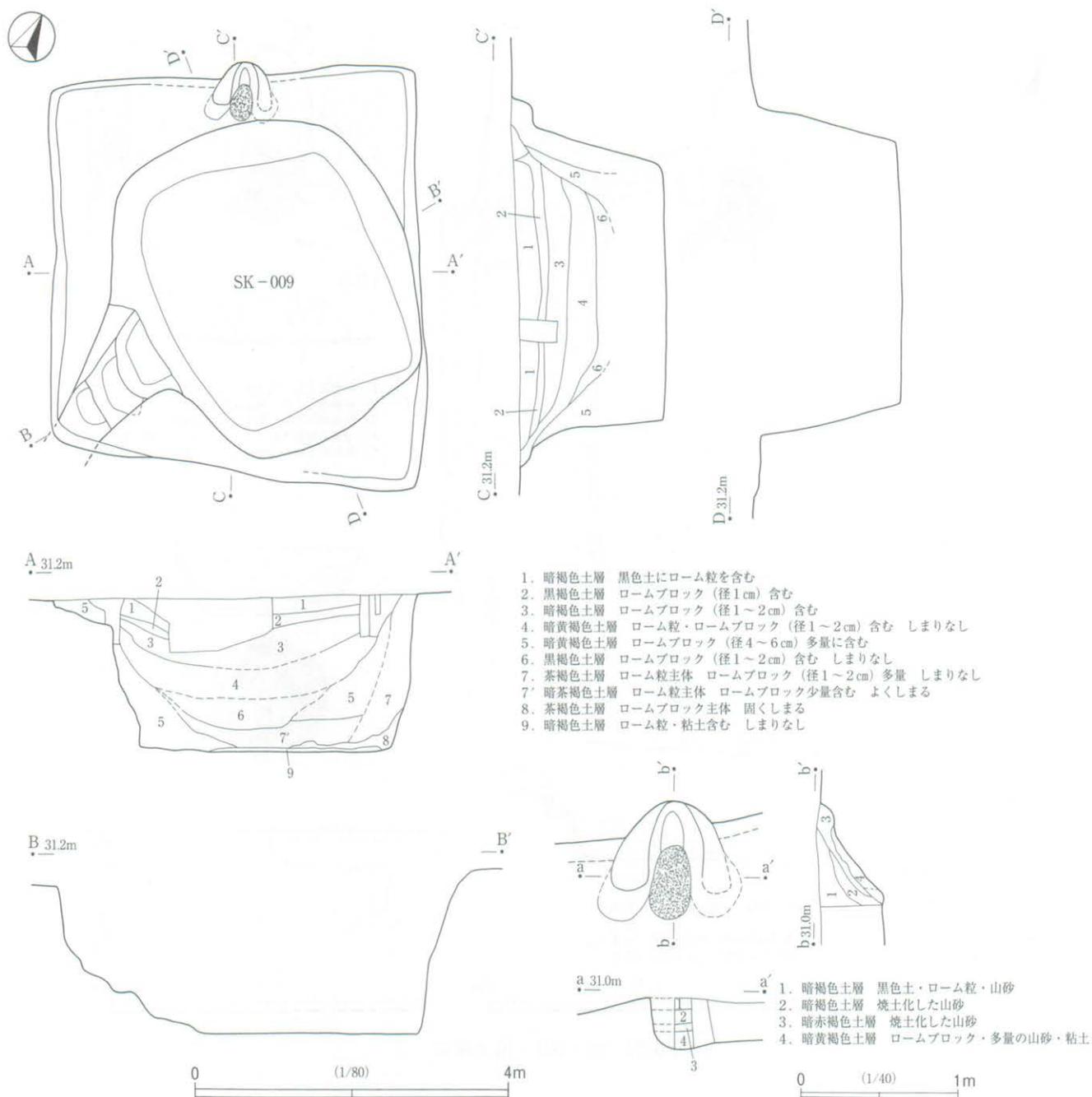
m, 幅2.80m, 掘り込みは確認面から13.5~25.7cmである。カマドは北壁東寄りに付設される。周溝は東隅のみで深さ1.0~3.0cmである。ピットは検出されなかった。

遺物はカマド付近から土師器杯と甕が出土している。1は土師器杯で、底部回転糸切り後周縁部と体部下位に手持ちヘラケズリを施している。口縁部内面にはススの付着がみられる。2は土師器甕で、口唇部をつまみ上げるように成形している。これらの遺物から本住居跡の時期は9世紀中頃と考えられる。

SI-002 (第63図, 図版40)

調査区北側, 3B-03グリッド周辺に位置する。住居跡のほぼ中央をSK-009に切られる。平面形は方形で、主軸はN-31°-W, 規模は主軸長4.94m, 幅4.64mである。掘り込みは確認面から4.8~19.0cmである。カマドは北壁中央に付設される。周溝, ピットとも検出されなかった。

遺物は, SI-002の覆土中から須恵器を模倣した土師器杯や常総型甕の胴部, SK-009の覆土中から須恵器壺底部や内面黒色処理された土師器高台付杯などが出土しているが、いずれも小片で図化できなかった。



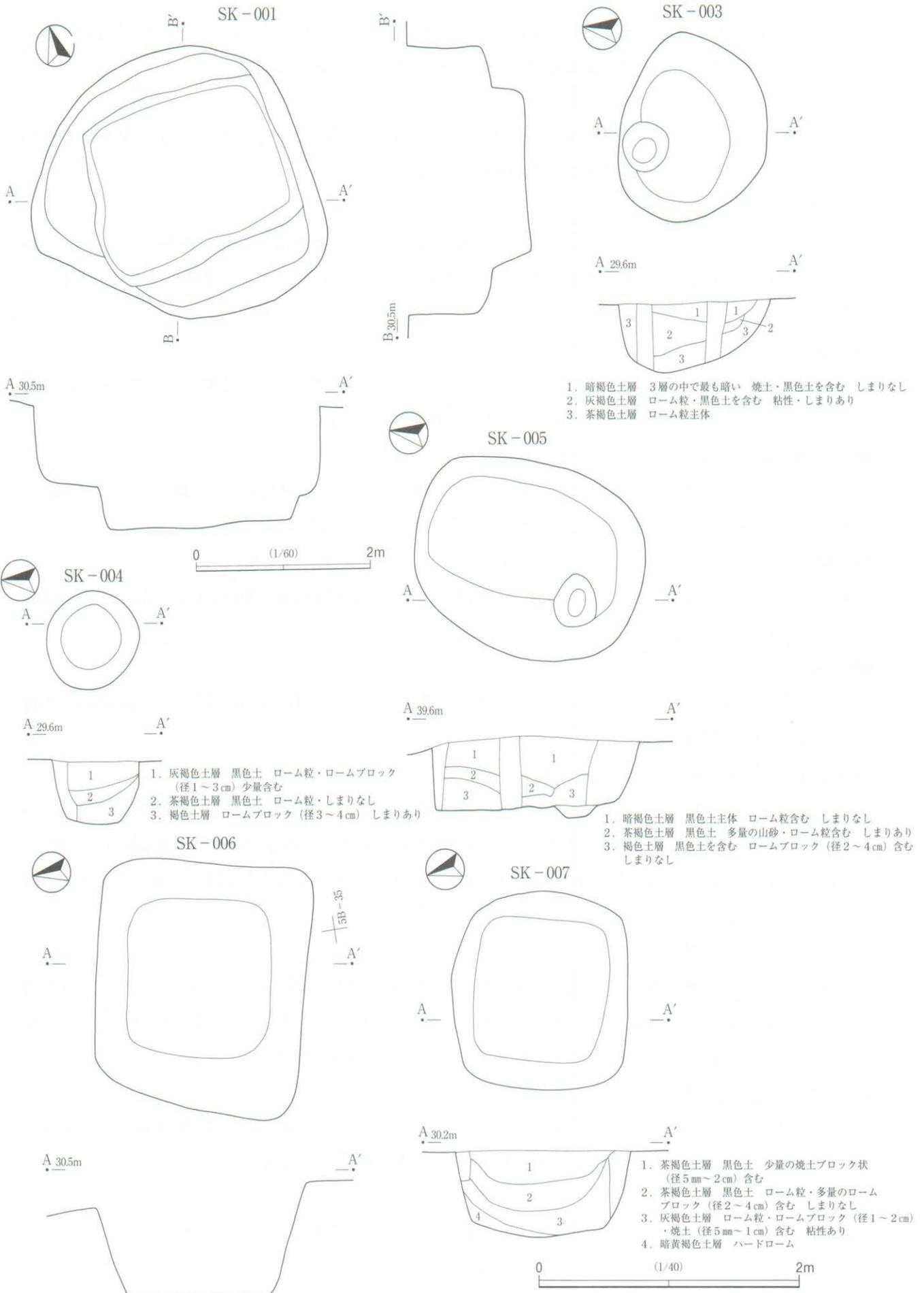
第63図 SI-002, SK-009

SK-001 (第64図, 第15表, 図版41)

調査区の南, 4B-52グリッド周辺に位置する。2基重なっており, 二段掘り込みの可能性があるが土層の説明がないため詳細は不明である。外側の掘り込みは不整形で, 長軸3.25m, 短軸3.02m, 深さ83.5~91.5cmである。内側の掘り込みは四角形に近く長軸2.30m, 短軸1.85m, 深さ118.0~133.0cmで, 上段との段差は31.5~51.5cmである。内側の掘り込みの南東隅の覆土中から常滑の片口鉢が, ほかから瀬戸・美濃の平碗が出土している。

SK-002 (第65・76図, 第15表, 図版41・44)

調査区の南, 4B-85グリッドに位置する。地下式坑と思われ, 主軸はN-109°-Eで西に開口する。地下室の平面形は不整な方形で, 底面で幅3.02m, 奥行2.84m, 深さ166.5~212.7cm, 天井までの高さ推定1.1mである。竪坑は方形で, 幅0.95m, 奥行1.14m, 深さ170.5~184.5cm, 地下室との段差は10cmである。



第64図 SK-001, SK-003~SK-007

全体では長軸4.45mを測る。地下室中央から竪坑にかけて焼土がみられ、その下から多数の炭化物が検出された。また覆土内から銭7枚と底部穿孔のカワラケ、常滑の片口鉢などが出土している。

SK-003 (第64図, 図版41)

調査区の南, 5C-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸1.36m, 短軸1.15m, 深さ32.0~44.0cmである。北側に床面からの深さ16.0~19.0cmのピットがある。

SK-004 (第64図, 図版41)

調査区の南, 5C-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 長軸0.75m, 短軸0.69m, 深さ47.0~53.5cmである。床面は南東から北西へ向かって緩やかに傾斜している。瀬戸・美濃の縁釉小皿などが出土している。

SK-005 (第64図, 図版41)

調査区の南, 5C-30・31グリッドに位置する。平面形は長楕円形で, 長軸1.80m, 短軸1.62m, 深さ30.0~47.0cmである。南側に径30cm前後, 深さ7.0~19.0cmのピットがある。

SK-006 (第64図, 図版41)

調査区の南, 5B-24・25グリッドに位置する。平面形は方形で, 長軸1.80m, 短軸1.62m, 深さ65.5~90.5cmである。床面はほぼ平坦である。覆土中位に炭化物を多く含む層がみられた。

SK-007 (第64図, 図版41)

調査区の南, 4B-74グリッドに位置する。平面形は方形で, 長軸1.84m, 短軸1.38m, 深さ56.0~68.0cmである。床面中央がやや窪む。

SK-008 (第65図, 図版42)

調査区の北, 2B-01グリッドに位置する。SD-006内にあり, 平面形は長楕円形で, 長軸0.58m, 短軸0.18m, 深さ31.0~44.2cmである。

SK-009 (第63図, 第15表, 図版40・44)

調査区の北, 3B-03グリッド周辺に位置する。SI-002を切る。平面形は方形で, 長軸4.03m, 短軸3.50m, 深さ186.0~196.1cmである。南西壁中央に階段状の掘り込みが三段ある。階段をとめる軸はN-32°-E, 段差20.5~29.5cmである。覆土中から瀬戸・美濃の縁釉小皿2点と合子, 播鉢, 在地のカワラケ, 内耳鍋などが出土している。

SK-010 (第66図, 図版42)

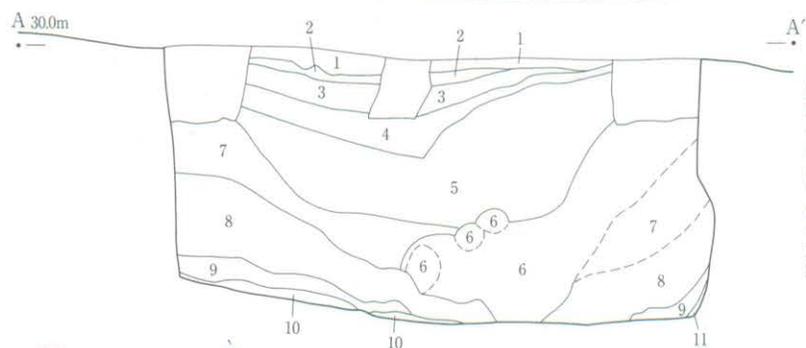
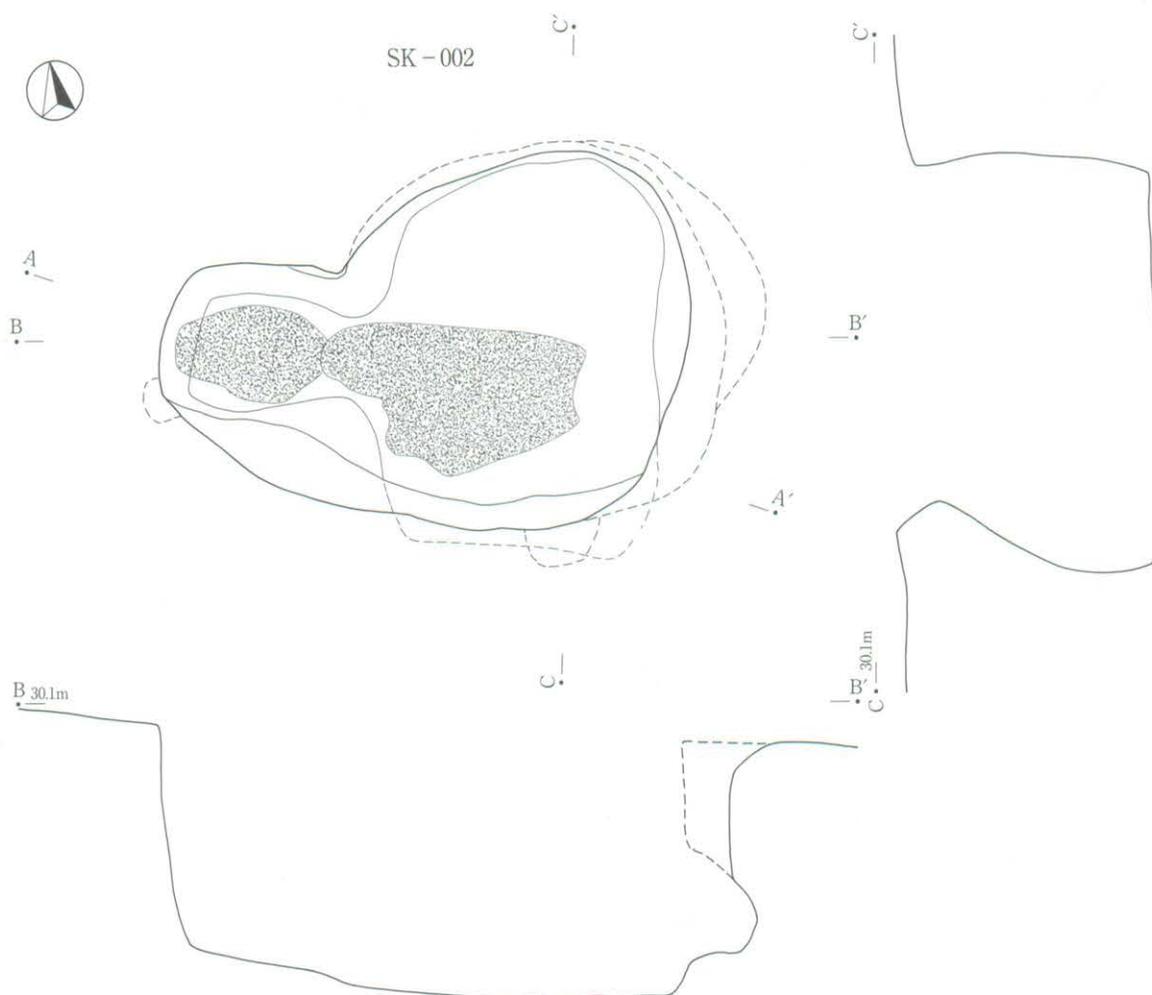
調査区の北, 1A-98グリッドに位置する。SD-006の西端, SX-001-1と重なり合う。平面形は楕円形で, 長軸2.22m, 短軸2.20m, 深さ88.0~112.5cmである。床面から2基のピットが検出されている。中央のピットは径8cm, 深さ8cmの小ピット, 南端のピットは径40cm, 深さ41.6~54.0cmである。

SK-011 (第65図, 図版42)

調査区の北, 2A-08グリッドに位置する。平面形は長方形で, 長軸1.13m, 短軸0.64m, 深さ41.8~60.0cmである。SX-001-1内にあり, 床面は西から東に向かってわずかに傾斜している。

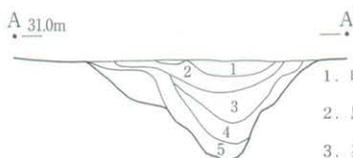
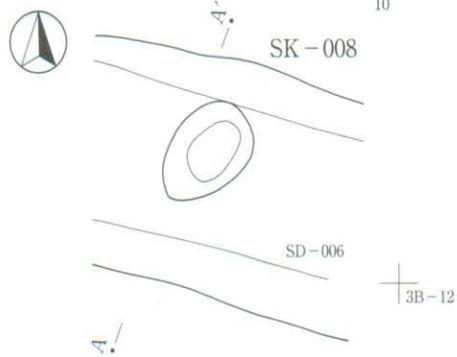
SK-012 (第66図, 図版42)

調査区の北, 2A-08グリッドに位置する。平面形は不整な楕円形で, 長軸1.26m, 短軸0.48m, 深さ30.5~44.0cmである。SX-001-1内にあり, 床面はほぼ平坦である。

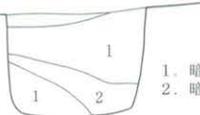
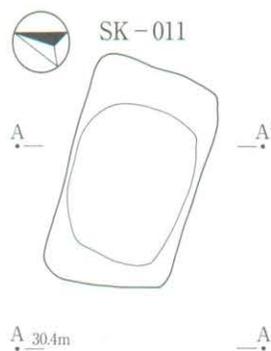


1. 茶褐色土層 黒色土に多量のローム粒
2. 暗褐色土層 黒色土にローム粒
3. 暗褐色土層 ローム粒 (径1~3mm) しまりあり
4. 黒褐色土層 ローム粒 (径2~5mm) 多量 しまりあり
5. 褐色土層 ローム粒主体 (径2~4mm) しまりなし
6. 黄褐色土層 ロームブロック (径10cm程) しまりがない
7. 暗黄褐色土層 ローム粒・ロームブロック (径5~6mm) 多い しまりなし
8. 褐色土層 ローム粒・ロームブロック (径2~3cm) 多量 焼土を含む
9. 暗茶褐色土層 ロームブロック (径2~3cm) 含む しまりなし
10. 黒褐色土層 焼土・炭化物を多量に含む しまりなし
11. 褐色土層 地山

0 (1/60) 2m



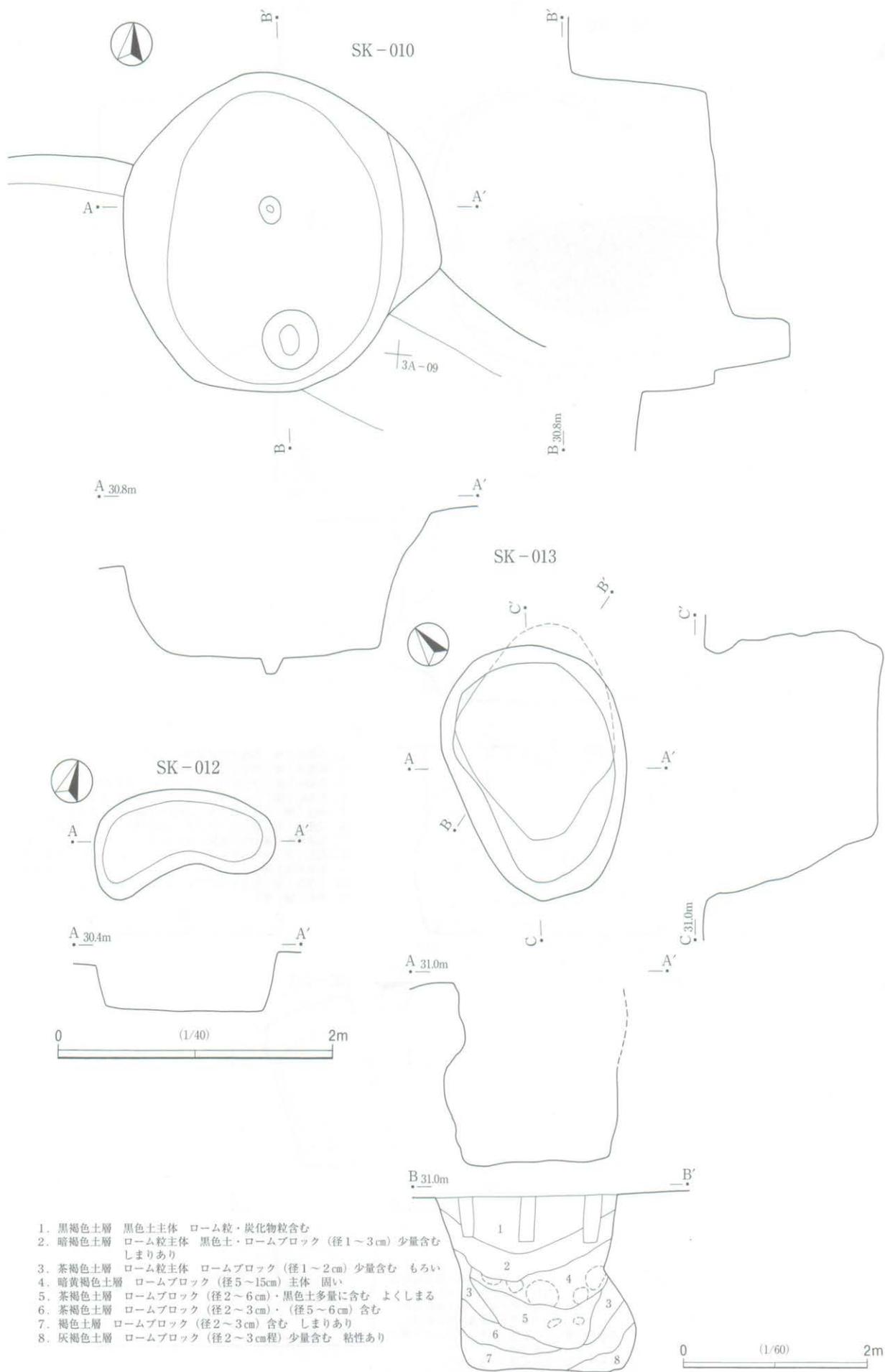
1. 暗褐色土層 黒色土粒・ローム粒・炭化物粒を含む しまりあり
2. 黒褐色土層 黒色土粒・ローム粒・炭化物粒・ロームブロックをわずかに含む
3. 茶褐色土層 ローム粒・ロームブロック少量含む しまりなし
4. 茶褐色土層 ローム粒 しまりなし
5. 黄褐色土層 ロームブロックを含む ローム粒多い



1. 暗黄褐色土層 多量のロームブロック (径2~8cm) を含む
2. 暗褐色土層 黒色土主体・ローム粒含む

0 (1/40) 2m

第65図 SK-002, SK-008, SK-011



第66図 SK-010, SK-012, SK-013

SK-013 (第66図, 第15表, 図版42)

調査区の北, 3B-14グリッドに位置する。平面形は楕円形で, 東壁は袋状になっている。長軸2.68m, 短軸1.95m, 深さ179.0~195.3cmである。東壁の天井部までの高さは120cmである。覆土中から在地のカワラケなどが出土している。

SX-001-1 (第67図, 第15表, 図版42)

調査区の北, 2A-08グリッド周辺に位置する。北東隅はSK-010, SD-006と重なり, 西側は調査区外へと続く。平面形は不整形で, 長軸6.20m, 深さ6.0~41.3cmである。床面は北側に向かってわずかに傾斜している。確認調査段階では竪穴住居跡と考えられたが, カマドやピットなど住居跡に伴う施設は検出されなかった。覆土は人為的に埋められた可能性がある。

SX-001-2 (第67図, 図版43)

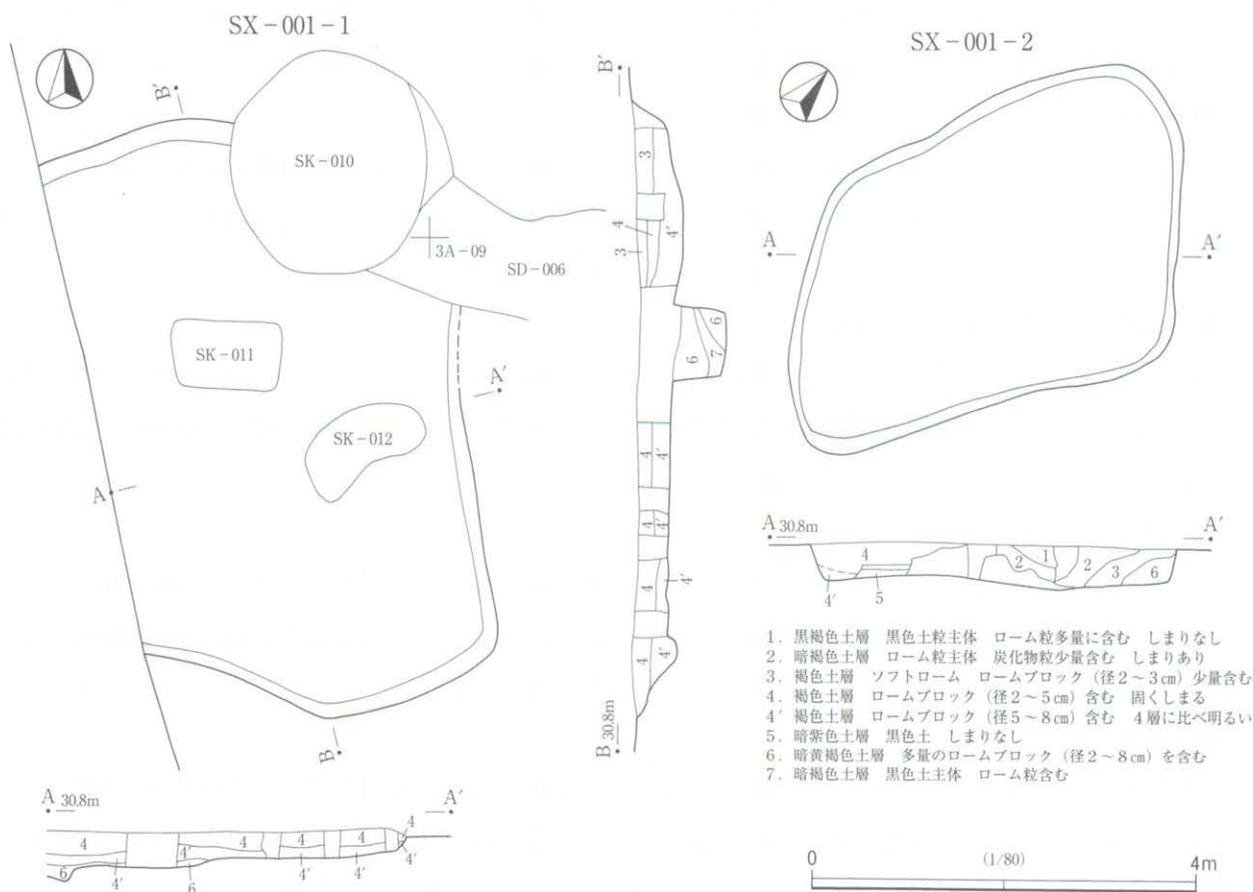
調査区の北, 2A-19グリッド周辺に位置する。平面形は不整形で, 長軸3.82m, 短軸3.05m, 深さ21.2~56.1cmである。床面は南東に向かってわずかに傾斜している。SX-001-1と同じく当初は住居跡と考えられたが, カマドやピットは検出されなかった。

SH-001 (第69図, 図版42)

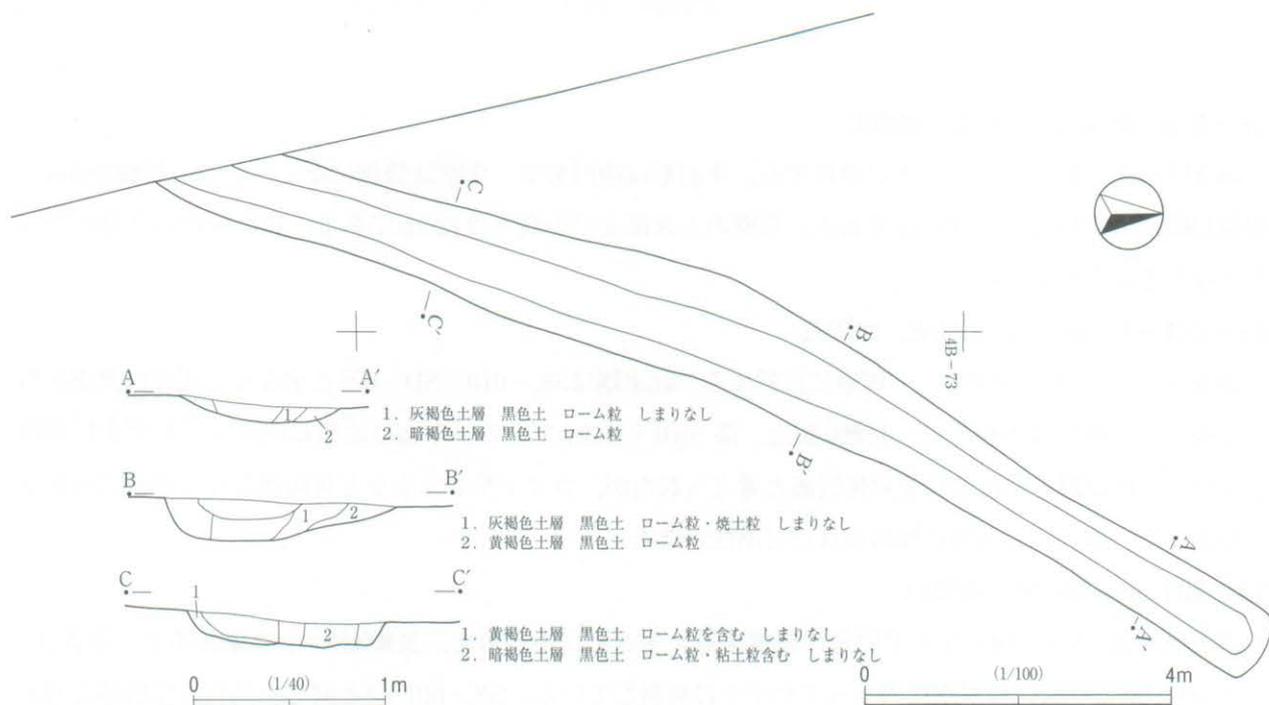
調査区の南, 5B-37グリッドに位置する。SD-002の西側で検出された。平面形は楕円形で, 長軸0.44m, 短軸0.38m, 深さ89.0cmである。

SH-002 (第69図, 図版42)

調査区の南, 5B-29グリッドに位置する。SD-002の東側で検出された。平面形は楕円形で, 長軸0.44m, 短軸0.40m, 深さは59.0cmである。



第67図 SX-001-1, SX-001-2



第68図 SD-001

SD-001 (第68図, 第15表, 図版43)

調査区の南, 4B-63グリッド周辺に位置する。北東から南西方向へ直線的に伸び, 南西側は調査区外へ続く。長さは検出面で15.04m, 幅0.98~1.34m, 深さは北東端で11.0cm, 中央で19.0cm, 南西端で20.0cmである。

SD-002 (第69図, 第45表, 図版43)

調査区の南, 5B-26グリッド周辺に位置する。平面形は長楕円形で, 東西方向に直線的に伸びる。長さは14.8m, 幅0.86~1.60m, 深さは東端で5.0~9.8cm, 中央で9.5~25.5cm, 西端で8.1~17.0cmである。

SD-003 (第70図, 第15表, 図版43・44)

調査区の南, 5B-36グリッド周辺に位置する。東西方向に直線的に伸びる道路状遺構。東端で焼土が検出された。硬化面の範囲は攪乱のため不明瞭である。長さは検出面で20.2m, 幅1.6~2.4m, 深さは東端で0~3.0cm, 中央で0~2.0cm, 南で0~5.0cmである。

SD-004 (第69図, 第15表, 図版43)

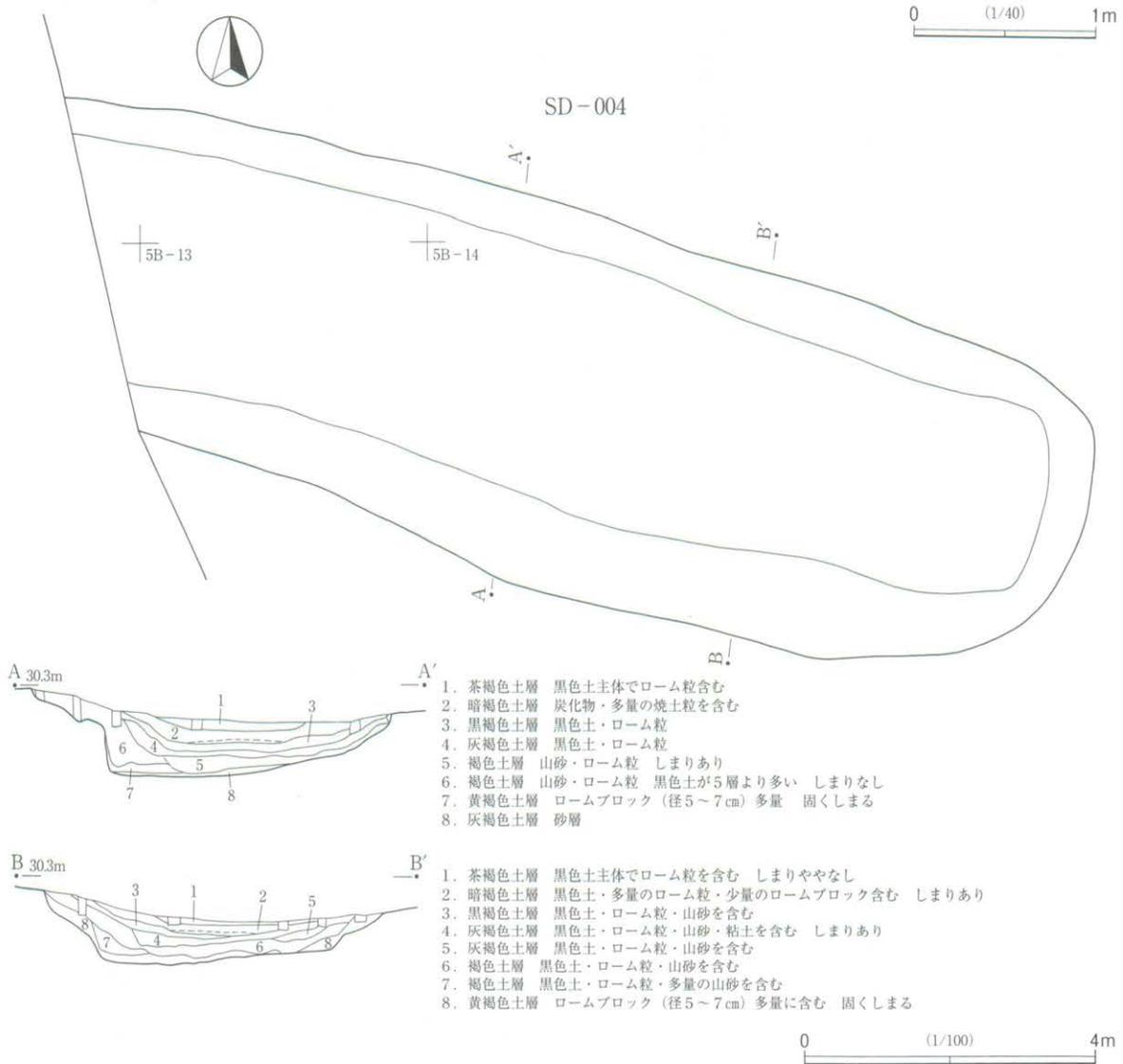
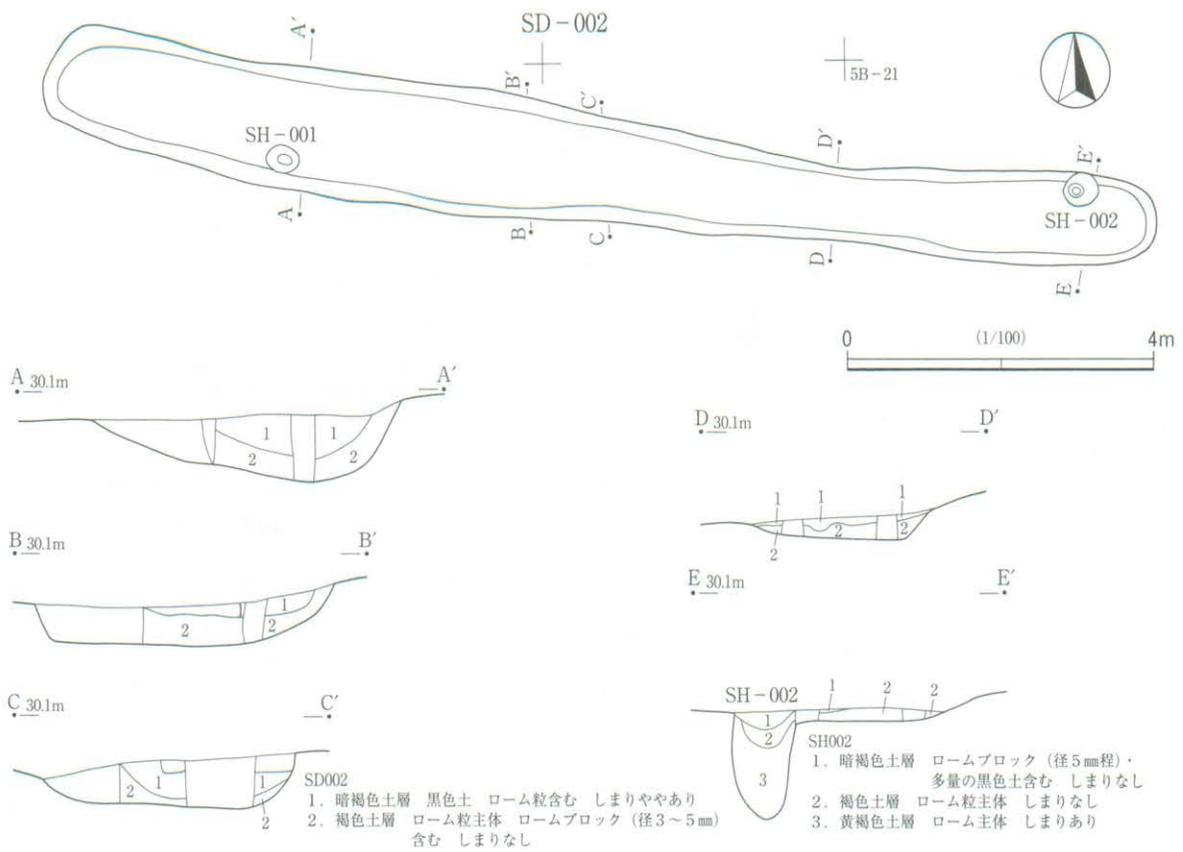
調査区の南, 5B-03グリッド周辺に位置する。平面形は長楕円形で, 北西から南東方向へ直線的に伸び, 西側は調査区外へ続く。長さは検出面で11.12m, 幅4.24~4.96m, 深さは北東で67.0~83.0cm, 南西で34.5~81.0cmである。中世の陶器類が多数出土している。

SD-005 (第70図, 図版43)

調査区の南, 5B-25グリッド周辺に位置する。東西に長い楕円形で, 長さは6.64m, 幅0.48~1.24m, 深さは東端で12.8cm, 中央で22.9~27.8cm, 西端で15.2cmである。ほぼ中央に長軸2.4m, 短軸0.76mの長楕円形の掘り込みが検出された。溝床面からの深さは10.5~25.8cmである。

SD-006 (第70図, 図版43)

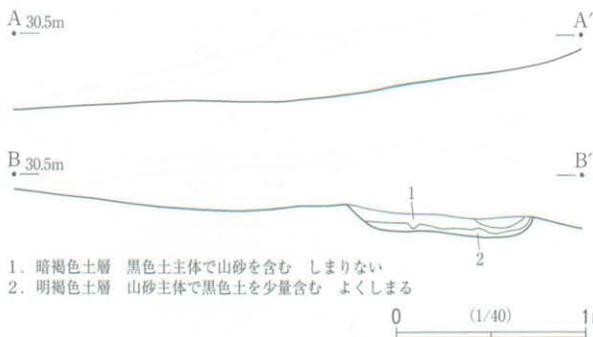
調査区の北, 2A-09グリッド周辺に位置する。東西方向にほぼ直線的に伸び, 西端はSK-010, SX-001-1と重なる。長さは検出面で14.72m, 幅0.8~1.2m, 深さは東端で0.8~2.0cm, 中央で7.0~16.1cm, 西端で34.0cmである。床面は南に向かってわずかに傾斜しており, 西側で深くなる。



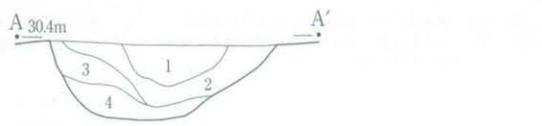
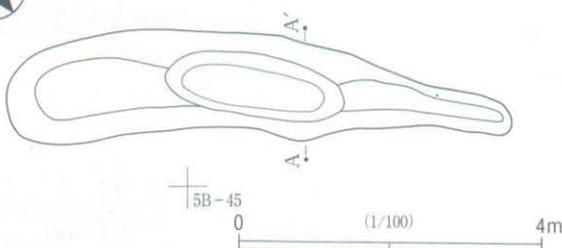
第69図 SD-002, SD-004, SH-001, SH-002



SD-003



SD-005



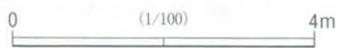
1. 黒褐色土層 黒色土粒主体 ローム粒・焼土粒含む しまりあり
2. 暗褐色土層 黒色土粒 ローム粒・少量のロームブロック (径2~3cm) 含む しまりあり
3. 灰褐色土層 4層よりも若干明るい 多量のローム粒含む しまりあり
4. 茶褐色土層 ローム粒主体 ロームブロック (径2~3cm) 少量含む



SD-006



1. 暗褐色土層 黒色土粒・ローム粒 しまりあり
2. 黒褐色土層 黒色土粒・ローム粒・炭化物粒 ロームブロックを少量含む
3. 茶褐色土層 ローム粒・ロームブロック少量含む しまりなし



5B-30

A

A'

B

B'



第70図 SD-003, SD-005, SD-006

中・近世の遺物（第71～74図，第15表，図版44～48）

土坑や溝などから多数の中・近世の遺物が出土している。破片数（接合前・接合後）は，瀬戸・美濃 52・32，常滑片口鉢19・18，常滑甕61・54，カワラケ9・7，内耳鍋247・202，焙烙60・10であり，内耳鍋の量が突出している。各遺物の計測値・胎土・調整など詳細は観察表（第15表）のとおりである。なお，分類は井上哲朗氏による。

1～4は在地のカワラケで，2は皿，ほかは杯である。すべてロクロによるもので手捏ねによるものはない。5～26は瀬戸・美濃製品である。5～8は縁釉小皿で概ね古瀬戸後期Ⅳ期（15世紀後半），9・10は天目茶碗，11～14が平碗で11が古瀬戸後期Ⅲ期（15世紀前葉）とやや古い。15は古瀬戸後期Ⅰ期（14世紀後葉）の卸皿，16～19は折縁深皿で16が古瀬戸中期Ⅱ期（14世紀初頭）と最も古い。20～22はいずれも古瀬戸後期Ⅳ期（15世紀後半）の搦鉢，23は古瀬戸中期Ⅳ期（14世紀中葉）の合子，24は13世紀末～14世紀初頭と考えられる四（三）耳壺，25・26は15世紀前半頃の梅瓶である。27～40は13～15世紀の常滑片口鉢，41～54は13世紀末～15世紀代の常滑の甕である。55～76は在地産の内耳鍋，77～80は近世在地産の焙烙である。

遺構外出土石器・砥石（第75図，第18表，図版49）

1はホルンフェルス製の打製石斧で，両面から加工され側面に抉りが入る。2・3・6は砂岩製の砥石，4・5は凝灰岩製の砥石である。2の砥石は立方体に近い形状で，基部に釘状のものが刺さっている。

銅銭（第76図，第19表，図版49）

銅銭は10枚出土しており，そのうち7枚がSK-002からの出土である。判読できない4枚を除き，永楽通寶2枚，聖守元寶，景祐元寶，至道元寶，元豊通寶がそれぞれ1枚出土している。

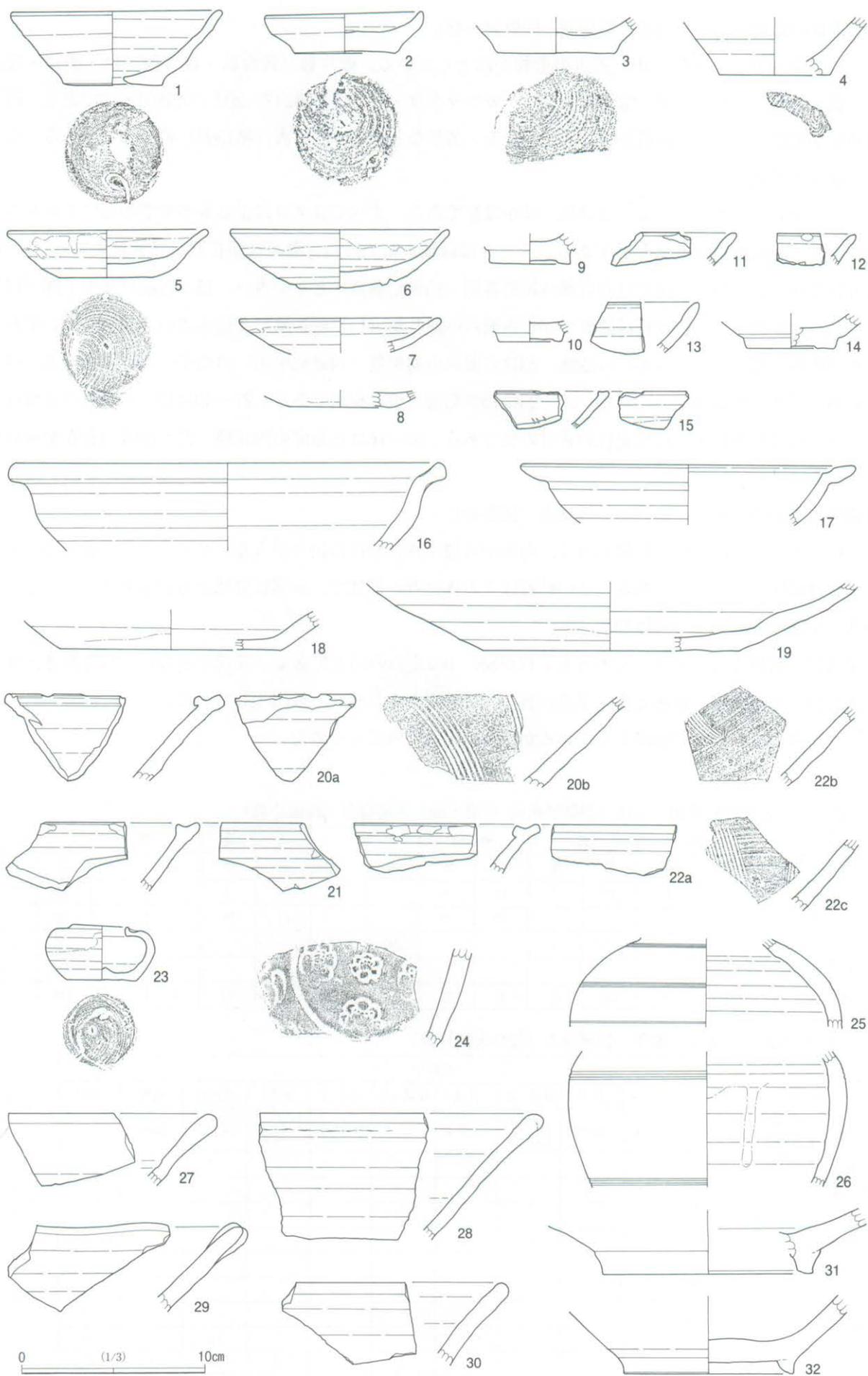
ほかにキセルやスラグが出土しているが，写真掲載のみにとどめた。

第15表 中・近世陶磁器類 産地・器種別組成（「前・後」＝接合前・後破片数）

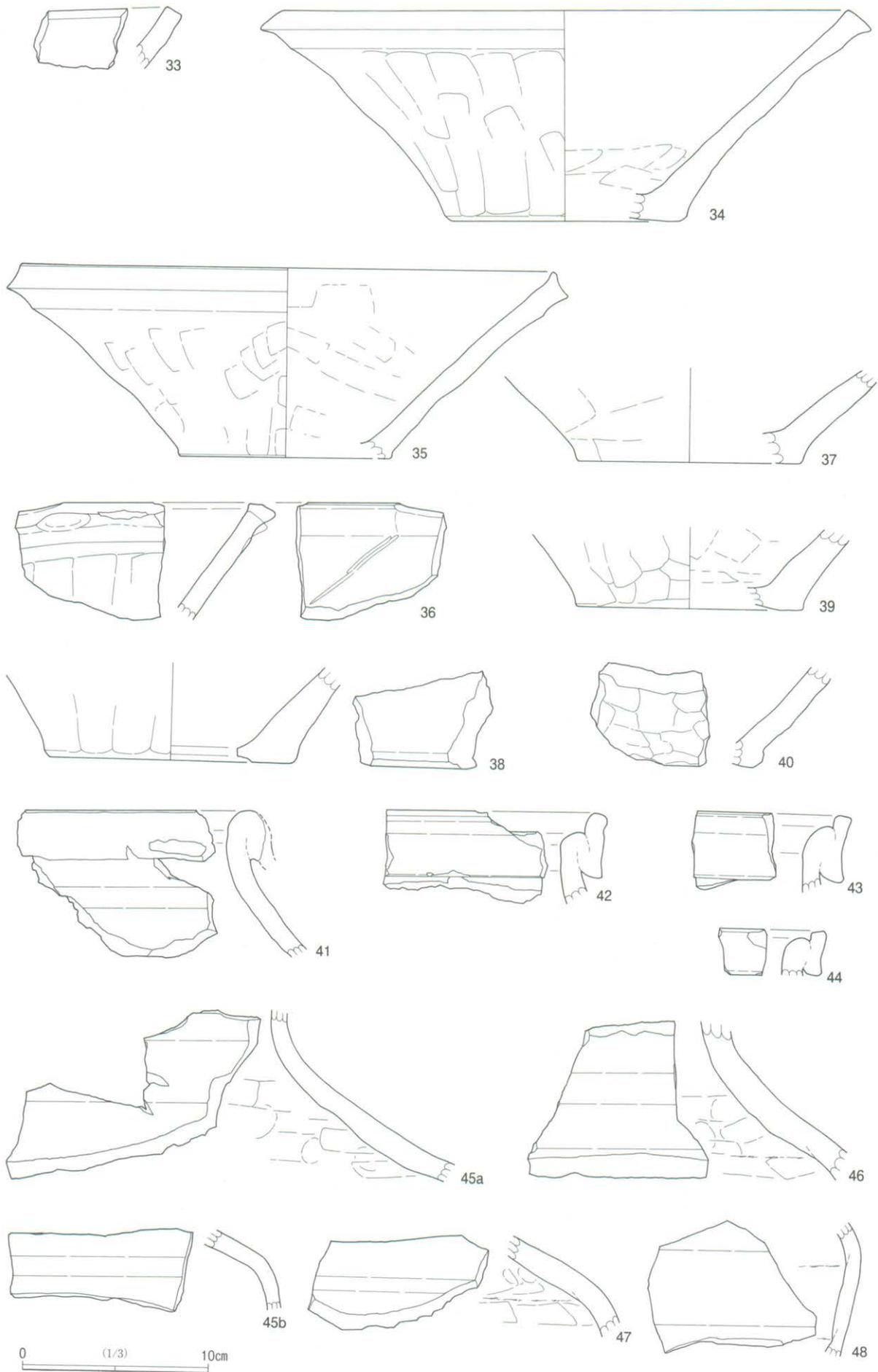
時期	産地	碗		皿		(搦)鉢		鍋		瓶・壺・甕		他		小計	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
中世	瀬戸・美濃	10	10	17	9	18	6			6	6	1	1	52	32
	常滑					19	18			61	54			80	72
	在地土器			9	7			247	202					256	209
近世	在地土器							60	10					60	10
小計		10	10	26	16	37	24	307	212	67	60	1	1	448	323

第16表 中世瀬戸・美濃 編年・器種別表（接合前破片数）

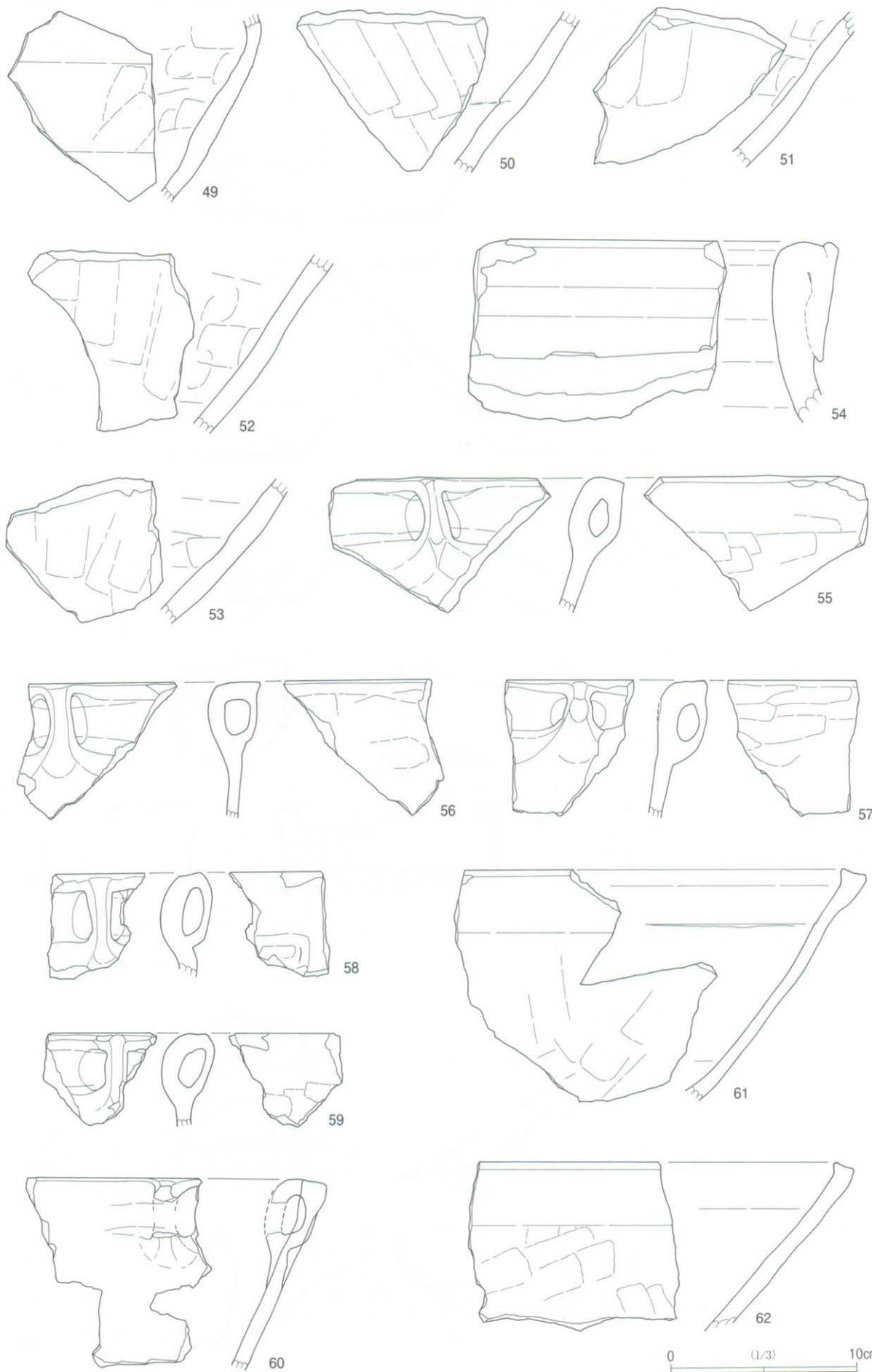
編年	古瀬戸												合計
	中Ⅰ	中Ⅱ	中Ⅳ	後Ⅰ	後Ⅱ～Ⅳ	後Ⅲ	後Ⅲ～Ⅳ	後Ⅳ古	後Ⅳ	後Ⅳ新	後期	不明	
時期	13c末～14c初	14c初	14c中葉	14c後葉	14c末～15c中葉	15c前葉	15c	15c中葉	15c中葉～後葉	15c後半	15c代		
縁釉小皿							2		3	1		1	7
折縁深皿		5		3								1	9
卸皿				1									1
平碗					1	1		1		1		4	8
天目茶碗											1	1	2
合子			1										1
壺・瓶	1					1						4	6
搦鉢										16		2	18
合計	1	5	1	4	1	2	2	1	3	18	1	13	52



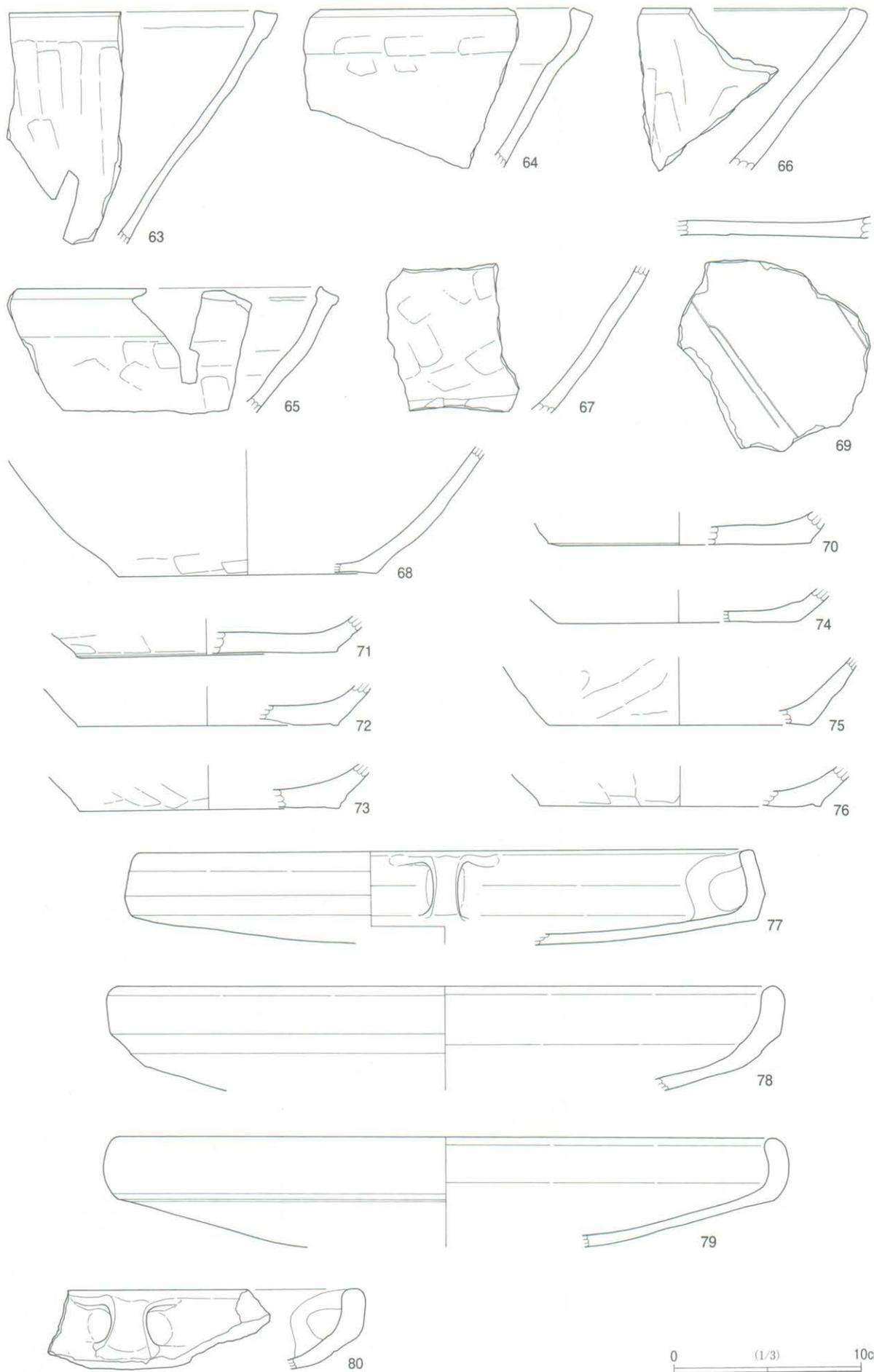
第71图 中世土器 (1)



第72図 中世土器 (2)



第73图 中世土器(3)



第74图 中世土器 (4)

第17表 芝西霜田遺跡 遺物観察表

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考	
62	1	SI-001	土師器 杯	口径 底径 器高	12.1 7.6 4.0	75%	精緻	内面 外面 焼成	にぶい橙 (7.5YR6/4) にぶい橙 (7.5YR6/4) 良好	内面 外面 底外面	ロクロ ロクロ 回転糸切り後手持ちヘラケズリ	
62	2	SI-001	土師器 甕	口径 底径 器高	23.0 — 7.1	口縁～ 胴部20%	精緻	内面 外面 焼成	橙 (5YR6/6) 橙 (5YR6/7) 良好	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヘラナデ ヨコナデ ヘラケズリ	

中近世陶磁器類

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考	
71	1	SK-002	カワラケ 杯	口径 底径 器高	11.2 5.4 3.8	100%	精緻 石英微粒 等微量	内面 外面 焼成	7.5YR1.7/1 黒 7.5YR1.7/1 黒 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ ロクロ 回転糸切り (右)	在土地器 底部穿孔
71	2	SK-009	カワラケ 皿	口径 底径 器高	8.5 5.6 2	90%	砂粒 やや多い	内面 外面 焼成	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ ロクロ 回転糸切り (右)	在土地器
71	3	5C	カワラケ 杯	口径 底径 器高	— 6.4 (1.9)	底部60%	長石、石英 粒やや多い	内面 外面 焼成	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙 やや不良	内 面 外 面 底外面	ロクロ ロクロ 回転糸切り (右)	在土地器
71	4	SK-013	カワラケ 杯	口径 底径 器高	— (6.0) (3.0)	体部～ 底部15%	微砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ ロクロ 回転糸切り (右)	在土地器 外面油煙付着
71	5	SK-009	瀬戸・美濃 緑釉小皿	口径 底径 器高	10.7 5.0 2.95	95%	精緻 なし	胎土 外面 焼成	2.5Y8/3 淡黄 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 灰釉 ロクロ 灰釉 回転糸切り (右)	後Ⅲ～Ⅳ (15C代) 灰軸7.5Y7/2灰白・6/3オリ ープ黄。見込みに環状の使用 痕跡
71	6	SK-009	瀬戸・美濃 緑釉小皿	口径 底径 器高	11.8 4.8 3.0	95%	精緻 ほとんどなし	胎土 外面 焼成	5Y8/2 灰白 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 灰釉 ロクロ 灰釉 回転ヘラケズリ 削り出し高台	後Ⅳ (15C後半) 灰軸7.5Y7/2灰白・6/3オリ ープ黄。見込みに重ね焼き のトチン痕跡4カ所有り
71	7	SK-004	瀬戸・美濃 緑釉小皿	口径 底径 器高	(10.8) — (1.8)	口縁～ 体部12%	精緻 長石粒微量	胎土 外面 焼成	2.5Y7/3 淡黄 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 灰釉 ロクロ 灰釉	後Ⅳ新 (15C後半) 灰軸7.5Y7/3淡黄
71	8	SX-001	瀬戸・美濃 緑釉小皿	口径 底径 器高	— (5.6) (0.9)	体部～ 底部片	精緻 なし	胎土 外面 焼成	2.5Y8/3 淡黄 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 鉄釉 ロクロ 鉄釉	鉄軸7.5YR2/2黒褐
71	9	5B	瀬戸・美濃 天目茶碗	口径 底径 器高	— 4.4 (1.5)	底部70%	精緻 なし	胎土 外面 焼成	10YR6/3 にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 鉄釉 ロクロ 削り出し高台	後期 (15C代) 鉄軸10YR1.7/1黒
71	10	6B-05	瀬戸・美濃 天目茶碗	口径 底径 器高	— (3.4) (1.1)	底部30%	なし	胎土 外面 焼成	10YR6/3 にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 鉄釉 ロクロ 削り出し高台	鉄軸10YR1.7/1黒
71	11	5B	瀬戸・美濃 平碗	口径 底径 器高	— — (1.7)	破片	精緻 なし	胎土 外面 焼成	2.5Y7/2 灰黄 良好	内 面 外 面 底外面	灰釉 ロクロ 灰釉	後Ⅲ (15C前葉) 灰軸7.5Y7/2灰白
71	12	T-23	瀬戸・美濃 平碗	口径 底径 器高	— — (1.6)	破片	精緻 なし	胎土 外面 焼成	2.5Y7/3 浅黄 良好	内 面 外 面 底外面	灰釉 ロクロ 灰釉	後Ⅳ古 (15C中葉) 灰軸7.5Y7/3浅黄
71	13	SX-001	瀬戸・美濃 平碗	口径 底径 器高	— — (2.8)	破片	精緻 なし	胎土 外面 焼成	10YR7/4 にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面	灰釉 ロクロ 灰釉	後Ⅳ新 (15C後半) 灰軸5Y6/3 オリープ黄
71	14	SK-001	瀬戸・美濃 平碗	口径 底径 器高	— (4.8) (1.9)	底部30%	精緻 長石、石英 微粒	胎土 外面 焼成	2.5Y8/3 淡黄 良好	内 面 外 面 底外面	灰釉 ロクロ 削り出し高台	後Ⅱ～Ⅳ (15C代) 灰軸7.5Y7/3浅黄
71	15	SX-001	瀬戸・美濃 卸皿	口径 底径 器高	— — (2.0)	破片	精緻 なし	胎土 外面 焼成	2.5Y8/3 淡黄 良好	内 面 外 面 底外面	灰釉 ロクロ 灰釉	後Ⅰ (14C後葉) 灰軸7.5Y7/3浅黄
71	16	SD-004	瀬戸・美濃 折縁深皿	口径 底径 器高	(23.0) — (4.6)	口縁部 10%	精緻 なし	胎土 外面 焼成	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y7/2 灰黄 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 灰釉 ロクロ 灰釉	中Ⅱ期 (14C初頭) 灰軸7.5Y7/2灰白 10Y6/2オリープ灰
71	17	5B-04	瀬戸・美濃 折縁深皿	口径 底径 器高	(17.9) — (3.1)	口縁部片	精緻 長石微粒少量	胎土 外面 焼成	2.5Y7/4 浅黄 7.5YR6/4 にぶい橙 内 部の鉄分が被熱酸化で赤 っぽく変化 良好	内 面 外 面 底外面	灰釉 ロクロ 灰釉	後Ⅰ期 (14C後葉) 灰軸5Y6/3オリープ黄
71	18	T-24	瀬戸・美濃 折縁深皿	口径 底径 器高	— (12.0) (2.0)	底部18%	精緻 なし	胎土 外面 焼成	10YR7/4 にぶい黄橙 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 灰釉 ロクロ 灰釉 回転ヘラ切り	灰軸2.5Y6/4 にぶい黄。断 面に漆維ぎ痕有り 内面にトチン跡有り
71	19	5C	瀬戸・美濃 折縁深皿	口径 底径 器高	— (14.0) (3.6)	胴下半～ 底部12%	精緻 長石微粒微量	胎土 外面 焼成	10Y8/2 灰白 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ 灰釉 ロクロ 灰釉 回転ヘラ切り	後Ⅰ期 (14C後葉) 灰軸7.5Y6/3オリープ黄
71	20	T-19	瀬戸・美濃 搦鉢	口径 底径 器高	— — (9.3)	破片	精緻 長石微粒微量	胎土 外面 焼成	2.5Y7/3 浅黄 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ ロクロ	後Ⅳ新 (15C後半) 軸7.5Y5/3 にぶい褐(銷軸) 断面に漆維ぎ痕有り
71	21	SI-002	瀬戸・美濃 搦鉢	口径 底径 器高	— — (3.5)	破片	精緻 長石粒微量	胎土 外面 焼成	2.5Y7/4 浅黄 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ ロクロ	後Ⅳ新 (15C後半) 内面に7.5Y8/3淡黄色の自 然釉斑状にかかる 釉薬10YR4/6褐(銷軸)

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)		遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考
				口径	器高			内面	外面	内面	外面	
71	22	SD-003	瀬戸・美濃	播鉢	口径 — 底径 — 器高 (2.5)	破片	精緻 長石微粒微量	胎土 外面 焼成 良好	10YR6/6明黄褐	内面 外面 底外面	ロクロ ロクロ	後Ⅳ新 (15C後半) 釉薬7.5YR5/4にふい楊
71	23	SK-009	瀬戸・美濃	合子	口径 3.0 底径 3.8 器高 2.9	100%	精緻 ほとんどなし	内面 外面 焼成 良好	7.5Y7/2灰白	内面 外面 底外面	ロクロ 灰軸 ロクロ 灰軸 回転糸切り(右)	中Ⅳ期 (14C中葉) 灰軸10Y6/2オリーブ灰・ 5/2オリーブ灰 被熱釉薬劣化
71	24	SD-004	瀬戸・美濃	四(三)耳壺	口径 — 底径 — 器高 (5.1)	破片	精緻 長石粒少量	胎土 外面 焼成 良好	2.5Y7/3 浅黄	内面 外面 底外面		中Ⅰ期? (13C末~14C初) 釉薬2.5Y2/1黒(錆軸) 梅花押型紋
71	25	5C	瀬戸・美濃	梅瓶	口径 — 底径 — 器高 (4.6)	破片	精緻 なし	胎土 外面 焼成 良好	10Y7/2灰白	内面 外面 底外面	ロクロ 沈線 灰軸	後Ⅲ期項 (15C前半) 灰軸10Y6/2オリーブ灰
71	26	5B	瀬戸・美濃	梅瓶	口径 — 底径 — 器高 (7.0)	破片	精緻 なし	胎土 外面 焼成 良好	7.5Y7/2灰白	内面 外面 底外面	ロクロ 灰軸 沈線 灰軸	灰軸5Y6/3オリーブ黄 断面に漆継ぎ痕有り
71	27	5C-30	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (3.8)	破片	精緻 長石粒 微量	内面 外面 焼成 良好	7.5YR6/2灰オリーブ 7.5YR6/4灰	内面 外面 底外面	ロクロ ロクロ	I類 5~6a型式 (13C代)
71	28	5D-04	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (6.8)	破片	長石粒 やや多い	内面 外面 焼成 良好	7.5YR6/2灰オリーブ 7.5YR6/2灰オリーブ	内面 外面 底外面	ロクロ ロクロ	I類 6a型式 (13C後葉)
71	29	5C	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (4.6)	破片	石英粒 やや多い	内面 外面 焼成 良好	7.5YR6/1灰 7.5YR6/1灰	内面 外面 底外面	ロクロ ロクロ	I類 6a型式 内面灰かぶり
71	30	5C	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (4.6)	破片	長石粒 やや多い	内面 外面 焼成 良好	7.5YR6/2灰オリーブ 7.5YR6/1灰	内面 外面 底外面	ロクロ ロクロ	I類 6a型式
71	31	SD-004	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (11.4) (3.5)	胴部下半 ~底部 20%	石英・長石 粒(1~2mm) 多い	内面 外面 焼成 良好	10YR5/2灰黄褐 10YR4/4褐	内面 外面 底外面	高台付	I類 5?型式 (13C前半)
71	32	SK-002	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (9.2) (4.3)	胴部下半 ~底部 30%	石英・長石 大粒(1~5 mm) 多い	内面 外面 焼成 良好	2.5Y6/3にふい黄 2.5Y6/2灰黄	内面 外面 底外面	高台付	I類 6a?型式(13C後葉)
72	33	表層一括	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (3.2)	破片	石英・長石 粒多い	内面 外面 焼成 良好	7.5YR5/3にふい褐 7.5YR5/3にふい褐	内面 外面 底外面		Ⅱ類8?型式 (14C後半) 内面:摩滅顕著
72	34	SK-001	常滑	片口鉢	口径 (30.6) 底径 (12.0) 器高 10.8	16%	石英・長石 粒多い	内面 外面 焼成 良好	10YR4/1褐灰 10YR5/2灰黄褐	内面 外面 底外面	ヘラ 指頭によるケズリ ヨコナデ ヘラ 指頭によるケズリ ヨコナデ	Ⅱ類9型式 (15C前半)
72	35	SD-004	常滑	片口鉢	口径 (28.8) 底径 (11.4) 器高 9.7	14%	精緻長石細 粒多い	内面 外面 焼成 良好	2.5Y5/2暗灰黄 7.5YR5/3にふい褐	内面 外面 底外面	ヨコナデ 横位のヘラケズリ ヨコナデ 横位のヘラケズリ	Ⅱ類9型式 (15C前半)
72	36	SD-004	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (6.0)	破片	石英・長石 小粒やや多 い	胎土 内面 焼成 良好	2.5Y5/2暗灰黄 7.5YR5/4にふい褐	内面 外面 底外面	縦位のヘラケズリ	Ⅱ類9型式
72	37	5C	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (11.8) (4.8)	底部10%	長石粒多い	胎土 外面 焼成 やや不良	7.5YR6/6橙 10YR6/4 にふい黄橙	内面 外面 底外面	横位のヘラケズリ後摩滅 横位のヘラケズリ	Ⅱ類
72	38	SD-004	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (13.0) (5.0)	底部14%	長石粒やや 多い	内面 外面 焼成 良好	7.5YR5/4にふい褐 7.5YR5/4にふい褐	内面 外面 底外面	ヘラケズリ	Ⅱ類転用砥石か
72	39	5B	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (12.0) (4.1)	底部16%	長石粒多い	内面 外面 焼成 良好	2.5Y4/1黄灰 10YR5/2灰黄褐	内面 外面 底外面	ヘラケズリ ヘラケズリ	Ⅱ類
72	40	5C	常滑	片口鉢	口径 — 底径 — 器高 (5.3)	破片	長石細粒多 い	内面 外面 焼成 良好	5YR5/4にふい赤褐 2.5YR5/6明赤褐	内面 外面 底外面	ヘラケズリ	Ⅱ類
72	41	5B	常滑	甕	口径 — 底径 — 器高 (7.7)	破片	石英・長石 小粒	内面 外面 焼成 良好	5YR5/3にふい赤褐 5YR4/2灰褐	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヨコナデ	6b型式 (13C末) 断面に漆継ぎ痕有り
72	42	5B	常滑	甕	口径 — 底径 — 器高 (4.9)	破片	石英・長石 小粒	内面 外面 焼成 良好	7.5YR5/4にふい褐 7.5YR5/4にふい褐	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヨコナデ	6b型式 (13C末)
72	43	SD-004	常滑	甕	口径 — 底径 — 器高 (4.0)	破片	長石微粒小 量	内面 外面 焼成 良好	7.5YR4/2灰褐 7.5YR4/2灰褐	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヨコナデ	6b型式 (13C末) 外面灰かぶり
72	44	SD-006	常滑	甕	口径 — 底径 — 器高 (2.4)	破片	石英・長石 微粒少量	内面 外面 焼成 良好	2.5Y3/3暗オリーブ褐 2.5Y6/2灰黄	内面 外面 底外面	ヨコナデ ヨコナデ	6b型式 (13C末)
72	45	SD-004	常滑	甕	口径 — 底径 — 器高 (8.8)	破片	石英・長石 微粒少量	内面 外面 焼成 良好	7.5YR5/4にふい褐 7.5YR5/4にふい褐	内面 外面 底外面	指頭後横のヘラナデ ロクロ	外面灰かぶり
72	46	5C	常滑	甕	口径 — 底径 — 器高 (8.0)	破片	長石微粒	内面 外面 焼成 良好	10YR5/4にふい黄褐 10YR4/4褐	内面 外面 底外面	指頭・ヘラによるヨコナデ ロクロ	外面灰かぶり
72	47	5C	常滑	甕	口径 — 底径 — 器高 (5.2)	破片	長石粒少量	内面 外面 焼成 良好	10YR4/6褐 7.5YR5/1灰	内面 外面 底外面	上:指頭 下:ヘラのヨコナデ ロクロ	外面灰かぶり

挿入No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)	遺存度	胎土	色調・焼成	技 法	備 考			
72	48	5C	常滑	甕	口径 底径 器高 — — (7.1)	破片	精緻 石英微粒微量	内面 外面 焼成	10Y4/1灰 2.5Y4/2暗灰黄 良好	内 面 外 面 底外面	ヨコナデ (指?) 縦位のヘラケズリ後ヨコナデ	
73	49	5C	常滑	甕	口径 底径 器高 — — (9.7)	破片	石英微粒	内面 外面 焼成	10YR6/3にぶい黄橙 7.5YR5/3にぶい褐 良好	内 面 外 面 底外面	指頭後ヘラのヨコナデ ヘラケズリ	外面灰かぶり
73	50	5C	常滑	甕	口径 底径 器高 — — (8.3)	破片	石英・長石 粒やや多い	内面 外面 焼成	10YR5/1褐灰 7.5YR5/3にぶい褐 良好	内 面 外 面 底外面	ヘラのヨコナデ ヘラケズリ	
73	51	SD-004	常滑	甕	口径 底径 器高 — — (8.1)	破片	石英・長石 微粒少量	内面 外面 焼成	10YR4/1褐灰 10YR4/3にぶい黄褐 良好	内 面 外 面 底外面	指頭後ヘラのヨコナデ ヘラケズリ	
73	52	SK-001	常滑	甕	口径 底径 器高 — — (9.3)	破片	石英・長石 微粒少量	内面 外面 焼成	10YR6/2灰黄褐 10YR5/4にぶい黄褐 良好	内 面 外 面 底外面	指頭後ヘラのヨコナデ ヘラケズリ	
73	53	5B-26	常滑	甕	口径 底径 器高 — — (8.0)	破片	石英・長石 微粒	内面 外面 焼成	7.5YR6/6橙 7.5YR5/4にぶい褐 良好	内 面 外 面 底外面	ヘラのヨコナデ ヘラケズリ	断面に漆継ぎ痕あり
73	54	5C	常滑	甕	口径 底径 器高 — — (9.3)	破片	長石粒やや 多い	内面 外面 焼成	5YR5/3にぶい赤褐 5YR5/3にぶい赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	ロクロ ロクロ	9型式 (15C前) 胎土色調 (2.5Y7/3浅黄)
73	55	SD-004	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (6.9)	耳部片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	5YR5/4にぶい赤褐 7.5YR6/4にぶい橙 良好	内 面 外 面 底外面	布と指のナデ 軽いヘラケズリ	外面スス付着
73	56	SD-004	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (7.1)	耳部片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR6/4にぶい橙 5YR5/3にぶい赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	布と指のナデ 布と指のナデ	
73	57	5C	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (7.1)	耳部片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙 良好	内 面 外 面 底外面	布と指のヨコナデ 布と指のヨコナデ	外面全体スス付着
73	58	5C	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (5.4)	耳部片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	布と指のナデ ナデ	外面全体スス付着
73	59	SX-001	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (4.7)	耳部片	雲母細片・ 砂粒微量	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 10YR4/2灰黄褐 良好	内 面 外 面 底外面	布と指のナデ 布と指のナデ	内外面スス付着
73	60	SD-001	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (10.6)	耳部片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 スス 良好	内 面 外 面 底外面	布と指によるナデ ヨコナデ 指頭	外面スス付着
73	61	SD-004	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (11.9)	破片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR5/6明褐 7.5YR3/3暗褐 良好	内 面 外 面 底外面	布とヘラのヨコナデ 浅いヘラケズリ	外面スス付着
73	62	SD-004	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (8.6)	破片	雲母片・長 石・石英粒 やや多い	内面 外面 焼成	5YR5/6明赤褐 5YR4/1褐灰 良好	内 面 外 面	布によるヨコナデ 布によるヨコナデ 軽いヘラ ケズリ	外面スス付着
74	63	SD-004	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (12.0)	破片	雲母細片・ 長石・石英 等の細粒	内面 外面 焼成	5YR5/4にぶい赤褐 5YR4/2灰褐 良好	内 面 外 面	布によるヨコナデ 布によるヨコナデ 軽い縦位 のヘラケズリ	
74	64	SD-002	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (8.2)	破片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	5YR5/6明赤褐 5YR3/3暗赤褐 良好	内 面 外 面	布によるヨコナデ 布によるヨコナデ 一部指頭 によるナデ	外面スス付着
74	65	5C	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (6.4)	破片	雲母細片・ 長石・石英 等の細粒	内面 外面 焼成	7.5YR5/3にぶい褐 7.5YR3/1黒褐 良好	内 面 外 面	布によるヨコナデ 布によるヨコナデ指頭による 軽いケズリ	外面スス付着
74	66	5C	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (8.3)	破片	長石・石英 微粒	内面 外面 焼成	10YR6/4にぶい黄橙 10YR5/2灰黄褐 やや不良	内 面 外 面	布によるヨコナデ 指かヘラによる縦位の軽いヘ ラケズリ後ナデ	外面スス付着
74	67	SD-004	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (7.6)	胴部片	雲母細片・ 長石・石英 等の微砂粒	内面 外面 焼成	10YR3/1黒褐 5YR6/8橙 5YR5/4 にぶい赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるヨコナデ 軽いヘラケズリ	
74	68	SD-004	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (14.0) (6.4)	胴部一 底部片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にぶい褐 7.5YR4/4褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるヨコナデ 指頭後ナデ ヘラケズリ 無調整	外面スス付着
74	69	SD-004	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (1.1)	底部片	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	10YR5/4にぶい黄褐 7.5YR4/3褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ やや渦状 板にのせた跡 無調整	
74	70	SD-001	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (14.0) (1.7)	底部17%	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR4/4褐 5YR4/4にぶい赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ ヘラケズリ 無調整	
74	71	SD-003	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (14.0) (1.9)	底部27%	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	布による同心円状ナデ ヘラケズリ 無調整	
74	72	5C	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (14.0) (2.0)	底部17%	雲母細片・ 砂粒少量	内面 外面 焼成	5YR5/4にぶい赤褐 5YR5/6明赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ ヘラケズリ 無調整	外面スス付着
74	73	5C-30	在地 土器	内耳鍋	口径 底径 器高 — — (14.0) (2.3)	底部12%	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	5YR2/2黒褐 5YR4/4にぶい赤褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ ヘラケズリ 外周ヘラケズリ	

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)		遺存度	胎土	色調・焼成		技 法		備 考
				口径 底径 器高	— () ()			内面 外面 焼成	7.5YR4/3褐 7.5YR4/3褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ 軽いヨコナデ 雑なナデ	
74	74	5B	在地土器 内耳鍋	口径 底径 器高	— (13.0) (1.7)	底部13%	雲母細片・ 砂粒少量	内面 外面 焼成	7.5YR4/3褐 7.5YR4/3褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ 軽いヨコナデ 雑なナデ	
74	75	5B	在地土器 内耳鍋	口径 底径 器高	— (14.0) (3.5)	底部12%	長石・石英 等の微砂粒 少量	内面 外面 焼成	7.5YR4/3褐 7.5YR3/1黒褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ 指頭によるナデ	
74	76	SI-002	在地土器 内耳鍋	口径 底径 器高	— (15.0) (2.1)	底部17%	雲母細片・ 長石・石英 等の砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR4/3褐 7.5YR4/4褐 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ 軽いヘラケズリ	
74	77	SD-003	在地土器 焙烙	口径 底径 器高	32.9 33.6 (4.8)	60%	精緻 雲母 細片・微砂 粒少量	内面 外面 焼成	7.5YR4/3褐 7.5YR4/3褐 7.5YR1.7/1黒 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ ヨコナデ 回転ヘラケズリ 無調整 ザラザラ	内耳3カ所 (1カ所欠損)
74	78	5C	在地土器 焙烙	口径 底径 器高	(35.4) (36.0) (5.4)	口縁～底 部17%	精緻雲母細 片・微砂粒 少量	内面 外面 焼成	7.5YR4/3褐 7.5YR1.7/1黒 良好	内 面 外 面 底外面	布によるナデ ヨコナデ 回転ヘラケズリ 無調整 ザラザラ	外面スス附着
74	79	5C	在地土器 焙烙	口径 底径 器高	(35.4) (35.2) (5.6)	口縁～底 部18%	雲母細片・ 微砂粒少量 スコリア	内面 外面 焼成	7.5YR5/4にふい褐 7.5YR4/3褐 良好	内 面 外 面 底外面	布による同心円状ナデ ヨコナデ 回転ヘラケズリ 無調整 ザラザラ	外面スス附着
74	80	5C	在地土器 焙烙	口径 底径 器高	— — (4.2)	耳部片	精緻雲母小 片・微砂粒	内面 外面 焼成	7.5YR4/3褐 7.5YR1.7/1黒 良好	内 面 外 面 底外面	ヨコナデ 回転ヘラケズリ 無調整 ザラザラ	外面スス附着

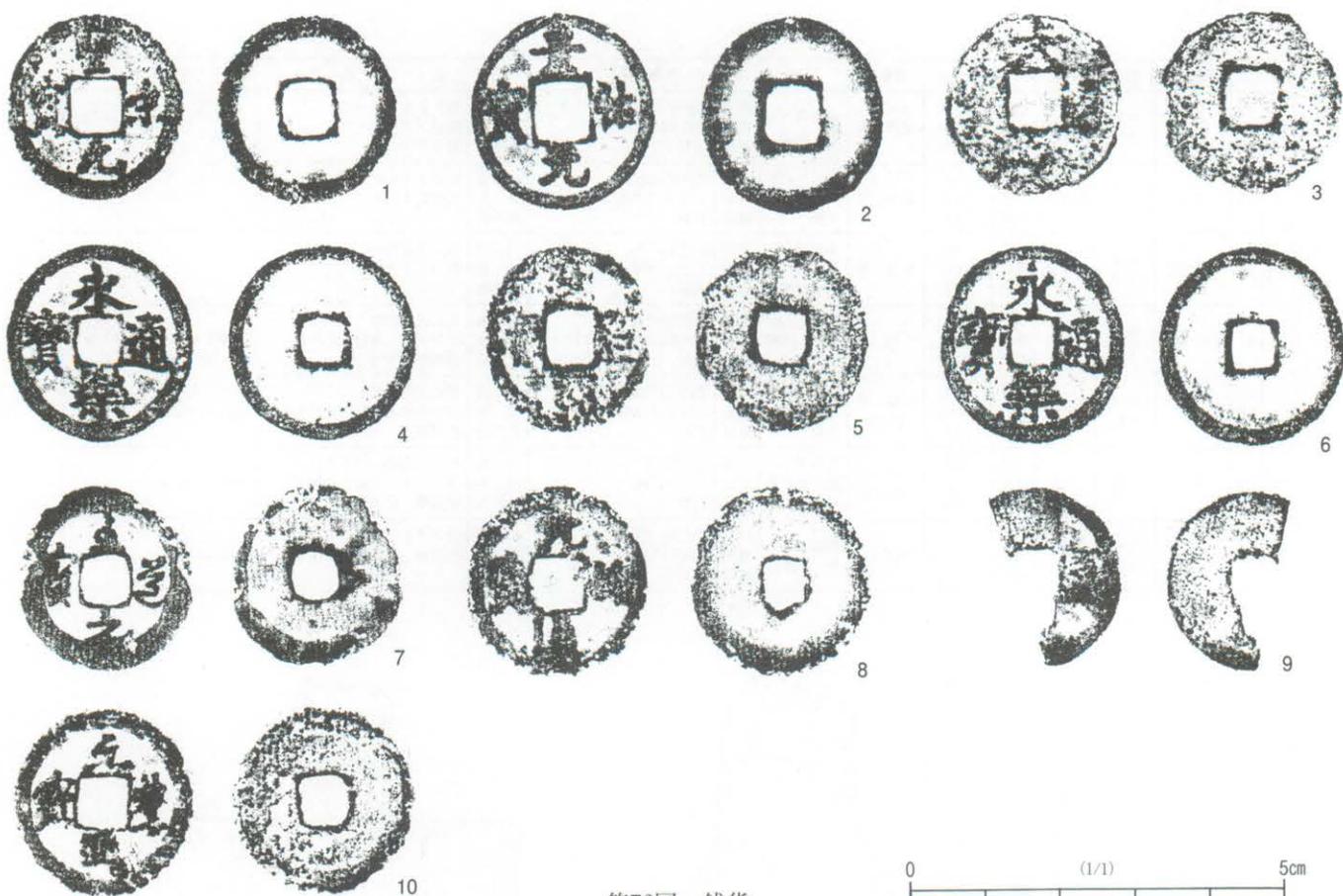


第75図 遺構外出土石器・砥石

第18表 芝西霜田遺跡 石器属性表

() は現存値

挿図番号	グリット・遺構	遺物番号	器 種	石 材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重 量 g	備 考
75	1	T20	打製石斧	ホルンフェルス	11.1	8.4	2.3	206.67	
75	2	SI-002	砥石	砂岩	5.0	4.2	4.0	139.14	基部に釘が食い込んでいる
75	3	SD-004	砥石	砂岩	(4.5)	3.7	2.6	59.44	
75	4	5B	砥石	凝灰岩	(8.5)	3.8	1.9	69.96	
75	5	5C	砥石	凝灰岩	(8.2)	4.4	2.6	163.74	
75	6	5C-30	砥石	砂岩	(5.7)	4.4	1.6	64.45	



第76図 錢貨

第19表 芝西霜田遺跡 錢貨計測表

() は現存値

挿図 番号	遺構	遺物 番号	銭名	重さ (g)	縁外径 (mm)		縁内径 (mm)		郭外径 (mm)		郭内径 (mm)		縁厚 (mm)				内面厚 (mm)			
					縦	横	縦	横	縦	横	縦	横	上	右	下	左	右上	右下	左下	左上
76 1	SK-002	5	聖宋元寶	3.37	23.9	23.7	17.8	17.8	7.7	8.2	6.6	6.4	1.4	1.4	1.4	1.5	0.8	0.8	0.9	0.9
76 2	SK-002	6	景祐元寶	2.74	23.1	23.0	18.9	19.0	8.1	8.0	7.1	6.9	1.4	1.3	1.4	1.4	0.7	0.7	0.7	0.7
76 3	SK-002	7	大□□□	2.64	23.6	23.7	21.6	21.9	7.7	7.7	6.4	6.5	1.3	1.3	—	1.3	0.9	0.9	1.0	1.0
76 4	SK-002	8	永樂通寶	3.42	25.2	25.2	20.0	20.1	6.5	6.5	5.4	5.5	1.5	1.4	1.3	1.5	0.8	0.7	0.8	0.8
76 5	SK-002	9	不明	3.37	23.6	—	18.6	18.6	7.7	7.5	6.8	6.4	1.3	—	1.4	1.5	1.0	1.1	1.0	1.0
76 6	SK-002	10	永樂通寶	2.80	25.2	25.0	20.4	20.6	7.0	6.3	5.7	5.5	1.3	1.2	1.5	1.5	0.6	0.8	0.8	0.7
76 7	SK-002	11	至道元寶	1.89	24.1	—	16.9	16.9	7.0	7.0	6.0	6.1	1.2	1.2	1.2	1.1	0.8	0.7	0.8	0.8
76 8	SD-005	2	元□通寶	2.61	24.5	24.3	18.7	18.8	7.8	7.2	6.1	5.6	1.2	1.2	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8
76 9	16T	4	不明	2.60	24.1	24.1	18.5	19.5	7.1	7.1	6.5	6.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.0	1.0	1.0	0.9
76 10	5B-36	1	元豊通寶	(1.55)	—	—	—	—	—	—	—	—	1.5	1.5	—	—	1.1	1.1	—	—

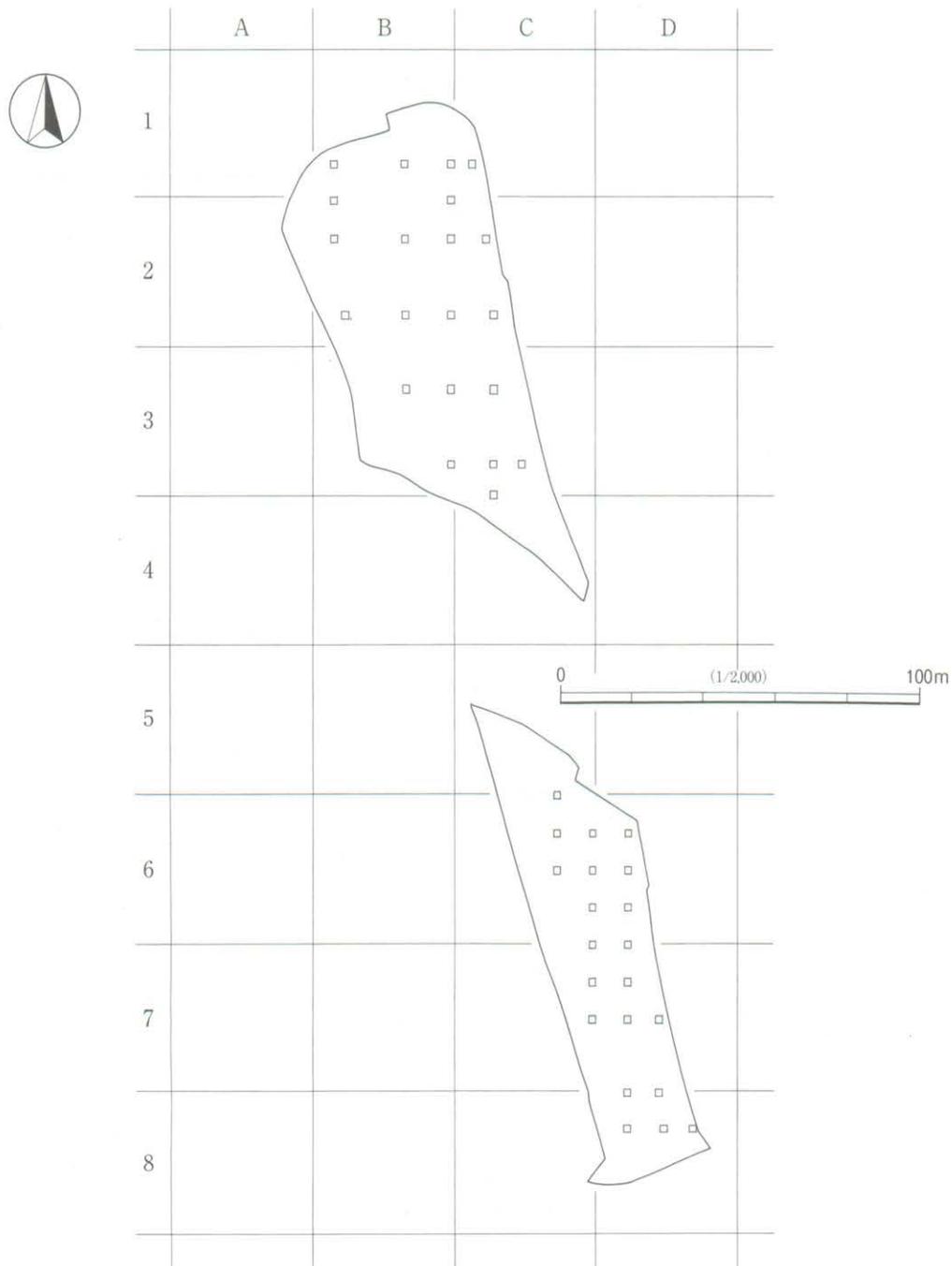
第20表 芝西霜田遺跡 その他出土遺物

遺構番号	遺物番号	種類	重量 (g)	備考	遺構番号	遺物番号	種類	重量 (g)	備考
6B-05	1	キセル	20.63		12トレンチ	1-a	スラグ	10.93	
SK-010	一括-a	スラグ	59.11		12トレンチ	1-b	スラグ	5.24	
SK-010	一括-b	スラグ	10.02		12トレンチ	1-c	スラグ	4.53	
SD-004	1	スラグ	61.42		19トレンチ	1	スラグ	4.03	
SD-004	4	スラグ	27.86		20トレンチ	3-a	スラグ	21.54	
SD-006	1	スラグ	61.42		20トレンチ	3-b	スラグ	7.26	
2A-36	1	スラグ	15.69		22トレンチ	1-a	スラグ	34.66	
5Bグリッド	3	スラグ	8.82		22トレンチ	1-b	スラグ	13.96	
5Bグリッド	4	スラグ	87.23		23トレンチ	1-a	スラグ	26.35	
5Cグリッド	42	スラグ	783.24		23トレンチ	1-b	スラグ	9.21	
1トレンチ	1-a	スラグ	9.27		23トレンチ	4-a	スラグ	101.46	
1トレンチ	1-b	スラグ	0.44		23トレンチ	4-b	スラグ	73.26	

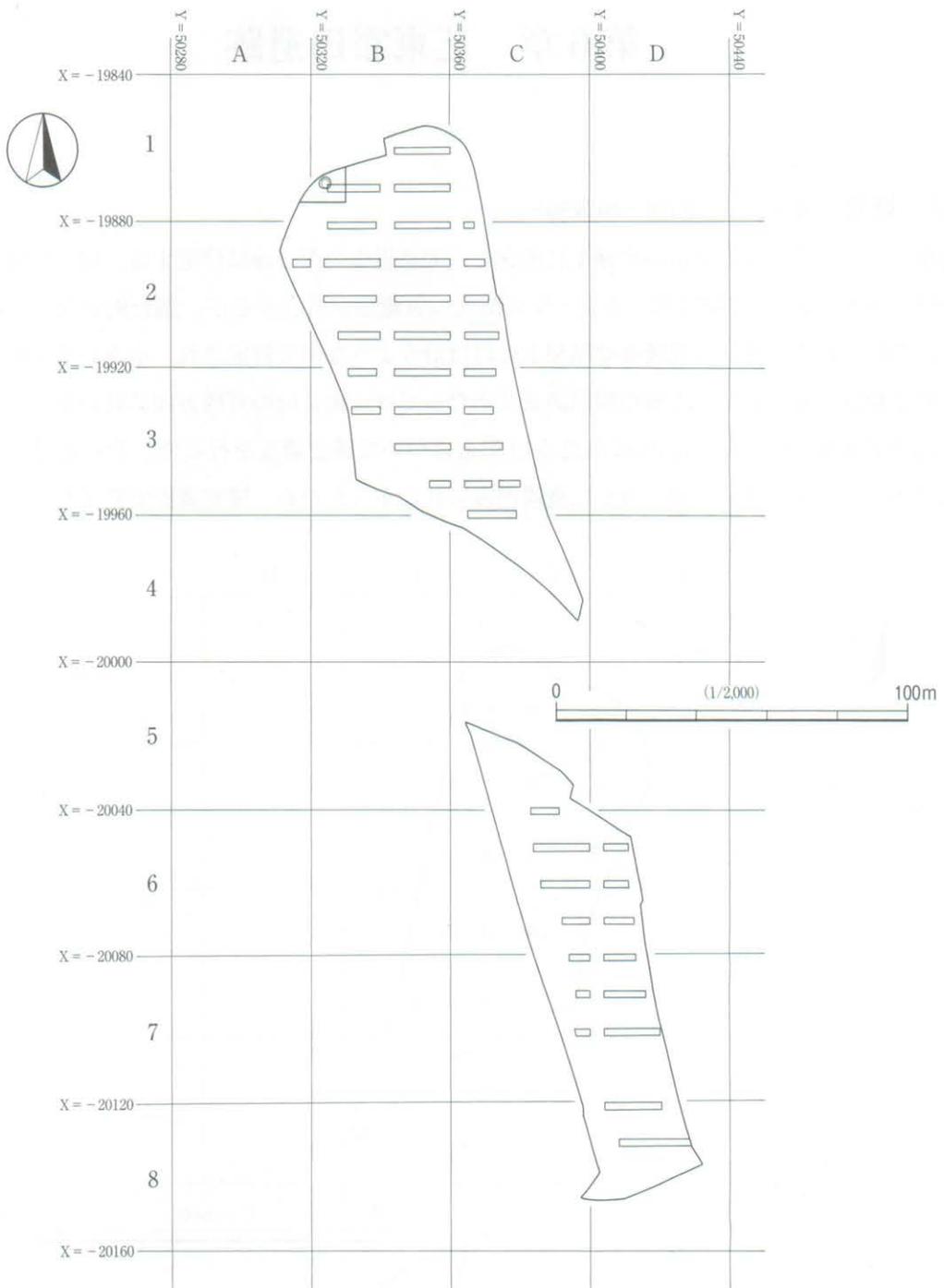
第6章 芝東霜田遺跡

第1節 概要 (第4・77~79図, 図版50)

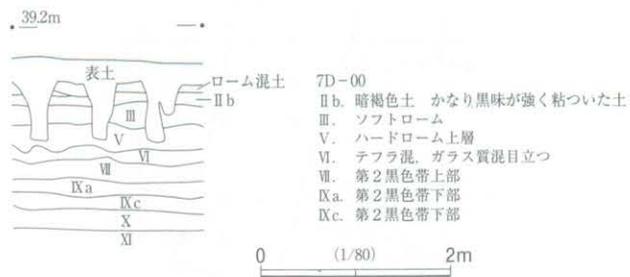
尾羽根川を西に望む標高38mの台地上に所在し、大慈恩寺の西2kmに位置する。同一丘陵の東側に縄文時代中期(阿玉台式)、古墳時代、奈良・平安時代の包蔵地が所在するが、調査例がなく詳細は不明瞭である。調査区は南北に延びる丘陵痩せ尾根上にほぼ沿うような形で設定され、小支谷及び道路をはさんで北と南の2地点に分かれる。上層の確認調査にあたっては、幅2mの東西方向に長いトレンチを多く設定した。調査対象面積8,800㎡の13%にあたる1,180㎡について確認調査を行った。その結果、北側に古墳時代中期の土坑1基を検出したが、ほかに遺構がみられなかったため、確認調査で終了した。



第77図 下層確認グリッド配置図



第78図 上層確認トレンチ配置図

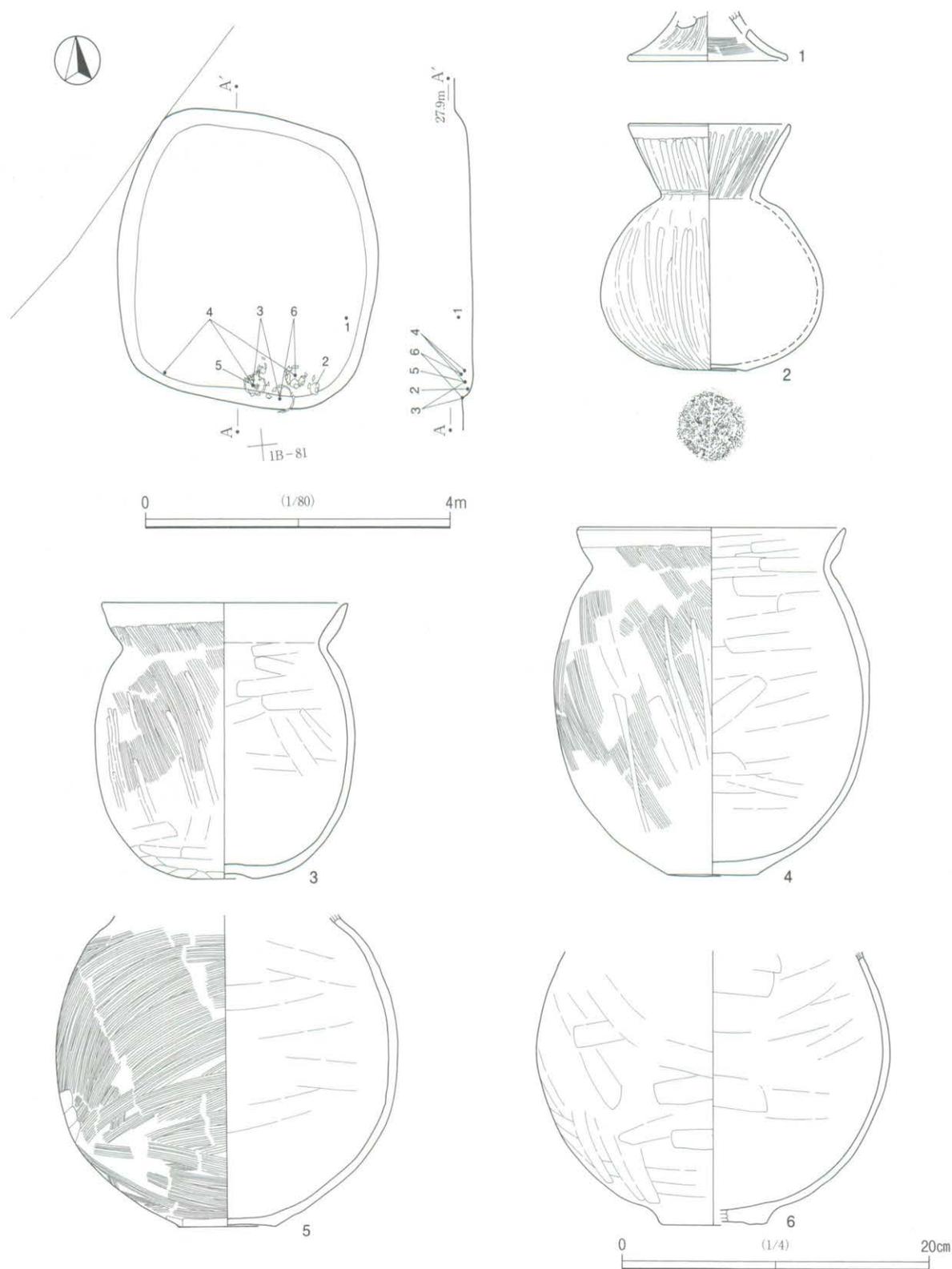


第79図 基本土層

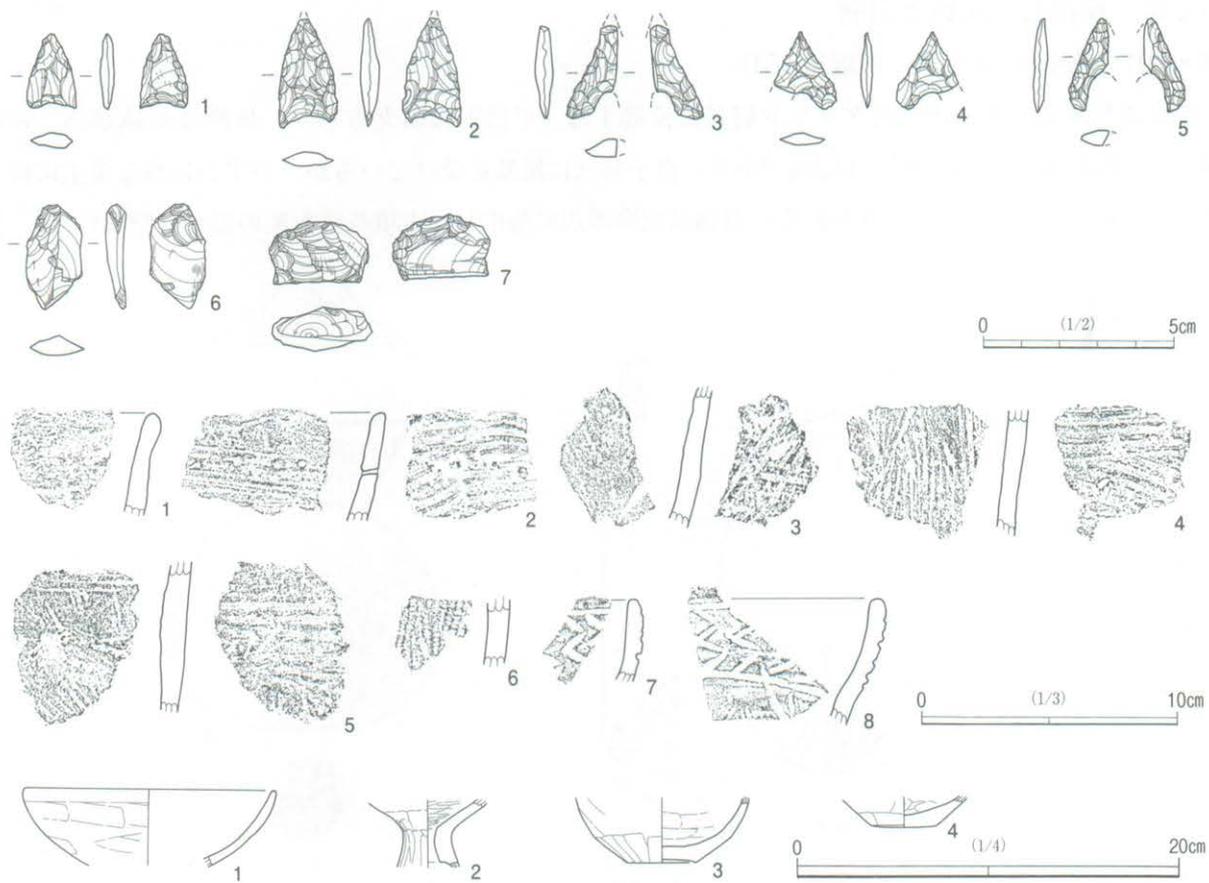
第2節 検出した遺構と遺物

SK-001 (第80図, 第21表, 図版50・51)

北側調査区北西端, 1B-71グリッド周辺に位置する。平面形は隅丸方形で, 規模は長軸3.6m, 短軸3.43m, 確認面からの深さ9.7~18.2cmである。格子目状に攪乱を受けているが, わずかに残る覆土にはソフトロームブロックの混入もみられる。遺物は南壁周辺に集中し, 古墳時代前期の器台(脚部), 埴, 甕



第80図 SK-001・出土遺物



第81図 遺構外出土土器・石器

などが出土した。胎土はいずれも白色粒子・やや大粒の赤色スコリア・砂などを混入し、焼成のやや甘いものが多い。甕は球形の胴部に緩やかに外反する口縁部をもち、ハケ調整の後ヘラナデを施すものがみられる。

遺構外出土遺物（第81図、第21～23表、図版51）

石器は北側調査区から出土しているものがほとんどで、安山岩、チャート、頁岩製の石鏃、黒曜石の剥片がみられる。

縄文土器も北側調査区からの出土がほとんどである。早期条痕文系が多く、後期末～晩期初頭と思われる破片も出土している。

土師器はSK-001周辺のグリッド出土のものがほとんどであり、SK-001に伴う可能性も考えられる。

第21表 芝東霜田遺跡 遺物観察表

挿図No	遺構No	種類	器種	法量 (cm)		遺存度	胎土	色調・焼成		技法		備考	
				口径 底径 器高	— (10.3) (3.1)			脚部～ 底部30%	砂粒, 赤色ス コリア	内面 外面 焼成	明褐 (7.5YR5/6) 明褐 (7.5YR5/6) 良好		脚部内面 外面 底外面
80	1	SK-001	土師器	器台	口径 底径 器高	— (10.3) (3.1)	脚部～ 底部30%	砂粒, 赤色ス コリア	内面 外面 焼成	明褐 (7.5YR5/6) 明褐 (7.5YR5/6) 良好	脚部内面 外面 底外面	ハケ ヨコナデ ミガキ ナデ	透孔2ヶ残存
80	2	SK-001	土師器	埴	口径 底径 器高	10.4 4.3 15.4	95%	白色粒子(多), 赤色スコリア	内面 外面 焼成	橙 (7.5YR6/6) 橙 (7.5YR6/6) 良好	内面 外面 底外面	ミガキ ヘラナデ ナデ ハケ・ヘラケズリ後ミガキ 木葉痕	外面スス
80	3	SK-001	土師器	甕	口径 底径 器高	(16.1) 4.3 17.2	40% 底部 100%	砂粒, 赤色ス コリア (大)	内面 外面 焼成	にぶい赤褐 (5YR5/4) 褐灰 (5YR4/1) やや不良	内面 外面 底外面	ハケのちヨコナデ ヘラナデ ヨコナデ ハケ後ヘラナデ 木葉痕	外面スス
80	4	SK-001	土師器	甕	口径 底径 器高	(17.3) 5.9 21.7	25% 底部75%	赤色スコリア (大), 白色粒 子, 砂粒	内面 外面 焼成	にぶい赤褐 (5YR5/4) 褐灰 (5YR4/1) 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヨコナデ ハケ後ヘラナデ ヘラケズリ	外面スス
80	5	SK-001	土師器	甕	口径 底径 器高	— 6.4 (19.7)	胴部上半 ～底部 70%	赤色スコリア (大), 白色粒 子	内面 外面 焼成	明赤褐 (5YR5/6) 明赤褐 (5YR5/6) 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ハケ ヘラケズリ	
80	6	SK-001	土師器	甕	口径 底径 器高	— 7.1 (17.3)	胴部上半 ～底部 35%	赤色スコリア (大), 白色粒 子	内面 外面 焼成	橙 (7.5YR6/6) 橙 (7.5YR6/6) やや不良	内面 外面 底外面	ヘラナデ 粗いヘラケズリ 無調整	内外面スス
81	1	1B-92	土師器	杯	口径 底径 器高	(13.2) — (3.9)	口縁～ 体部25%	白色粒子(多), 赤色スコリア (大)	内面 外面 焼成	明褐 (7.5YR5/6) 明褐 (7.5YR5/6) やや不良	内面 外面 底外面	ナデ ヨコナデ ヘラナデ	
81	2	1B-70	土師器	器台	口径 底径 器高	— — (3.5)	杯部～ 脚部70%	白色粒子, 赤 色スコリア	内面 外面 焼成	にぶい褐 (7.5YR5/4) にぶい褐 (7.5YR5/4) やや不良	内面 外面 底外面	粗いミガキ ヘラナデ	
81	3	1B-83.93	土師器	埴	口径 底径 器高	— (3.6) (3.3)	胴部下半 ～底部 25%	白色粒子(多)	内面 外面 焼成	橙 (7.5YR6/6) にぶい褐 (7.5YR5/4) やや不良	内面 外面 底外面	ヘラナデ ナデ ヘラケズリ ヘラナデ	
81	4	1B-81	土師器	埴	口径 底径 器高	— 3.4 (1.5)	底部70%	砂粒(多), 赤色スコリア (大)	内面 外面 焼成	明褐 (7.5YR5/6) にぶい褐 (7.5YR5/4) やや不良	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラケズリ ヘラケズリ	

第22表 芝東霜田遺跡 石器属性表

() は現存値

挿図番号	グリット・遺構	遺物番号	器種	石材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重量 g	備考
81	1	1B-93	石鎌	安山岩	1.90	1.30	0.4	0.82	
81	2	2B-02	石鎌	チャート	2.70	1.55	0.5	1.66	
81	3	2B-01	石鎌	頁岩	(2.30)	(1.40)	0.5	0.43	
81	4	7C-59	石鎌	安山岩	1.90	(1.65)	0.3	0.69	
81	5	B61	石鎌	頁岩	2.30	(1.05)	0.4	0.43	
81	6	1B-92	剝片	黒曜石	2.65	1.50	0.5	1.73	
81	7	1B-82	剝片	黒曜石	1.60	2.60	1.5	4.14	

第23表 芝東霜田遺跡 縄文土器観察表

挿図番号	遺構番号	器種	色調		胎土	文様	時期	型式	備考	
			外面	内面						
81	1	1B-81	深鉢	暗褐色	褐色	細砂 わずかに繊維	無文	早期	沈線文系	口縁部
81	2	1B-80	深鉢	灰褐色		微細砂 繊維	条痕文 刺突文 (貫通する)	早期	条痕文系	小波状口縁か
81	3	001	深鉢	明灰褐色	黒色	微細砂 繊維	外無文 内条痕文	早期	条痕文系	
81	4	001	深鉢	明灰褐色	黒色	微細砂 繊維	条痕文	早期	条痕文系	
81	5	1A-89	深鉢	明灰褐色	黒色	微細砂 繊維	条痕文	早期	条痕文系	
81	6	グリッド一括	深鉢	褐色	黒色	白色礫	撚糸文	早期	撚糸文系	
81	7	グリッド一括	深鉢	明灰褐色		微細砂	鋸歯状沈線文	後期末～晩期初頭		口縁部
81	8	1B-72	深鉢	明灰褐色		微細砂	鋸歯状沈線文	後期末～晩期初頭		口縁部

第7章 まとめ

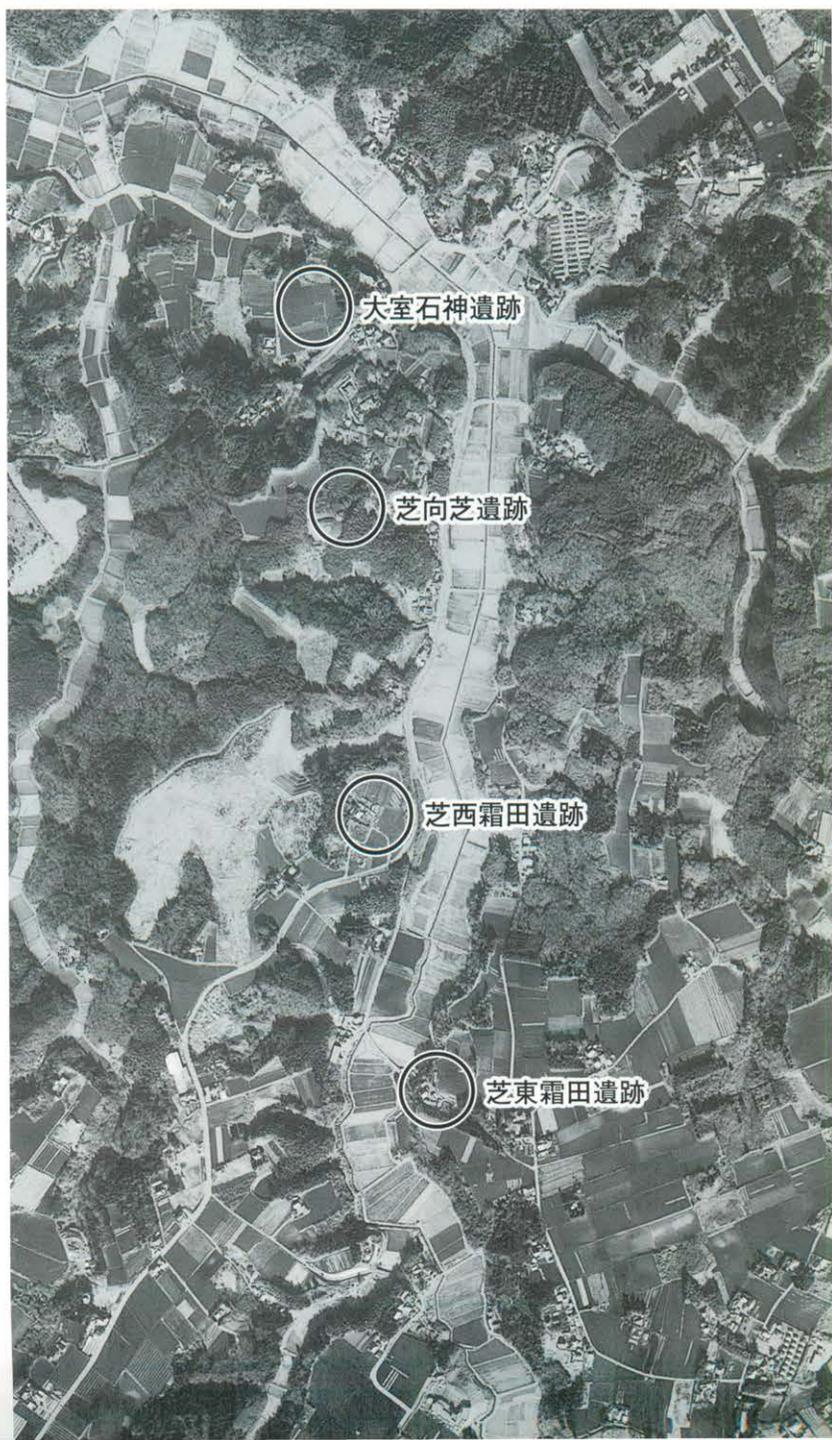
今回調査した南城砦跡から、旧下総町では調査例の少ない弥生時代の住居跡4軒と古墳時代初頭の住居跡2軒が検出された。南城砦跡の所在する名木地区周辺は古墳時代後期から奈良・平安時代にかけて大集落が展開する地域であり、南城砦跡から北西へ2.5kmほどの大和田地区は古墳時代の玉作遺跡群として知られている。旧下総町全体をみても古墳時代以降遺跡数が急増するが、古墳時代以前の弥生時代については調査例が少なく、不明瞭なことが多い。これまで調査された遺跡を概観すると、利根川沿岸部と尾羽根川中流域に遺跡が集中するようである。

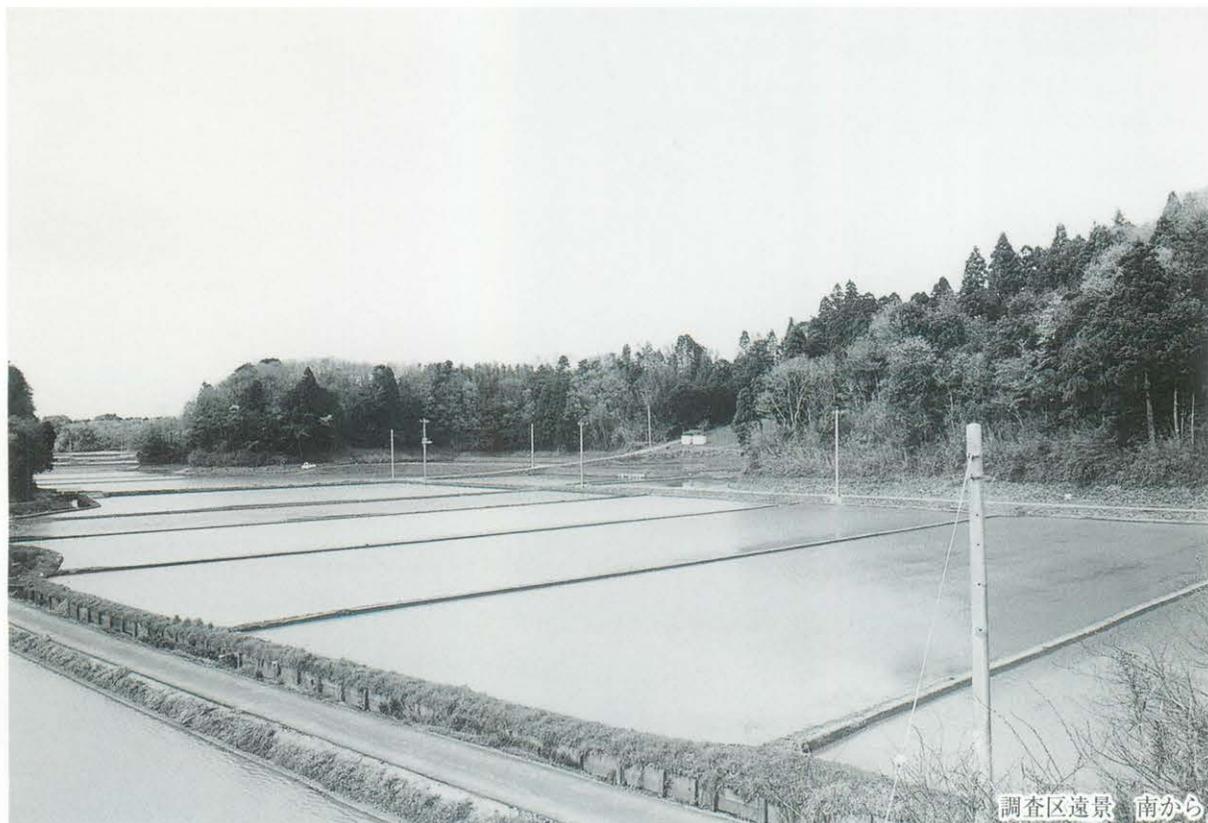
利根川沿岸部では弥生時代後期の竪穴住居跡が長稲葉遺跡から2軒、中里原ノ台遺跡から4軒、大和田坂ノ上遺跡から4軒検出されている。大日山古墳群では1号墳の封土下に10軒、2号墳下に1軒、ほかから2軒の、合わせて13軒の住居跡の存在が確認されている。古墳を主体とした調査であったため、住居跡は完掘されておらず詳細不明ながらも、全体では更に多くの住居跡があったと考えられ、まとまった集落を展開していたと推察される。一方、尾羽根川中流域では椎ノ木遺跡から6軒、成井鶴ヶ峰遺跡から6軒、名古屋横峰遺跡から1軒、新シ山・柳和田台遺跡からは中期の土器棺墓が検出されている。いずれの遺跡も遺物量が少なく、まとまった遺物量がみられるのは成井鶴ヶ峰遺跡のみである。弥生時代後期後半～古墳時代前期の土器群で、北関東系土器の特徴である口縁部下端に貼り瘤をもつ甕などが出土している。今回の調査で南城砦跡からもほぼ同様の甕が出土しており、北関東との繋がりを示す資料が更に補完できたといえる。南関東系と思われる土器も数点出土している。SI-004の胴部上位に輪積痕と押捺痕を有する甕(9)、SI-011の折返し状の口縁に網目状捺糸文を有する鉢(2)、第31図の1～3の鉢、4・5の壺、28の甕が該当すると思われる。SI-011の3も胴部上位に輪積痕を残す南関東系の甕と思われるが、胎土に小礫を含むなど、ほかと胎土を異にする。利根川(鬼怒川)を介した北関東地域との交流と、わずかながらも南関東との交流もうかがえる。

大室石神遺跡は尾羽根川中流域に位置し、古墳時代の方墳1基と奈良・平安時代の竪穴住居跡5軒が検出された。ごくわずかであるが、旧石器時代と縄文時代の遺物も出土している。尾羽根川源流付近は成田空港建設に伴う発掘調査によって旧石器時代～縄文時代の遺跡が多数存在していたことが明らかとなっている。また、大室石神遺跡の対岸の椎ノ木遺跡や成井原山向遺跡からも旧石器時代～縄文時代草創期の遺物が出土しており、関連性がうかがえる。

同じく尾羽根川中流域に所在する芝向芝遺跡、芝西霜田遺跡、芝東霜田遺跡周辺は遺跡が希薄で調査例も少ない。検出された遺構は芝向芝遺跡で奈良時代の竪穴住居跡2軒と中世の遺構、芝西霜田遺跡では北側調査区から奈良時代の竪穴住居跡2軒、南側調査区から中世の遺構と中世陶器が比較的まとまって出土している。芝東霜田遺跡では調査区北端から古墳時代前期の遺物を伴った土坑1基が検出された。今回の調査で検出された遺構も少なかったものの、ごく小規模な集落の存在が明らかとなった。今後の調査例増加を待って、更なる検討が加えられることを期待したい。

写 真 图 版





南城砦跡 (1) 調査前・トレンチ検出状況



SI-001, SI-002



SI-003 完掘



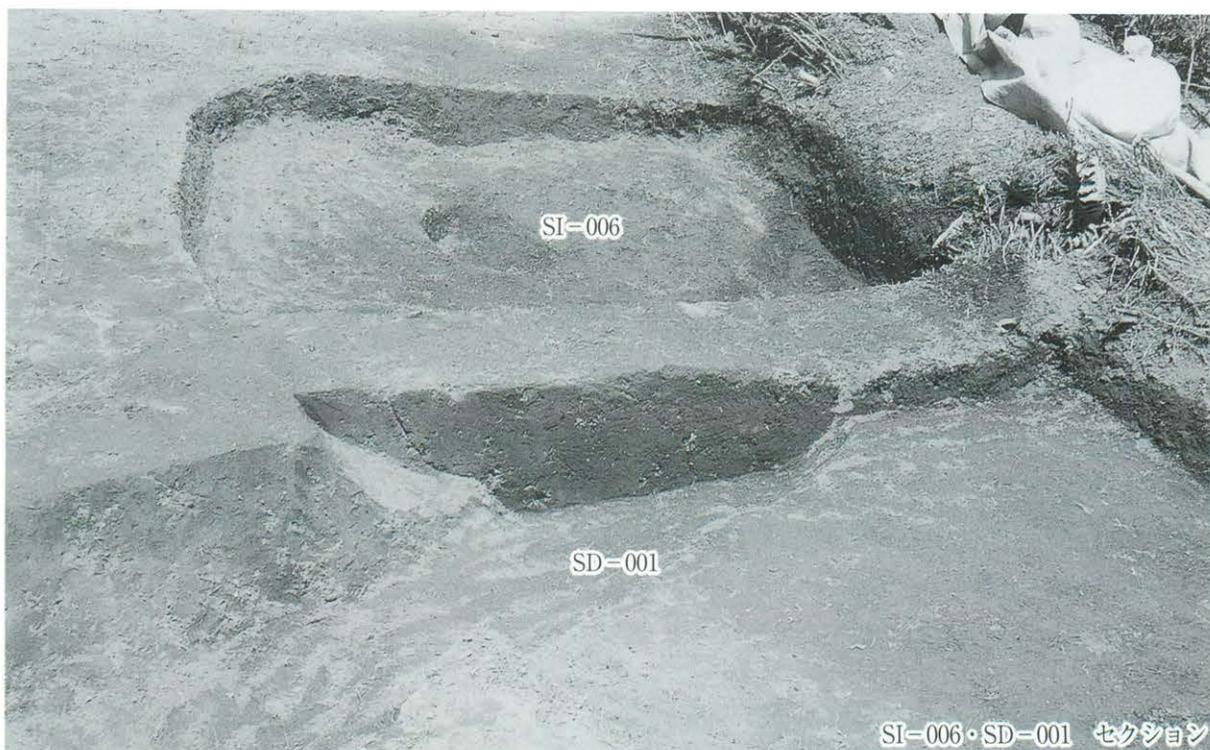
SI-003 カマド



SI-003 遺物出土状況



SI-005 完掘



SI-006, SD-001, SI-008



SI-009, SI-010



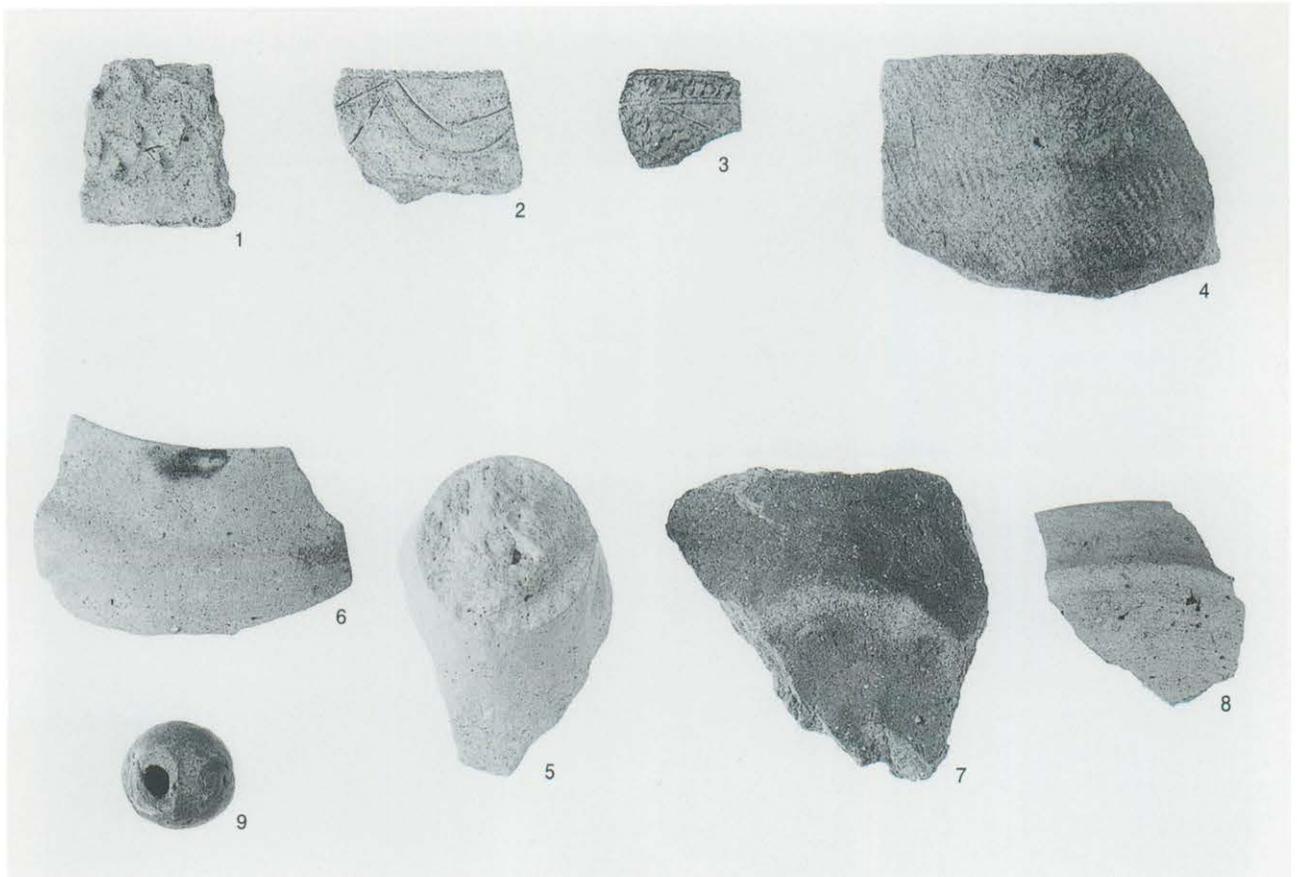
SI-011, SI-012, SK-015



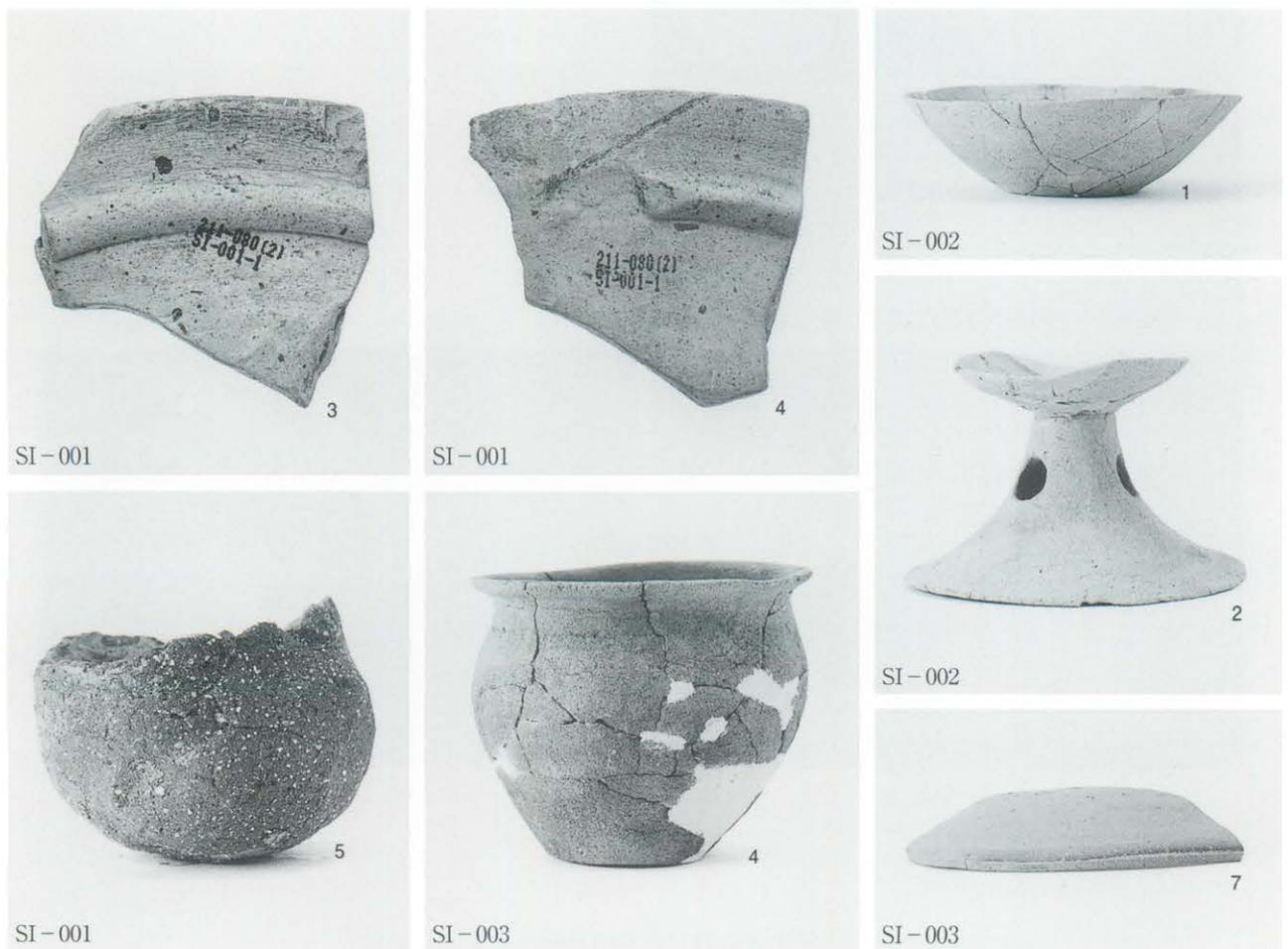
SK-001~SK-009



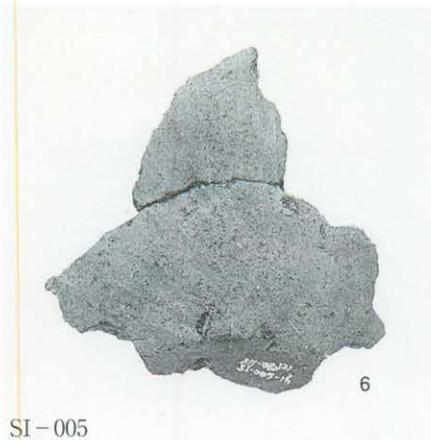
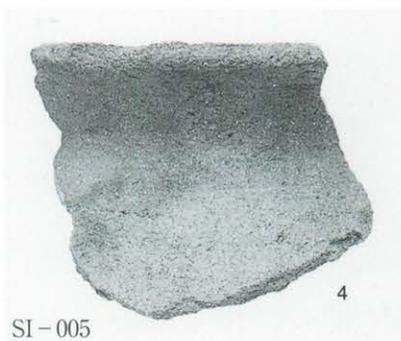
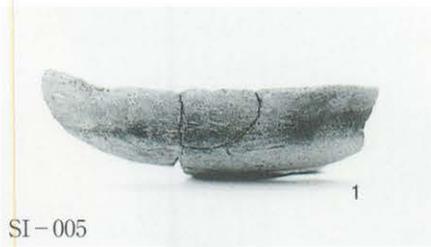
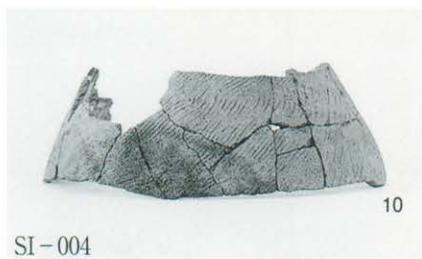
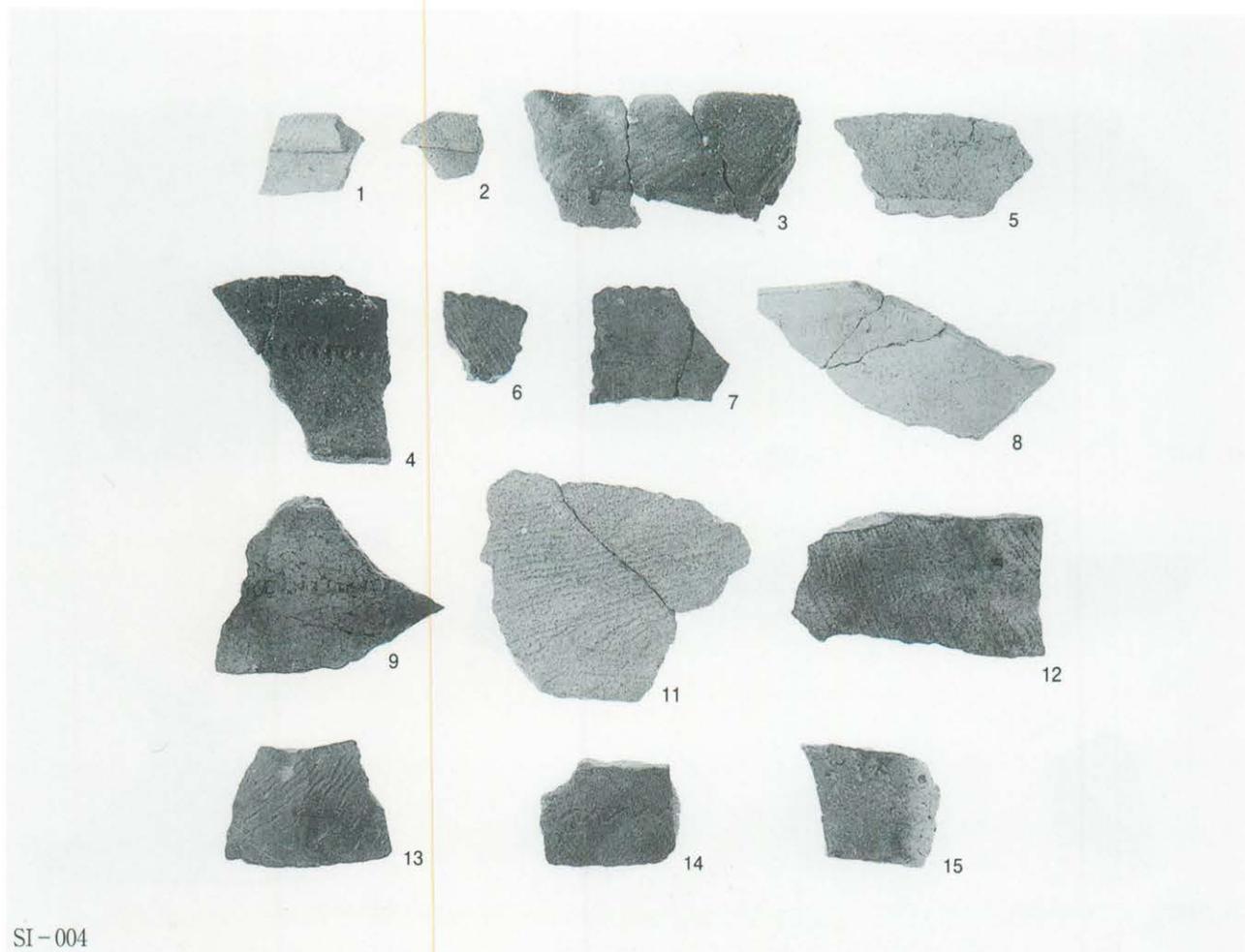
SK-010, SK-011, SK-013, SK-014, SK-018, 第1ピット群

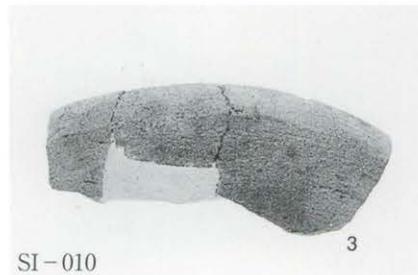
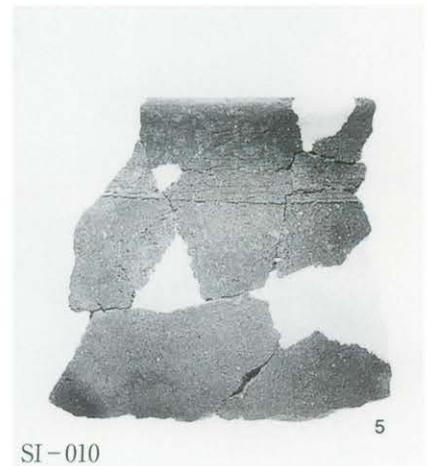
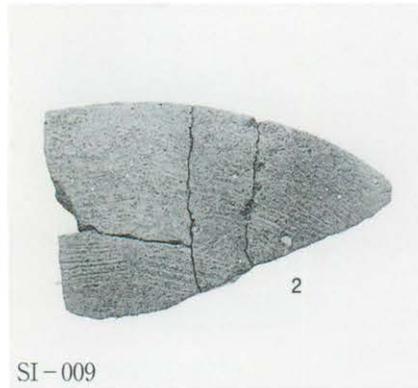
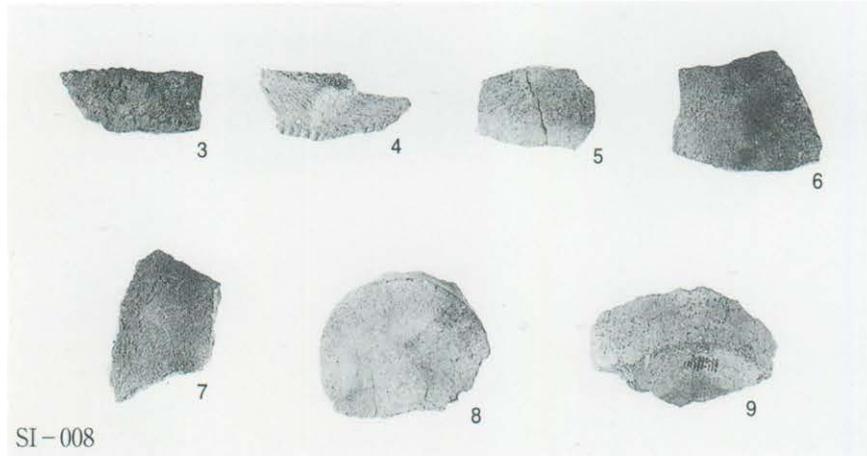
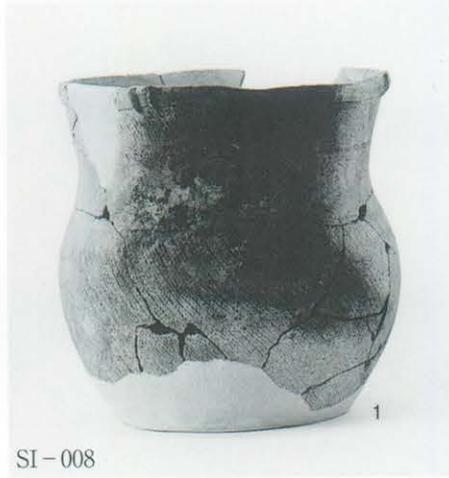


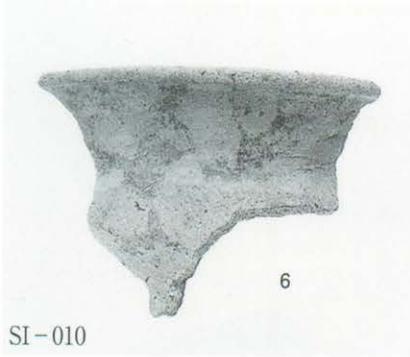
南城砦迹 (1) 出土遺物



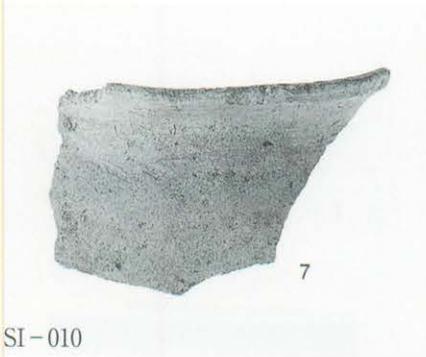
南城砦迹 (2) 出土遺物 (1)







SI-010



SI-010



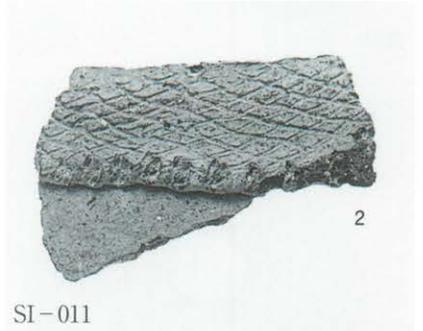
SI-010



SI-010



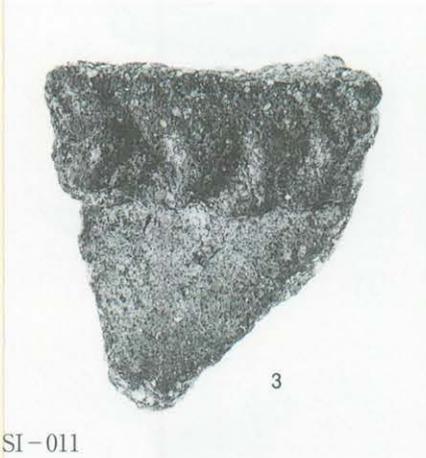
SI-011



SI-011



SI-010



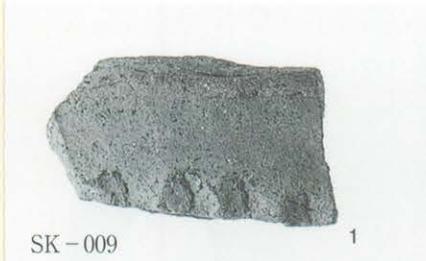
SI-011



SI-011



SI-011



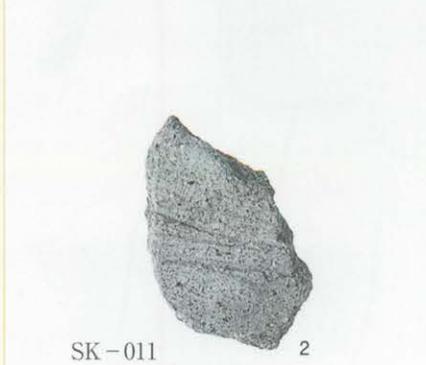
SK-009



SK-011



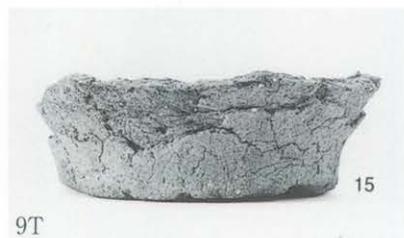
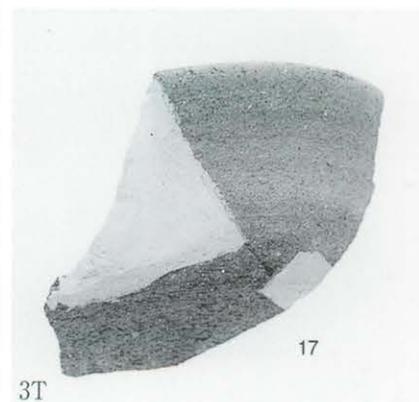
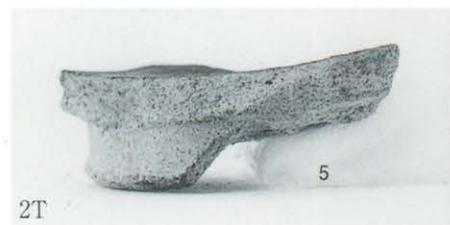
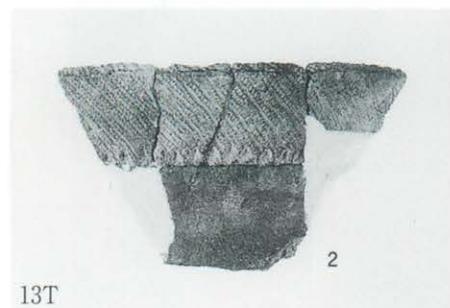
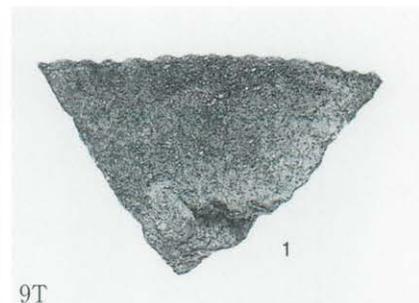
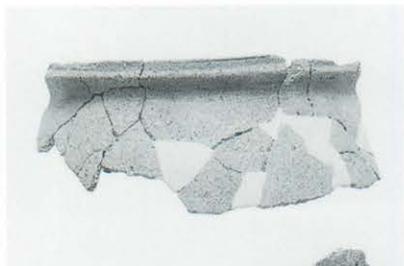
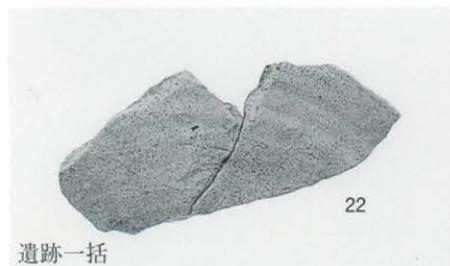
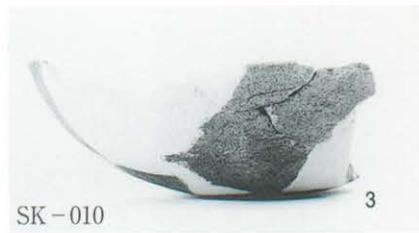
SI-012



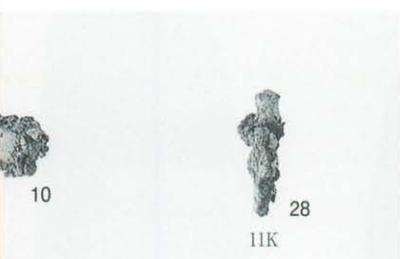
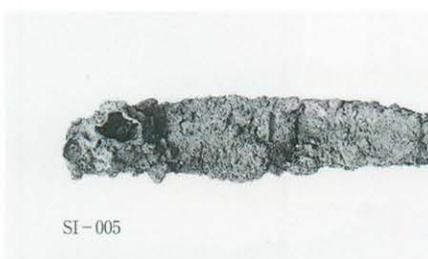
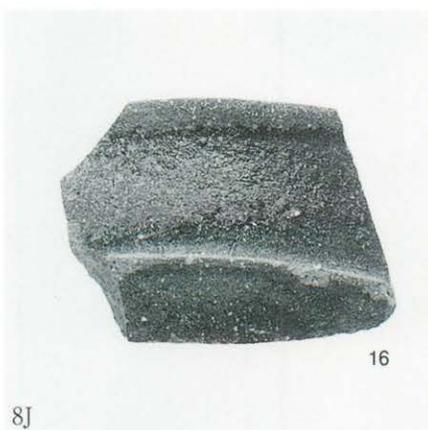
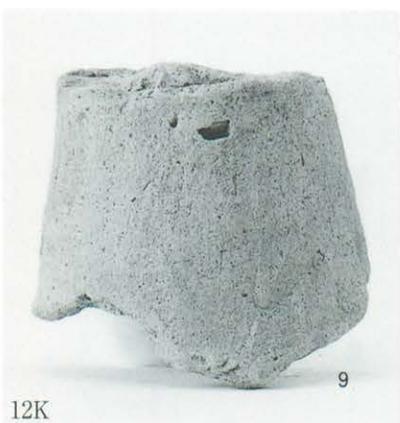
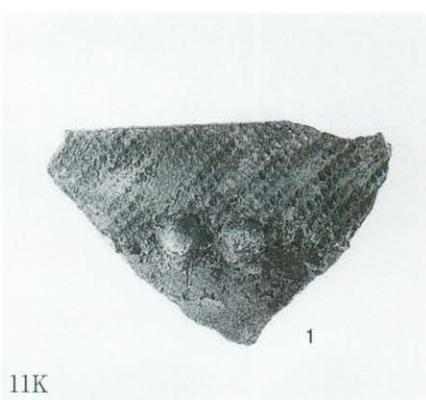
SK-011



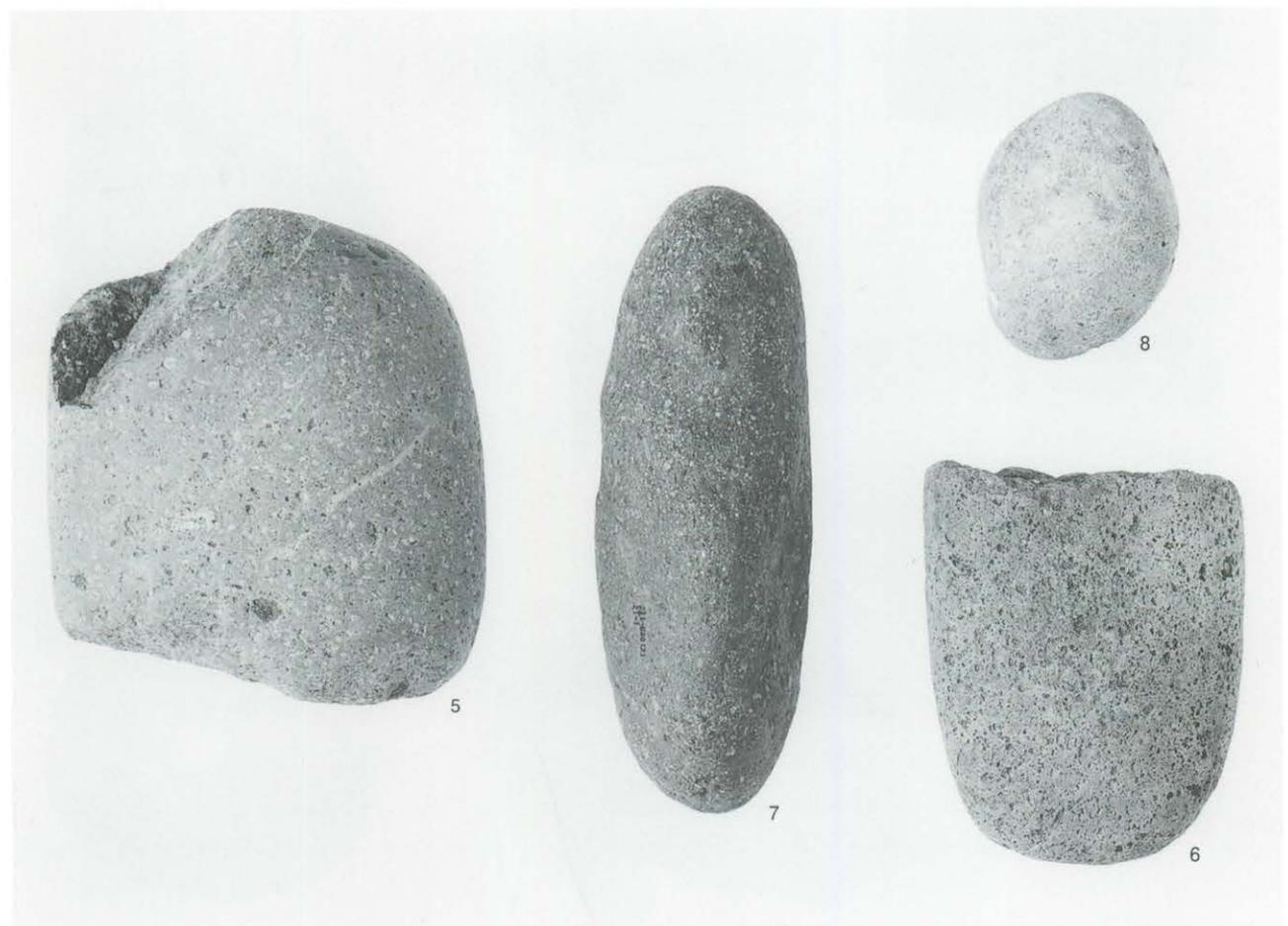
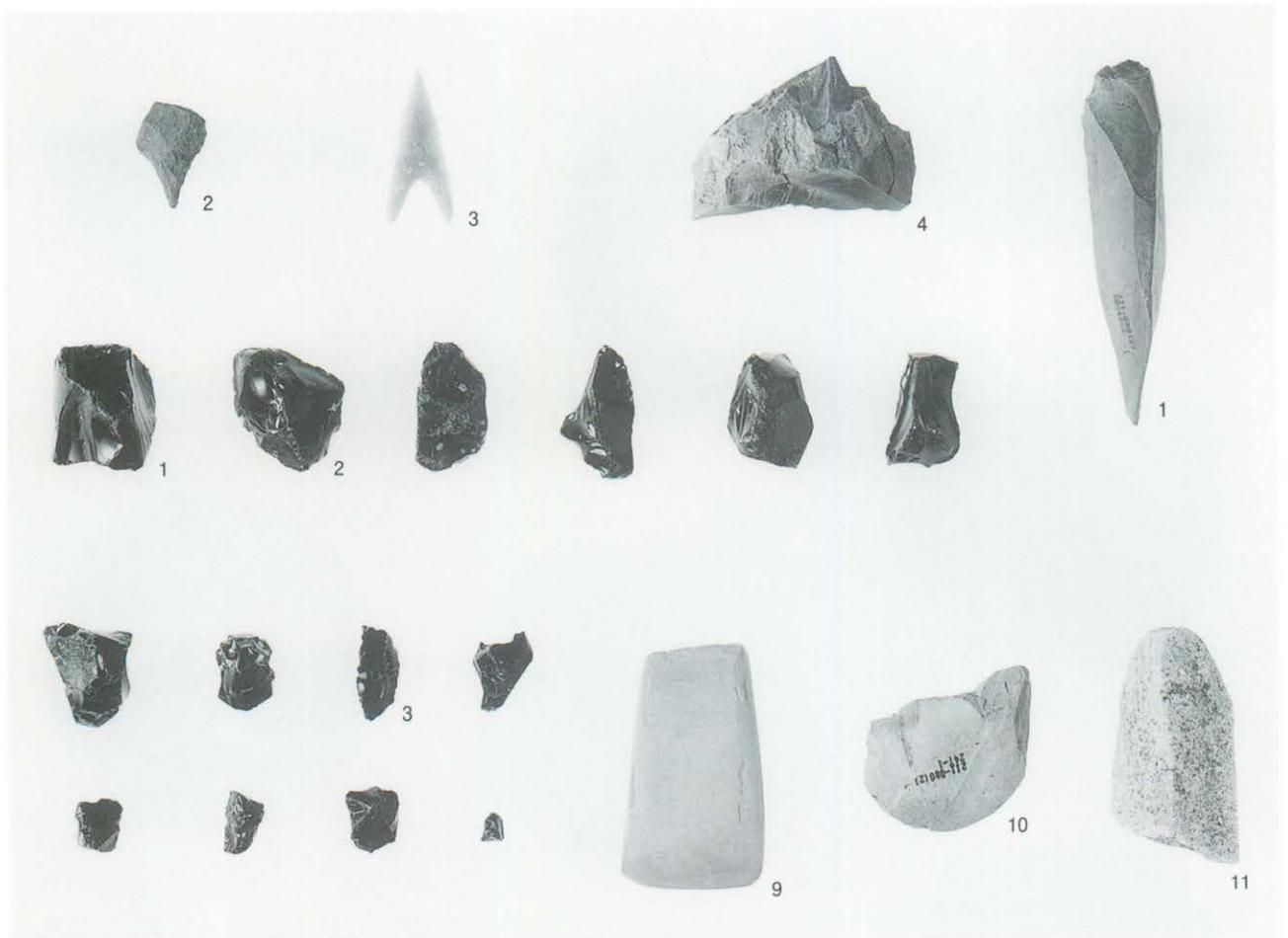
SK-014



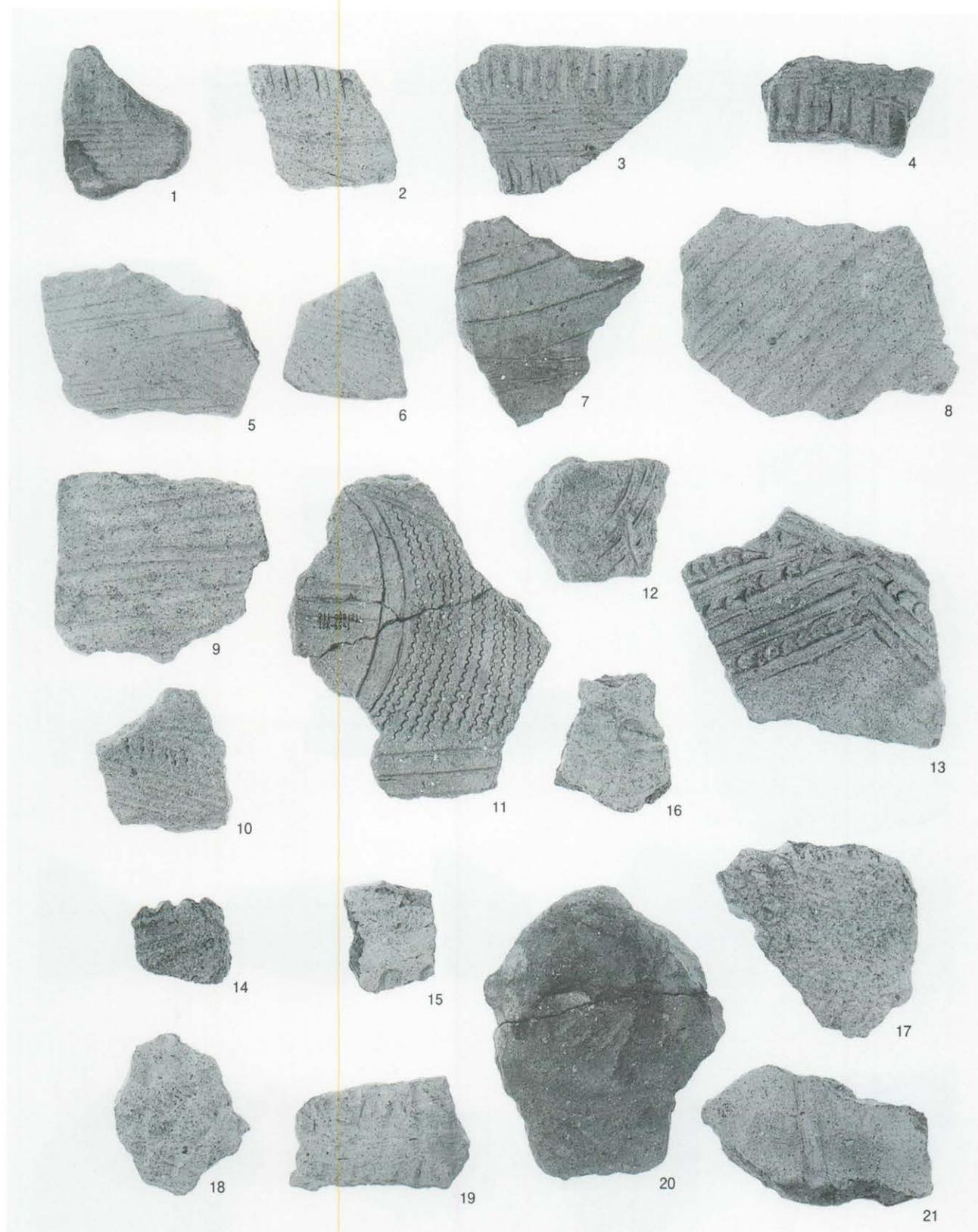
南城砦跡 (2) 出土遺物 (5)



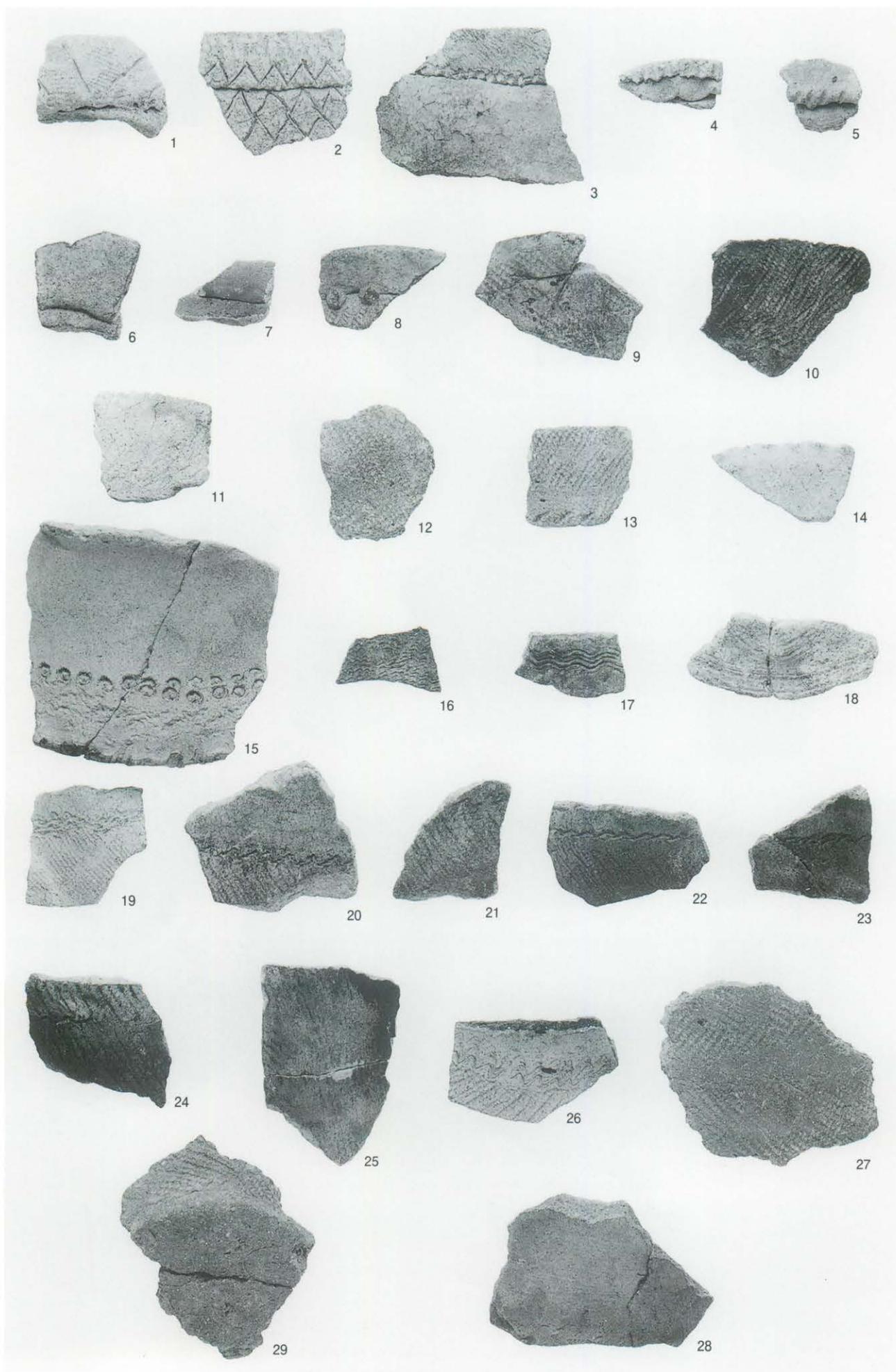
南城砦跡 (2) 出土遺物 (6)



南城砦迹 (2) 出土遺物 (7)



南城岩跡 (2) 出土遺物 (8)



南城砦迹 (2) 出土遺物 (9)



4G-00付近 遺物出土状況 北西から



5G-00 西面主層セクション 東から



SM-001 南周溝主橋 南から



下層セクション 北から



SX-001セクション 南から

グリッド遺物出土状況, 下層セクション, SM-001, SX-001



SM-001, SX-001



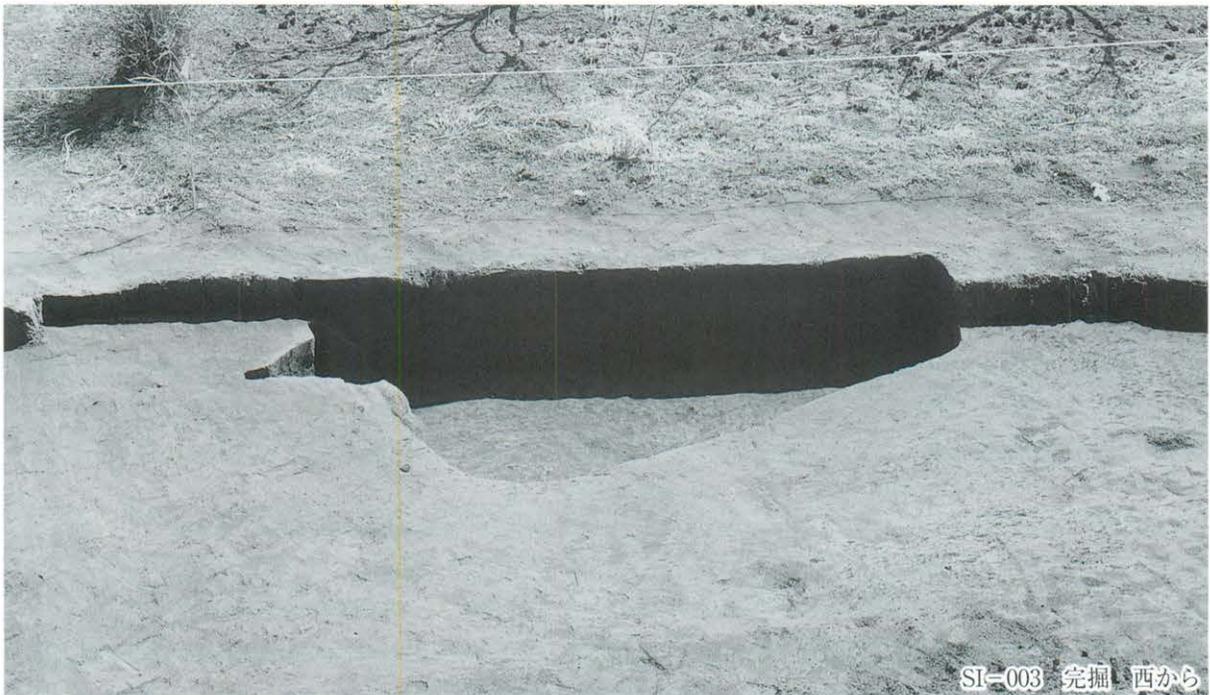
SI-001



SI-001カマド, SI-002, SI-003



SI-003 遺物出主状況 南から



SI-003 完掘 西から



SI-004 カマド 遺物出主状況



SI-004 セクション 南から

SI-003, SI-004



SI-004 完掘 南から



SI-004 カマド完掘



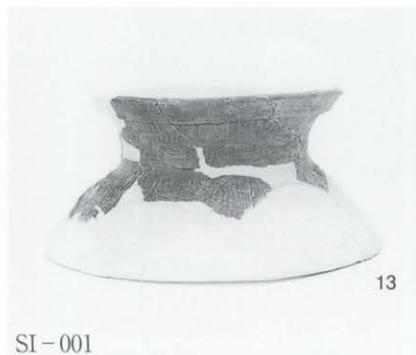
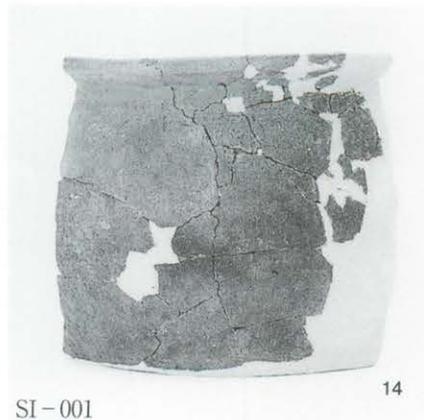
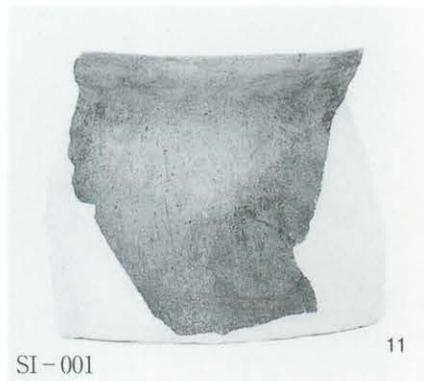
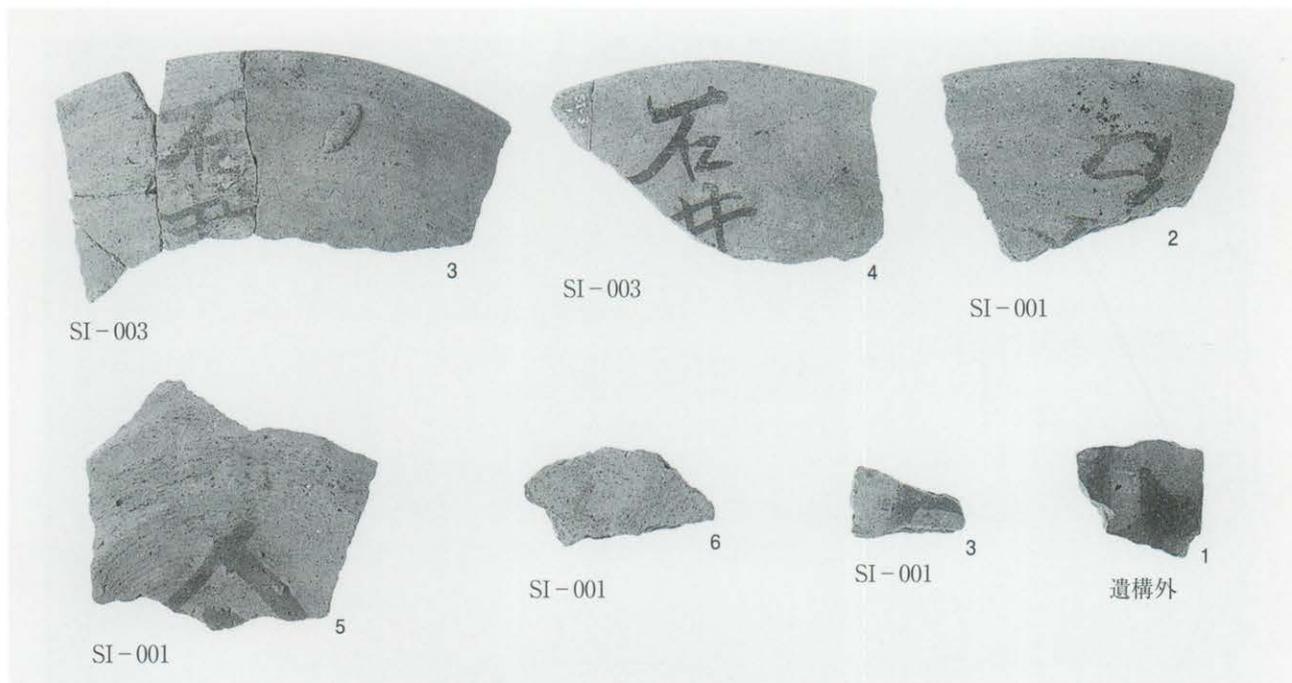
SI-005 カマド完掘



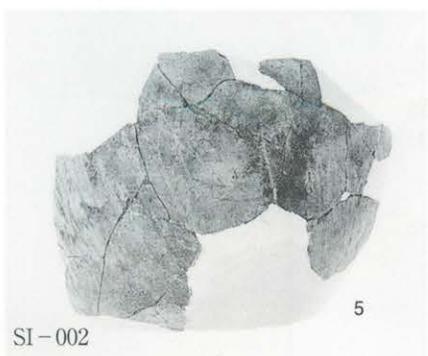
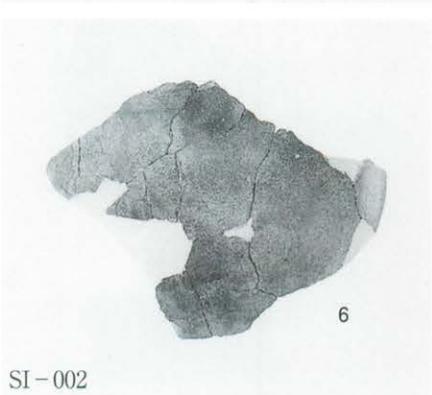
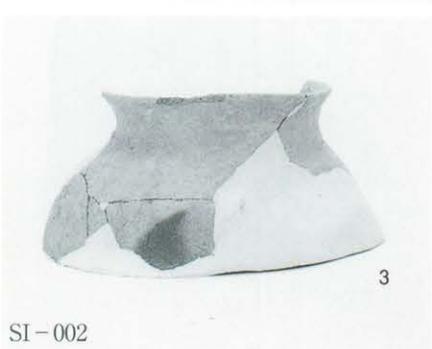
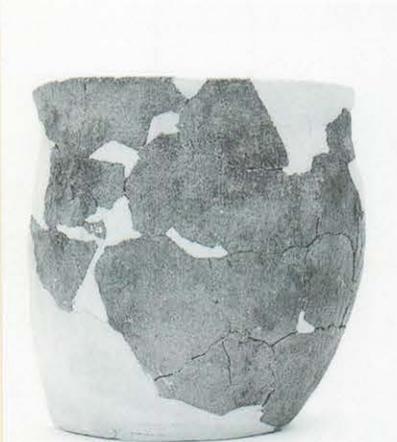
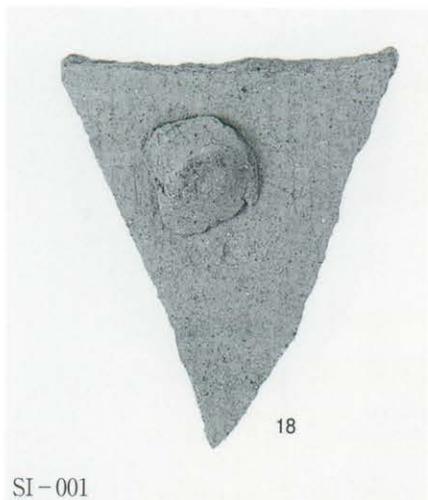
SI-005 遺物出土状況



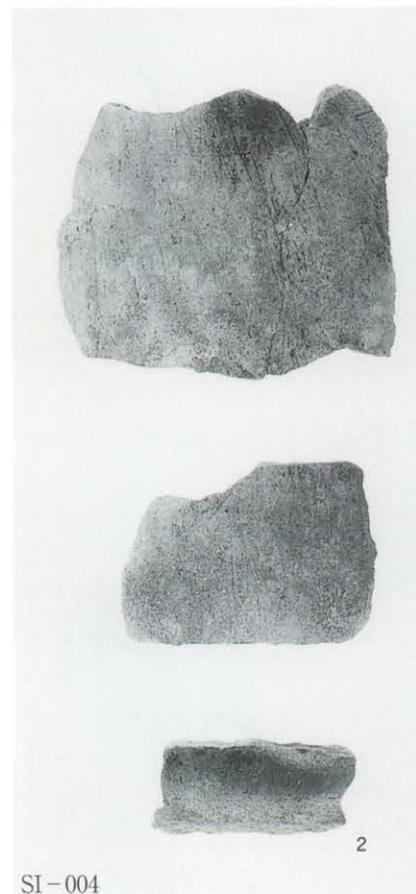
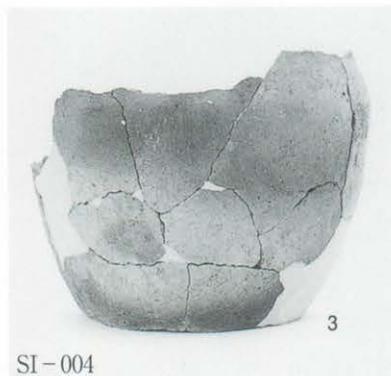
SI-004, SI-005, SK-001



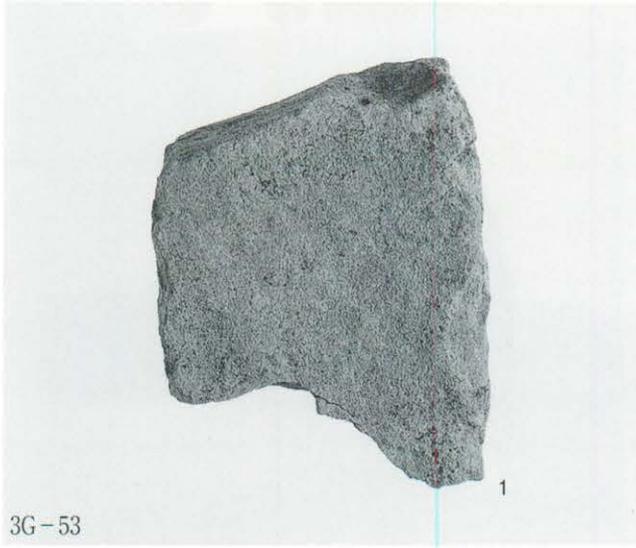
出土遺物 (1)



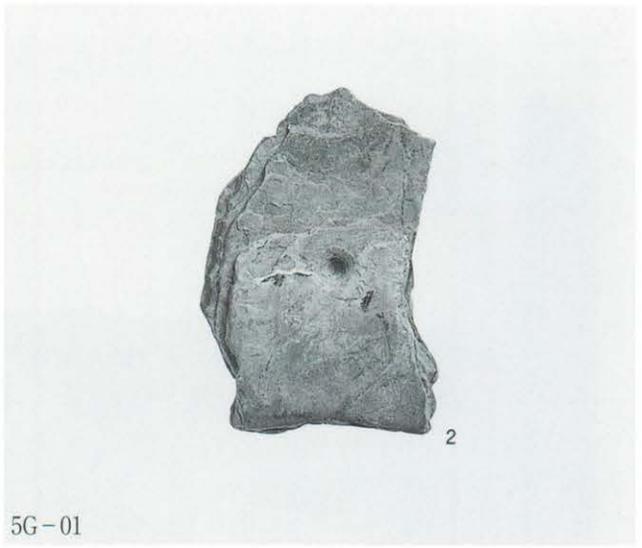
出土遺物(2)



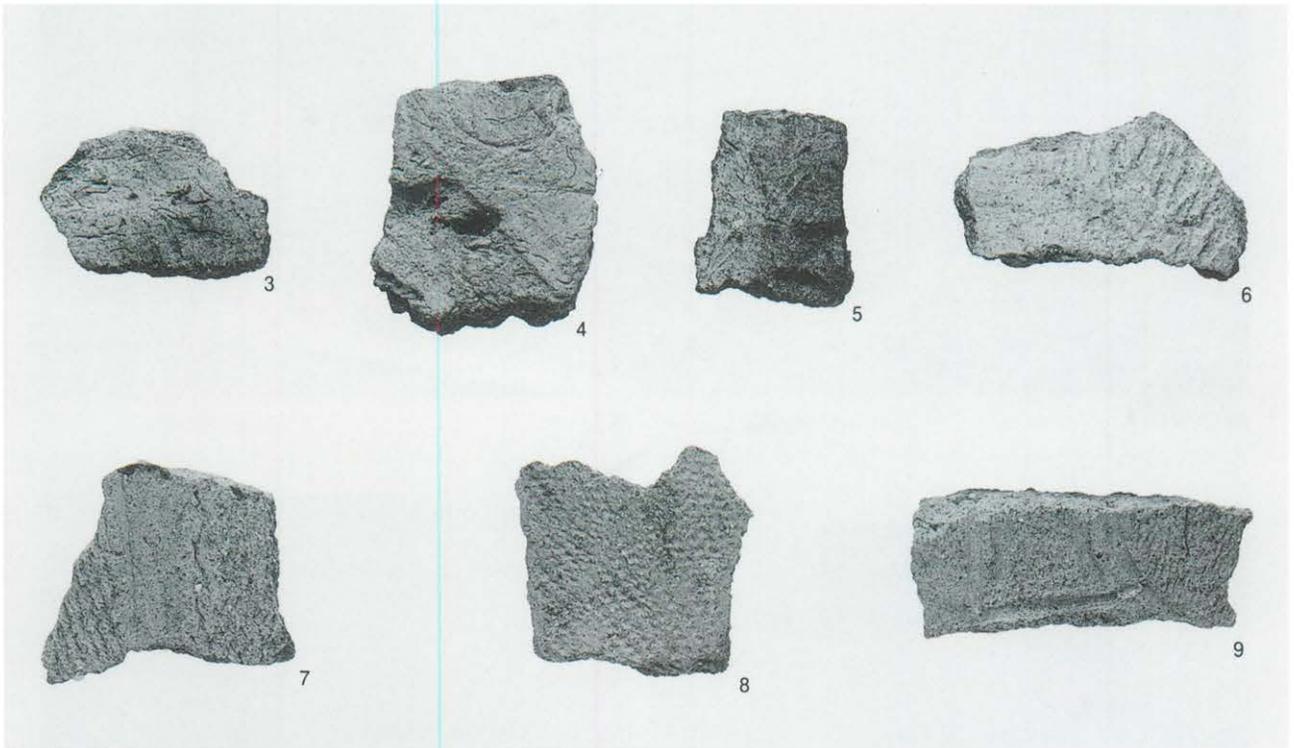
出土遺物 (3)



3G-53



5G-01



5F-05

出土遺物 (4)



調査前遠景 南から



12F-81セクション 東から



C区 15G-24セクション 西から



C区 5G-44セクション 西から



C区 5G-84セクション 西から

調査前風景, グリッドセクション



C区 西側溝セクション 南から



C区 土塁 北西から



C区 土塁 北東から



土塁 東側トレンチセクション正面 東から



土塁 中央トレンチセクション正面 東から



土塁 西側トレンチセクション正面 東から

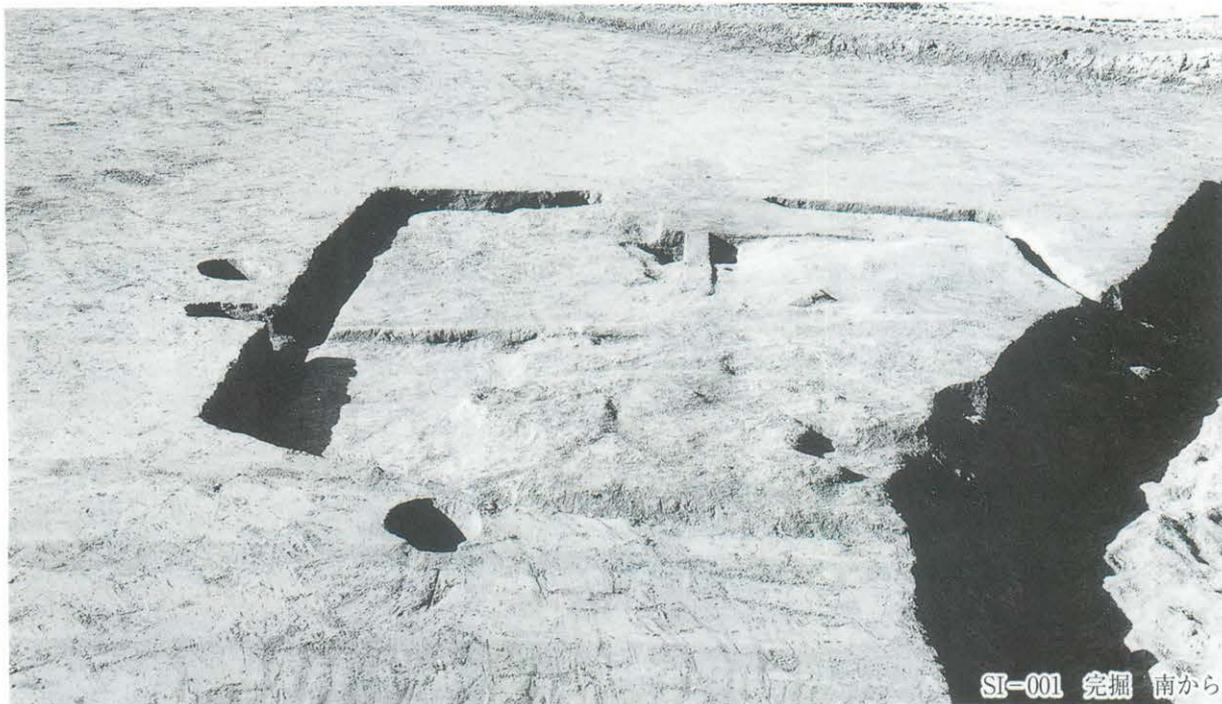


SA-001 全景 西から



SA-001 全景 東から

土塁セクション, SA-001



SI-001 完掘 南から



SI-001 カマド完掘 南から



SI-002 カマド内遺物出土状況



SI-002 完掘 南から

SI-001, SI-002



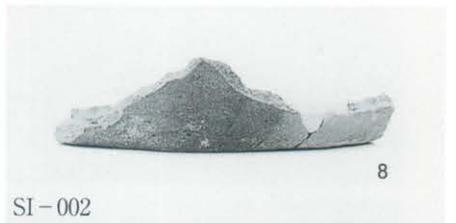
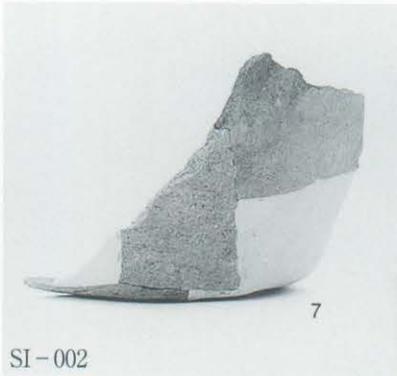
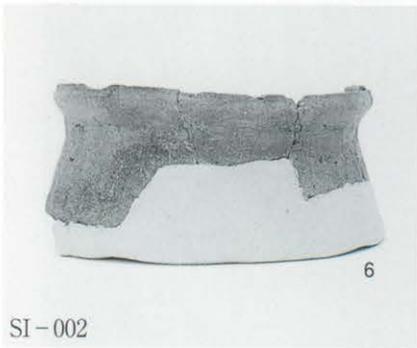
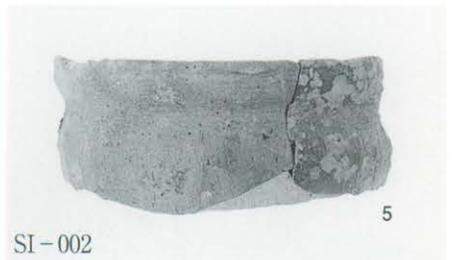
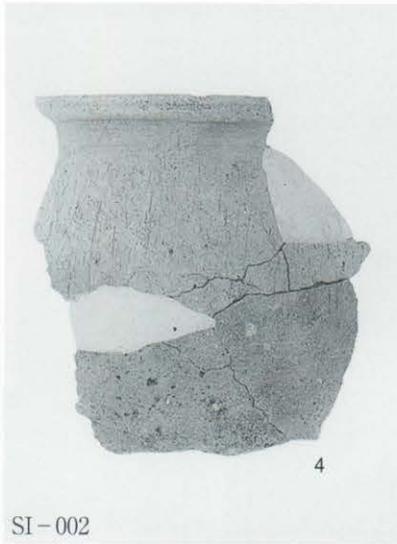
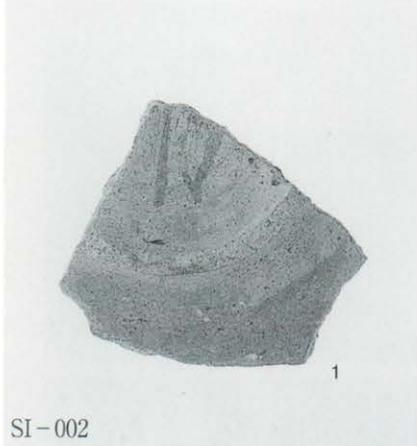
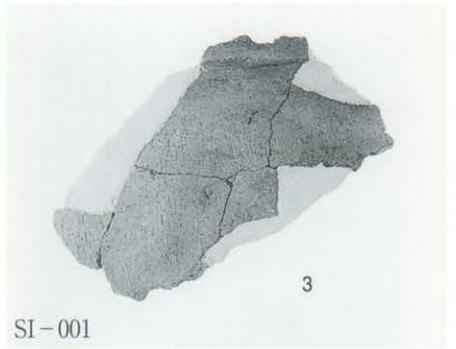
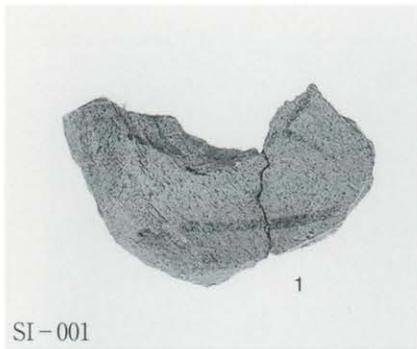
SK-001~SK-008



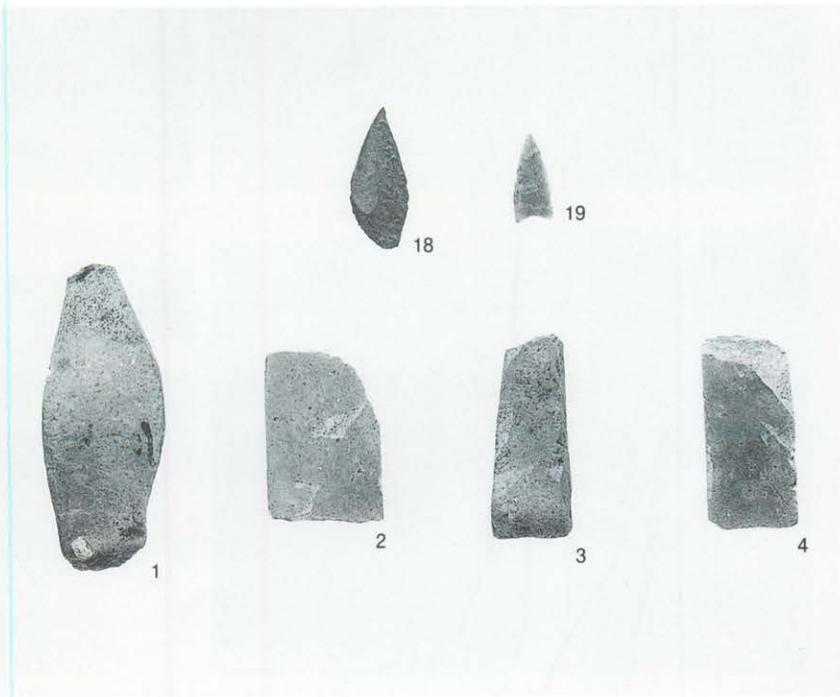
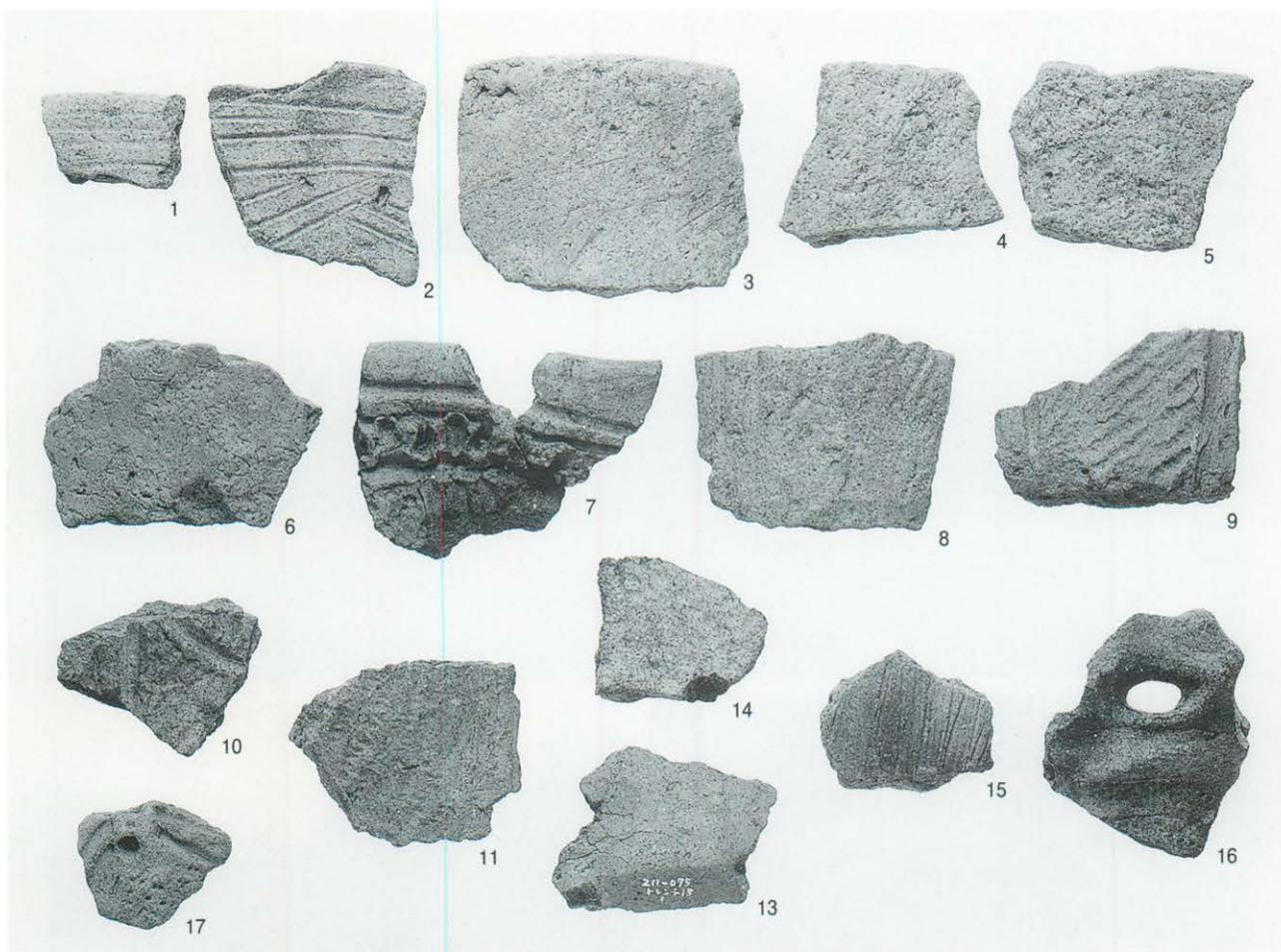
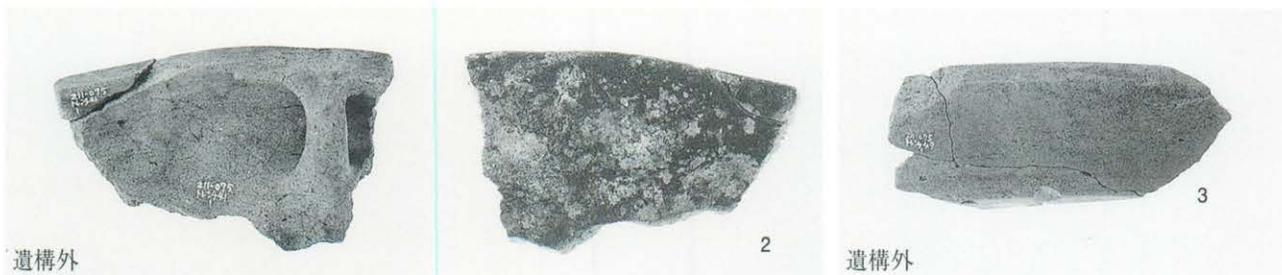
SK-009, SK-010, SD-001, SD-002, SD-004



SD-003. 調査終了後、芝向芝遺跡 (2) 調査前風景



出土遺物 (1)



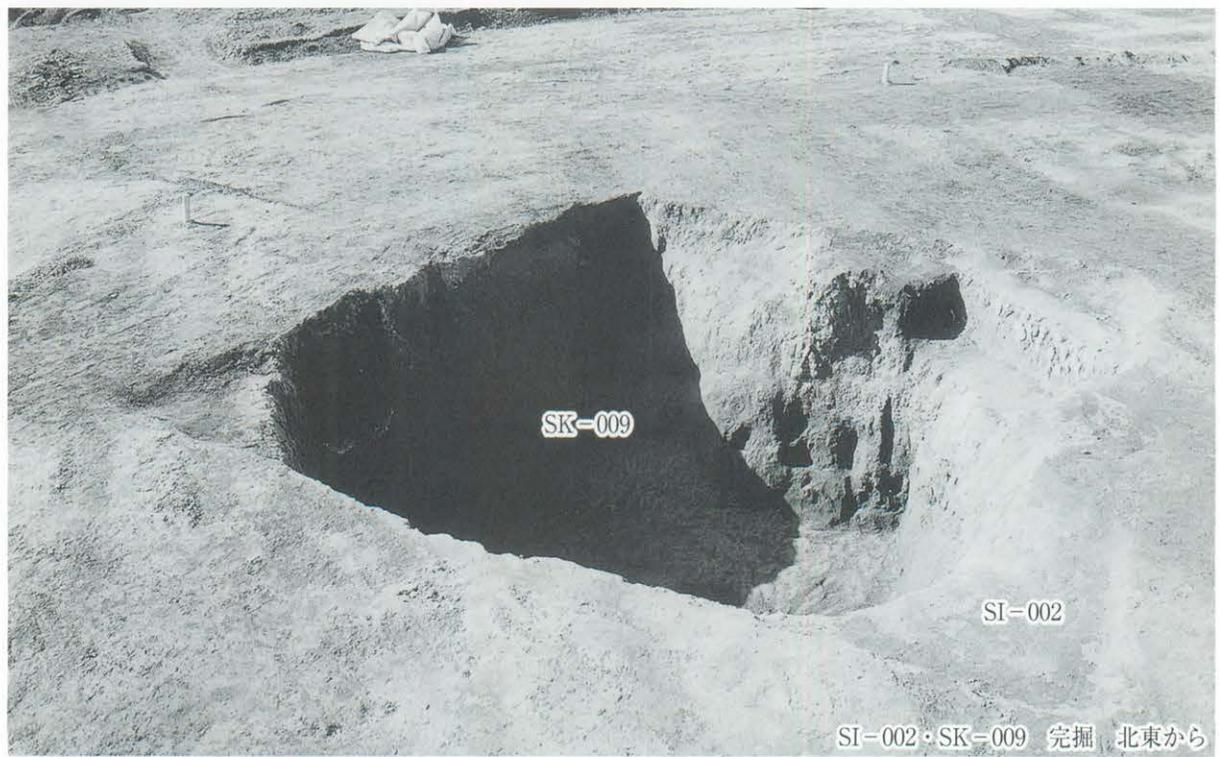
出土遺物 (2)



調査前・トレンチ検出状況



SI-001



SI-002, SK-009



SK-001 西から



SK-002 遺物出土状況 西から



SK-002 西から



SK-003 南から



SK-004 南から



SK-005 東から



SK-006 東から



SK-007 西から

SK-001～SK-007



SK-008, SK-010~SK-013, SH-001, SH-002, SX-001-1



SD-001 北東から



SX-001-2 南から



SD-002 セクション 西から



5C-30 遺物出土状況 東から



SD-003 西から



SD-004 西から

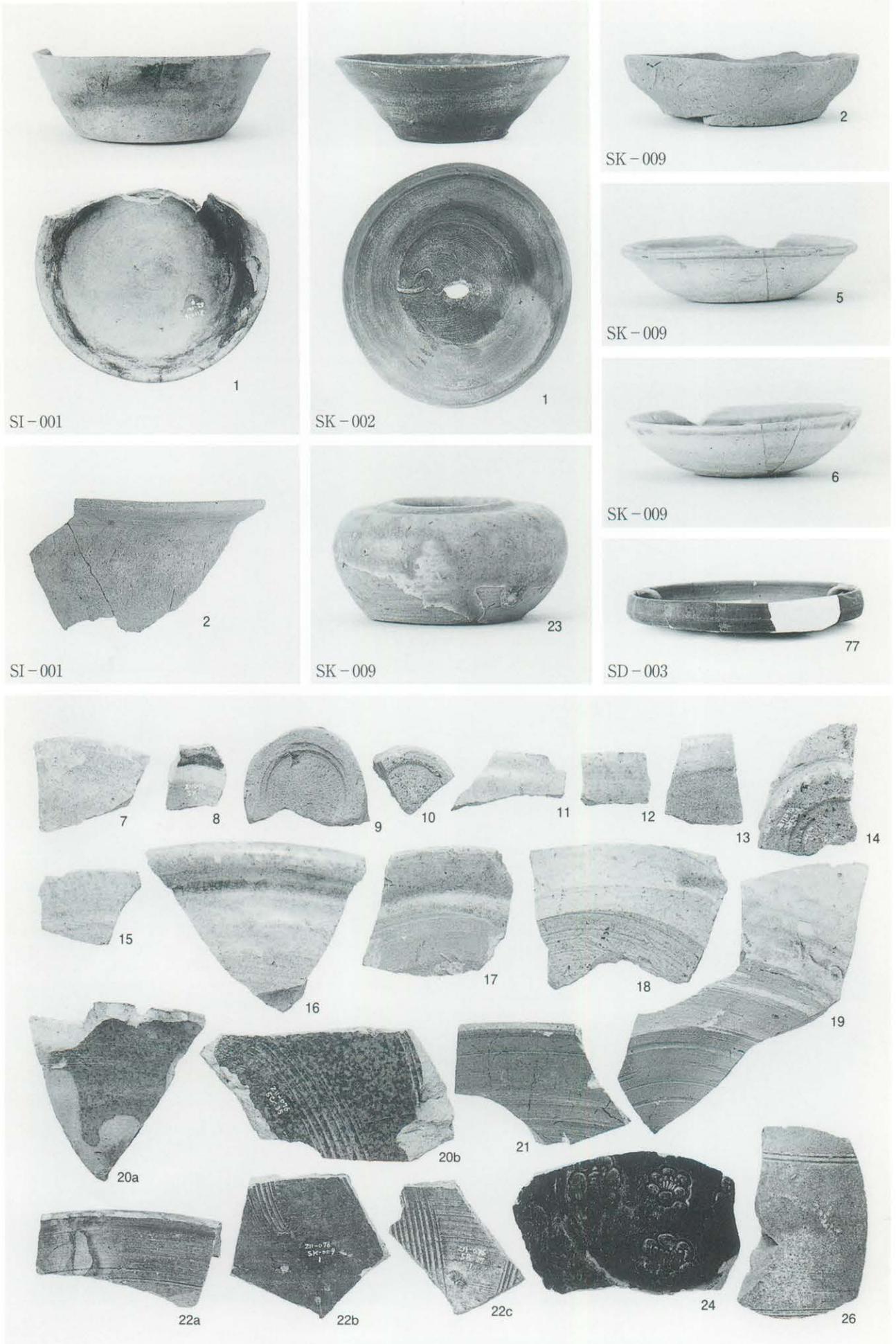


SD-005 西から

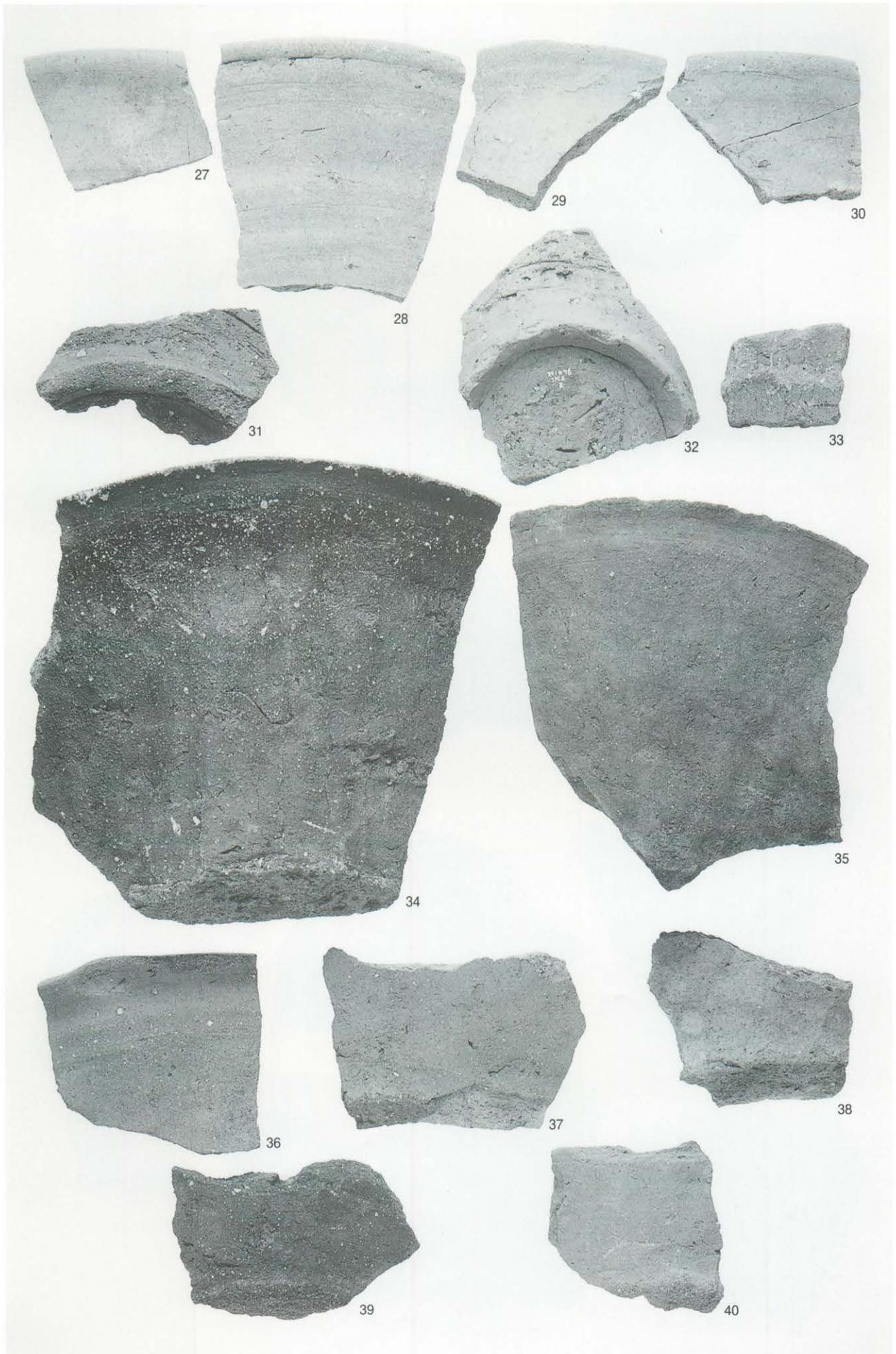


SD-006 西から

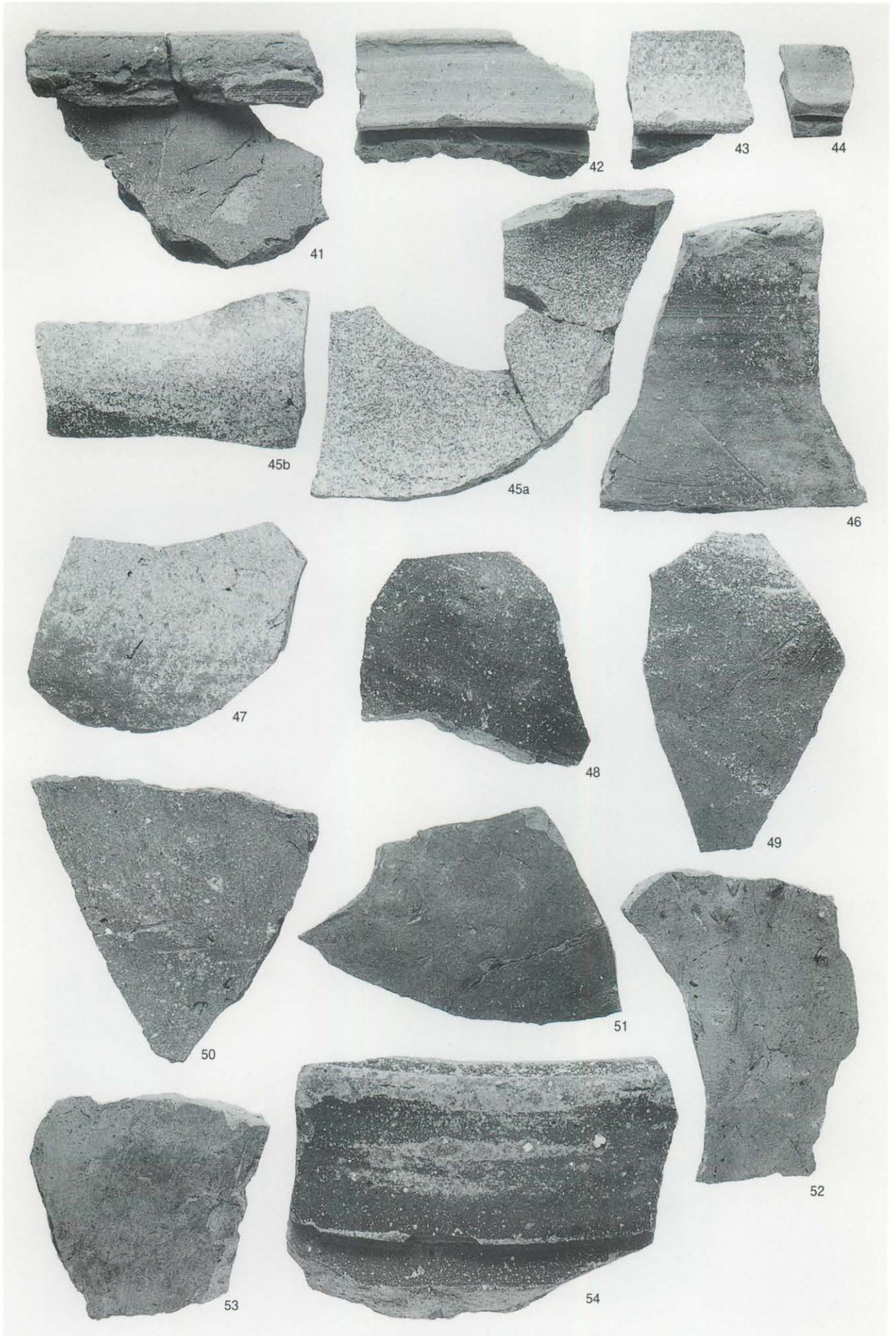
SX-001-2, SD-001~SD-006, 5C-30



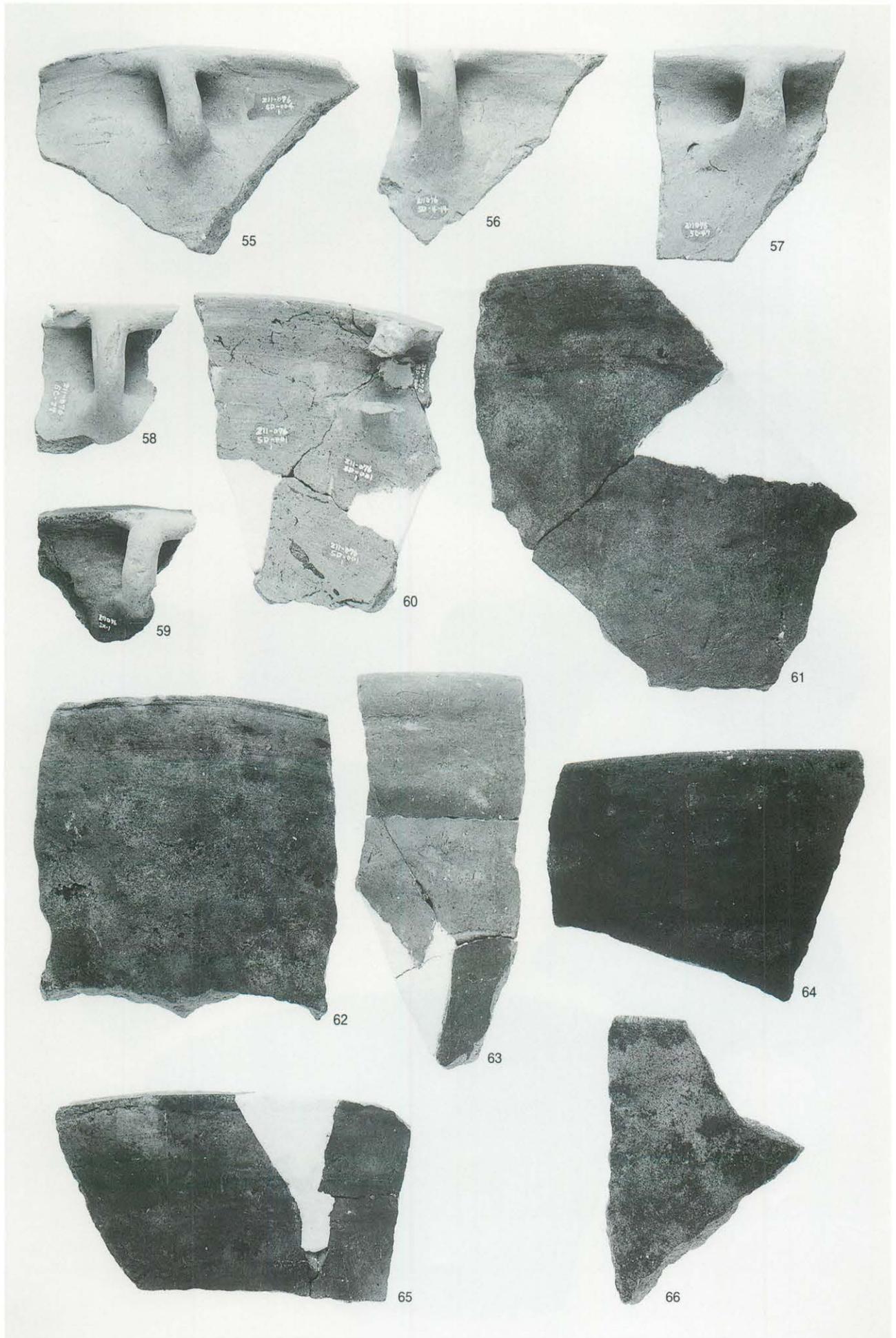
出土遺物 (1)



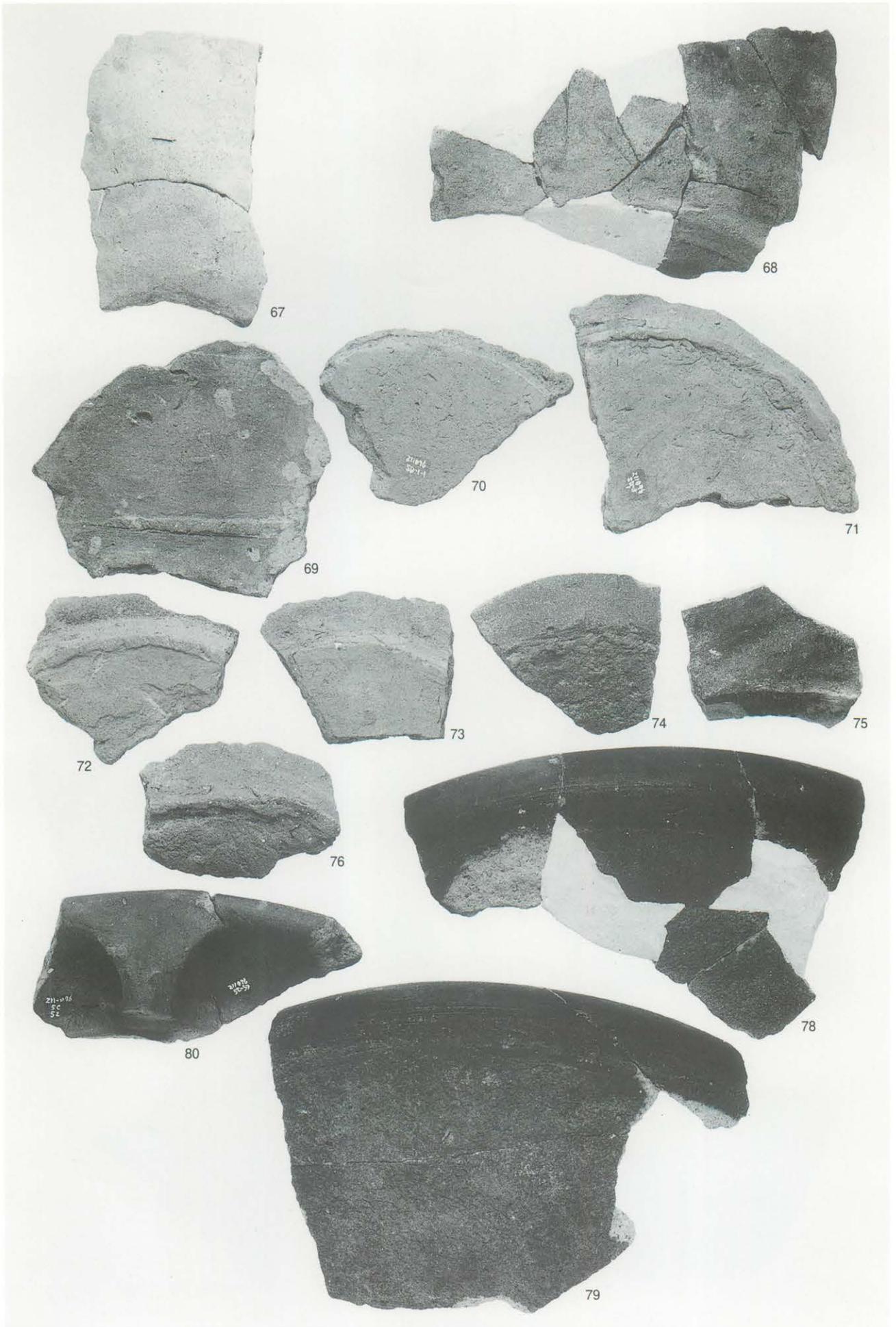
出土遺物 (2)



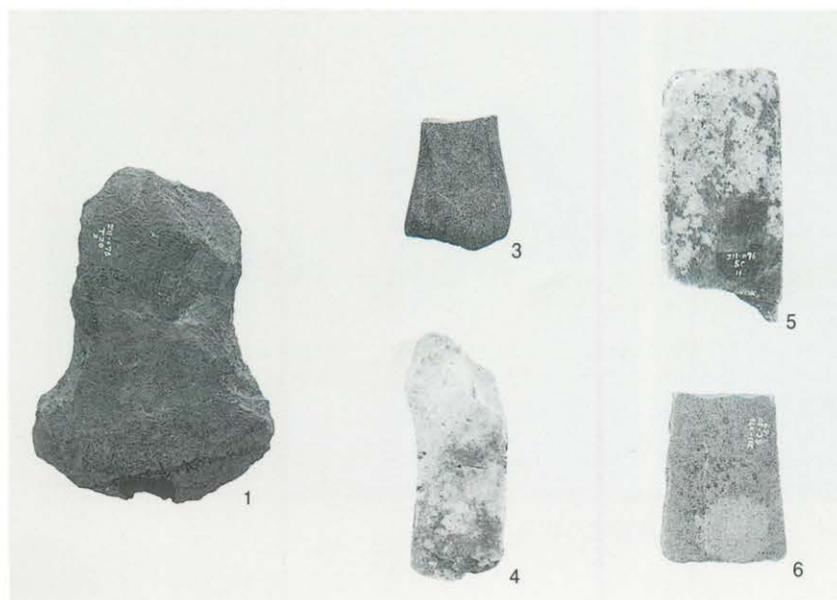
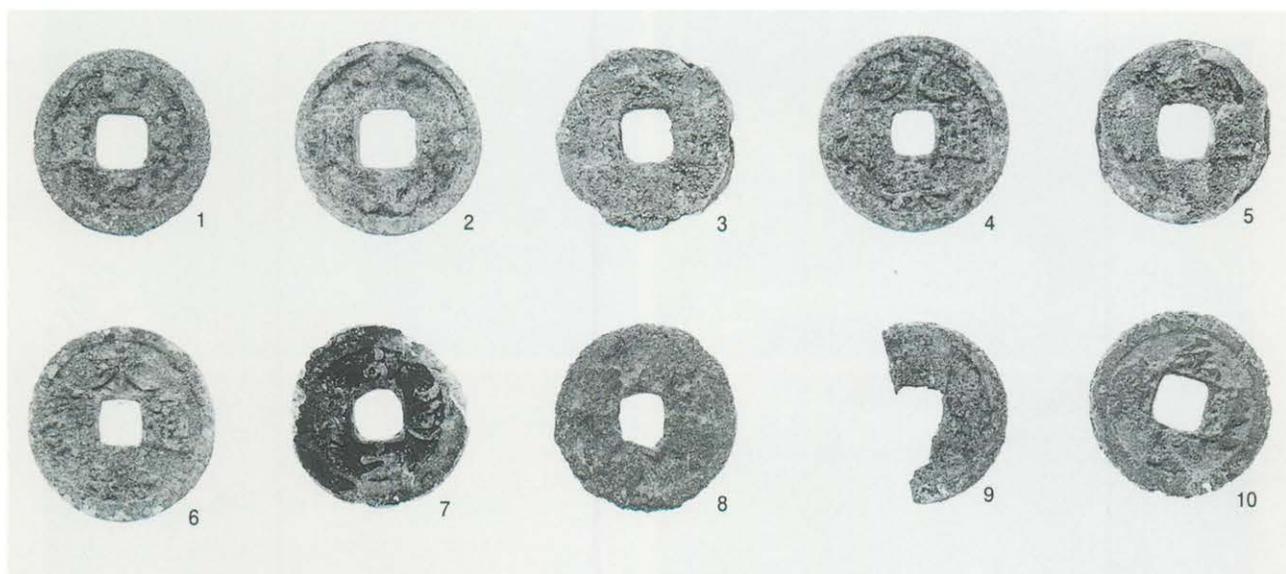
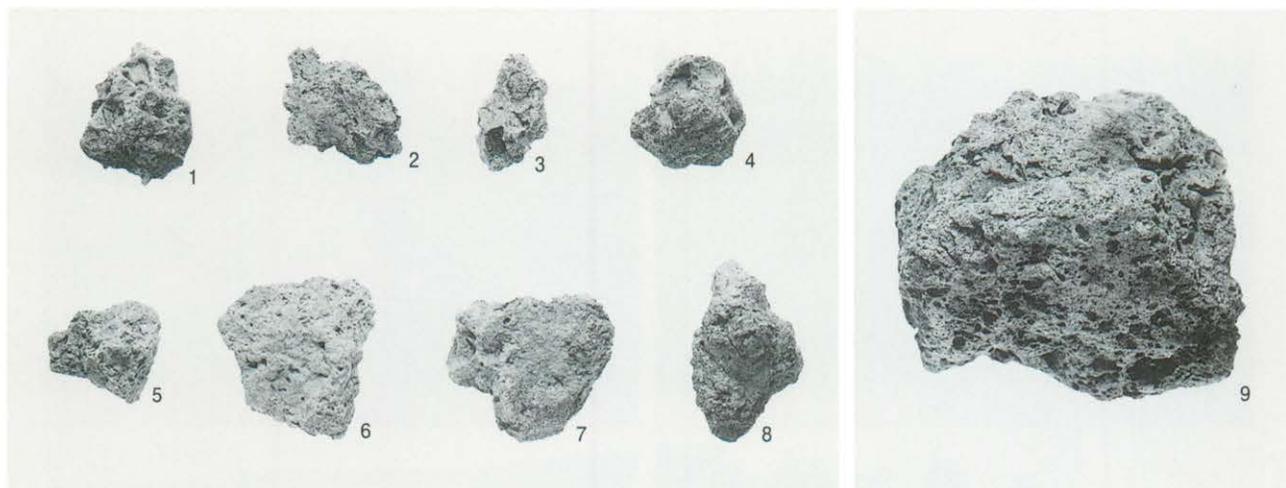
出土遺物 (3)



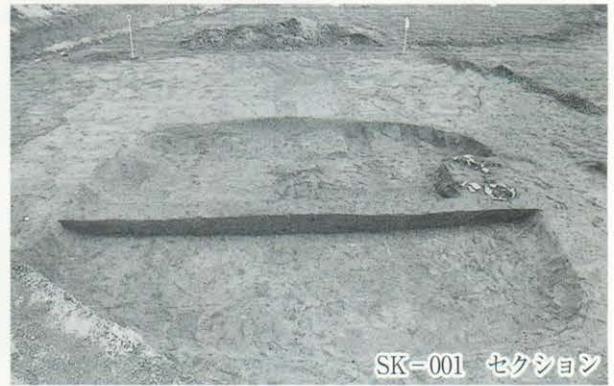
出土遺物（4）



出土遺物 (5)

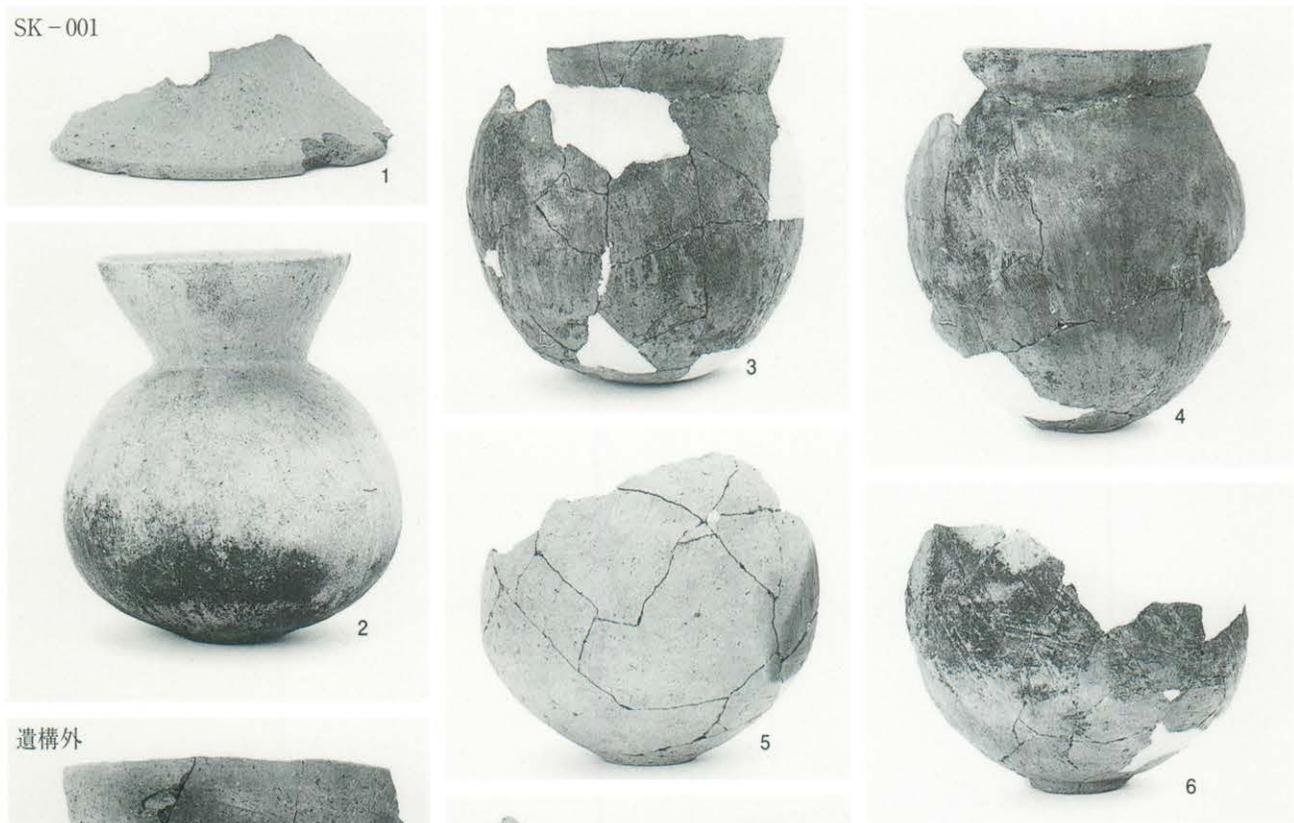


出土遺物 (6)

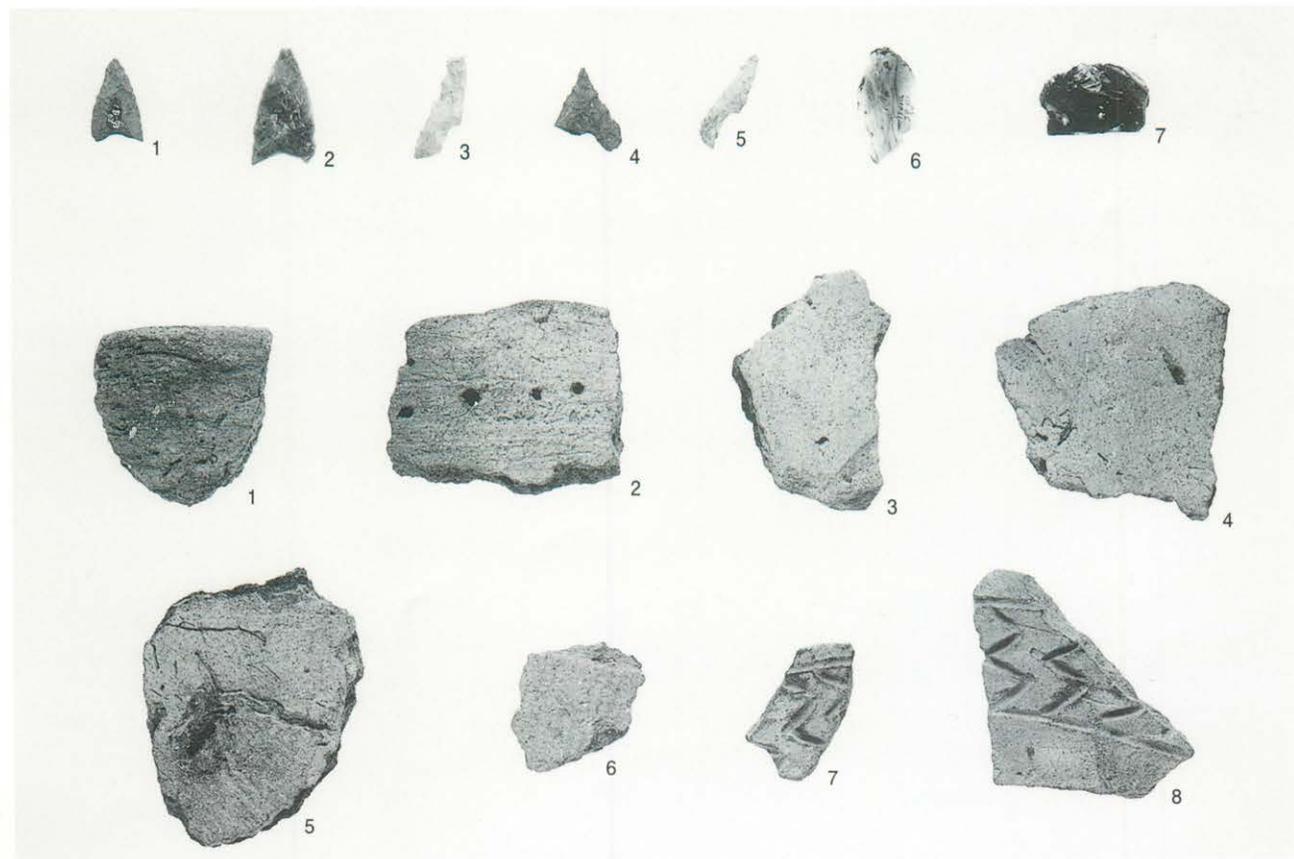


トレンチ・遺構検出状況

SK-001



遺構外



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しゅとけんちゅうおうれんらくじどうしゃどうまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書
副書名	成田市南城砦跡、大室石神遺跡、芝向芝遺跡、芝西霜田遺跡、芝東霜田遺跡
巻次	17
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第683集
編著者名	平井真紀子
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL 043-424-4848
発行年月日	西暦2012年3月23日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
南城砦跡(1)	成田市名木字稲葉下496	211	080-1	35度 52分 19秒	140度 23分 18秒	20100412～ 20100426	3,330㎡	道路建設に伴う 埋蔵文化財調査
南城砦跡(2)	成田市名木字御霊台894-1ほか	211	080-2	35度 52分 18秒	140度 23分 21秒	20100510～ 20100830	5,420㎡	
大室石神遺跡	成田市芝字芝1236-1ほか	211	074	35度 49分 58秒	140度 23分 18秒	20070226～ 20070314	5,280㎡	
芝向芝遺跡(1)	成田市芝字向芝1288-1ほか	211	075-1	35度 49分 47秒	140度 23分 18秒	20070801～ 20071127	9,220㎡	
芝向芝遺跡(2)	成田市芝字向芝1377	211	075-2	35度 49分 48秒	140度 23分 19秒	20080303～ 20080310	250㎡	
芝西霜田遺跡	成田市芝西霜田1431-14ほか	211	076	35度 49分 24秒	140度 23分 19秒	20071203～ 20080229	6,060㎡	
芝東霜田遺跡	成田市芝東霜田1827-31ほか	211	071	35度 49分 07秒	140度 23分 23秒	20061201～ 20070131	9,030㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南城砦跡(1)	包蔵地	縄文時代 弥生時代 奈良・平安時代 中世	なし	縄文土器・石器 土師器・須恵器	
南城砦跡(2)	包蔵地 集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中・近世	竪穴住居跡3軒 竪穴住居跡6軒 竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡2棟、土坑13基、柱穴群1カ所 溝状遺構1条	縄文土器・石器 弥生土器 土師器・須恵器 土師器・須恵器 銭貨・キセル	
大室石神遺跡	包蔵地 古墳 集落跡	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	石器出土地点2ヶ所 方墳1基 竪穴住居跡5軒、土坑2基	石器・剥片 縄文土器 土師器 土師器・須恵器	
芝向芝遺跡(1)	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 奈良・平安時代 中・近世	竪穴住居跡2軒、土坑2基、溝1条 溝状遺構2条、土塁1条、井戸跡1基、焼土土坑1基、土坑4基、堀跡1条、台地整形区画1ヶ所	石器 縄文土器・石器 土師器・須恵器 中世陶磁器	
芝向芝遺跡(2)	祠跡	近・現代	祠跡	砥石	
芝西霜田遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡2軒 方形竪穴状遺構1基、地下式坑3基、土坑9基、溝・道路状遺構6条、台地整形区画2ヶ所	縄文土器・石器 土師器・須恵器 陶磁器	
芝東霜田遺跡	包蔵地	古墳時代	土坑1基	土師器	

要約 南城砦跡からは名木城に関わる遺構は検出されなかったものの、旧下総町では調査例の少ない弥生時代後期と古墳時代前期の竪穴住居跡を検出した。
大室石神遺跡ではVI層から旧石器時代の遺物を出したほか、古墳時代の方墳1基と奈良・平安時代の竪穴住居跡5軒を検出した。数点の墨書土器も出土しており、「石井」と判読できる墨書もみられる。
芝向芝遺跡、芝西霜田遺跡、芝東霜田遺跡から検出された遺構は少ないが、ごく小規模な集落の存在が明らかとなった。

千葉県教育振興財団調査報告第683集

首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書17

— 成田市南城砦跡・大室石神遺跡・芝向芝遺跡・芝西霜田遺跡・芝東霜田遺跡 —

平成24年3月23日発行

編 集	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発 行	国土交通省関東地方整備局 常 総 国 道 事 務 所 土浦市川口1-1-26 アーバンスクエア土浦ビル4F
	財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2
印 刷	株式会社 正文社 千葉市中央区都町1-10-6